

649  
91



\* 0020352000 \*

0020352-000

649-91

世界の政治経済地理的考察

西田与四郎・著

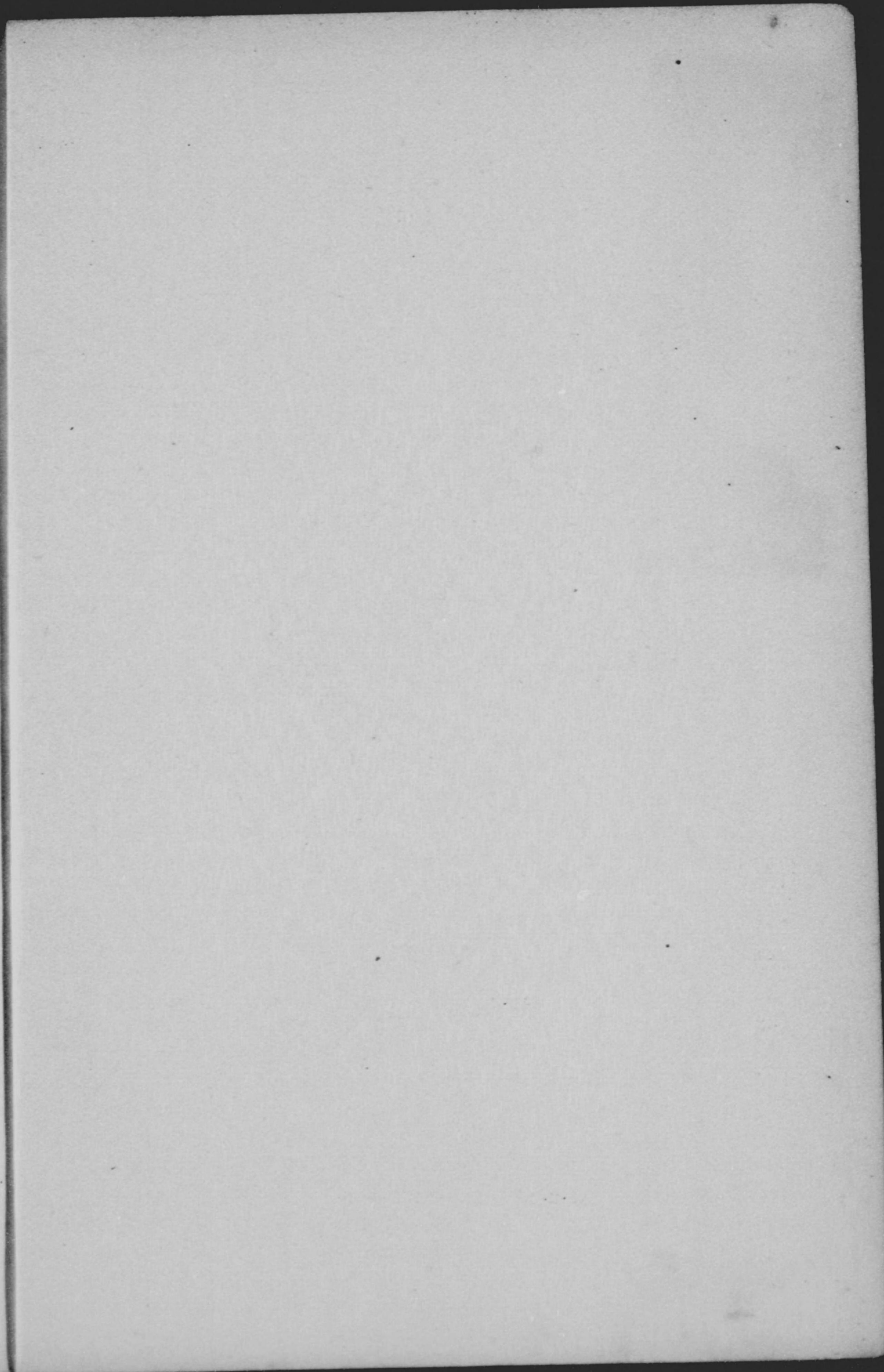
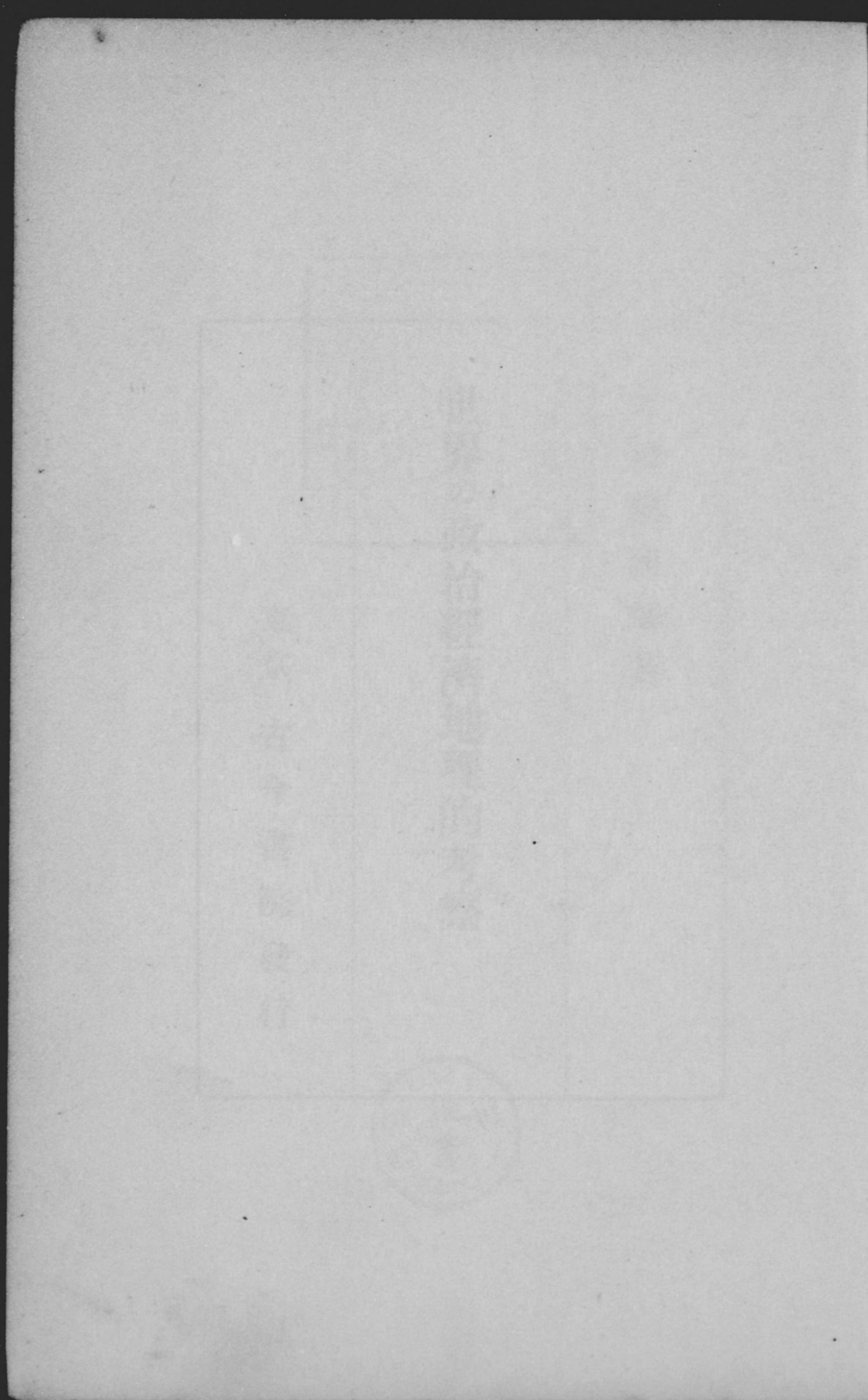
古今書院

昭和8

ADB

336

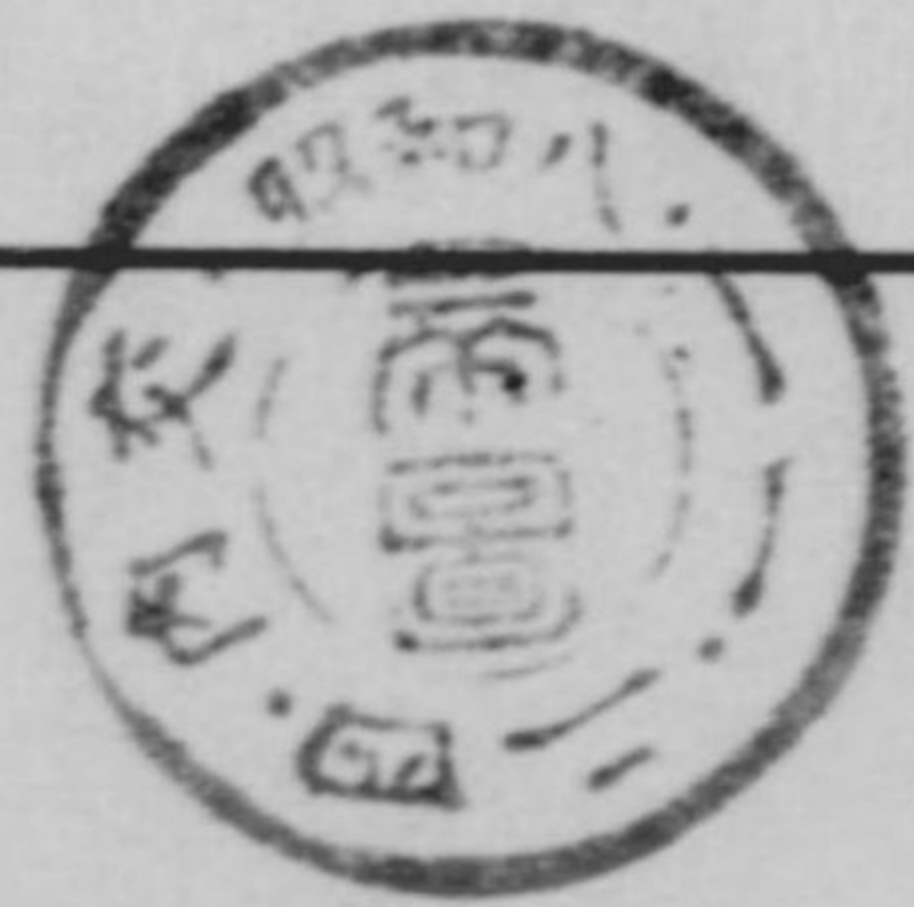
業  
大切記



西田與四郎著

世界の政治經濟地理的考察

東京古今書院發行



## 緒言

恐慌の嵐は世界を吹き捲つてゐる。各國の國家は赤字財政に悩み國民は生活不安に脅かされてゐる。大がかりなロンドン世界經濟會議も失敗に了つた。列國は之より更に經濟ブロックを鞏固にし、經濟的國家主義に邁往するであらう。かくて國際間の通商は阻害せられ、爲替は安定を缺き、恐慌は加速度を以て深刻化するであらう。従つて各國家の重要政治問題は内治外交共に經濟問題を巡つて動いてゐるのである。殊に我が國は外は滿洲問題を中心とする外交、國防並に世界各地に於ける日本商品の阻止、内は赤字財政と經濟不況があつて、實に非常なる難局に直面してゐる。

然らば此の非常時日本に於ける地理教育者の覺悟如何。蓋し地理教育者は地理科を通して被教育者に、世界政治經濟上の趨勢と日本の國勢及世界的立場とを明確に認識せしめ、以て國民的自覺を喚起することに努力すべきである。近時地理區による地域教授流行し、各地を學的に闡明することの利益多きは言を俟たざる處であるが、之が爲に全體として一國一地方を把握通觀せしめることが等閑視

されてはならないのである。  
 本書は眇たる小冊子、もとより説いて詳ではないが、含蓄ある多數地圖を補助として、世界主要諸國の政策と其の根柢をなす經濟状態とを、力めて地理的視角より説明し、以て地理教育者の參考に資せんと欲するものである。  
 本書を編むに當つて参照した多くの文献中、政治方面については Bowman: The New World (1928)、經濟方面については Whitbeck and Finch: Economic Geography (1930)、滿洲國については畏友田中秀作氏の滿洲地誌研究(昭和五年)に據るところ最も多く、圖版も以上の諸書に負ふ處少なくない。此の機會に於て深謝の意を捧げる。  
 尙、本書筆録の勞をとられた畏友蘆田完氏にも感謝を表する次第である。

昭和八年十月

著者識

# 目次

第一章 序 説……………一

第二章 アメリカ合衆國……………七

  第一節 國土の發展と對外政策……………七

  第二節 國家の統一と人種問題……………三

  第三節 經濟的卓越……………一七

    第一項 概 観……………一七

    第二項 農業及農産製造工業……………二

    第三項 畜産製造工業……………六

    第四項 林業及林産製造工業……………四

    第五項 鑛業及重工業……………五

第三章 イギリス帝國……………七

  第一節 國土の種類・分布・發展……………七

  第二節 國土の統一策と對外政策……………八

第三節 經濟

- 第一項 本土の經濟的特性……………九〇
- 第二項 主要植民地の經濟……………九五

第四章 フランス

- 第一節 國家の統一性……………一二一
- 第二節 對外政策及植民政策……………一二五
- 第三節 經濟……………一三〇
- 第一項 概観……………一三〇
- 第二項 人口問題……………一三九

第五章 イタリヤ

- 第一節 國家の統一性……………一三三
- 第二節 對外政策……………一三九
- 第三節 經濟上の諸問題……………一四四
- 第一項 人口問題……………一四四
- 第二項 産業上の問題……………一四七

第六章 ドイツ

- 第一節 國土の位置と國家……………一五一
- 第一項 中央的位置……………一五一
- 第二項 瀕海的位置……………一五九
- 第二節 地形と國家……………一六五
- 第三節 ドイツ民族……………一六九
- 第四節 經濟……………一七三
- 第一項 概観……………一七三
- 第二項 賠償問題……………一七九

第七章 ロシヤ

- 第一節 國家の再建設……………一八二
- 第一項 國家の分裂……………一八二
- 第二項 聯邦の組織……………一九一
- 第二節 經濟……………一九三
- 第一項 概観……………一九三

第二項 産業五ヶ年計畫……………一九五

第八章 中華民國……………一九九

第九章 滿洲國……………二四四

第一節 國家の成立……………二四四

第二節 日本との關係……………二二九

第一項 日滿政治關係……………二二九

第二項 日滿經濟關係……………二二六

第十章 日本……………二四二

第一節 國勢の伸展と對外關係……………二四二

第二節 經濟上の諸問題……………二四七

索引……………二五五

〔終〕

圖版目次

第一圖 アメリカ合衆國國土の發達……………七

第二圖 太平洋に於ける勢力……………二〇

第三圖 アメリカ合衆國の入移民……………二二

第四圖 アメリカ合衆國各州に於ける黒人の全人口に對する割合……………二六

第五圖 アメリカ合衆國の貿易……………二八

第六圖 生絲及人造絹絲の産額……………三〇

第七圖 主要諸國の職業別人口……………三二

第八圖 世界の小麦産地及産額……………三三

第九圖 世界に於ける小麦の貿易……………三四

第一〇圖 アメリカ合衆國及カナダの農業區……………三七

第一一圖 世界の綿産額……………三九

第一二圖 アメリカ合衆國の綿分布……………三〇

第一三圖 世界に於ける綿の貿易……………三三

第一四圖 アメリカ合衆國の煙草分布……………三五

第一五圖 アメリカ合衆國及カナダの製肉業分布……………三三

---

第一六圖 アメリカ合衆國及カナダの皮革工業分布……………四三

第一七圖 北アメリカの原生林……………四三

第一八圖 アメリカ合衆國及カナダの木材の生産分布……………四八

第一九圖 アメリカ合衆國及カナダのバルブ工場分布……………五〇

第二〇圖 炭層の斷面……………五三

第二一圖 アメリカ合衆國及カナダの石炭分布……………五三

第二二圖 世界の石炭産額……………五五

第二三圖 世界の石油産額……………五六

第二四圖 アメリカ合衆國の油田分布……………五七

第二五圖 アメリカ合衆國の石油導管……………五八

第二六圖 世界の水力分布……………六〇

第二七圖 アメリカ合衆國及カナダの水力電氣分布……………六三

第二八圖 瀑布線上の工業都市……………六三

第二九圖 鐵鑛の湖上運送路……………六六

第三〇圖 世界の鐵産額……………六七

第三一圖 アメリカ合衆國の製鐵工場分布……………六九

第三二圖 世界の銅産額……………七一

第三三圖 イギリス國土の發達……………八〇



圖版 目次

第三四圖	世界の汽船噸數	八三
第三五圖	世界の主要航路	八四
第三六圖	英國(本土)の外國貿易	九一
第三七圖	イギリスの鐵礦・石炭産地及工業地	九二
第三八圖	マンチエスター附近の纖維工業	九四
第三九圖	世界の米産地及産額	九六
第四〇圖	インドの綿分布	九七
第四一圖	世界の甘蔗・甜菜の分布と産額	九八
第四二圖	インドの茶分布	九九
第四三圖	インドの粟・稷分布	九九
第四四圖	世界の牛の分布と頭數	一〇〇
第四五圖	世界の羊分布と羊毛産額	一〇三
第四六圖	南阿聯邦の鐵産分布	一〇五
第四七圖	世界の金産額	一〇六
第四八圖	カナダの産業分布	一〇九
第四九圖	フランスの北東國境	一一二
第五〇圖	フランス北東國境附近の要塞	一一三
第五一圖	フランスの外國貿易	一一三
第五二圖	フランスの土地利用	一一三
第五三圖	アルサス・ロレーンの鐵産	一二四
第五四圖	フランスの工業分布	一二五
第五五圖	主要諸國(本土)の人口増加	一三〇
第五六圖	アチゲ河谷の住民	一三四
第五七圖	イストリヤ半島	一三五
第五八圖	イタリヤの領土	一四一
第五九圖	地中海に於ける伊・佛・英	一四二
第六〇圖	バチカン都市國家	一四三
第六一圖	世界の人口分布	一四四
第六二圖	イタリヤの移民	一四五
第六三圖	イタリヤの貿易	一四七
第六四圖	イタリヤの電力分布	一四九
第六五圖	世界戦役によるドイツ本土の縮小	一五三
第六六圖	シュレスウィヒ・ホルスタインの分割	一五四
第六七圖	ポーゼン・西プロシヤの分割	一五五
第六八圖	上シレジャの分割	一五六
第六九圖	ダンチヒ自由市	一五七

第七〇圖	アフリカ横斷路	一六一
第七一圖	青島市街	一六三
第七二圖	ドイツ國土の變遷	一六六
第七三圖	北ドイツ平野	一六七
第七四圖	プロシヤ國土の發展	一六八
第七五圖	ドイツ河系の非集中性	一六九
第七六圖	世界戦役前後のドイツ國土とドイツ人	一七〇
第七七圖	南ハンガリーに於けるドイツ人	一七一
第七八圖	ボルガ沿岸のドイツ人	一七一
第七九圖	アメリカ合衆國內のドイツ人	一七三
第八〇圖	ドイツの鐵産分布	一七三
第八一圖	ドイツの農産分布	一七四
第八二圖	ドイツの森林帶	一七五
第八三圖	ドイツの水路網	一七六
第八四圖	ヨーロッパの等温線	一七七
第八五圖	ドイツの工業地帯	一七八
第八六圖	ドイツの外國貿易	一八〇
第八七圖	ロシヤの鐵道	一八三
第八八圖	歐露の水路網	一八四
第八九圖	ロシヤの氣候	一八四
第九〇圖	ロシヤの人口	一八九
第九一圖	ヨーロッパの文化分布	一九〇
第九二圖	ヨーロッパの文盲分布	一九一
第九三圖	ロシヤの政治區劃	一九三
第九四圖	ロシヤの經濟地帯	一九四
第九五圖	ロシヤの貿易	一九七
第九六圖	支那の人口分布	二〇〇
第九七圖	支那の外國貿易	二〇四
第九八圖	支那の米・小麥・綿の分布	二〇六
第九九圖	滿洲の地形	二一九
第一〇〇圖	滿洲の人口分布	二二〇
第一〇一圖	滿洲の開墾地	二二七
第一〇二圖	滿洲の無霜日數	二二八
第一〇三圖	滿洲の年平均氣温と年降水量	二二九
第一〇四圖	滿洲の大豆分布	二二九
第一〇五圖	滿洲の油坊分布	二三〇

圖版 目次

圖版目次

第一〇六圖 滿洲の高梁分布……………三三  
 第一〇七圖 滿洲の小麥及製粉工場分布……………三三  
 第一〇八圖 滿洲の農林牧地帯分布……………三三  
 第一〇九圖 滿洲の鑛産分布……………三三  
 第一一〇圖 撫順炭礦……………三五  
 第一一一圖 滿洲國の貿易……………三九  
 第一一二圖 日本本土職業別人口の變遷……………四七  
 第一一三圖 日本外國貿易の發達……………四八  
 第一一四圖 主要諸國貿易額比較……………四九  
 第一一五圖 日本の重要貿易品及取引先……………五三

(終)

# 世界の政治經濟地理的考察

西田與四郎著

## 第一章 序 說

現今世界を通過すると國際的並に國內的に政治問題及び經濟問題が非常に多い。試みにその主なものを擧げて見ると次の様なものである。

### 一、世界各國の政治問題

#### A 國內問題

a 政治組織改革問題 從來の政黨政治に對する不滿が各國に起つて來た。例へばロシアの如きは最も極端なる共產主義的新政治組織を建設し、他の諸國にも多少の波動を及ぼしつゝある外、イタリアに於けるムッソリニ(Mussolini)の指導するファッショ政治、獨逸に於けるヒトラー(Hitler)一

派の國粹社會黨の獨裁的政治、或はイギリスに於ける聯立内閣の成立等の類である。

b 少數民族問題 世界何れの國家も單一の民族から形成せられてゐるものはない。オランダ・ポルトガル等の如く比較的單一民族より成つてゐるものもあるが、然しベルギーの如きはワロン人・フレミッシュ人が凡そ四五%と五四%の割合に混合して居り、スイスの如きは獨逸人七、フランス人二、イタリヤ人一の比率を示してゐる。尙次に複雑な一例としてチェッコスロバキヤを挙げると次の如くである。

人口總數(一九三〇年)

一四七三萬人

内 譯

チェッコ人・スロバツク人	八七六萬人 (約六割)
ドイツ人	三二二萬人 (約二割)
マチャール人	七五萬人
小ロシヤ人	四六萬人
ユダヤ人	一八萬人
ポール人	八萬人
	(約二割)

即ち此の國に於てはチェッコスロバツク人以外は所謂少數民族 (Minority) である。此の國は世界戦役の結果獨立した新興國であつて、民族主義に基いて建設せられたに拘らず、尙右の如く多くの

民族を包含してゐるのである。ポーランド・ユーゴスラビヤに於ても亦然り。前述のベルギー・イスの如く建國の古きものは長き試練の結果國內民族間の調和がとれてゐるが、これ等の諸國に於ては、それが未だ充分でないから新興國として茲に大きな悩みを持つてゐるのである。

### B 國際問題

a 滿洲問題 此の問題に就ては後章に詳述する積りであるが、これは單に極東に限る問題ではなくて世界的の大問題である。

b 歐洲諸國間の關係 世界戦役前に於ては、歐洲にはイギリス・フランス・イタリヤ・ドイツ・オーストリア・ハンガリー・ロシヤの六大強國が互に同盟・協商の關係を以つて結び合つて勢力の均衡を保つて居つたが、世界戦役によつてオーストリア・ハンガリーは四分五裂し、獨逸は戦敗により、ロシヤは革命の結果舊時の地位を失つて他の三國が歐洲の主要國となつた。これ等三國の關係を概観すると、フランスは所謂小協商國即ちポーランド・チェッコスロバキヤ・ユーゴスラビヤ・ルーマニヤを傘下に糾合してゐるのに對抗し、イタリヤはアルバニヤ・ハンガリー・ブルガリヤ等と提携して互に抗争を事とし、イギリスは其間に立ち専ら平和主義政策を以てその調和に腐心してゐる。此の間に於て獨逸は次第に國力を回復し來り、ロシヤも漸次建設の業を進めて國力充實の域に達して來たので歐洲の天地には方に暗雲が漂つてゐるといふべきである。

c 軍備縮小問題 國際平和を確保し、且、國民の負擔を輕減する上から軍備の大縮小を必要とすることは、世界戦役によつて各國の痛感したところである。今その實行について見るに、ベルサイユ條約第五編の冒頭に於て「各國軍備の一般的制限の企圖」が約せられ、先づドイツ軍備の大制限が實施せられた。その後一九二二年のワシントン條約によつて日英米佛伊五國の海軍々備制限(主力艦)となり、更に一九三〇年のロンドン海軍々縮條約が成立し、補助艦について日英米三國の協定を見た。然し陸海空軍を含む一般軍備の縮小についてはジュネーブに於て久しく國際的協議を行つて居るが、問題が複雑多岐であり、各國間の利害が錯綜してゐるので、はかばかしい進行を示さないのである。

## 二、世界各國の經濟問題

### A 國內問題

a 生活問題 b 財政問題 以上一括して概説を試みるならば、現今各國は個人の生活に於ても國家の財政に於ても經濟的不安の中に彷徨してゐる。これは世界戦役——九百萬の死者二千萬の傷者を出し四千億の巨額を消費した——の生んだ結果である。戦敗國は言ふ迄もないが、戦勝國側に於てもヨーロッパ諸國は約定せられた償金は得られず、一方巨額の戦債を負擔してゐるので經濟的復

興も遅々として進捗しない状態にあり、アメリカ合衆國や日本の如く戦争に依つて巨利を博した國家に於ても戦時中工場等を極度に擴張した爲、戦後は生産過剰に陥り物價の下落となつたので、事業整理を行ひ所謂統制經濟の實施を餘義なくされ、従つて失業者も續出する有様である。個人の生活に就ても物價は下落しても収入は激減する一方、好況時代の消費經濟を急に緊縮する事が困難である爲、その生活を不安に導いてゐるのである。

### B 國際問題

a 通商問題 最近各國間の通商は減退の傾向を示して來た。その原因は複雑であるが關稅政策の如きはその主因の一と認むべきものである。各國は何れも關稅の障壁を高くした。イギリスの如きは自由貿易の傳統を捨て、保護貿易に轉じ且つ、本國植民地間には特惠關稅を設ける等所謂ブロック經濟(Block Economy)政策を銳意實行してゐるのである。これは戦後特に著しくなつた國家主義が經濟上に反映したものに外ならない。元來イギリスは輸入超過國であつたが、貿易外の收入(イギリス船舶に依る運賃、海外債權の利子等)に依つて寧ろ金の流入を見たが、戦後國內産業の不振に基き入超の度を増し、一方貿易外の収入が激減した爲、却つて金の流出が著しくなつたので遂に金輸出禁止を行ひ金本位制を停止するに至つた。而して本年六月よりアメリカ合衆國の主唱によつてロンドンに開かれた世界經濟不況打開を目的とする世界經濟會議の主題もこの通商問題に存するので

あるが、開會一ヶ月餘にして早くも無期休會となり、事實上失敗に歸した譯である。  
 b ドイツ賠償問題 これは最近國際經濟の癌となつてゐる問題であるが詳細はドイツの章に於て述べる事とする。

c 移民問題 移民には對内移民と對外移民との區別がある。對内移民とは一國內に於て人口の稠密地方より稀薄地方への移動をいふのであつて、純粹の國內問題である。又對外移民とは人口稠密國より稀薄國への移民である。イタリヤ・日本等の如く國土狭小・人口過剰に悩む國家は對外移民の要求切なるものあるに拘らず、アメリカ合衆國・イギリス領土の如く門戸閉鎖を敢てするが爲に國際間の紛議を醸してゐるのである。

以上現下の最も主要なる政治經濟上の問題を列擧したのであるが、要するにこれ等の問題は一に世界戦役に基因するものであつて、その創痍未だ癒えない状態にあるといひ得る。而して政治問題と經濟問題とは密接に相關聯し、經濟問題が政治問題を誘起すると見るのが至當である。以下章を改めて、各國の主なる政治問題とその根柢をなす經濟問題とを概説することとする。

## 第二章 アメリカ合衆國

### 第一節 國土の發展と對外政策

北アメリカの東岸、ア巴拉チャ山脈の東方に發達したイギリスの植民地は本國の暴政に反抗して獨立を宣言し、獨立戦争（七七五—八三年）の結果完全に本國の羈絆を脱してアメリカ合衆國を建

て、爾來讓受買収等によつてその國土は中央の大平野よりロッキーマウンテンを超えて太平洋岸に擴がつた。

その發展の狀況は第一圖に示すが如くである。即ち獨立宣言の當時は十三州であつたが、獨立承認（一七八三年ベルサイユ條約）と共に西方ミシシッピ河東までの領土を獲得した。一八〇三年フランスよりルイジアナを購入し、次いで一八一八年イギリスとの北境を定め、一八一九年イスパニヤよりフロリダを購入した。次に一八四五年メキシコ領テキサスを併合した。その併合の事情を略述すると、アメリ



第1圖 アメリカ合衆國國土の發達

カはメキシコより此の土地を購入せんとしたが交渉不調に終つた。然るに土人は一八三六年メキシコに對して分離獨立を宣言し、アメリカ合衆國に併合されんことを希望したので遂に一八四五年これを併合した。その爲に米墨戦争起り、合衆國の勝利となつてテキサスを併合した外に、ニューメキシコ及カリフォルニヤを割讓せしめ、其の代償として一五〇〇萬圓をメキシコに與へて一八四八年和議を結んだ。これより先一八四六年にはイギリスと國境確定の結果北西のオレゴンを加へた。更に一八五三年アリゾナの南端ギラ (Gila) コロラド河の支流) 河南をメキシコより買収した。斯の如くにして第十九世紀の中期即ち獨立後約半世紀の短日月にしてその領土は太平洋岸に達したのである。

其の後南北兩地方の經濟上に於ける相違は奴隷存廢問題を中心として互に抗爭し所謂南北戦争 (一八六一—六五年) となつたが、北方の勝利に歸して黒人の解放となり、南北の争も自ら消滅し、茲に太平大西兩洋に臨んだ新興國はモンロー主義 (Monroe Doctrine 一八一三年) を傳統的國策としてヨーロッパの干涉を離れて銳意國土の開發と國力の充實とに専心した。

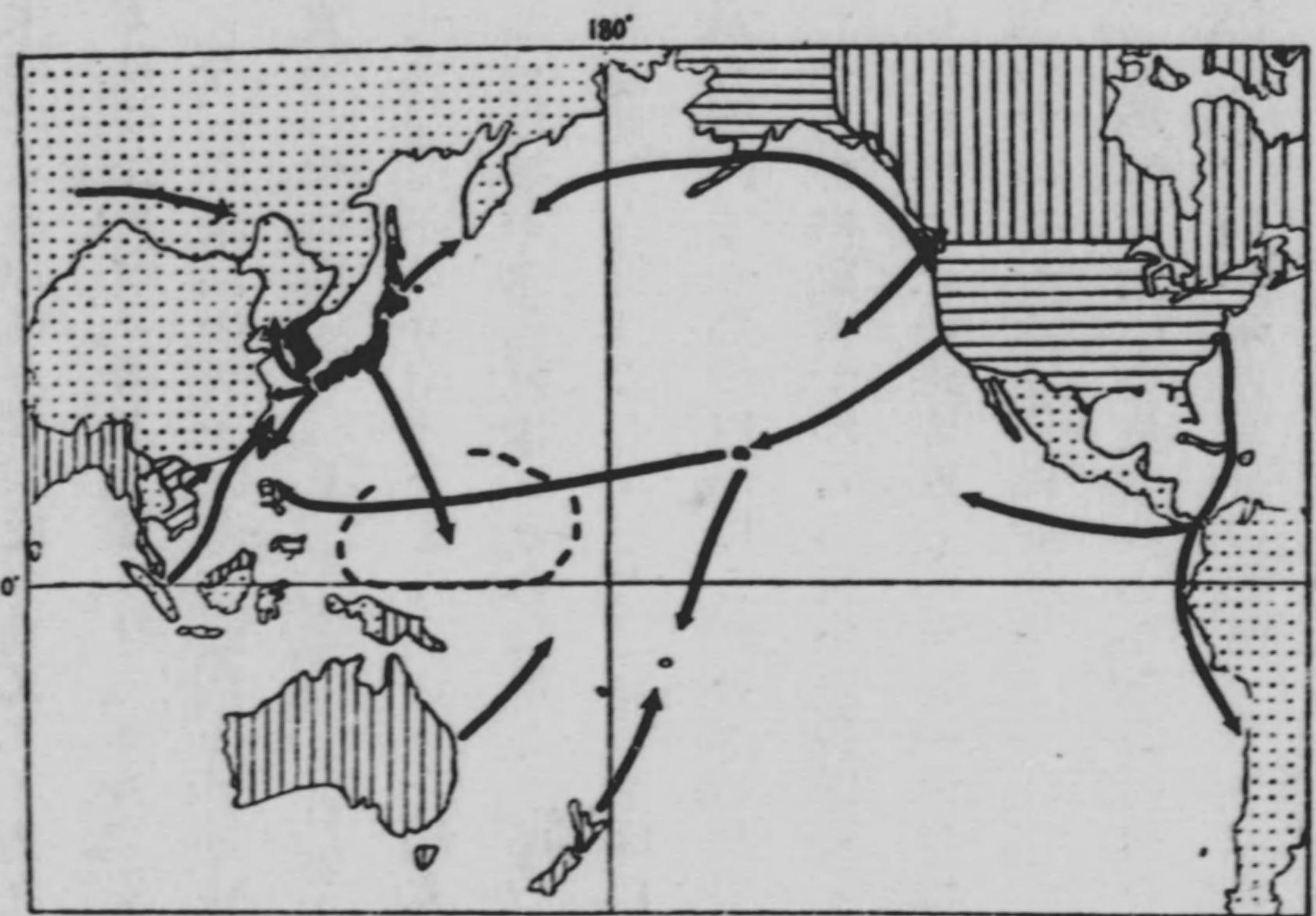
爾後國力の充實に促された合衆國は兩米諸國に對しては所謂汎米政策 (Pan-Americanism)、太平洋極東方面には所謂太平洋政策を採ることとなつた。

**汎米主義** 南北兩米二十一ヶ國の國際聯合を造つて合衆國がその指導者たらんとする企圖で、一

八八九年以來しばしば兩米各地に汎アメリカ會議を開催してその機運の促進を計つた。併し合衆國のカリブ海方面に於ける露骨なる侵略的政策と、中米・南米のラテン人種であるといふ人種的相違等に基き、この企圖は餘り大なる成功をなした様にも見えない。

今、合衆國のカリブ海方面に於ける進出の大勢を見ると、一八九八年米西戦争の結果キューバを事實上の保護國とし、且、ポルトリコを併合した。次にパナマ地峽部を自國の生命線と認識したので、一九〇三年コロンビヤよりパナマを獨立せしめ、最初にこれを承認し、パナマ共和國より幅十哩の運河地帯を永久租借しその代償として一千万弗を支拂ひ、且、一九一三年運河開通以後は年々二十五萬弗を支拂ふこととした。他の諸國はその後相次いでパナマ共和國を承認したが、コロンビヤは最も遅れて一九一四年にこれを認めた。又サントドミンゴ (一九〇七年及び一九一六年)・ハイチ (一九一五年) の内亂に干涉し事實上の保護國とした。次にニカラガに對しては屢々内亂に干涉し一九一三年には事實上の保護國とし一九一六年には條約により運河開鑿及び海軍根據地設置權を獲得するに至つたのである (第一圖参照)。

**太平洋政策** 合衆國の太平洋方面への進出を見るに、一八九八年ハワイの内亂に干涉してこれを併合し、同年米西戦争の結果フィリピン及びグアムを併せ、翌一八九九年にはツツイラ島 (Tutuila サモア群島の一) を獲得した。



第2圖 太平洋に於ける勢力

これより先一八六七年にはロシアよりアラスカを買収したが産金以外に經濟的價値の見るべきものはないが、最近航空機の發達に伴ひ、米亞兩大陸連絡の最捷路として重要性を加へることとなり、所謂三A主義——アメリカ・アラスカ・アジャを連結するの意——の遂行さへ叫ばれるに至つた（第一圖及第二圖）。

以上述べたやうに合衆國の政治的・經濟的勢力は太平洋の中央を横斷し他方アラスカ、アリウト列島方面より極東に迫る勢を示した。かくて屢々支那の領土保全・門戶解放・機會均等を唱へて日本其他の支那への政治的進出を抑へつゝ、其の威大なる經濟力を以て極東市場の實權を獲得せんと努めてゐるのである。

### モンロー主義

一八二三年時の大統領ジェームス・モンローによつて提唱せられた此の主義は當

時に於ては合衆國にとつて最も適切な國策であつた。何となれば、ヨーロッパの事件に對しては合衆國は之に加はらず、従つて又アメリカの問題に對してはヨーロッパ諸國の容喙を許さず」といふ方針は合衆國の國力充實に對し極めて必要であつたからである。

然るに漸く國力の發展を見るに至つた際世界戰役の勃發に會し、聯合國を財政的に援助し、且、大兵を歐洲の戰場に送り、講和會議には五大國の一員として活躍し恰もモンロー主義を捨てたかの如くに見えた。しかしベルサイユ條約はアメリカ國民の容るゝ所とならず、従つて國際聯盟にも加入しなかつたことは、やはりこの傳統的政策を支持してゐるものと見るべきである。

此の如くアメリカ合衆國はヨーロッパ諸國に對しては、モンロー主義を採り、他方太平洋極東方面には極力進出を企て、ゐるのであるが、斯る多角的な政策を弄する事が出来る主なる原因は蓋し

- 1 國土の地理的位置 太平大西兩洋の間に位することは島國的價値を多分に有する。
- 2 兩米に於ける國家の分布 兩米大陸には歐洲強國の領土は若干存在してゐるが、合衆國に匹敵する有力な國家を見ない。

3 人力 (Man Power) 有爲なる多數國民の勢力。

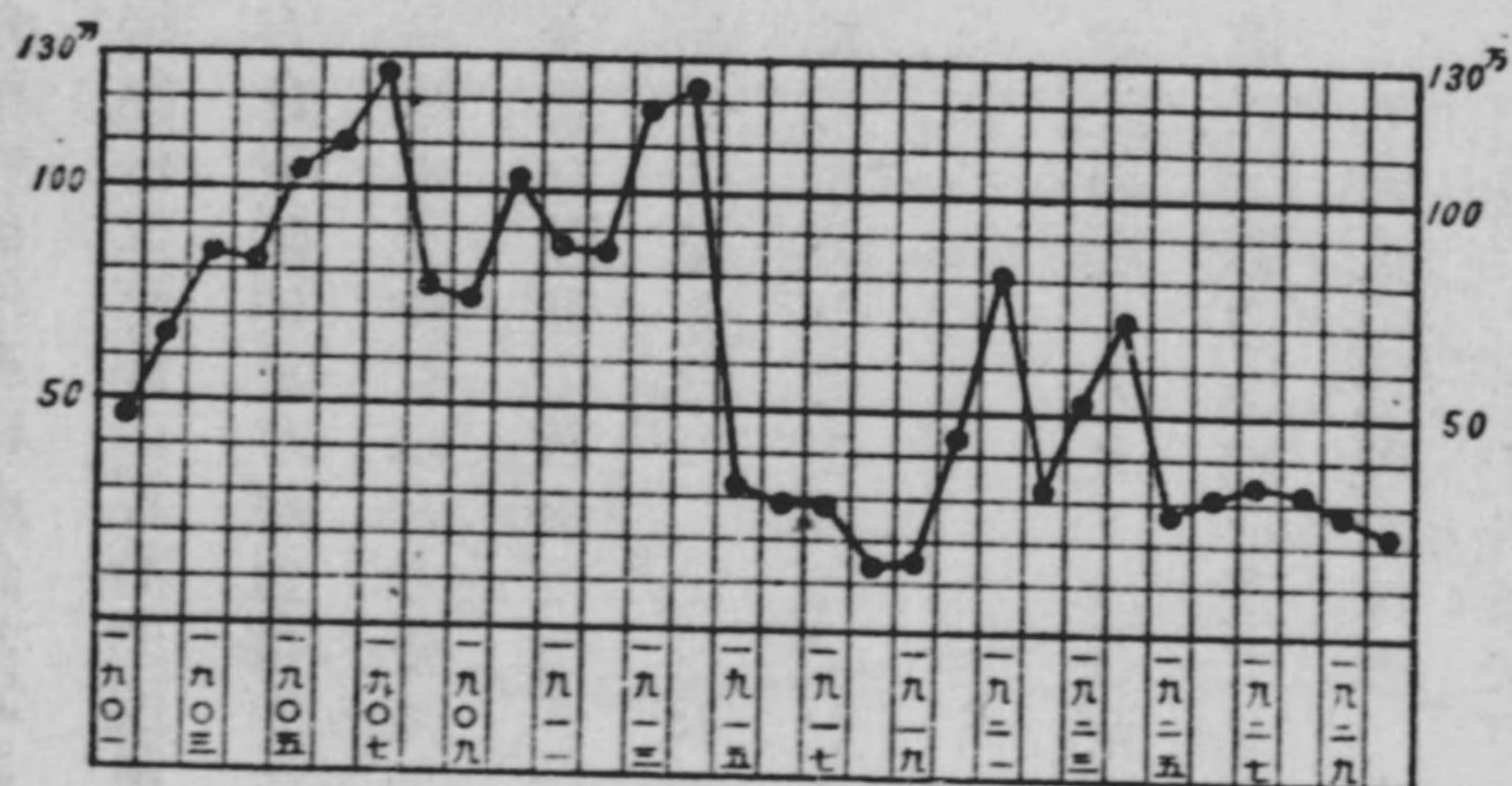
4 經濟力 (弗の力) 後節參照。

## 第二節 國家の統一と人種問題

アメリカ合衆國一九三〇年現在の人口一億二千萬の中、約九〇%が白人で、その中六〇%がイギリス系、一二%がドイツ系である。次に黒人は總人口の約九%で、残りの一%はアメリカインディアン(三五萬人)日本人(一〇萬人)支那人等である。

此の如き複雑な人種より成る國民の統一は此の國の内政上の重要な大問題である。殊に此の國の經濟的繁榮が近年多くの移民を招來し、その數は過去一世紀半の間に約四千萬人を數へた。これら新來の歸化人を合衆國民として融和包容しなければならぬことは問題を一層複雑化する。

**移民問題** 世界戦役前の一九〇七年には百二十五萬餘の移民が入つたので大統領ルーズヴェルトは移民調節の必要を唱へその調査委員を任命した。世界戦役中は一時移民の減少を來した。即ち一九一



第3圖 アメリカ合衆國の入移民

九年の前半期には合衆國に入るものよりも出づるもの、方が四千人も多かつた。併し戦後の一九二〇年には歐洲の經濟的混亂の爲に再び入國者が増加して四三萬人を數へた。

合衆國はその鐵道都市改良及大工場の建設を輸入勞働に負ふ所が多い。勞働者の入國と同時に合衆國の農産物は海を越えて歐洲に輸出された。合衆國の工業化に伴ひその輸出率は低下したが、工業者は安價な勞働を要求した。アメリカ人は知力又は熟練を要しない安い賃銀を得る仕事に従ふことを好まないから自ら此の如き仕事は移民の手に歸した。急速に發達しつゝあつた企業は外來の勞働者のみならずその子孫をも吸収した。

然るに世界戦役中、ドイツ系國民が合衆國の出兵に反對した事などによつて、移民と母國との關係が非常に密接であるといふ事實が明らかに合衆國民に認識された。此の如くにして、世界戦役前には移民問題は單なる經濟問題であつたのであるが、戦後は政治及び社會的問題ともなつた。

合衆國への初期の移民はイギリス・ドイツ・オランダ等の北歐チウトン系のを主とし、世界戦役前の一世紀間に全移民の約九〇%を占めてゐたが、其の後南歐・東歐の移民が著しく増加するに至つた。即ち一九〇一年乃至一九一〇年に於ける移民の六六%がオーストリア人・ハンガリア人・イタリア人・ロシア人(フィンランド人を含む)であつた。又世界戦役の前年(一九一三年)には一一九萬八千人の移民中、最高位がポーランド人(一十萬)次がロシア人(五萬)であつた。次に第一制限法



が實施された前年(一九二〇年)にはイタリヤのみから二二萬人が渡來するといふ状態になつて來た。かくの如く南歐・東歐からの移民が急増したのであるが、彼等を初期のチャットン系移民に比べると、チャットン系移民は多く農業者となつて定住する傾向を有し、且つ教養も高いが、彼等は鑛山及び工業地に住するもの多く、素質も教養も劣つてゐるので、米國の理想に一致しない點が多いのである。

こゝに於て一九二一年移民制限法を設け、一九一〇年在米各國移民數の三%に限定し、更に一九二四年には現行の移民制限法、即ち一八九〇年在米各國移民數の二%に制限することに改めた。但し、一九二七年七月一日以後は一年の移民總數を一五萬人に限り、その按分は一九二〇年在米各國移民數によることとした。これによつて南歐及び東歐よりの移民の渡來が激減する結果となつた。但、この法律はカナダ・ニューフォンドランド・メキシコ・中央アメリカ・西インド諸島及南アメリカ諸國には適用しない。又歸化權を有しない移民の入國は斷然禁止さるゝこととなつたので我國の如きは一人の移民をも送ることが出來なくなつた。これは人種平等の原則に悖るものとして、日米間に深い溝渠を造つてゐるものである。

**黑人問題** 移民問題に次いで黑人問題も合衆國の重大なる政治的・社會的問題である。

元來黑人の渡來は新大陸發見後、白人がヨーロッパより移住し來り荒漠たる原野を開墾するに當

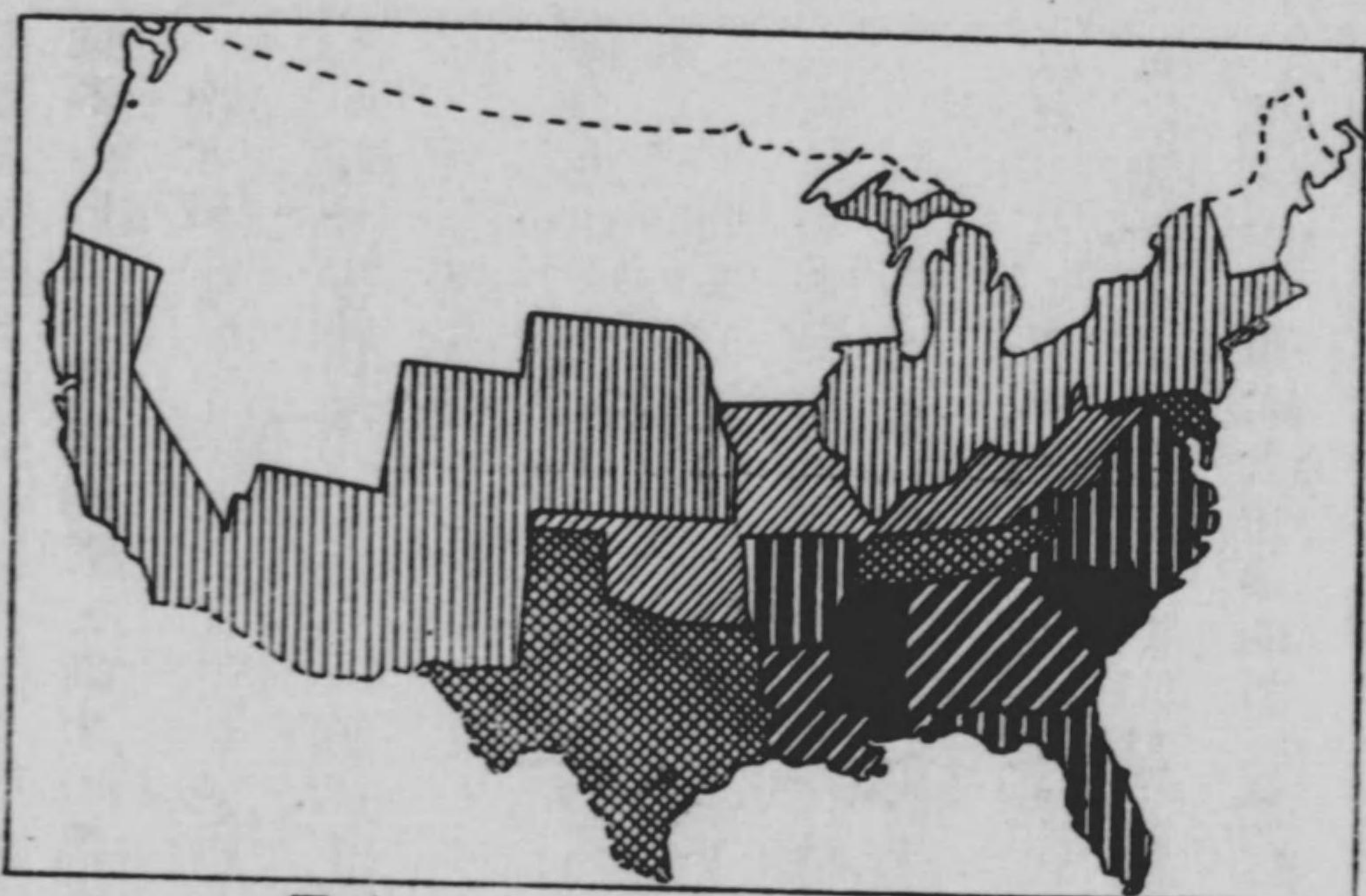
り、その勞働力の缺乏を補はんが爲に一六二〇年以後アフリカより奴隸として購入移住せしめたのに始まる。爾來黑人は年を経るに従ひ著しく増加し、その數は一七九〇年に約七六萬人に達し、全人口に對し約二割を占めてゐた。その後の黑人増加の状態を見れば

年	黒人數(單位千人)	總人口に對する%
一七九〇年	七五七	一八・二七
一八〇〇年	一、〇〇二	一八・八八
一八五〇年	三、六三九	一五・六九
一八九〇年	八、八三三	一一・六三
一九一〇年	九、八二七	一〇・六九
一九二〇年	一〇、四六三	九・八三
一九二七年	一一、一〇〇	九・三六

であつて、黒人がかく増加したにも拘らず全人口に對する割合の減少して來たのは、白人の増加が更に速かであつたからで、黑人問題を樂觀視する向もある。

黒人の分布は大體第四圖に於て見られる。即ちその歴史的關係から南部諸州に偏在し、その九割はテキサス以東の南部諸州に居住し、殊にその約八割はアラバマ・アーカンサス・フロリダ・ジョージヤ・ケンタッキー・ルイジアナ・メリーランド・ミシシッピー・北カロライナ・南カロライナ・テネッ

シー・テキサス・ヴァージニアの諸州で黒人地帯と呼ばれ、南カロライナ州・ミシシッピ州の如く黒人人口が白人人口を凌駕してゐる州も見られるのである。



第4圖 アメリカ合衆國各州に於ける黒人の全人口に対する割合

農村を去つて都市に集中したのであつて一九一〇年から一九二〇年までの間にその數二三萬五千に

上つた。

かくの如く、南方農場經營者はその労働者を奪はれて農業の衰頽を來し、北部工業地に於ては、從來の白人工業労働者と新來の黒人労働者との間に競争を生ずるに至つた。

南北戦争(一八六一—一八六五年)後奴隷の解放が行はれ、黒白平等の権利が認められたが、白人はその先天的優越感により事實上黒人を同等とは看做さず、凡ての方面に於てこれを虐待しつゝある。然るに黒人はかく劣等視されつゝも物質的に、又知識的に著しき進歩を爲して來た。茲に於て黒人先覺者は同族の爲に黒白同等の待遇を要求するに至つたのは當然の歸結であつて、合衆國の政治上・社會上の一大難問題となつてゐるのである。

### 第三節 經濟的卓越

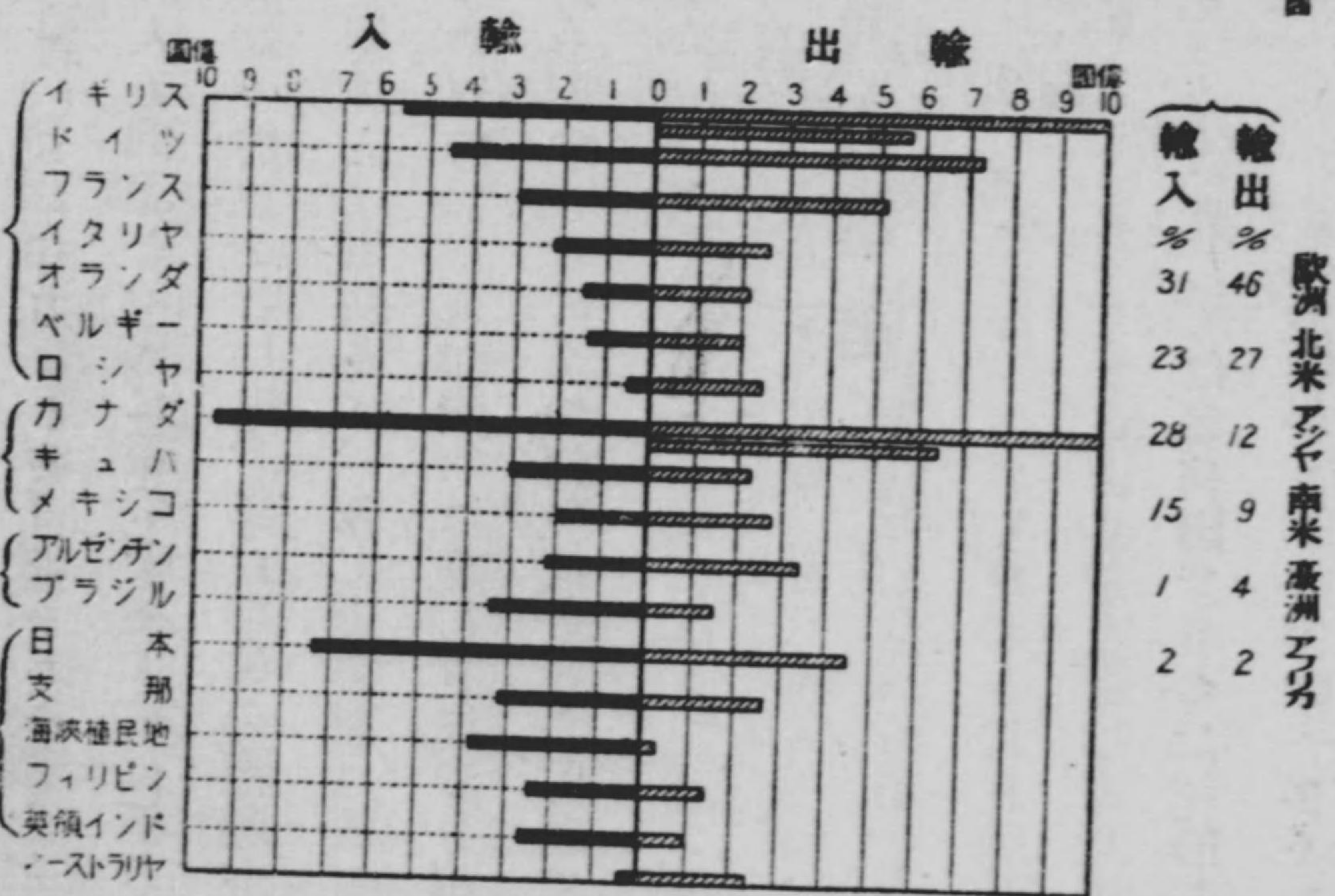
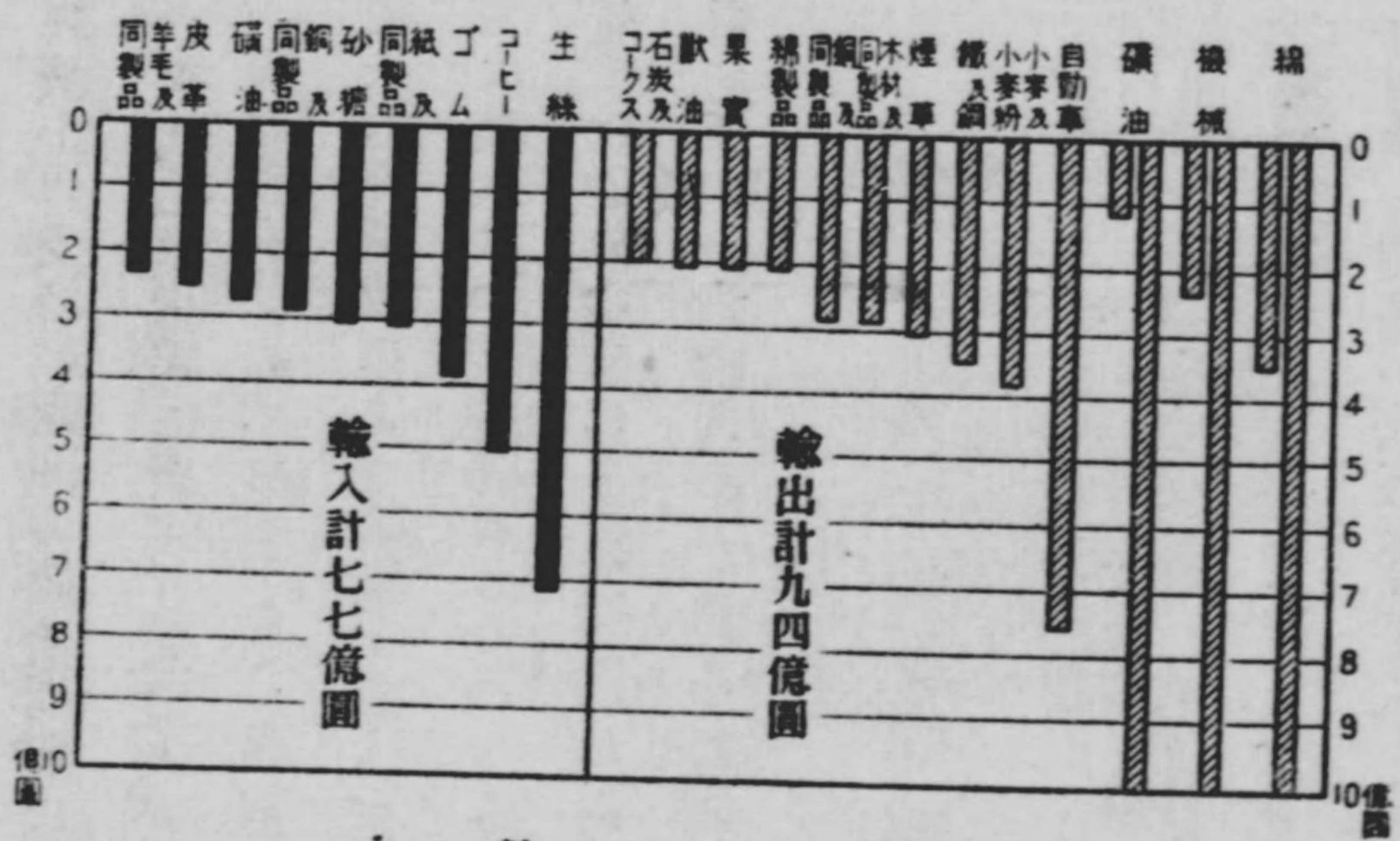
#### 第一項 概観

合衆國は世界戦役前にはヨーロッパに對しては債務國であつた。即ち一九一〇年にはヨーロッパに對する債務が六五億弗もあつた。しかるに大戰中ヨーロッパへ多くの物資を供給した結果、戦後は一轉して債權國となつて一九二二年には既に百億弗以上の對歐債權を有するに至つた。此の如く

にして世界金融の中心はロンドンからニューヨークへ移つたのである。貿易は連年輸出超過を続け、

且債権の利子収入等の結果世界の金の過半は此の國に流入し、各國の金本位制を脅かした。

今試みに一九三〇年の貿易表について調べ(第五圖)。その貿易額はイギリス帝國の次位にあつて世界第二位であるが、イギリス本土の上に位してゐる。而して此の年も勿論輸出超過であつて對歐輸出額は此の國全輸出額の四六%にあたり、輸入額は約三一%を占め、英・獨・佛



第5圖 アメリカ合衆國の貿易

超過であつて對歐輸出額は此の國全輸出額の四六%にあたり、輸入額は約三一%を占め、英・獨・佛

伊・蘭・白・露等の諸國に對し何れも輸出超過を示してゐる。此の如き偉大なる米國の歐洲に對する經濟上の支持が歐洲の政治問題に對しても有力なる發言權を有すること、なるのである。

次に北米諸國に對する輸出入の狀況をみるに、輸出に於ては二七%、輸入に於ては二三%を示し、カナダとの關係が最も密接で、キューバ・メキシコこれに次いでゐるが、キューバだけは輸入超過となつてゐるのは砂糖の輸入が多いからである。

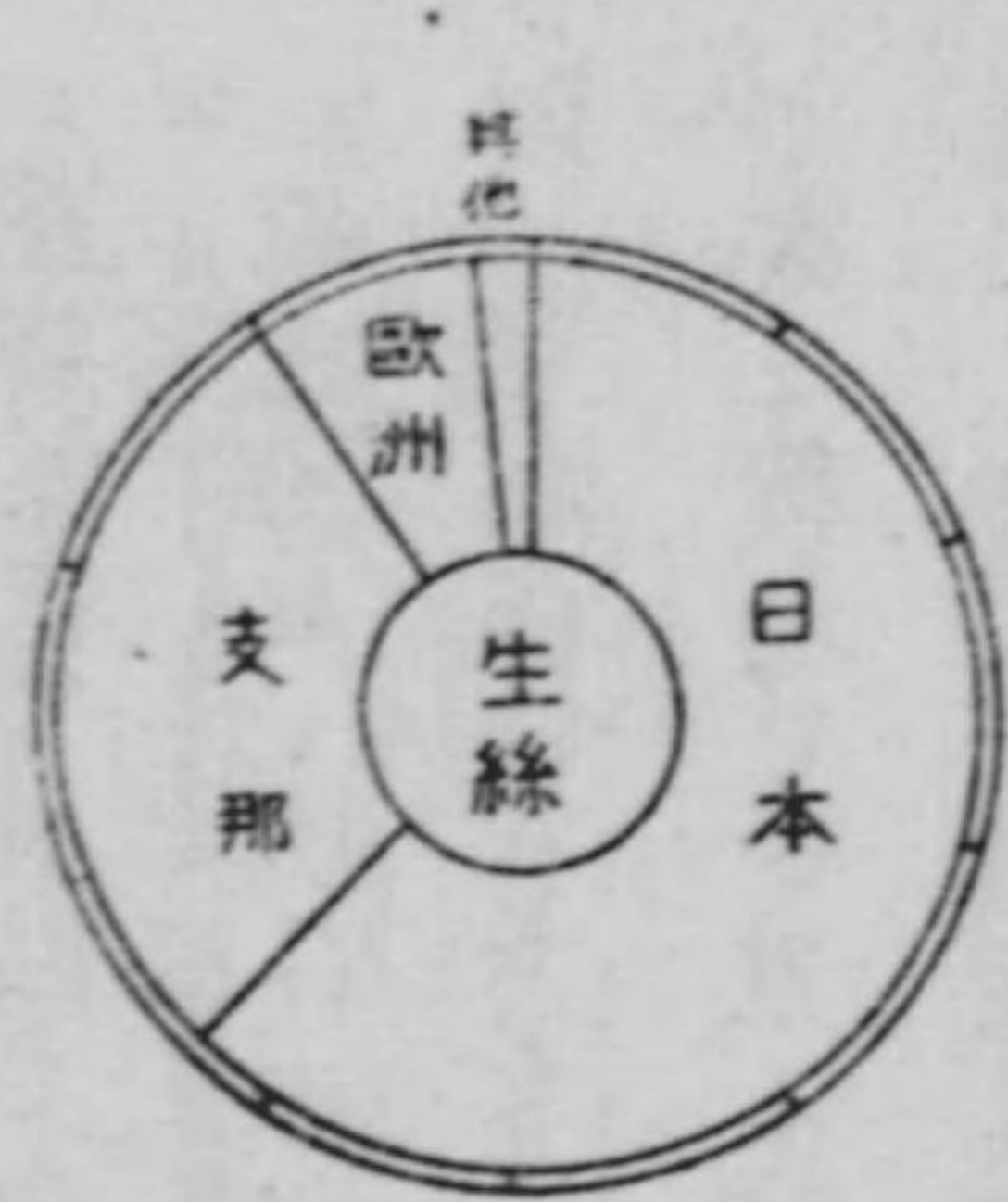
南米との貿易はアルゼンチン及ブラジルが第一で、ブラジルからは輸入超過になつてゐるのは主として珈琲の輸入に基くものである。

更に對アジア貿易についてみると、我國との貿易が第一位で生絲の輸入の爲著しき輸入超過を示してゐる。

次は支那及海峽植民地であるが、後者はゴム輸入の爲にこれ亦著しき輸入超過である。フィリピン及英領インドについても同じく輸入超過である。

以上の如くヨーロッパ諸國に對してのみは全然輸出超過を示してゐることは、歐洲諸國の復興に對して如何に有力なる後援を與へつゝあるかを示すものとして注意すべきである。

次に貿易品を見る。凡そ貿易品はその國の産業狀態を反映するもので、自國に不足なるものを輸入し、自國に過剰なる生産品を輸出することは勿論であるが、只こゝに注意すべきは、たとへ本國



總額六十七萬七千



總額十二萬

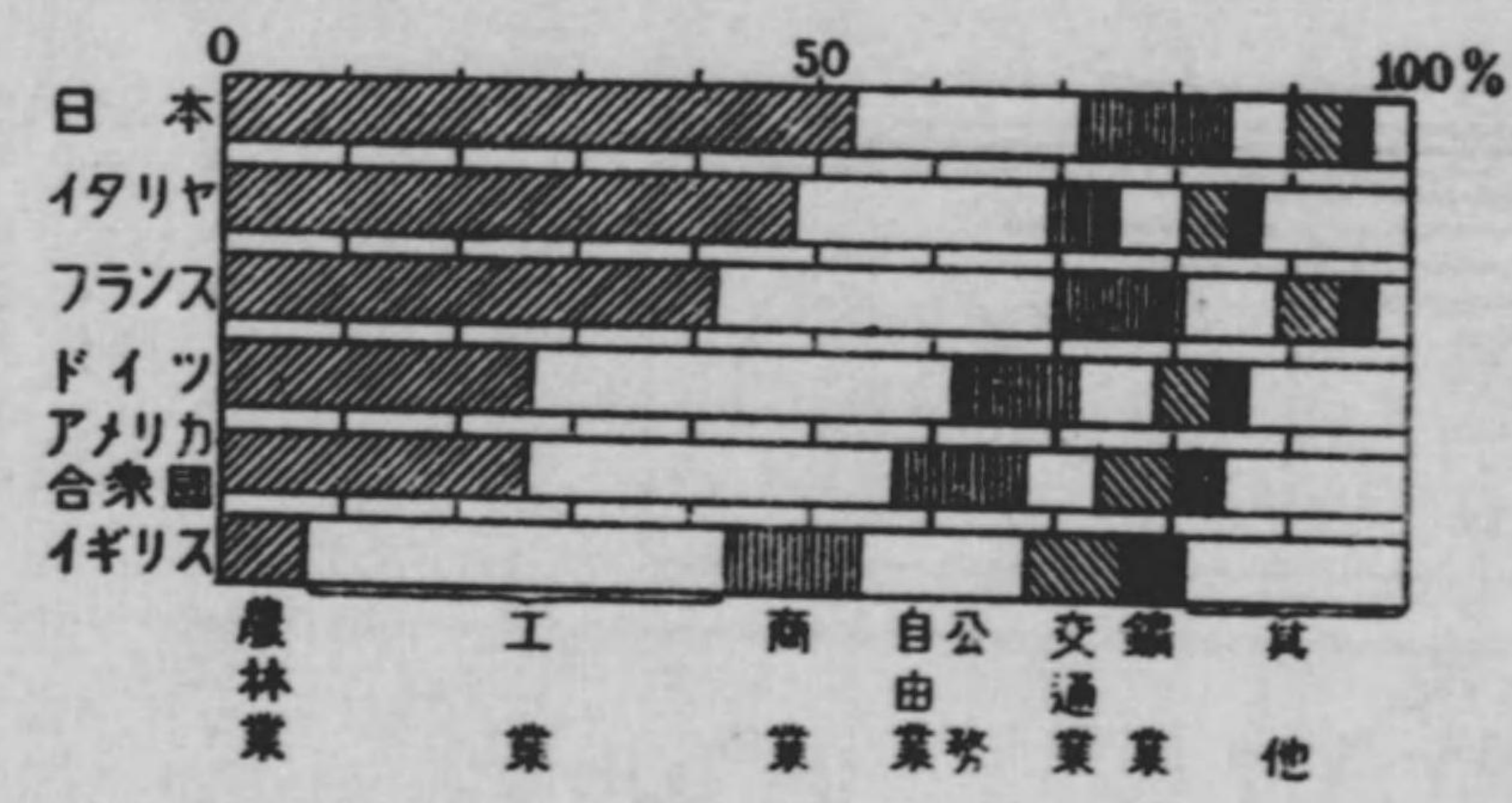
第6圖 人造絹絲及生絹の生産額

に於て多量に生産しても、その國內に於てその悉くを消費するものは、輸出品目に現れないことである。先づ輸入品の第一を占むるものは生絹で我國からの輸入が主である。然るに合衆國內に於ける人造絹絲(Rayon)工業が急速なる進

歩を遂げて世界の主位を占むるに至つたことは、我國輸出生絹に對する一大脅威となりつゝある。第二位を占むる珈琲は主としてブラジル産であるが、その消費量は年々増加する。又ゴムは主に英領マレー及蘭領東インドから輸入されるのであるが、これは主として世界第一位を占むる自動車製造に充てられるものである。其他紙はカナダ、砂糖はキューバ、銅はチリ、礦油はメキシコ、皮革羊毛はアルゼンチンから主に輸入するのであつて、珈琲・砂糖以外は工業原料を供給するものである。

儲つて輸出品を一瞥すれば、農産・林産・鑛産及びその加工品が主要なものである。農産及びその加工品は綿及綿織物・小麥粉・煙草・果實等であり、林産物は木材が主である。鑛物は礦油・鐵・鋼・石炭等、工産物は機械・自動車等である。

次に國民の職業別人口を見ると第七圖に示す如く工業人口(三一%)と農林業人口(牧畜業を含む、二



第7圖 主要諸國の職業別人口

六%)とが略ぼ均衡を保つて居り、商業(一〇%)・交通業(七%)・鑛業(三%)人口は遙に少いのを知る。實に此の國は(1)國土の量(面積)に於て優勢なる上に、(2)國土の質地・地形・地味概ね良好にして有用鑛物の埋藏量亦多く、(3)更に國土の位置は氣候並に交通・貿易に好條件を與へてゐる。是等の自然的因子を巧に利用する進取の氣象に富み、企業・發明の才能に秀づる有爲の國民が銳意此の國土の開發に當り、産業の振興を企畫してゐるので、この國は食料品・工業原料品及動力並に各種工産物の生産に於て、彼等の理想とする世界一であるものが頗る多いのである。次に其の主要なるものを擧げよう。

第二項 農業及農産製造工業

農産中世界第一位にあるは小麥・玉蜀黍・綿・煙草等で、農産製造工業としては製粉・綿工業・煙草製造等である。次に是等について述べる。

小麥 二つの大きな生産地帯がある。第一は中部から東部、第二は西部である。その二大産地帯の間はロッキー山脈と乾燥地帯とで、この中間地帯では全く生産物が無いのかといへばそうでもなく、灌漑や乾燥農業等に依つて、又降雨の若干ある所では勿論少額

圖下の斜線地域は数量不明の産地である



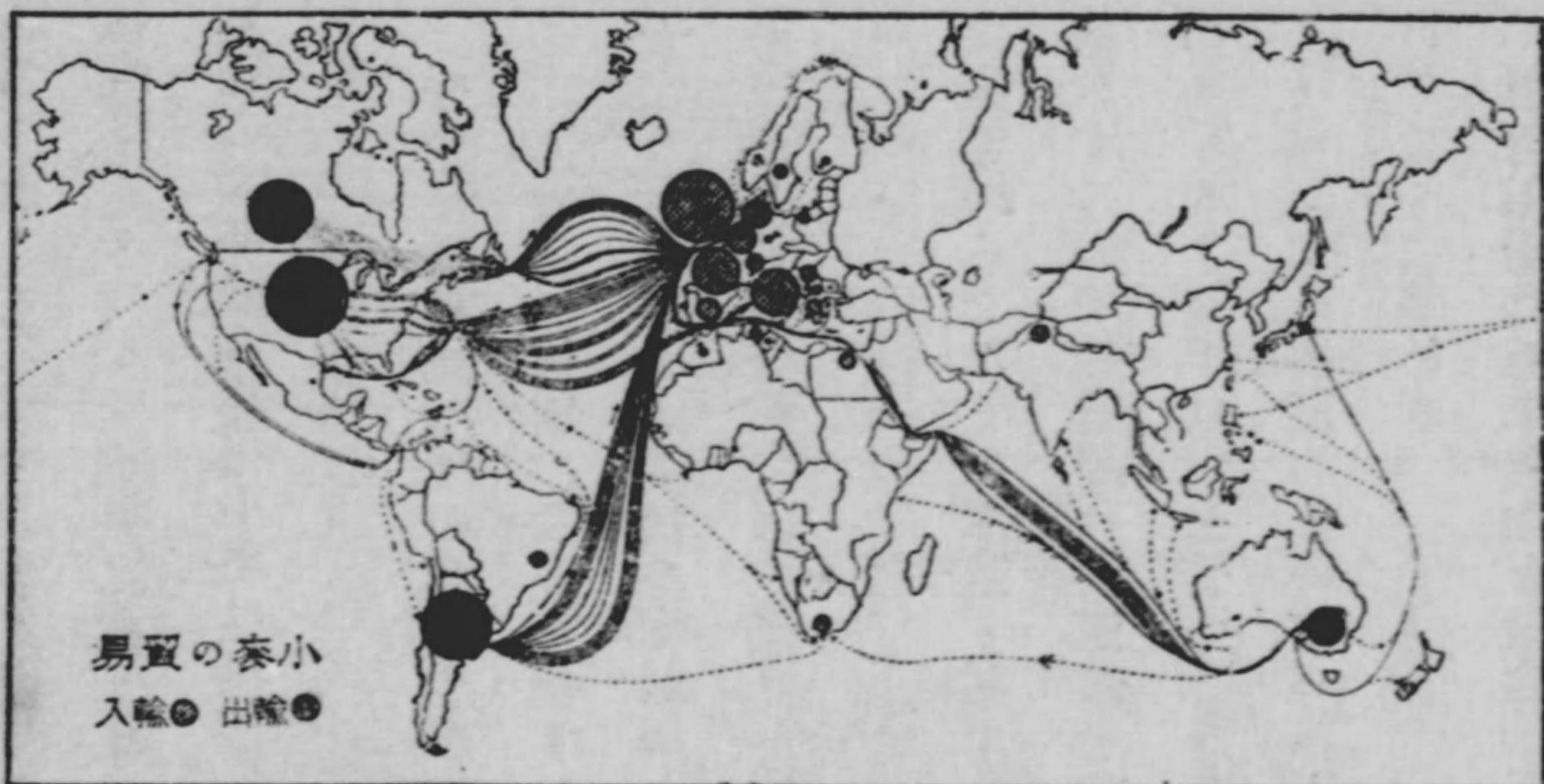
第8圖 世界の小麦産地及産額

ながら農産がある。南方では次の三条件で小麦栽培区域が限定される。第一は綿との競争で綿を作るのが普通利益であるが、小麦と比較して経済価値の大なる方を作る。第二は冬の結氷による損害で第三は秋春夏の温度との関係から害蟲や病菌が生じ易い。北方では北東部の小麦帯はニューイングランドのローレンシャン山脈の凹凸のある土地、岩交りの土壤の邊で終る。中央カナダでは土地平坦でプレーリーの土壤であるから、北方遙かに擴がり遠く北極圏に入つてゐる。即ち加奈陀では東部よりも中央の方が北方まで作られることになつてゐる。しかし生産期間が短い故自然に限定される。中

央小麦帯ではシカゴの西の方を通る東西の一線で春小麦と冬小麦と區別されてゐる。この線から北方のミネソタ・ダコタ二州では冬乾燥し温度低から春小麦を作る。この線から南方及び五大湖の東方では春小麦は少い。コロンビヤ高原のワシントン・オレゴン・アイダホの三州では春小麦・冬小麦の二種が栽培される。

昔は交通機關不便の爲、生産地方で消費されたが、今は交通の發達により遠方まで運搬される。この運搬には特別の設備を要する。第一次の貯藏設備として鐵道沿線にエレベーターを設け、次に大なるエレベーターは小麦地帯と市場との中間の鐵道の中心や終點に作られる。その主なるものを舉げると、加奈陀ではウイニベグ・ポートアーサー・フォートウィリアムであり、合衆國ではデユルース・ミネアポリス・ミルウォーキー・シカゴ・カンサスシチー・セントルイス等である。尙運搬には鐵道のみでなく、水運も利用される。之等の湖水では春小麦が運搬されてしまふかしまはぬ頃に結氷するので短時間に大運搬をやらねばならず、兩端の諸港には大エレベーターを立てゝゐる。このエレベーターは氣送管 (Pneumatictubes) 及運搬器 (Belconveyors) を持つた大きいものである。コロンビヤ高原のものはビューゼットサウンドのタコマ・シャトル等の港に貯藏所及び市場を設けてこゝに集める。

製粉工場は亞米利加合衆國に五千、加奈陀に六百ある。米國五千の製粉場の中、大工場は一千、



第9圖 世界に於ける小麦の貿易

小工場は四千であつて、小工場は大工場に次第に壓倒され大工場に合併されて行く。かくの如き企業の集中は世界の大勢である。それでは大製粉場はどんな所にあるかといふに、第一小麦産地に近い運送の中心にある。その例としてミネアポリス・カンサスシティー・シャトル等をあげることが出来る。第二は安く小麦を運送のできる消費地方にある。パツファロー・ポートコルボルン(カナダのオンタリオ州)等はその適例である。この二者の中間にも製粉工場がある。例へばインヂャナボリス・トレンド等である。これ等の小麦粉は商業用に其の半分を使用し、他の半分は家庭用として用ふ。近來パン工業が大都市に起つて來た。又パンの外ビスケット・マカロニ等の製造も多くなつて來た。

小麦貿易は大戦當時は頗る多かつた。戦後の一九二二年の産額八億六千萬ブッシェル(一ブッシェルは約二斗)を算し、その内國內消費量として種子用一億ブッシェル、食用として一

人當り五・三ブッシェルを消費し、残額を輸出する。その額約二億ブッシェルである。加奈陀では約四億ブッシェルを産し、その内で約半分を輸出する。加奈陀の小麦の一部は米國にも輸入される。兩國の大部分の輸出小麦は西ヨーロッパに送られる。歐羅巴には兩國以外にアルゼンチン・濠洲の小麦も輸入される。

北米に於ては北はモントリオールから南はガルベストンに至るまでの主要港市は皆小麦を輸出する。その主なる港はモントリオール・ポーランド(メイン州)・ニューヨーク・フィラデルフィヤ・バルチモア・ガルベストン等である。

加奈陀では歐羅巴との航路短縮のためハドソン灣岸ポートネルソンに鐵道をつけ、こゝから歐羅巴に送る。

合衆國北西部のコロンビヤ高原ではビューゼットサウンド諸港及びポートルランド等から輸出する太平洋の南方ではパナマを通つて東部に至るか又は歐羅巴に至るのである。

**玉蜀黍** 初めてアメリカを發見したヨーロッパ人は玉蜀黍の栽培されてゐることを見た。そして之を Indian corn といつた。玉蜀黍を一名 Maize といふのは、印度人がこんなについてゐるのをヨーロッパ人がきいてその儘使用したのである。玉蜀黍はアメリカ最初の渡來者達には非常に大切なもので、新に森林地を開いて耕地にした時は先づ之を栽培し、次第に舊世界の穀物を栽培するの

である。玉蜀黍は農業が進歩するに従つて食用資源としては其の重要度を減するものであるが、その産額量に於ては常に第一位を占めてゐる。米國の玉蜀黍の産額は世界總産額の七〇%を占めて居る。カナダ・メキシコは世界の五%を産出する。

玉蜀黍は温暖の氣候に適し、霜には鋭敏であるから、燕麥の様に春早々蒔くことは出来ぬ。霜の絶対のない時に栽培するので、北限はニューヨークランド及南カナダで、南方に行くに随つて次第に種類が多くなる。北では八・九〇日で生熟する早生種を栽培し、南では晩生種を栽培するのが一般で、メキシコ灣沿岸では一六〇日乃至一八〇日で生熟する。理想的の玉蜀黍地帯は生育期に霜の降らない外に、晝夜共に暖く且濕潤な氣候を有する所である。雨量は年に二五乃至五〇吋位が適當で一〇吋乃至一二吋が成育期三ヶ月に降ることが必要である。米國に於ける玉蜀黍地帯は世界最大の玉蜀黍に適する土地で、冬は寒く夏は暑く雷雨を伴ひ眞實の亞熱帶氣候をもち、其上土壤が暗黒色の腐植土でよく濕氣を保つ性質がある。玉蜀黍の栽培は小麥の栽培より手数を多く要し、且つ値段も安い、量が多くとれるので之を作るのであつて、同一面積では玉蜀黍は小麥の約二倍位の收穫がある。ネブラスカ州北東部からオハイオ州南部に亙る六州に多く産出し、其の額は全國の約半分を占めてゐて、米國の農業地では一番地價の高い所である。この地帯の北の縁邊及び東の縁邊は夏の溫度低く且期間が短いから有利でない。又西方では夏に雨が少いので、夏の雨量八吋までの線は

小麥との競争を見るが、この線を超えると玉蜀黍の栽培が減少する。南の多濕の地では玉蜀黍が廣く作られて大切であるが、綿との競争で第二位となつてゐる。玉蜀黍栽培の或地帯では實を取らずに家畜をその畑に追ひ込んで飼料とする。随つて玉蜀黍地帯の或

所ではこの爲と機械使用の農法との爲に人手を要することが少いので、人口密度少く却つてその人口が減少して行くやうな傾向を示してゐる。併しアレガニー山地やカンバーランド高原の谷間は玉蜀黍の主産地であるが、こゝでは大きい機械を用ひないで Hoe といふ農具を用ひてゐるので、こゝは人手がかゝる爲、人口数は増して行く。

玉蜀黍は直接食用には供しないが、食料上から見て重要な資源で、南部の黑人などは食用にもするが、大部分は家畜の飼料として特に肥畜用に有効であるから、玉蜀黍地帯は豚や牛の飼養の大中心である。玉蜀黍は實をそのまゝ市場へ出す

のは四分の一位で、四分の三は豚肉や牛肉に變つて市場へ出る。豚肉一封度は玉蜀黍の五封度に、牛肉一封度は玉蜀黍七封度に相當する。玉蜀黍は極めて安價なもので、この地帯の西方では一ブツ



第10圖 アメリカ合衆國及カナダの農業區

シエルの價十錢乃至二十錢のこともあるが、肉として出すから大體收支つぐなふのである。カンサス州・ネブラスカ州では玉蜀黍を安く賣つて石炭を買ふよりは、玉蜀黍を燃料に利用する方が經濟なこともあつた。尙實のみでなく、藁・葉・苞も皆家畜の飼料として價値がある。玉蜀黍の成長してゐる時葉を切つて地上におくと冬の間家畜が食つてしまふ。それは特に乳牛によい。イリノイス州・アイオワ州の一部では玉蜀黍の大部分が賣出され、シカゴ附近で之を製造して、これから酒・粉・糊・アルコール等を製する。

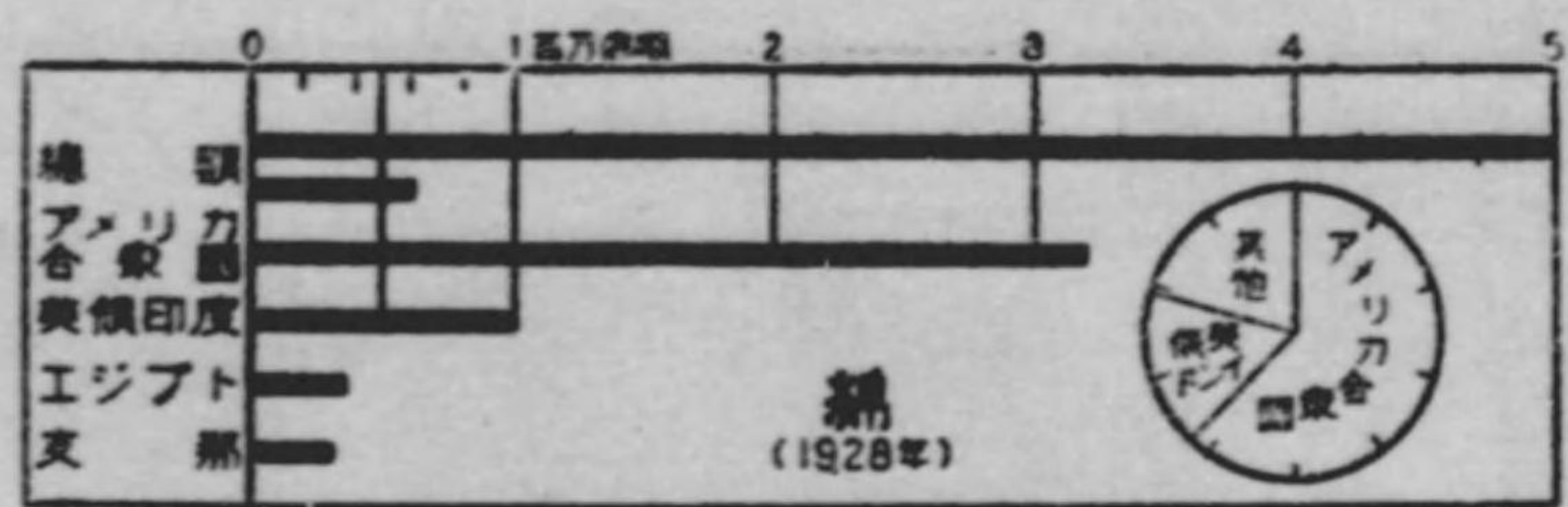
玉蜀黍は商業品として不適當である。その理由は第一に水分を多く含んでゐるから貯藏には遠方へ送る際に蟲がついたり酸酵する。第二には商業用品として極めて安價であるのに量が大きいから多額の運賃を要する。第三には外國では玉蜀黍の需要が少いから輸出は少量に過ぎない。

綿 纖維工業は古代より存在するが、第十八世紀の後半から機械工業に變つてきた。アメリカ合衆國の綿の栽培地は大西洋南部諸州で、初めは自家用のために栽培してゐたのであるが、南北戦争頃から定期的の外國貿易が起つてきた。

一七九一年には四千柵(一柵は五百封度)、一八〇〇年には一〇萬柵、今日では一一百萬柵を産し、世界總産額の半分以上を産出するやうになつた。

一九二八年の世界の綿の産出を見るにアメリカ合衆國・印度・埃及・支那の順である(第一一圖)。米

國がかくも世界最大の産地となつたのは、主として地理的並に經濟的の良原因に依るのである。六〇年來英國の紡績業者はアメリカ合衆國以外の綿の大産地を探してゐるが、上の四國の中の三國から、その要求を緩和せられてゐる。



第11圖 世界の綿産額

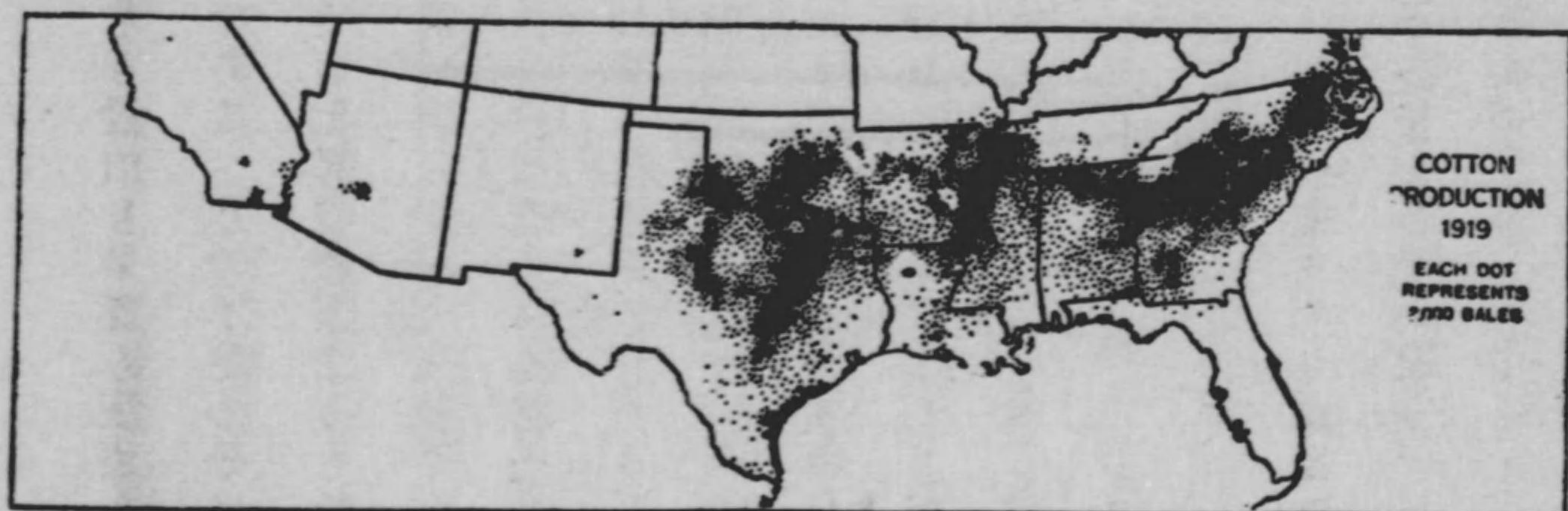
綿の生長には長期の暖い氣候の外濕氣が必要である。アメリカ合衆國の綿の地帯は夏の溫度華氏七七度で、この帯の西邊の雨量は年二三吋の線と一致し、東の方では六〇吋位の所もある。要するに綿は熱帯性の灌木であるから氣温高く、雨は雷雨式で日光が斷續的に輝くやうな氣候が良い。綿地帯の中心地は次の五ヶ所である。

1 大西洋海岸平野の内側 バージニア州からアラバマ州に擴がる波狀地で排水良く割合に軽い砂混りのローム土壤である。

2 山麓高原(Piedmont plateau) 丘陵地で土壤は結晶片岩が碎けて出來たもので、主に赤い粘土及び、粘土・ロームの土地である。

3 ア巴拉チャ山脈とミシシッピ河との間の地 アラバマ州とミシシッピ州に互る Black Prairies と呼ぶ地方で、肥えた粘土で地形はいくらか波狀をなしてゐる。近年や、産出額を減じてゐる。





第12圖 アメリカ合衆國の綿分布

4 ミシシッピー河沿岸 段丘になつた高い方は主に黄土の土壤であつて低い方は沖積土である。

5 テキサス州の Blackwaxy Prairies は土地平坦で、黒い肥沃な粘土質の所で、全地域中肥料を施すのは僅か二%丈である。

以上の外小中心が多い。その主な地方はテネッシー河谷・アーカンサス河谷・オクラホマ州の西部・テキサス中央部及カリフォルニア州の南部・アリゾナ州の灌漑綿産地等である。

綿は合衆國南部では最大の産物である。こゝは世界最大の産地であるので、大規模の單作が行はれる。綿地帯では耕地の二分の一乃至四分の三が年々綿の單作をやる。

綿は農場で消費することは殆んど無い。生産及び價格が年々大變動をするので、年によつて収入が非常にちがふ。

綿栽培が他の地方の一般農業と著しく異なる経済的事情は次の五點である。

1 綿以外の作物はごく少い。玉蜀黍は綿以外の重要作物である。

尤も穀類も果實も蔬菜も若干は出来るのであるが、その總量はこの地方住民の需用に不足を來す位である。その不足の分は北方諸州から移入される。

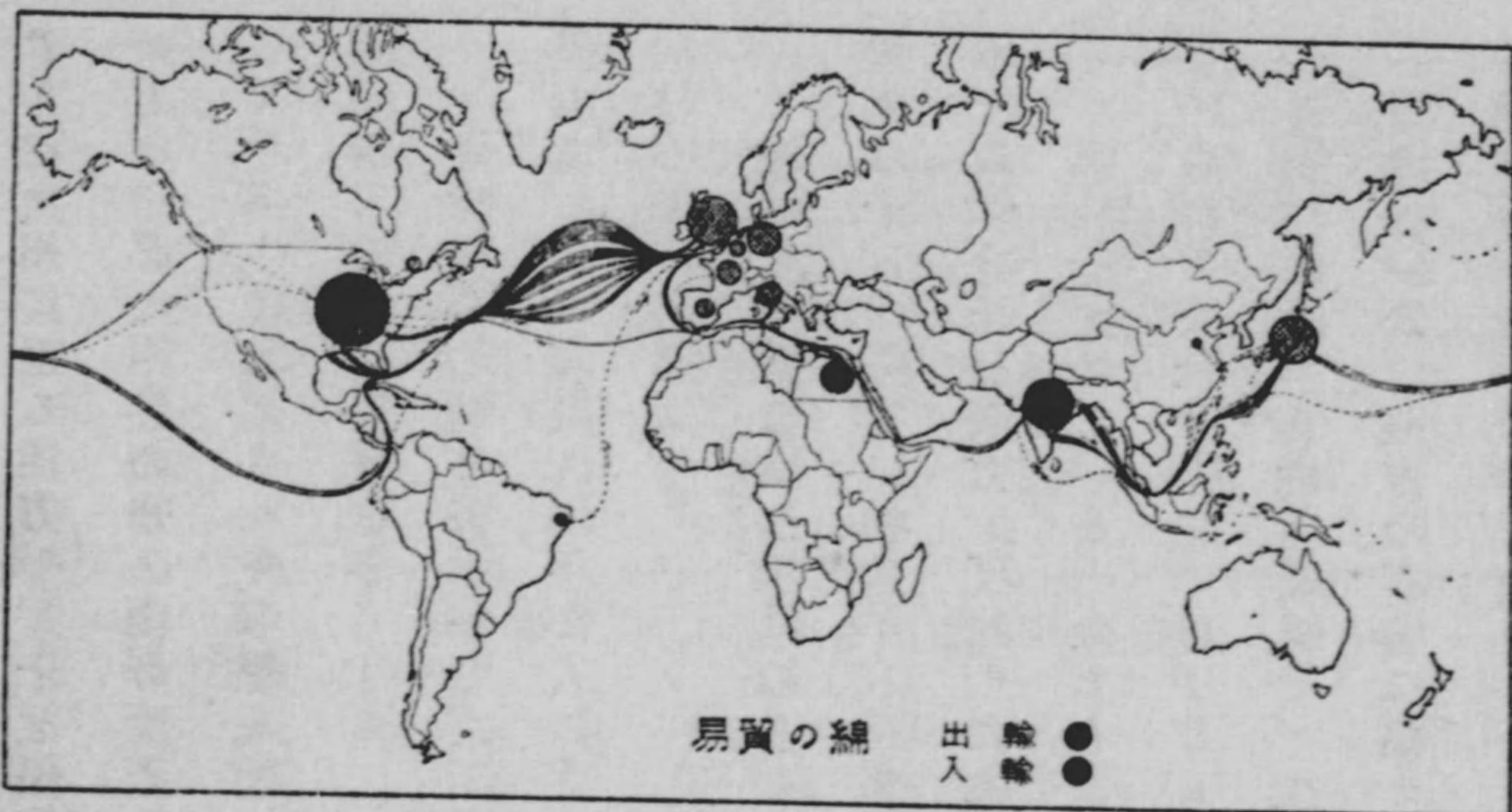
2 北部の農業よりも牧草や穀物の産出が少いので牧畜業が盛でない。従つて又動物肥料の缺乏は肥料購入の爲の失費を多くする。

3 奴隷廢止の結果勞力が缺乏した生産者は多くの小農場に別れたが今も尙多くの大地主がある小農場は白人又は黒人の小作人によつて栽培され、地主と小作人とは生産物を分け、又は小作人に一定の小作料を拂ふ。

4 機械力で綿は摘み採れぬので、綿の摘み採りには安値な勞力が入用である。一梱五百ポンドの繰綿は十日の勞力に相當する。勞力の得られぬ所では十乃至二十エーカーを一家族の農家で經營する。奴隷廢止を南方が反對した主な理由は綿作に安い勞力が入用な爲である。

5 綿は皆賣つて、その金で衣食の資料を買ふ必要がある。綿の不作の年でも翌年の生産を豫め抵當に入れて資金を得なければならぬので、他の農民より信用が一層大切である。

外國へ輸出する綿は繰綿で、生産者は地方の商人・仲買人或は遠方の紡績工場の買手に賣るのでこの繰綿が先づ地方の市場に集り、更に中央の市場に集つて行くのである。アメリカ合衆國の最大の綿市場はニューヨーク・ニューオーリヤンス等で世界的に見れば英國のリバプールが最大であら



第13圖 世界に於ける綿の貿易

う。

次に輸出について見ると、歐洲大戰以前は米綿の二割以上が輸出されてゐたが、其の後米綿の生産額大に増加した。米國に於ける重要輸出港はガルヴェストン・ニューオルリヤン・ス・サヴァンナの三港で、其中ガルヴェストンは最も有名である。尙ほ沿岸航路や鐵道で紐育・ボストン・サンフランシスコ等に運ばれて輸出されるものもある。

綿工業は歐米に限られたものでなく、日本・支那・印度でも近來發達して來た。印度のコンマンデル海岸は有名で、主にカリカットから輸出するので歐羅巴でもカリコ Calico と呼んで、この綿布が有名であつた。然るに安價な米綿の供給は、英國の紡績工場の發達を促して近來大いに發達して來た。

アメリカ合衆國の工場の分布状態を見ると、大西洋岸諸州が第一で、若干は西部ミシシッピー河の綿地帯にある。大西洋岸地方のものは北はカナダのケベック州から南は合衆國の

アラバマ州に至る地方で、之を便宜上三つの中心地帯に分けることが出来る。即ちニューイングランド・中部大西洋諸州・南部である。

1 ニューイングランドの綿工業 米國が英國から獨立した頃に始まつたが、勞力資本の缺乏、英國の競争等が禍して進歩しなかつた。然るに第十九世紀の初期に(1)造船業・漁業等によつてニューイングランドに資本が集つたし、(2)南方からの綿の供給が多くなり、(3)力織機其の他の諸機械の改良によつて水力の利用が人力に代つたので、ニューイングランド殊にその南東部に工場が多く出來たのである。尙現今では經濟的並に地理的原因の影響に依ることも多い。南方諸州の工場の壓迫を受けて、小工場は休止し、位置良好の大工場のみ活動してゐる。又氣候が一樣であるといふ利益も大きい。ニューイングランドの南東部に於て殊に然りである。工場は溫度や濕度を調節することが出来るが、濕潤な氣候は特に美麗な綿絲・綿布を造るに重大な原因となるべきもので、隨つてこの地方の發達は著しいものである。全米國總錘數の約三分の一はニューイングランドの南方に集中して、熟練職工は多くカナダにゐる佛蘭西人の子孫或はその他の歐洲人が大部分を占めてゐる。

2 中部大西洋諸州 フイラデルフィヤはニューイングランドと南部との中間にある綿工業の中心地で、兩者より稍小さい工場を有し、編物工場の方が織物工場より多いことが當地方の特徴である。茲では羊毛や生絲を用ひた製品も多いが、大部分は綿絲を原料とする。編物工場は織物工場よ

りも廣く分布し、ジャーマンタウンが編物工場の最古のものとして有名である。編物工場の發達の因子としては(1)ジャーマンタウンの様に歴史をもつて評判をとつてゐる事が必要であるし、(2)安い不熟練職工を多く要することである。

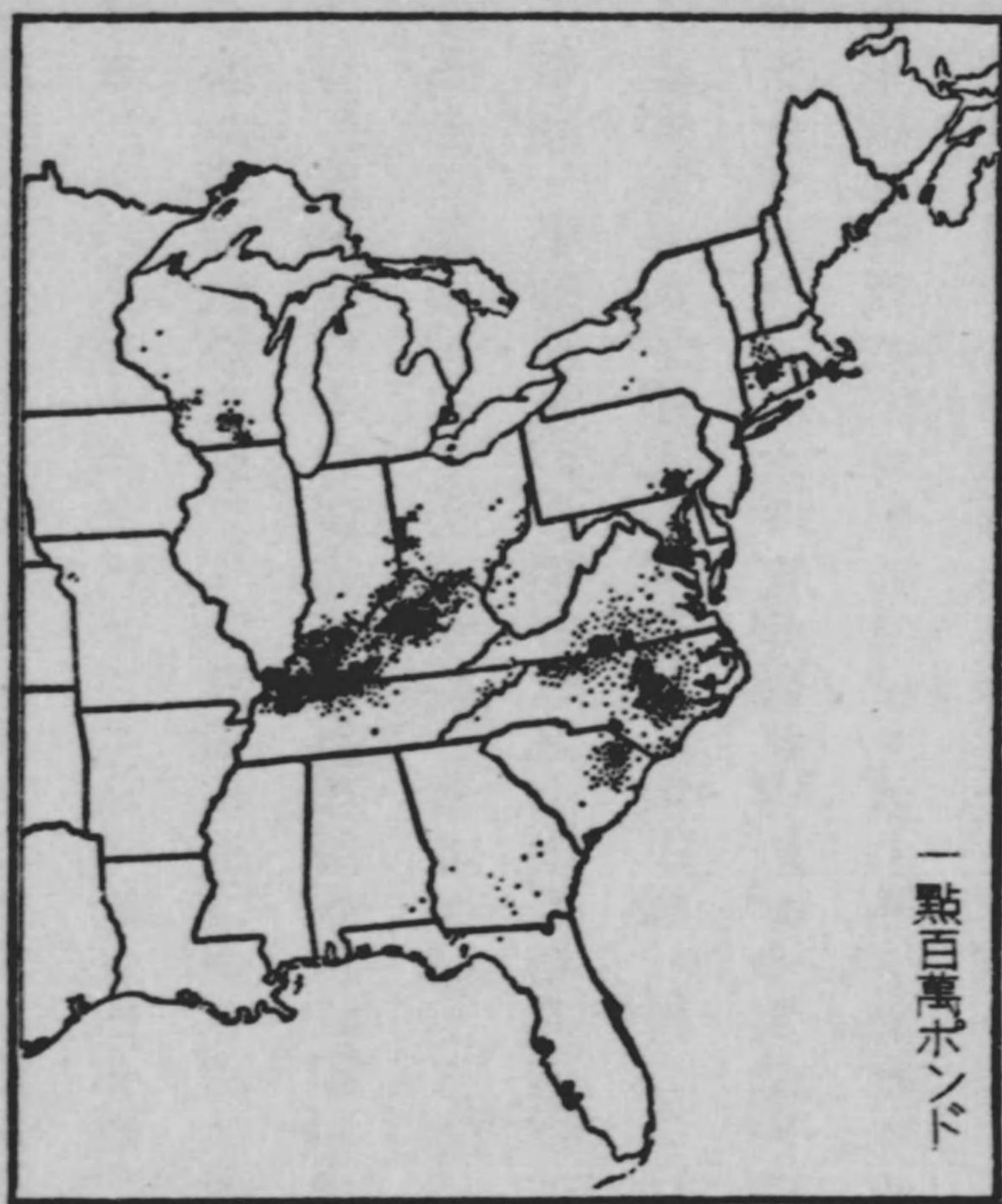
3 南部諸州の綿工業 近年急激に發達したのである。この發達の原因は(1)原料とすべき綿の供給地に近いこと、(2)安價な水力が瀑布線(第二八圖)に發達した爲山麓地帯では之が誘引となつたこと、但し今日は石炭も多く用ふる。(3)白人勞働が安く得らるゝことである。

漂白業 製造された綿糸は灰色で汚れてゐるから、綿布として市場に出すまでに之を美しくする必要がある。この工業には熟練勞働者及び清水が必要で、ボストンとフィラデルフィアとの間に集中してゐる。カラ・カフス・シャツ等の裝身品製造も亦熟練職工が必要である。紐育・フィラデルフィア・シカゴ等に盛で、紐育州のトロイ市はこの工業で有名である。この工業には綿布の外、リンネル・生絲も用ひられる。一八八〇年には世界總産額の一六%が米國で製造されたが、今日では二五%以上を占める。

米國の綿紡織は世界の四分の一にあたるが之に従事する勞働者の割合は世界の八分の一である。これはアメリカの工場では綿を多く要する手厚な綿布をつくることと、機械力に依ることが多い爲である。米國の製品は主にカナダ・キューバ・南米諸國・フィリピン・支那に出す。しかし又高價な

綿布をイギリス・スイス等の歐洲諸國から買ふ場合もある。

煙草 煙草はアメリカの原産で、アメリカ大陸が、ヨーロッパ人によつて發見された時既に土人間に使用してゐたのである。それを西班牙人が初めて歐洲に傳へたもので、喫煙習慣は英國人によつて初められ、他地方に傳播した様である。そして英國が煙草の大市場となり、バージニア州から多く供給され、一六一八年に二萬封度、一六九五年には二千萬封度の輸入を見るやうになつたのである。



第14圖 アメリカ合衆國の煙草分布

煙草栽培の分布を見るに、北はカナダから南はアルゼンチンに及び、東洋では支那からオーストラリヤまで栽培されてゐるが、場所によつて色々な煙草が作られる。ハバナ煙草・スマトラ煙草・マセドニヤ煙草・小亞細亞煙草・埃及煙草は世界的に有名なもので、土壤・氣候によつて各特殊の風味がある。世界の主産地はアメリカ合衆國が第一で、印度・ブラジル・日本の順である。煙草は肥沃な腐

植土によく出来るので、良い葉のできるか否かは氣候より寧ろ土質による位、土壤が關係するのである。

良い葉巻煙草を作つてゐる所はコネチカット・ジョルジャ・フロリダ等で土壤は幾分粘土混りである。米國で作られてゐる煙草の種類は十二以上もあり、その中 Cigar leaf が二〇パーセント以上を占めてゐる。

紙巻・嚙煙草・刻み煙草は之を大工場で機械によつて作るのであるが、葉巻は手で作るのである。而して最近小工場は次第に大工場に併合されて行く傾向があつて、目下大工場のあるのはフィラデルフィヤ・フロリダ半島に多い。今製造場の分布状態を見るに紙巻は北カロライナ地方に多く約半数を生産してウインストンサレムとダルハムとがその中心をなしてゐる。尙紐育・フィラデルフィヤ・リチモンド等にも盛である。刻み煙草・嚙煙草・嗅煙草等は主に煙草栽培地附近で製造されてゐる。是等の中心はセントルイス・ルイスビル・ウインストンサレム・ダルハムの諸市である。

葉煙草の四〇％は諸外國に輸出し、製造した各種の煙草は一九一六年以來輸出額増加し、紙巻は製品の三分の一を輸出し主として支那に送るのである。

### 第三項 畜産製造工業

世界第一位のものとして肉類及皮革の生産について述べることにする。

**肉類** 肉類の消費量によつて國民經濟の發達がわかる。肉類は割合高價な食品である。何となれば豚肉一ポンドを生産する爲には玉蜀黍五ポンドを消費し、牛肉一ポンドを生産する爲には玉蜀黍七ポンドを消費することゝなるからである。従つて肉類の生産は農地の有效な利用法ではない。しかし近代人には肉類が必要品となつてゐるのである。

肉類を供給する主な家畜は牛・羊・豚である。現在家畜となつてゐる牛はヨーロッパやアジアの森林や草原に生活してゐた野牛から得られたものと考へられてゐる。又家畜羊の祖先は山地に野生してゐたもので、水や食料の少い南ヨーロッパや中央アジアが其の起原地のやうである。又家畜豚は森林に住んだ野豚の後裔である。

近世、交通が盛になるまでは肉類の生産や商業は地方的のものであつた。肉類は腐敗しやすいから消費市場に近いことが肝要である。故に各國は何れも概ね自給を必要とした。人口密な地方では田舎は自給し、その餘分を附近の都市に供給した。各都市には夫々屠殺場を持つてゐた。人口粗な地方では肉類は値なく、只皮や脂を得る爲に屠殺した(例へば南米アルゼンチンの如く)。第十九世紀になつて後汽車・汽船の利用が起り、殊に冷蔵設備を船車に備へるやうになつてから、世界の肉類の商業關係は一變した。このことは殊に北アメリカに顯著である。

北アメリカに於て牛の飼用は二地方に始まつた。佛・英種の牛はカナダのケベック州から合衆國のジョルジャ州までの大西洋岸に入つた。この牛は駄用・乳用として用ひられ、又地方的に肉を供給した。同じ頃イスパニヤ種の牛がメキシコから合衆國のテキサス州に入つた。多くは肉用としてではなくて、皮と脂のために屠殺された。第十九世紀には植民はアブラチャ山脈の東からオハイオ河谷に入り、この新開の穀物産地に牛肉が多く生産された。しかし市場は地方的で小さいものであつた。一八〇五年に始めて牛は山脈を越えて東の方バルチモアの市場に出された。それからニューヨーク・フィラデルフィヤ・バルチモアの諸市は安値な牛肉の供給を得た。西方の牛肉供給地は次第に擴がつた。これが一八五〇年頃まで續いたが、鐵道が出來てこれが止んだ。イリノイス州やアイオワ州の安値な牛は永い日數の間かゝつて歩かせて東の市場へつれて行かなくてもよいことゝなつた。鐵道が出來た爲にオハイオ州と五大湖との間の植民は急激に進歩した。又大都市の發達も急激であつた。この地方の農民は小麥生産をやることになつたので、東方の市場へ出る牛肉は更に西方から來ることになつた。このときテキサス州の牧畜業者は東方の市場に出る機會を得た。テキサスから初はシカゴに牛を送つたが、距離が遠いのであまり有利ではなかつた。しかし鐵道の發達はこの不利益をなくした。シカゴではテキサス牛をその地方用の牛肉とした外若干は鹽漬にし又は干して東方に送つたが、多くは生牛のまゝ、東方に送つた。一八八〇年に牧畜はカナダ境に達した。

アメリカに於ける羊肉・豚肉生産の初期の歴史は土地の占有と密接に關係する。豚と羊とは植民の各農園には必ず若干飼はれたものである。羊ははじめは羊毛をとるのが主目的であつたが、又肉をも供給する。第十九世紀の初アメリカでは上等の羊毛の需要が起つたので、一世紀以上も飼つて來た毛の悪いイギリス種の羊をやめて次第にメリノ種其他を飼ふやうになつた。この産業はニューヨーク・ペンシルバニア州からオハイオ河植民地に擴がり、西方ミシシッピ河畔に及んだ。羊毛は河湖の水運によつて東方に送られた。良質の毛をもつ羊の肉は品質劣る故只地方的に賣られるだけである。東方では中部の安値な羊毛と競争することが不利なので、主として肉を生産することゝなつた。それでイギリス種の肉をとる羊を飼ふことゝなつて、羊毛は第二次的のものとなつた。しかし東方で羊肉生活をやつたのも只暫くの間だけであつた。鐵道が西方に擴がつた爲に牛肉生産に大變化を與へたと同様に、牧羊にも大變化が起つた。鐵道開通前には羊毛は西方の高原地方の乾燥地にはあまり多く生産されなかつたが、鐵道の開通と共に次第に増加して、一八七一年には西方には羊七百萬頭であつたものが、一八八五年にはその四倍になつた。これがオハイオ州やイリノイス州の羊毛と競争して次第に後者を壓倒するやうになつて來た。

合衆國に於ける豚の飼用も牛と同様に、農民がオハイオ河谷の玉蜀黍産地を占有した時から起つ

た。牛と違つて豚は東方の市場へは送らないが、豚肉は燻製等として早くからオハイオ地方の主な移出品であつた。シンシナチ市は豚肉製造の大中心になつた。そして豚肉は水運でオハイオ河やミシシッピ河を下つて市場に運ばれ、豚の飼用は次第に西方に廣がつた。一八七〇年以前にシカゴ・セントルイス其他中部の西方の諸市に豚肉製造所が出来た。生豚は運搬に傷害を受けることは牛羊よりは大であるが、豚肉は鹽藏にし、又はハム・ベーコン・脂にすると牛肉や羊肉よりは販賣が容易である。

鐵道が次第に發達してから、中部では豚肉製造が盛で、又牛羊肉の生産も多くなつた。しかし東方の大市場へは遠近から集る牛羊を市場附近で屠殺して供給してゐた。一八六九年にニューヨーク市には三二萬五千頭の牛が集つた。それは北はカナダから南はフロリダ・テキサス、西はネブラスカ州などから來たものもあるが、多くは伊利ノイス・オハイオ・テキサス・ニューヨーク等の諸州から來た。同じ年シカゴには四十萬頭集り、その四分の一は市で屠殺され、四分の三は東方の市場に送られた。

家畜の屠殺や肉の生産は天候に影響されるもので、主に冬に生産されるのである。然し冷蔵設備が出来て肉の生産が一變した。その最も著しいことは肉の生産地が東方の消費地から西方の牧畜地方に移つたことである。一體家畜から肉は生畜の重さの五割しか得られないものであるし、生畜は

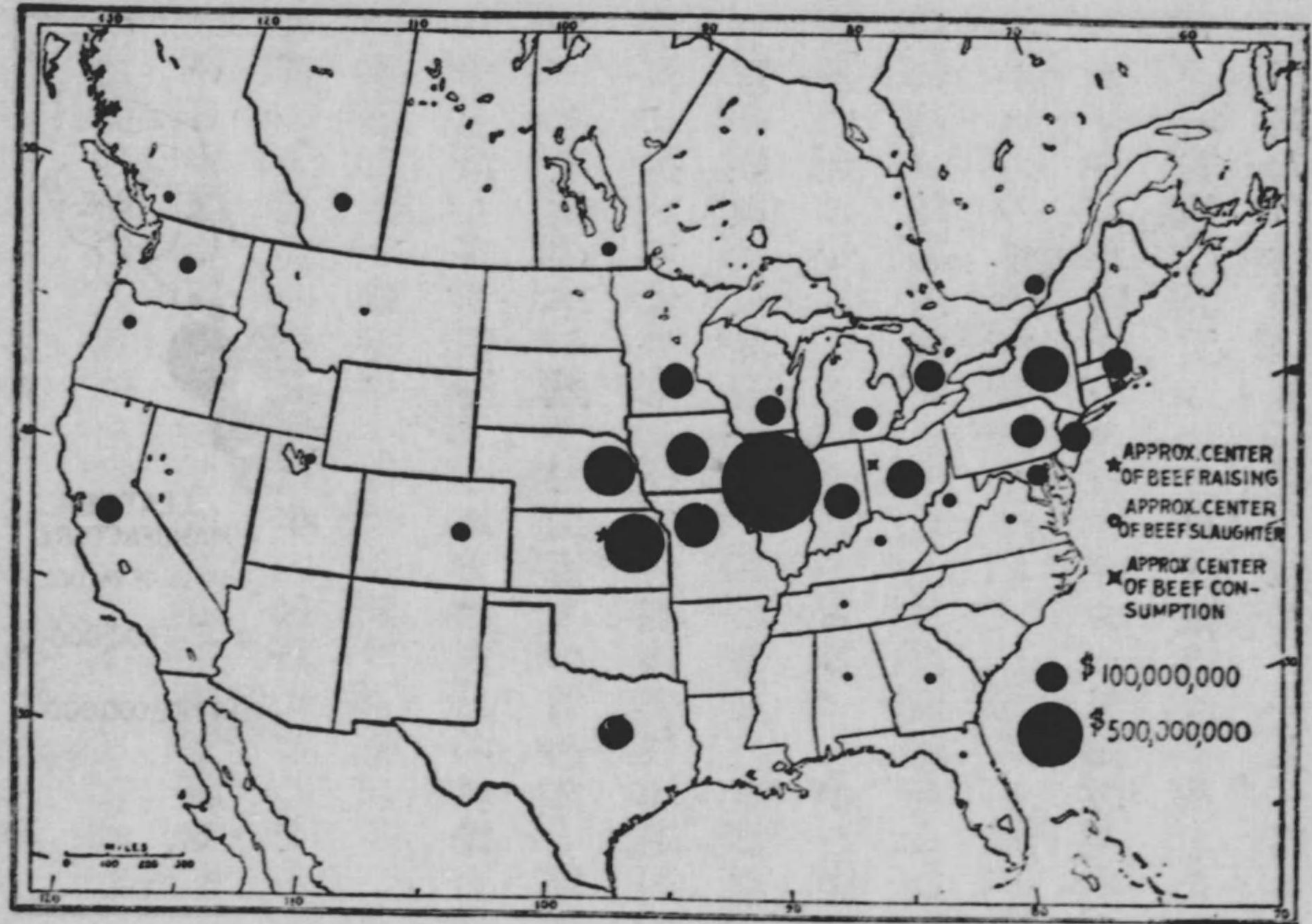
運搬中損傷もするから、生畜よりも肉で送る方が遙かに運送上有利である。冷蔵設備は又屠殺の集中及肉生産の大規模を結果すること、なつた。

今日牛肉生産の最盛な地方は玉蜀黍帯である。玉蜀黍及ウマゴヤシは牛の飼料に適する。玉蜀黍帯産の玉蜀黍の三五％は牛の飼料になつてゐる。尙、この國の牛の頭数はインド・ロシヤについて世界第三位である。

羊を最も多く飼養する地方は西方の乾燥高地であつて、冷蔵設備によつて羊肉市場が擴大するので、羊毛用の羊が減つて肉用羊の方が多く飼はれることになつた。但この國の緬羊の頭数はロシヤ・濠洲に次いで世界第三位で、國內消費羊毛の約半額を供給するのみである。

豚の頭数は世界第一で、其の分布は玉蜀黍の分布と大體一致する。それは玉蜀黍は豚から脂をとる爲に太らせるによいからである。しかし脂をとることは近頃は少くなつた。何となれば、安値な植物油が熱帯地方から世界市場に供給せられて來る今日であるから、アメリカでも豚は主にハム・ベーコンの製造に用ひられる。

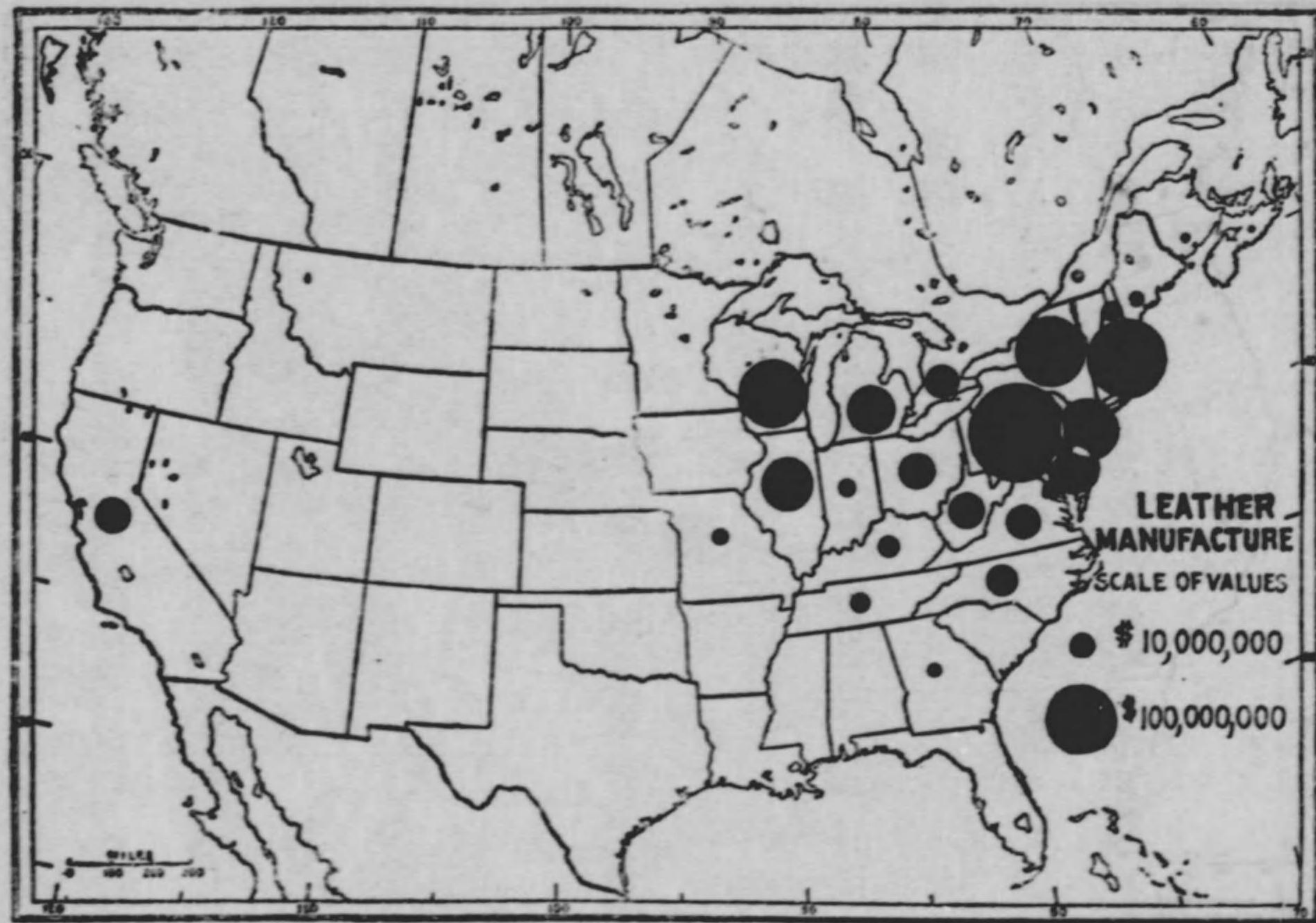
シカゴ市及附近が今日アメリカ製肉の大中心である。これらの製品は國內に消費される外、ヨーロッパ其他にも送られる。冷蔵肉は一八七六年初めて輸出され、一九〇一年迄増した。その後國內の工業人口増加の爲、輸出減じ、一九一四年には輸入肉の方が増した。世界戦役中は一時輸出の方



第15圖 アメリカ合衆國及カナダの製肉業分布

が増したが、戦後は又減少したのである。  
**皮革工業** 合衆國は世界最大の皮革製造者であり消費者である。

革製造に用ひらる、材料は(1)皮、(2)タンニン(3)革に光澤・色・柔軟性を與へる種々の物質である。是等の材料はもとアメリカに豊富であつた。従つて小さい革製造工場は到る所にあつて、地方的に靴屋や馬具製造者にその製品を供給した。然るに年々タンニンを含む木材は採られたので減少するし、一方には皮の生産が地方的には消費し切れぬ程増加するし、又交通の發達は是等の皮を安値に大中心に集め得る様になつた。それで小さい革製造工場は倒れて大工場が榮えることゝなつた。數字を挙げると、一八七〇年には革製造工場數七五六九、生産額一五七



第16圖 アメリカ合衆國及カナダの皮革工業分布

百萬ドルであつたが、一九二〇年には六一九工場で九二九百萬ドルを生産する様になつた。フィラデルフィヤがこの工業の大中心である。革製造工場に用ふる皮の半分(價額にして)は輸入に待つ。牛皮は主に南米からポストン・ニューヨーク・フィラデルフィヤ等に入つて来る。それで革製造工場も是等の諸港に近い所に多いのである。

合衆國は世界第一の靴製造國である。革は最も多く靴の製造に用ふるのである。一八五〇年頃まで靴は手工で小店で作られたのであるが、一八八五年に靴製造機械が出来てから歐洲の市場へも靴を送り出すことゝなつた。合衆國の靴年産額三億足、輸出はその二%で、主にキューバメキシコ・カナダに出す。

一九二〇年に合衆國に一四五〇の製靴工場がある。其の四分の三はメイン州南部とフィラデルフィヤ市間の地方に存在する。ボストン・プロクトン・リン・ハービル(マサチューセツ州)がその中心である。中部地方にも製靴は相當に發達した。セントルイスはその大中心である。

革は靴の外、馬具製造に用ひられる。馬具製造は割合小工業で賣品は田舎向である。又革の手袋製造は靴産額の四%位である。しかし手袋製造は割合大工場である。工場の六〇%はニューヨーク州にあつて、グロバースビル及ジョンストン附近に最も盛である。

#### 第四項 林業及林産製造工業

アメリカ合衆國の林産中、世界第一位のものは木材で、林産工業では紙である。

**林業** 原始民族の間では木材其の他の林産物は生産上缺くべからざるものであるが、世界の商工業國は木材の代用品を多く作る。しかし之がため木材の價值・消費が減じた様にも考へられるが決してそんなことはなく、原始民族で考へて居ない新しい方面に利用される方法を案出してゐる。アメリカ合衆國では有名な原生林が大部荒廢したので最近賢明な使用や保存法が國民の間に考慮されるやうになつて來た。

**北アメリカの原生林** は南の方に不平等な三突出をもつ大陸北部に擴がつてゐる一つの帯である。



第17圖 北アメリカの原生林

森林帯の北境はラブラドルの中部からハドソン灣の岸に行き、その西方では北方マッケンジー河の口まで行つて、アラスカを横ぎる。この線の北方は暖期短かく、土地に含まれる濕氣がいつも凍る爲に有用樹木は成長せず所謂ツンドラ(Tundra)帯をなす。北方森林帯(Northern Forest Belt)の中で最も價值あるは五大湖の北方である。南方への三突出の西端のものは(1)太平洋海岸森林帯(Pacific Coast Forest)で、其の東方乾燥高地を隔て、(2)ロッキーマountain山脈森林帯(Rocky Mountain Forest)となり、次に大平原の草地を隔て、東



方の大森林帯となるのである。この第三の東方大森林帯は北はスベリオル湖からセントローレンス河に至る線より、南はメキシコ灣に至る間に廣がり、更に三部に分けることが出来る。第一は北方混合森林帯 (Mixed Northern Forest Belt) で樹木は松・樅・樺等が主なるもの、第二は中央堅木森林帯 (Central Hardwood Forest) でカシ・モミヂ・クルミ等の樹木があり、第三は南方混合森林帯 (Southern Mixed Forest) で各種の樹木が混合してゐるが松が一般に多い。

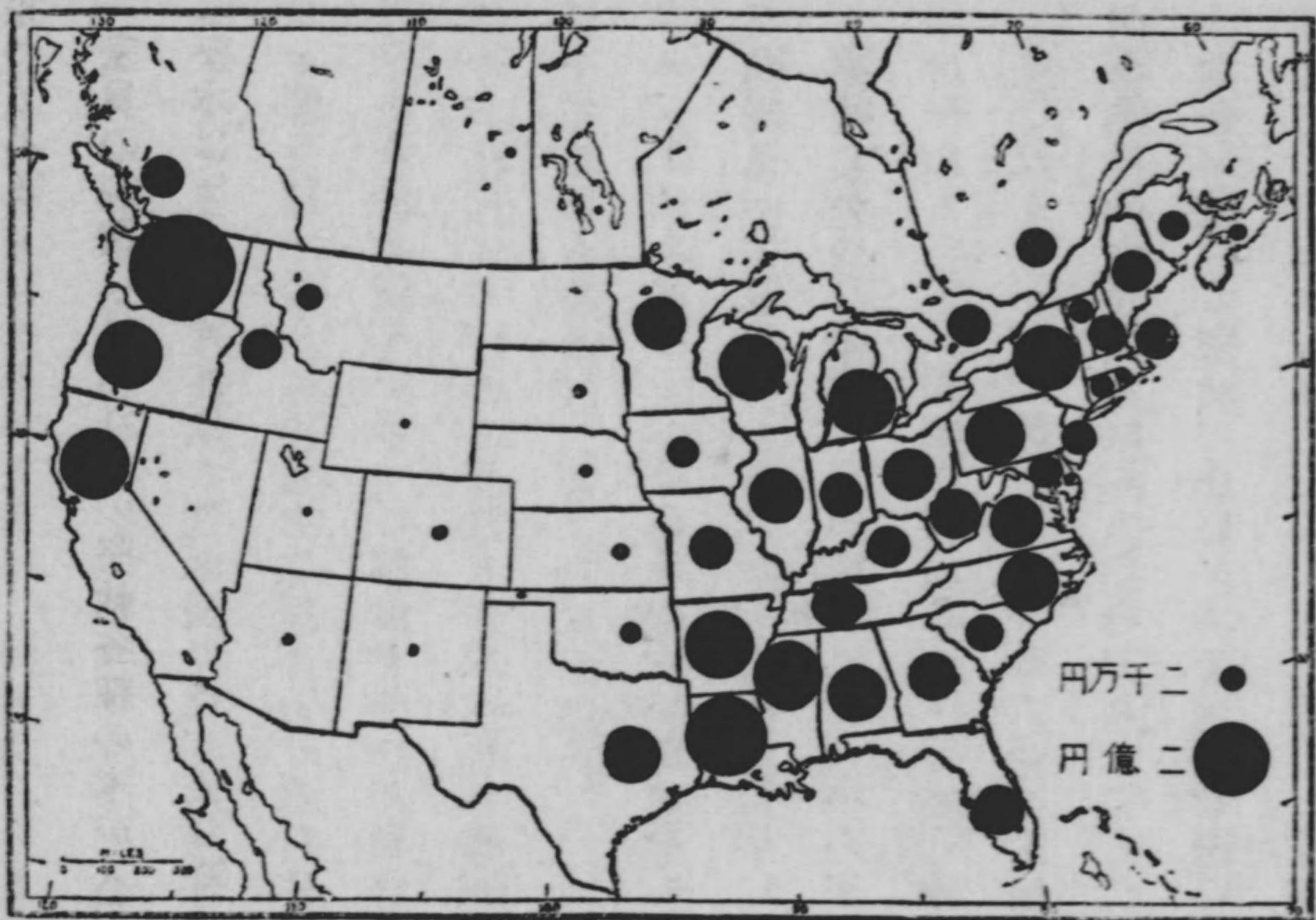
西方も山地の森林は殆ど全部針葉樹で、その中白松 (White Pine) が最もよい。雨量の多い北部太平洋岸を除いてはこの地方の森林はカリフォルニア州の北部・オレゴン州の西部・ワシントン州ブリチッシュコロンビヤ州にあつて、近頃は世界でも有名な価値ある森林である。

アメリカ合衆國にはもと森林面積八二二百万エーカーあつて、アメリカ合衆國全面積の四割に相當してゐたが、これ等の原生林の破壊は急速に進行して住民は森林を農地にかへた。又林業の競争盛であり、木材が多くて安價なため濫伐行はれ最も良い木材だけを賣出す。かくして現在原生林は一六%だけ残つてゐるが、そこは大抵交通不便な所である。伐採された半分の土地は農業にも適せず又植林もしないで捨て、ある。今日濫伐される率は新しい樹木の生成率の約四倍に相當する有様である。故に最近森林保護の問題が起つてゐるが容易に解決されさうもない。しかし問題の中心は公有か私有かの問題であるが、何れにも一得一失あるが爲にかく行惱んでゐるのである。最近政府

は永久性森林地の所有を考へ、一八九一年から國有を實行し今日では森林の約五分の一が國有となつてゐる。

アメリカ合衆國各地の伐木法は地理的條件に左右さるゝこと多く、五大湖地方・ニューイングランド等では主に冬に木材を伐採する。之は氷雪の爲に河岸までの運搬が容易であるからである。河岸には木材を積んでおいて解雪を待つて製材工場に流送するのである。處が西部では雪がないから他の方法による。即ち管流しか或は蒸氣機關によつて運搬されてゐる。南方は特設の運河によつて流下する所もある。

ニューイングランドは伐木の古い歴史をもつてゐる所で、これ等の森林は造船業の基礎をなし、又歐羅巴への輸出品であつた。一八五〇年にはニューヨーク州が伐木製材の最盛地であつたが、伐木が甚しかつたので、十年後にはその中心がペンシルバニア州に移つた。しかし北方の白松はよい木材であるといふ評判を持続しつゝ、伐木の中心がミシガン州・ウィスコンシン州・ミネソタ州といふ風にだん／＼西に移つた。今日は是等諸州の松林は元の三%以下しか残つてゐない。最近二十年間建築材の主要産地は南方の松である。そこには今日はもはや元の二〇%が残つてゐるのみで伐木の割合が減つて來た。今日アメリカ合衆國の木材の半分は太平洋岸の三州にある。その木材は五大湖地方の市場へも多く出で、東部地方にも多く送られる。



第18圖 アメリカ合衆國及カナダの木材の生産分布

北米の木材供給地は北及び東から南及び西に動いたが、主な市場は依然として北と東に存する。そこで鐵道輸送上の運賃が次第に高くなり従つて木材の價も高まつて來たのである。

**木材工業** 製材がその主なものである。丸太は製材すると相當木屑が出るから、木材産地附近で製材が行はれる。その製材工場は小規模である。木材の半分以上は約八百の製材所で製材される。製材所の大多數は太平洋沿岸とメキシコ灣沿岸の諸州にある。製材の三分の一はそのまま用ひられるが、三分の二は器物をつくる。後者のために又工場 (Planing mills) があつて器物にするために、豫め種々な形に製板する。之等の生産物は大きくて破れ易いし、又製造に勞力がかかるから人口の多い地方にこの工場が

集つてゐる。

**家具の製造**には内外産の堅軟各種の木が入用である。アメリカ合衆國でこの工業に用ひられる主な堅木はカシ・モミヂ・カバである。主な輸入木はマホガニーである。又軟木は道具の内部や運送箱を作る爲に多く用ひられる。上述の條件の外なほ市場の存在と勞力の安値の爲に、この工業は中央堅木森林帯の北の部分に盛んである。アメリカ産の家具の三分の二は、ニューヨーク・イリノイス・ミシガン・ペンシルバニア・インデヤナ・ウイスコンシンの六州で作られる。この工業の發達は木材を他方から仰がねばならぬことになつた。ミシガン州のグランドラピズ (Grand Rapids) は大きな家具工業の中心であるが、他州及外國から木材の八分の五を輸入する必要があるやうになつた。

**車輛及農具の製造**は、主にオハイオ河の北方・ミシシッピ河の東方・ニューイングランドの西方に行はれる。家具製造と同じ原因がこの工業の所在にも影響した。堅木の今日の限られた供給に對し、この工業相互間及び家具工業との間には可なりの競争がある。この工業がこの位置を占める他の原因は鐵石炭の安價なことである。

大戰役前の合衆國の木材及木製品の輸出は伐木の八・五％で輸入は輸出量の三分の一位であつた。一九一七年以後輸入大となり、一九二〇年には輸出量に二倍した。輸入品には次の三種がある。



第19圖 アメリカ合衆國及カナダのバルブ工場分布

1 家具用木材——マホガニー等（熱帯から）  
 2 製材用木材——主に加奈陀から  
 3 バルブ材

米材の外國市場は廣い。多く輸出されるのは建築用の軟木である。しかし堅木も相當に輸出される。

紙はもと草・綿・藁其の他の植物纖維から一枚づつ造つたのである。高價なのはボロ其の他割合高價な原料で作られた。安い印刷紙等は木材から作られる。機械力で現今は一分間に一千尺の新聞用紙が出来る。バルブを造る木は主にモミ・マツ・ポプラ等である。バルブの製造は先づ機械で碎いて、その後は亞硫酸液や曹達液を用ひて化學的處理をする。このために動力が必要であるから、バルブ工場は原料を産する森林

に近く、清水の供給多く、動力の安い所に立地する事になる。この工場が太平洋岸及南方に少い主因は紙市場に遠い爲である。東の方は近頃まではバルブ用材の不足を感じなかつたが、最近十年間の市價の騰貴は太平洋岸のバルブ製造を促がす事になつた。亦此の時期に亞硫酸處理法の完成が南方産の松をバルブにすることに成功した。南方では溫和な氣候のもとに、松が二十年以下でバルブ材になるものが成長するので資源の永久性の可能が見えだした。

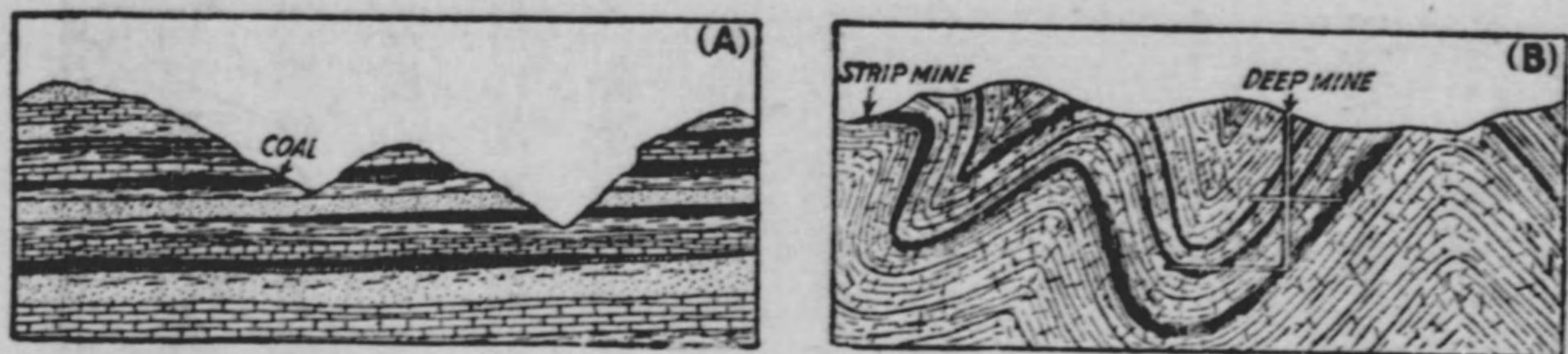
合衆國のバルブ材が次第に減じたので、バルブ材・バルブ・紙がカナダから大分入つて来る。近年は加奈陀産のバルブ材の約三分の一が年々合衆國に入る。また加奈陀産の半分以上輸出されるが、その大部分は合衆國に入る。尚ほ毎年カナダから新聞用紙五〇萬噸以上も入つて来る。

合衆國から輸出する紙は紙製品即ち袋・板紙・箱・文房具・印刷物等として出るのが特徴である。

### 第五項 鑛業及重工業

アメリカ合衆國の鑛産中、世界第一位のものは石炭・石油・鐵・銅・鉛・亞鉛等で、是等は此の國の工業及交通に豊富なる動力を供給し、重工業の資源を提供するのである。又、世界第二位の鑛産は金・銀等である。

石炭 合衆國は地質の關係上、良質の無烟炭から惡質の褐炭に至るまで各種の石炭を埋藏し、そ



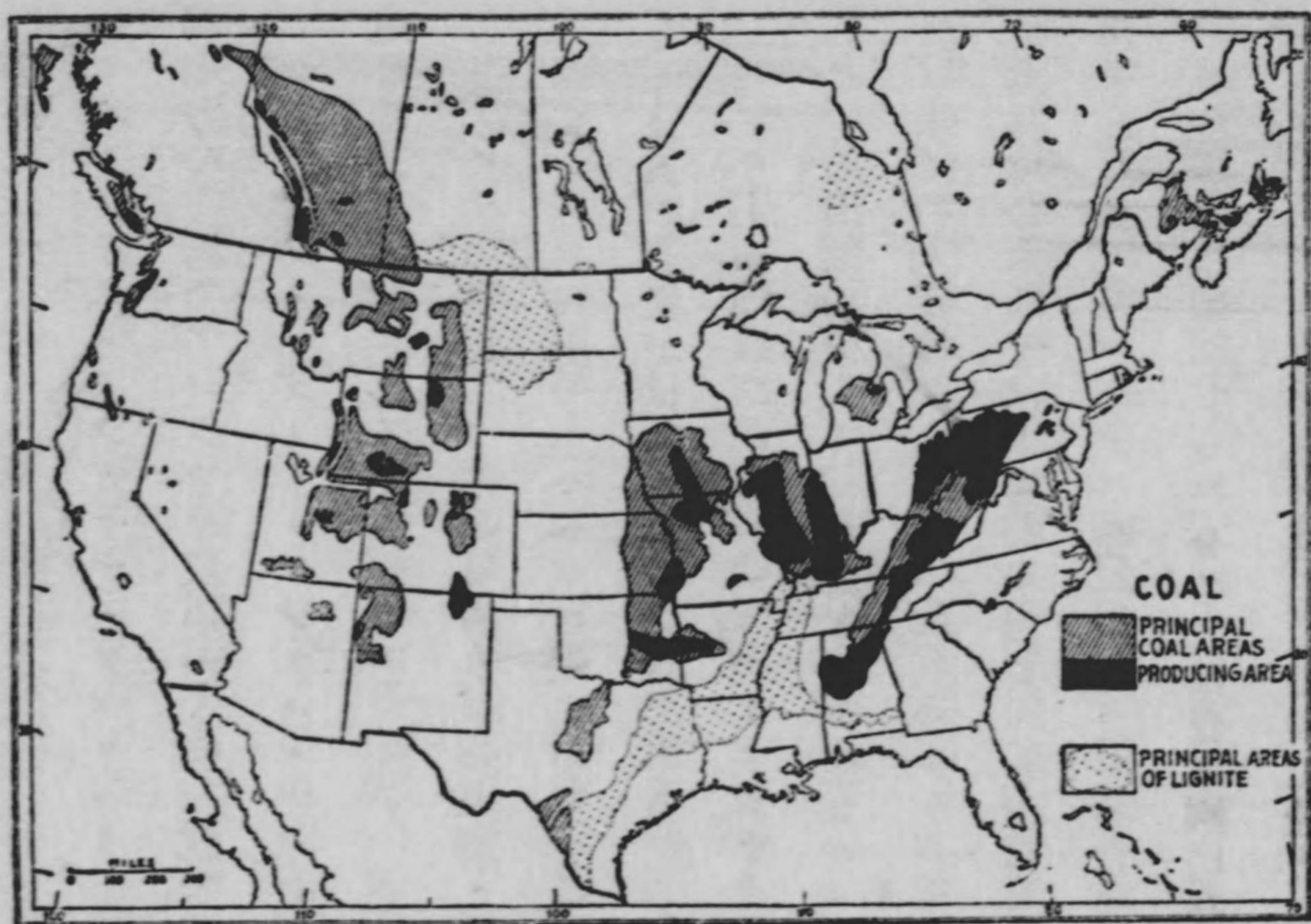
第20圖 炭層の断面

(A) アブラチヤ瀝青炭田 (B) ペンシルバニヤ無煙炭田

の産額は世界第一である。鐵の産出も後に述ぶる如く世界第一である。この恵まれたる状態が合衆國をして大工業國たらしめた主因である。

無煙炭 (Anthracite Coal) の産出は北米の石炭産出の約六分の一に當り、その主産地はペンシルバニヤ州の北東部の非常に褶曲せる岩層中に保存されてゐるものである。炭田地の面積約四八〇方哩。岩層の褶曲が著しいので、深坑をつくることも必要で、多くの勞費を要する。この石炭は主に北東の諸州で消費され、西方や大湖地方に送られるのは僅である。この無煙炭の殘存埋藏量は僅少である。瀝青炭 (Bituminous Coal) の埋藏量は多額である。北米の石炭埋藏量は約二二五〇〇億トンと推算され、その九割は合衆國內に存在する。この量は今日の世界石炭消費量と同額を年々消費するとすれば一千餘消費し得ることとなる。アジヤ以外の各大陸では北アメリカの石炭埋藏量の半額以下の埋藏量を有するのみである。

尚、北アメリカには褐炭 (Lignite) の埋藏量約二七〇〇〇億トン、その中三分の二は合衆國に存在する。これは瀝青炭よりも火力低く、空氣中では直ぐ悪くなるので遠方に送ることが出来ないから只産出地附近で消費する。



第21圖 アメリカ合衆國及カナダの石炭分布

北米の石炭産地は第二一圖に示す如くである。この中、アブラチヤ炭田が最も大切な所である。それは北米の最大の産地であること、石炭の良質なること、による。この炭田はペンシルバニヤ州北部からアラバマ州まで廣がり、主としてアレガニー・カンバーランドの解析高原中に賦存する。その位置が便利な上に採掘も容易である。石炭層はほぼ水平な地層中に水平に存在して居つて、河谷がこの地層を解析して流れてゐる爲、石炭の露頭は谷の兩側に現れてゐるのである(第二〇圖)。又この良質の石炭はコークスを造るに適し、それが製鐵業の發達に貢獻することとなる。

アブラチヤ炭田の西方、合衆國の中央大平原中には四ヶ所の大炭田がある。之をその重要度

の順序に示すと、

1 イリノイス・インヂャナ・ケンタッキー三州に互る炭田——四ヶ所中最良の瀝青炭を出し、大湖地方の市場でアバラチャ炭田のものと競争する。

2 アイオワ・ミズリー・カンサス・オクラホマ四州に互る炭田——品質が劣るので主に附近の鐵道及地方で消費される。

3 テキサス炭田——亦品質劣り、鐵道用・地方用となる。

4 ミシガン炭田——ミシガン州にある。この炭田の産出は少い。それはこの地方では他の炭田からも良質の石炭が供給されるからである。

ロツキー山地及び西海岸のビューゼットサウンド地方やアラスカにも瀝青炭の産地がある。しかしその産出額は少くて、とても東部のもの、比ではない。しかし地方的には重要性をもつ。何となれば東部の大産地から遠隔の地にあるからである。

石炭は合衆國では主に動力用として消費される。之に次いで家庭の燃料及熱を要する工業に使用せられる。又コークス及燈用ガス製造の原料となる。アバラチャ炭田地方に於ては製鐵用のコークスが多量に製出せられ、コークス製造の副産物も有價值なものである。通常石炭一噸(二千封度)からコークス一四二五封度、ガス一〇五〇〇立方呎、タール七・一ガロン、油二・四ガロン、硫酸



第22圖 世界の石炭産額

アンモニャ一九封度を製出することが出来る。タールと硫酸アンモニャとは化學工業の原料として大切なものである。古くはコークス製造はこれらの副産物をほとんど捨て、顧みなかつたが、現今も多くは昔のまゝにやつてゐる。ペンシルバニヤ州のコンネルスビルはコークス製造の中心であるが、この製造所あるためピツバーク地方に製鐵業が盛である一大原因となつてゐる。

アメリカには石炭が豊富な上に採掘も容易であるために、その採掘方法及び消費方法がまこと大ザツパである。合衆國の石炭採掘量は最近四十年間に六倍に上り年五億餘萬トンに達し、世界全産出額の約四割五分に當り、世界第二第三の石炭産出國英獨の産出額の合計に匹敵する。合衆國の鐵道貨物噸數の三分の一以上は石炭が占める。その採掘方法を見ると平均約三分の一位を地中に残して新しい方面を採掘して行くといふ風なやり方で將來の爲に患うべきことである。合衆國は世界第一の石炭産地であるが其の輸出量は世界第二のイギリスよりも少い。この原因を考へるに、合衆國は年々大輸出超過國であるから多くの船に満載して出て行つて空船で歸らねばならぬことも屢々である。仍て石炭の様な大量のものを輸出することは船の運賃の關係上不利であるからである。現今合衆國の輸出石炭の約半額は、アバラチャ炭田からカナダのオンタ

リオ州の石炭を産しない工業地へ鐵道と湖運によつて運ばれるのである。

石油 一八五〇年以後石油が次第に重視されるやうになつて、現今は世界の石油産地領有闘争、所謂石油戦が列強殊に英米の間に行はれてゐる状態である。

石油の重要な點は實質的であること、取扱ひの容易であること、容易に動力が得られること、原油から各種の有効物質のとれること等である。燈用とされる外、自動車・飛行機・汽車・汽船に用ひられ、又機械の摩擦をふせぐ塗料としても用ゐられるし、蠟燭にもなり、残滓のピッチは土木用となるのである。

合衆國は世界第一の石油産地で世界總産額の約七割を出す。しかし地下現存量の三分の二は既に採取され今日の埋藏量は世界埋藏量の約六分の一と計算せられてゐる。

合衆國に於ける石油の分布は第二四圖に示す如く約七地方に存在する。

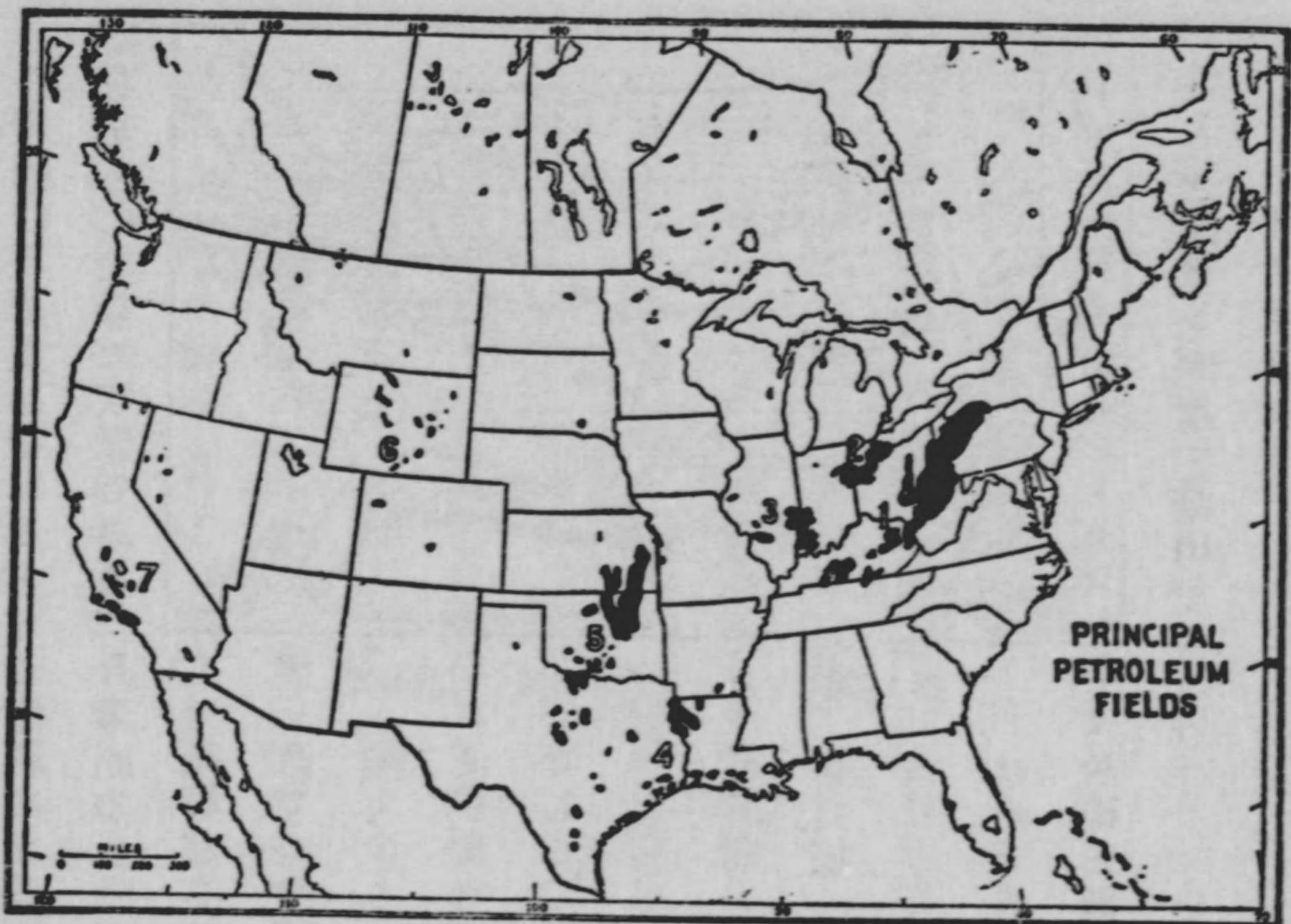
1 アバラチャ油田——アバラチャ炭田と同じ地方にあつて産出量第一である。

2 リマ・インチャナ油田

3 イリノイ油田



第23圖 世界の石油産額



第24圖 アメリカ合衆國の油田分布

4 灣岸油田

5 内陸油田

6 ロッキー油田

7 カリフォルニア油田——産出量第二位

原油の大部分は精製される。精油所は約四百に上る。その大多数は日々の生産量千乃至一萬バレルの小工場が多い。是等は原油産地にあるものが多いが、大規模精油所は鐵管輸送を行ひ易い爲、大消費地や輸出港の附近に多い。前記の原油産地から多くの輸送管が、是等の大工場所在地、ニューヨーク・フィラデルフィア・シカゴ・サンフランシスコ・メキシコ灣岸の地方等に送られて日々多量の精製を見るのである。最大製油所では一日に一八萬バレルを製出する所もある。

合衆國の石油貿易をみると、合衆國は世界石油産額の三分の二の巨額を生産するが、尙本國の需要を充すに足らぬ状態である。合衆國の自動車・自動自転車数は世界の八五%を占めてゐるので、

是等及び其他に於てする石油の消費量が亦世界第一である。それで合衆國石油消費量の五分の一に當る石油をメキシコ等から輸入する。合衆國の石油の輸出は主に重油と燈油で、輸出價額は一九三〇年には一一億圓に及び世界各地に配布されてゐるのである(第五圖)。

天然瓦斯 (Natural gas) は石油産地及びその附近に噴出し、噴出地方では家庭用・工業用となつてゐる。商品としては其の取引額は合衆國の無煙炭の産出價額とほぼ同量である。商品としての天然瓦斯の主な産地はオハイオ河谷の上流及びオクラホマ州である。



第25圖 アメリカ合衆國の石油導管

油母頁岩 (Oil shale) は數十年後の石油缺乏の際の代用品と

して合衆國でも問題となつてゐるのは、丁度撫順産の油母頁岩から石油を得つゝある我が國の場合と同一である。合衆國では油母頁岩はロッキーマウンテン山地に發見されてゐる。この頁岩から石油を抽出す

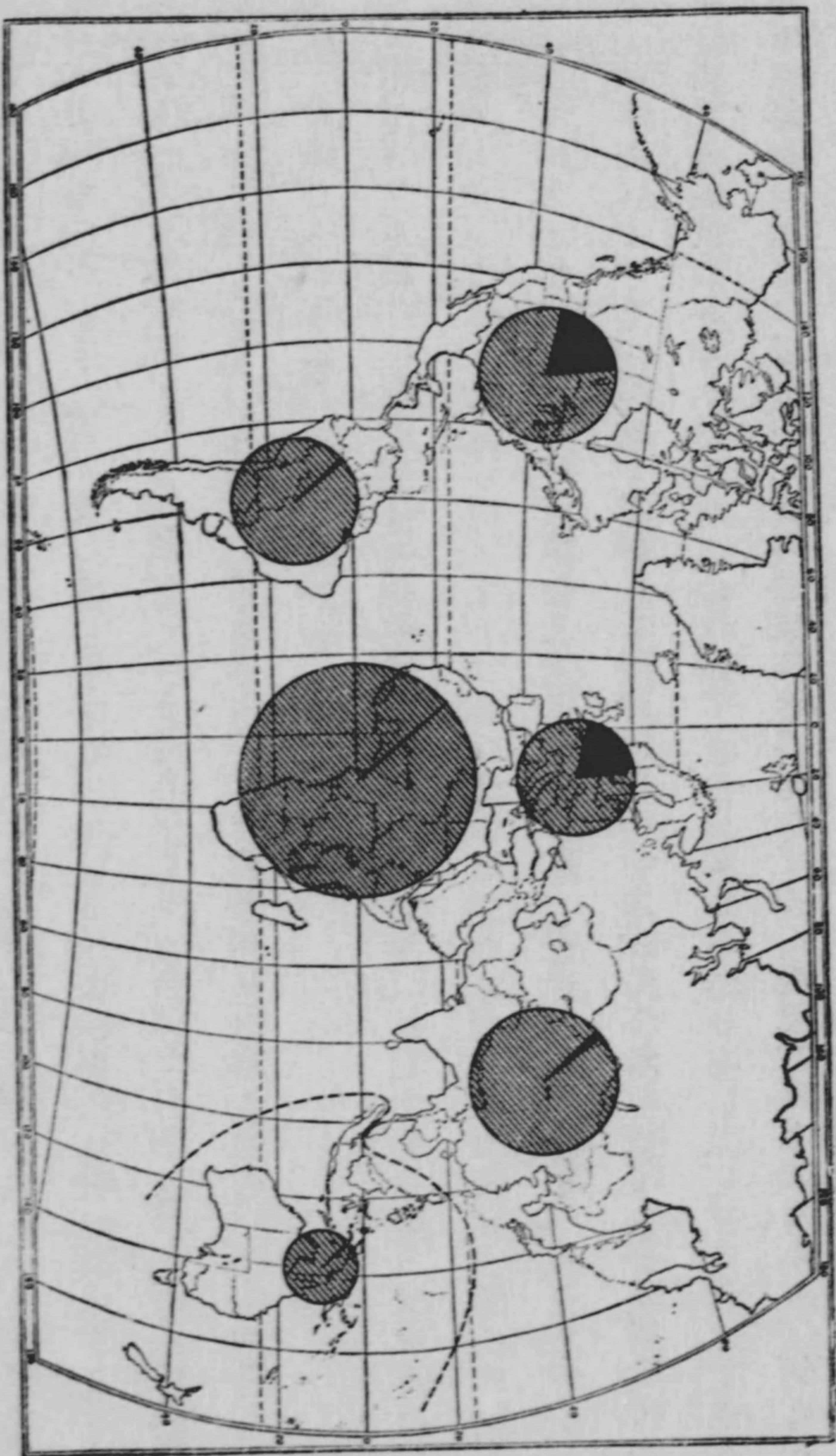
ることは高價で採算がとれないとされてゐたが、撫順では比較的安價な方法を研究して實行しつゝある。尙歐洲でも試行中であるから合衆國のこの含油頁岩は相當の價値を有するものといはなければならぬ。蓋しこれは將來に備へられるもので、愈抽出するとなれば、その石油含有量は現在のアメリカの石油産出額よりも多い見込である。

附、水力電氣 石炭・石油の二大動力に就いて述べたから序に茲に動力として、やはり世界第一の此の國の水力利用について一言する。

水力は現在も一大天然資源であるが將來とても然りである。石炭や石油と異り、これは無限に盡きざるものである。そして幸にも利用し得る水力の世界的分布は石炭・石油の如く局部的でなくて都合よく廣く分布してゐる(第二六圖)

水力の發電用となる爲には次の如き地理的條件に制扼される。

- 1 雨量の豊富なること。
  - 2 河川による水力が年中同一量の供給あること これは一年中絶えず雨量のある場合か、湖沼又は人工の水溜によつて、水量を調節して年中河川に一定量の水量を流下し得る場合である。
  - 3 河床に相當の落差あること。
- ナイヤガラ瀑布の如きは以上の地理的三條件を具備してゐる理想的のものである。何となれば、



第26圖 世界の水力分布(大陸別)  
 圖の大きさは水力資源量に比例し、黒色部は現在の利用水力資源量を示す

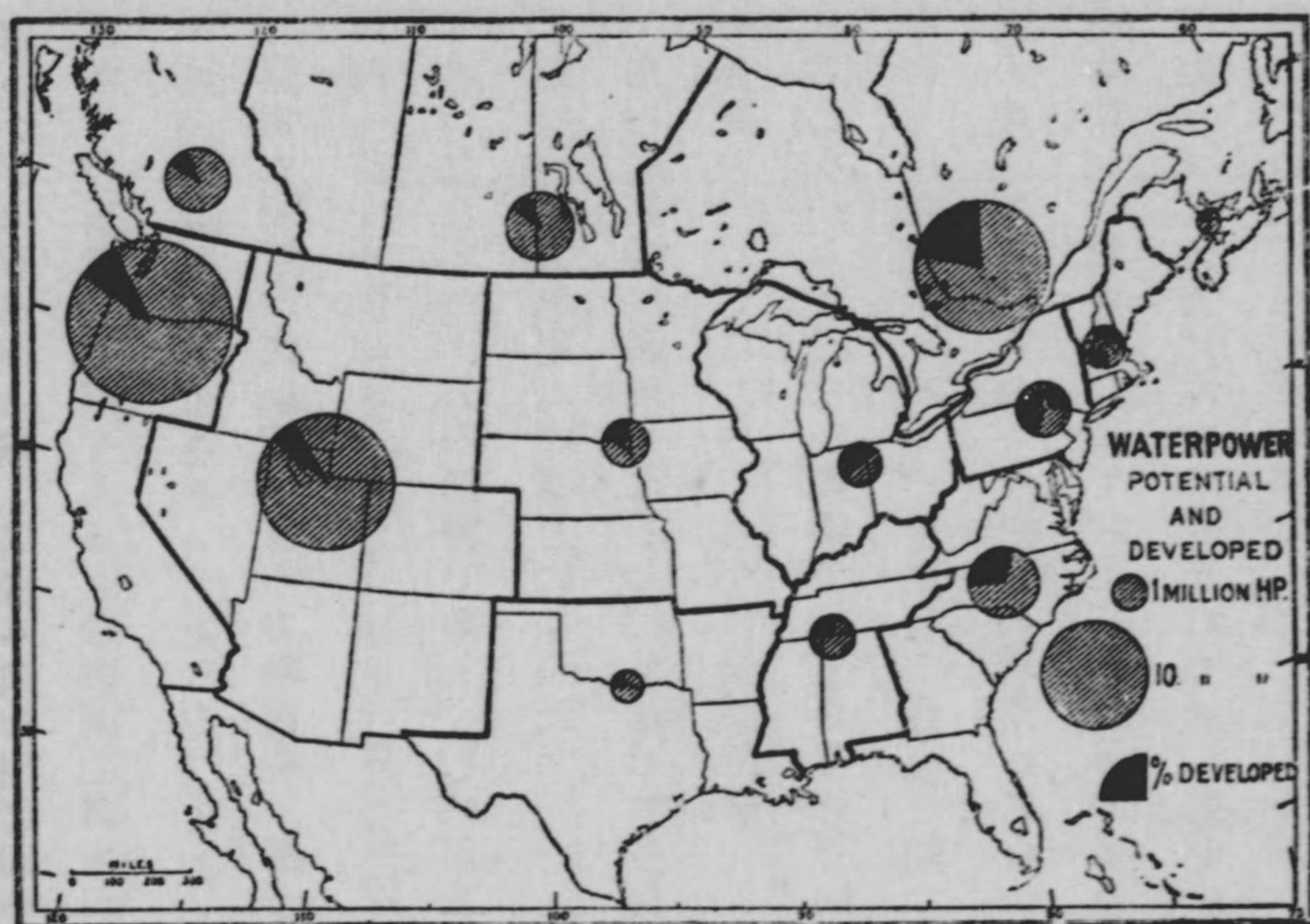
ナイアガラ瀑布は附近に雨量多く、且年中相當の雨量ある廣い流域をもつ河川中にあるし、その河水は大湖に調節されるし、その水は大なる落差を以つて流下してゐるからである(瀑布の高さ約五〇

米)。かゝる好條件を備へたところは世界にも稀で、多くは人力によつて相當費用をかけて後發電に適するやうになるのである。合衆國の利用し得べき水力の總量は現在の總ての動力に供給して尙餘りある程度に存在してゐる。

蒸氣力利用時代以前には水力利用は工業上缺くべからざるものであつた。アメリカの多くの工業市例へばミネアポリス(ミネソタ州)やローレンス(マサチューセツ州)の如きはその位置に工業市として起つたことは水力の影響である。しかし工業が盛になるにつれ水力は利用度小なる爲看過され新工業は蒸氣力を用ふることになつた。

水力が發電に利用せらるゝに及んで水力利用が著しく進歩した。工場は必ずしも河岸にあることを必要としなくなつた。しかし送電距離にも一定の限界がある。何となれば送電の爲に電力の價が高くなるから。現今合衆國では三百哩乃至四百哩以上の送電では石炭を用ふる方が安値である。不幸にも現在北アメリカの優良なる發電可能の水力の所在地は多くは工業適地との間に上述の距離以上の地にある。それで現在の利用は割合少いが(第二七圖)、將來石炭が減少してくるにつれて、發電事業が一層盛になつて利用される日が来るであらう。第二一圖と第二七圖とを比較すれば分る様に北アメリカでは水力の分布は石炭の分布の少いカナダ東部と合衆國西部とに多いのである。將來電力が石炭に代る日が来ると、北アメリカの工業地帯の位置も變つて太平洋方面が重要地となるで



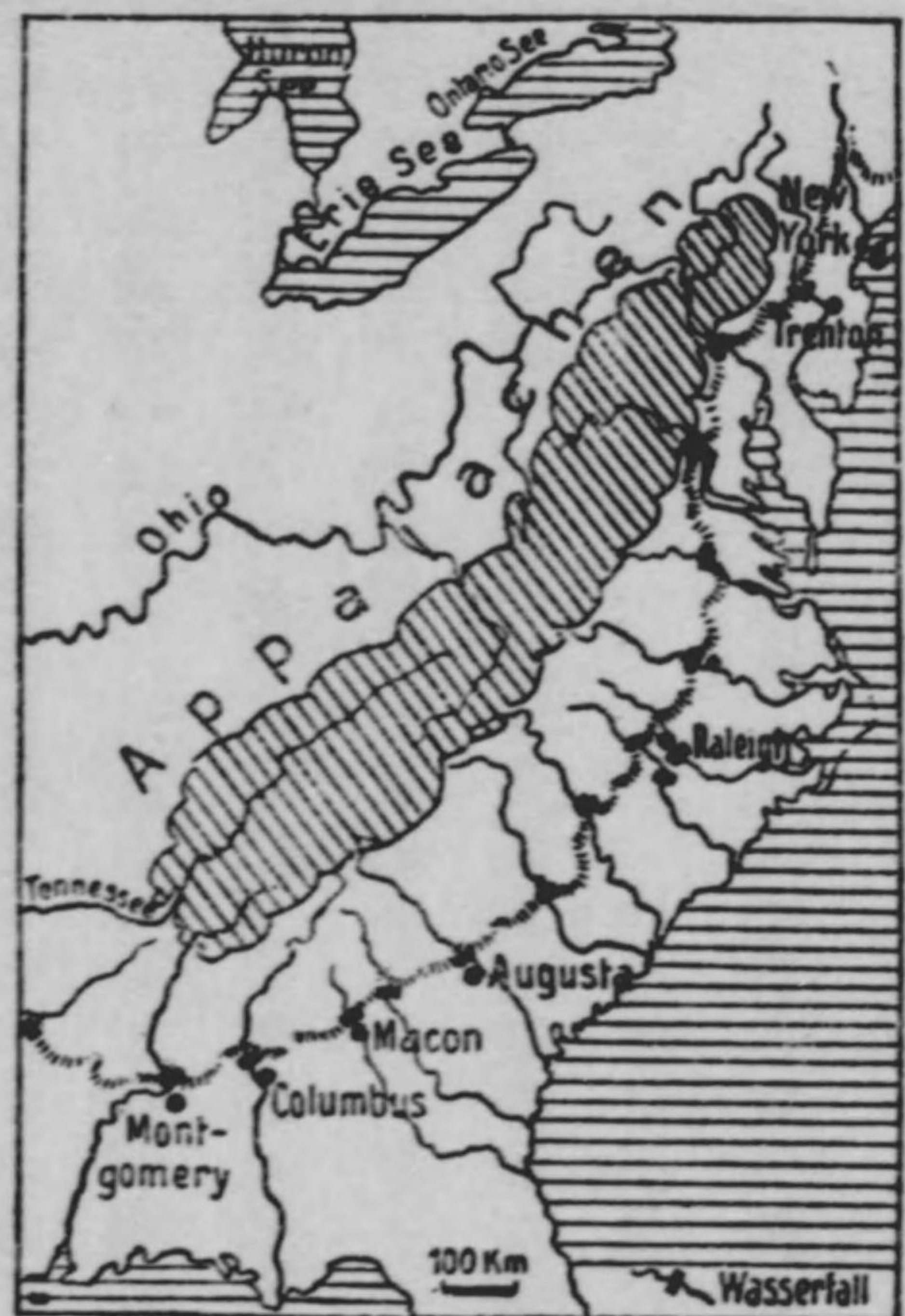


第27圖 アメリカ合衆國及カナダの水力電氣分布

あらう。  
 現今アメリカに於て水力電氣よりも石炭の方が安値なのであるから、水力電氣は工業地に近い安値に供給されるものゝみが用ひられてゐる。それでカナダのオンタリオ州と合衆國のニューヨーク州とに最も多く用ひられてゐるのであるが、何れもナイアガラの發電を利用するものであつて、百萬馬力以上を使用するものばかりである。之に次ぐはカナダのケベック州である。ケベック州にはローレンシヤ高地から南流する湖をもつ多くの河川がセントローレンス河谷に急下するので發電所が多い。第二七圖によつて其の他の主な發電力を有する地方を見ると  
 1 ニューイングランド地方 これは雨量が一年間よく分布され、湖・瀧・急流多く——これ

はカナダのケベック州と同様氷河作用に因つたものである——而も石炭を缺く爲水力電氣事業が盛になつてゐる。

2 大西洋岸南部地方 雨量多く、且アパラチャ山脈の東の山麓に發達する丘陵地が急崖を海岸平野に向けて居るところである。それでこの丘陵から平野に流れ出る川はこの線で何れも瀑布をつくるのでこれを發電に利用し、従つて瀑布線には工業都市が並んでゐる。



第28圖 瀑布線上の工業都市

3 ロッキー山脈及び太平洋岸地方 石炭少きため發電事業が盛で、中には灌漑事業の副事業に經營してゐるものもある。  
 現今アメリカで電力を用ふる主な工業は製

紙・繊維・製粉・製材の諸工業で、又運搬用として鐵道にも相當利用されてゐる。

推算に依ると合衆國の發電可能量は五千萬馬力、カナダは二千萬馬力で現在はその五分の一しか用ひてゐないし、この全量は現在二國に使用せられてゐる各種動力の總量よりも尙大である。

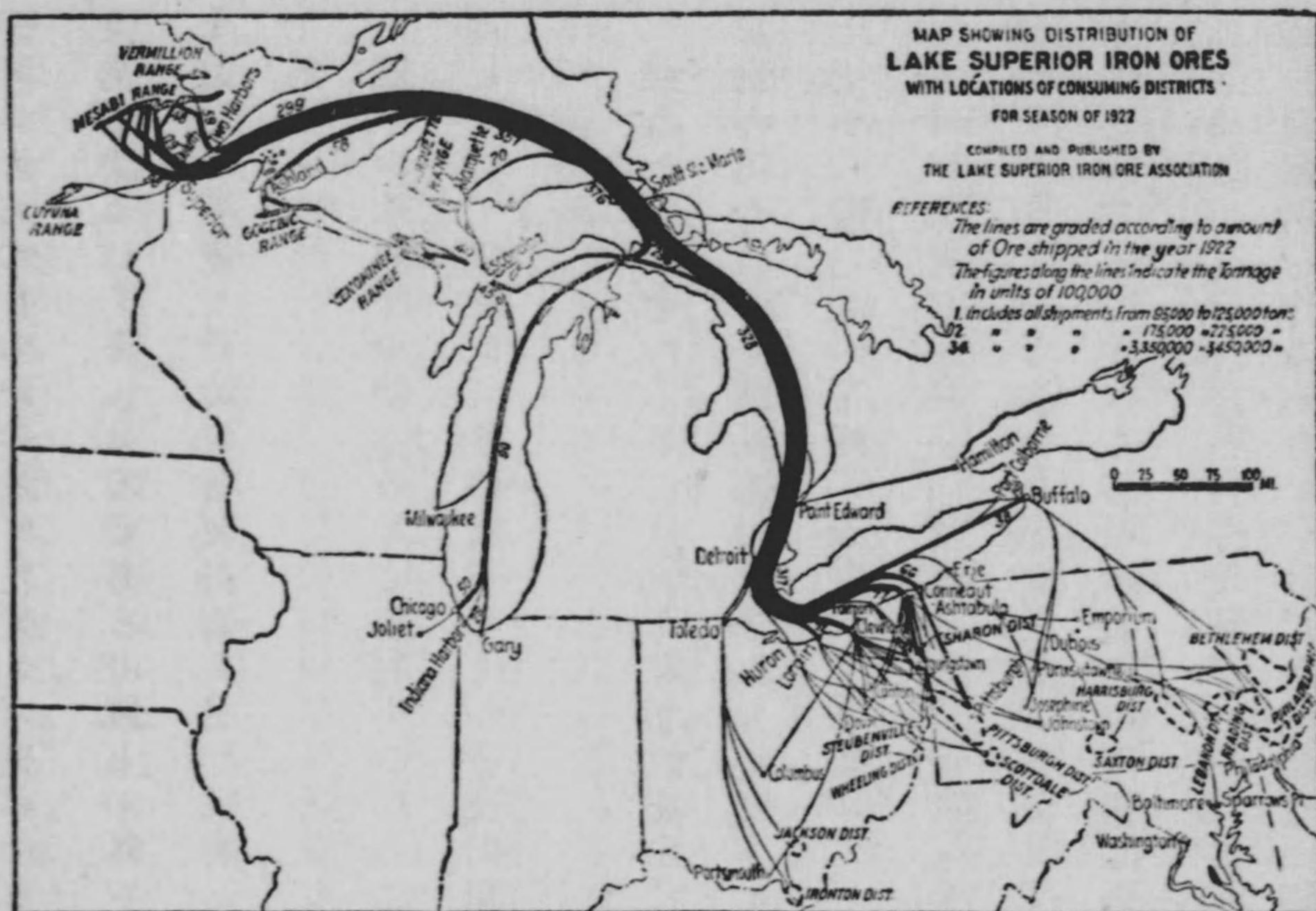
**製鐵製鋼** 鐵は地表岩石の約四分の三を占める大量の存在物であるが純粹の状態で産出することは殆んどなくて、百種以上の礦物となつて産出する。その中四種だけが製鐵用礦物となる。四種とは赤鐵礦 (Hematite)・磁鐵礦 (Magnetic)・褐鐵礦 (Limonite)・菱鐵礦 (Siderite)である。この中赤鐵礦が最重要なものである。何となればその産出量多く且つ鐵の抽出が最も容易であるからである。この四鐵礦中の含有量は最良のもので磁鐵礦の七二%、赤鐵礦の七〇%から菱鐵礦の四八%位である。合衆國では含有量五〇%以下の鐵礦は殆んど製鐵用にされてゐないが、ヨーロッパでは五〇%以下のものでも製鐵用としてゐる。

多くの民族は石器時代・青銅器時代を経て鐵器時代に至つてゐるといはれる様に、古代には鐵は餘り多く用ひられなかつた。これは鐵は多量に分布するがその抽出及器具製造に困難であつたからであらう。ギリシヤ・ローマ・中世の歐洲諸國では鐵の利用少く、一七四〇年でもヨーロッパに於ける鐵の年産額は一人宛二ポンドに過ぎなかつた。現今合衆國の一會社の製鐵量だけでも、一八八〇年以前の一ケ年間の全世界鐵使用總量以上を産するのである。然るに最近五十年間に鐵の利用著しく増進し従つて製鐵事業は顯著なる發達を遂げた。現代に於て國家の強弱を示す一大標準として船舶・銃砲・汽車・汽船・機械・武器の多少といふことが考慮されてゐる。平時に於ける商業上の勝者、戰時に於ける戰勝者は何れも結局鐵石炭を多く産出し輸送し、且各種の生産・不生産的器具

機械の良質のものを多量に生産し、是等の器具機械を有利に使用するもの、手に與へられる。勿論人力といふことも大切な要素に相違ないが、結局は以上の如き物的のものを多くもつ方が勝つことゝなる。そしてそれは大部分鐵によつて作られたものである。今日は實に鐵文化の時代、鐵器時代である。

鐵がかく他の金屬よりもよく利用されることはその性の良好なるによるもので、炭素を加へる程度によつて鋼鐵にも銑鐵にもなり、各種の用途を持つことゝなり、鑄物でも刃物でも自由に造り得るのである。

鐵礦から鐵をつくるには大きな熔鑄爐中に鐵礦とコークスと石灰岩とを入れて強く熱すると、石灰岩の煤介により鐵は爐の下部より流出するのである。一千噸の鐵を製する爲には一千噸のコークスと五百噸乃至一千噸の石灰岩とを要する。故に五五%含有の鐵礦であるとか一千噸の銑鐵製出の爲に一千八百噸の鐵礦と一千噸のコークスと約七百噸の石灰岩とを要することゝなる。それで現今合衆國では年約四千萬噸の銑鐵を製出するから、鐵礦・コークス・石灰岩合計約一億四千萬噸を用ふることゝなる。かゝる多量の貨物の運搬は製鐵企業にとつては大問題である。即ち三原料中少くも二つが近くに存在する方が好都合である。合衆國では石灰岩は諸地方から出るので、問題は石炭産地に製鐵所を作るべきか、はた鐵礦産地に製鐵所を設くべきかである。前にも述べた様にペンシル



第29圖 鐵鑛の湖上運送路

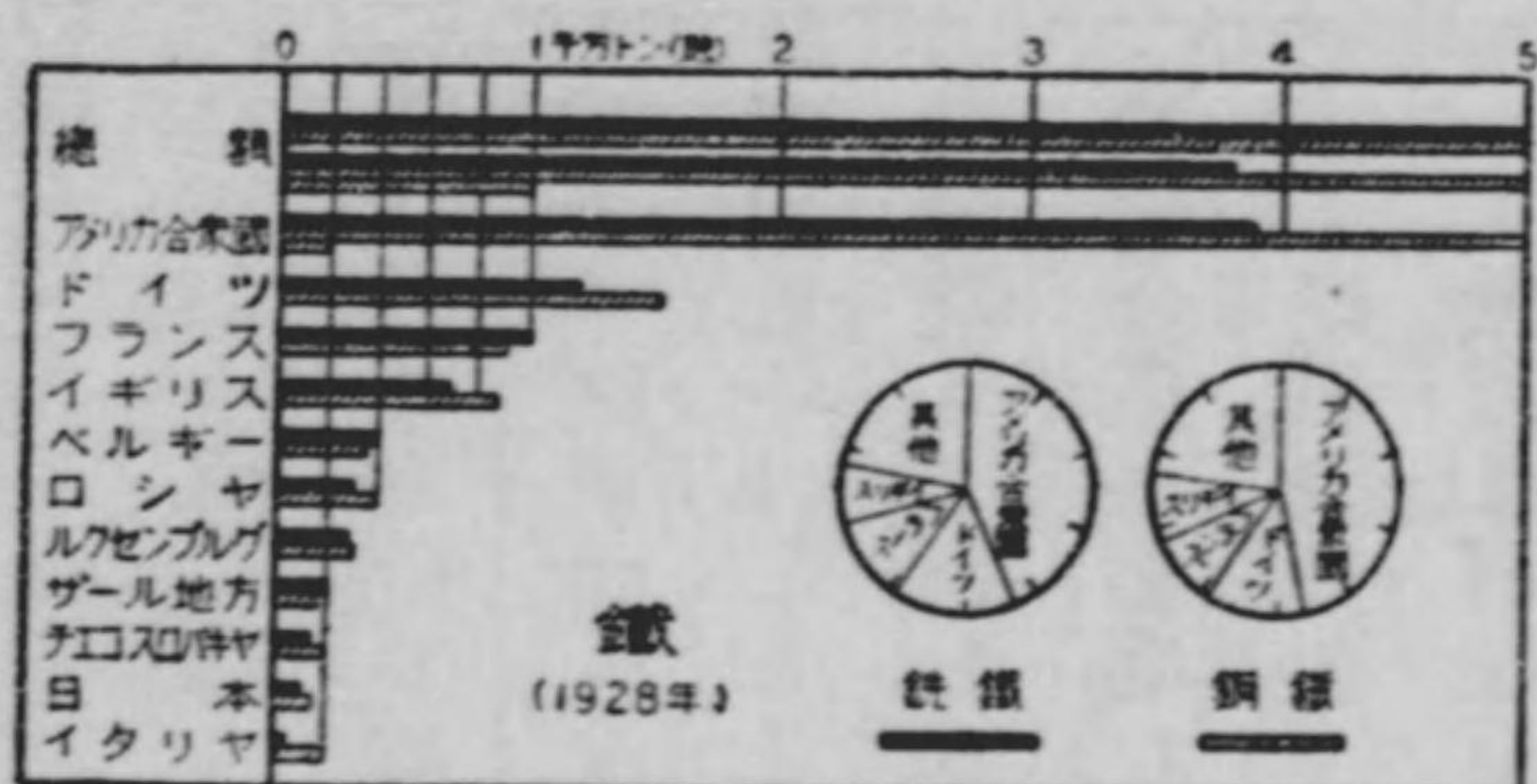
バニヤ州西部のコンネルズビル炭から最良のコークスが造られるのに、鐵鑛の主産地はシユベリオル湖附近が主産地で、その間約一千哩隔つてゐる。この兩地方間には五大湖が存在するため、その水運によれば安價に運搬し得られる。シカゴと大西洋岸地方との間の地帯では鋼鐵の需用が多であるので、鐵鑛は水運によつてこれらの地方の製鐵所に送られてゐる。製鐵所はミシガン湖畔・エリー湖畔及びオハイオ河の東方でピッツバーグを経てその東方に至る製鐵地帯に集つてゐる(第三二圖)。この中、ミシガン・エリー兩湖畔のものが運搬の關係上最も有利である。ピッツバーグ地方は其の起源他よりも古く、且つコンネルズビルのコークス製造地に近い利益があるため今日最盛ではあるが、兩湖畔にあ

るシカゴ・ゲリー・クリーヴランド・バッファロー及びシユベリオル湖畔のデュルースは製鐵業の發達率は極めて著しいのである。以上の外で製鐵業の盛なのは、アラバマ州のバーミンガム地方で此處では鐵鑛・石炭・石灰岩の三者共同一の谷から出るのである。

鐵鑛山の最大なものシユベリオル湖の西岸デュルースの北方約百哩にあるメサビ鐵山であつて合衆國の鐵鑛の約六割を出し世界の鐵鑛の約四分の一を出す。その他シユベリオル湖の南岸にも鐵山がある。バーミンガム地方のは合衆國鐵鑛の一割弱を出すのみである。その外諸州の産出は極めて少額である。

合衆國が世界第一の鑛山を持つてゐるのに矢張り鐵鑛の輸入があるのは一寸妙であるが、キューバ・チリ其他時にはニューフォンドランド・スエーデン・イスパニヤ・モロッコ等の諸國から輸入されてゐるのは大西洋岸附近の製鐵所が購ふのである。

合衆國の製鐵は今日は大部分鋼鐵にする。鋼鐵にするにはベッセマ法が第十九世紀の中頃から用ひられてゐるが、それは爐から流れ出る鐵の溶液に空気を翻りつけて不純物を酸化させたり、燃焼させたりする。その後必要だけの炭素を加へて鋼鐵にするのである。鐵鑛には大抵一%乃至二%



第30圖 世界の鐵産額

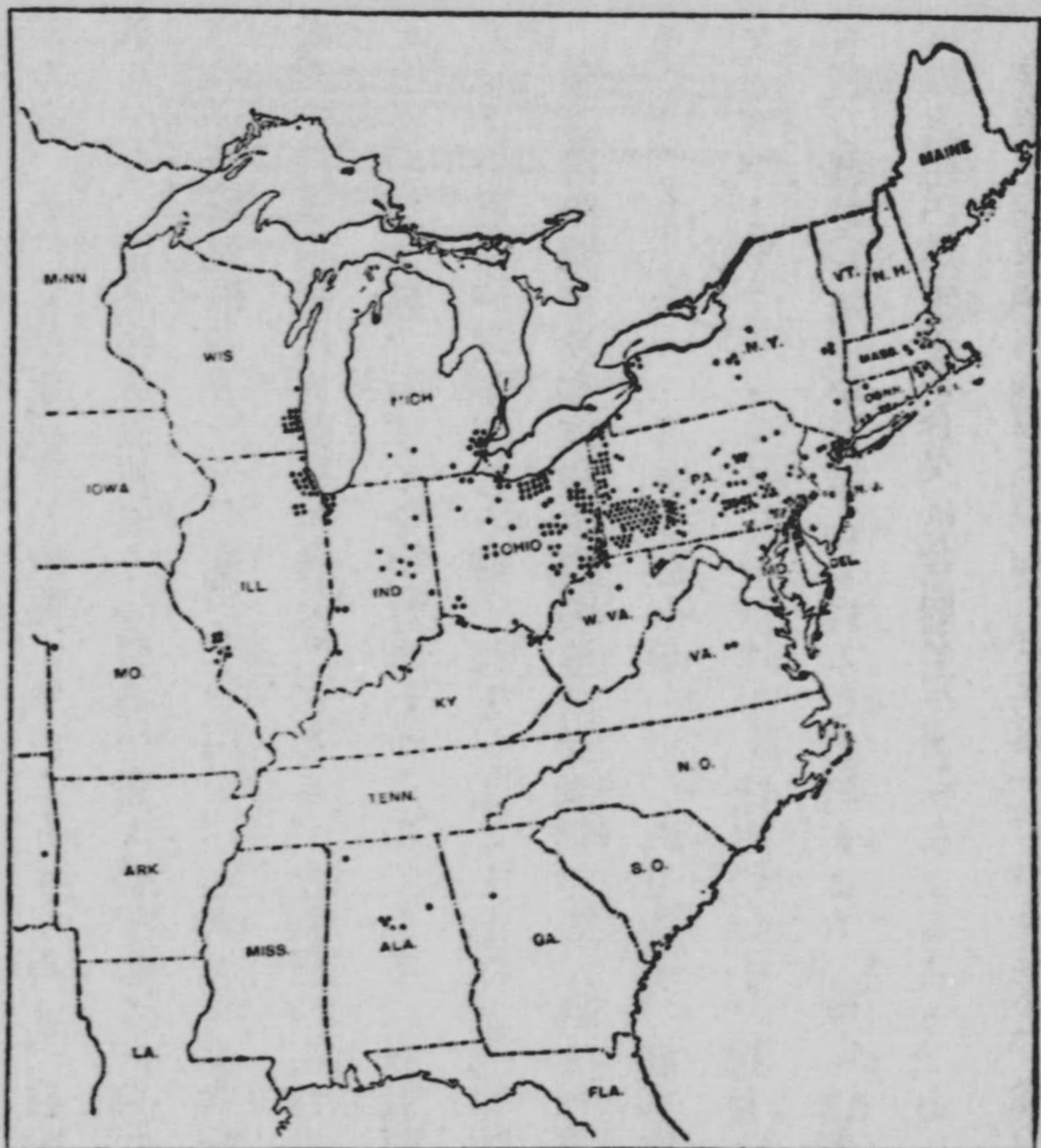
の燐を含んでゐるが、これは以上のベッセマ法では除かれない。その場合には鋼鐵が作れない。しかし、この燐を除く方法も発見された。それは開爐法 (Open hearth process) といつて徐ろに空氣に觸れしめるのである。合衆國の製鋼の七八割はこの開爐法に依つてゐる。ニッケル・クロミウム・モリブデン・チタニウム・バナジウム・タンゲステン・マンガンを加へると鋼鐵は一層良質のものになることが発見された。例へばレールにチタニウムを加へてあると普通のレールの三倍の耐久力があるのである。

製鐵企業に必要な條件は次の如くである。

- 1 燃料及動力が極めて安價で多量に得られること
- 2 鐵礦及石炭が安價で完全に輸送し得ること
- 3 熟練・不熟練労働者が多數に得られること
- 4 大資本

5 他の諸企業との完全なる連絡即ち鐵礦採掘業者・石炭採掘業者・製鋼所經營者 (熔鐵爐と同一會社又はその附近にて獨立に行ふものもある)、場合によつては船舶業者・鐵道會社其の他との連絡又は企業聯合又は合同をなすこと

合衆國の製鐵業は以上の如く世界第一であるため、従つて鐵を原料とする金屬工業即ち機械類の



第31圖 アメリカ合衆國の製鐵工場分布

製造・自動車の製造に於ても世界第一で、その主な工業地は原料の運賃の關係上製鐵所に近い所即ちペンシルバニヤ州と五大湖岸の地方である。尤も製革・紡織・製靴・製紙などの中心地にはその所要機械製造所がある。それは東部の諸地方である。

造船業は勿論深水の邊を必要とするから大西洋沿岸の中部諸州が第一位である。こゝは石炭・鐵の産地に最も近い。殊にデラウエーヤ河やデラウエーヤ灣やチエサピーク灣は入込んだ所で風波を避け且つ冬季も戶外労働が自由に出来る。それで木造船時代にはニューイングランド沿岸が造船業の第一位を占めてゐたが、汽船建造の今日では大西洋沿岸の中部諸州にその位置を譲るに至つたのである。

農業用機械製造は農業の最盛なミシシッピー河谷の諸州、即ち中央西部五州（イリノイス・ウィスコンシン・インディアナ・オハイオ・ミシガン）に最も多く産出する。

自動車製造は諸産業中最も急速の進歩を遂げたもので一九二〇年には二〇億弗の資本が用ひられてゐる。そして年産額三〇億弗に上ることすらある。自動車は舊式の車の代用として起つたものであるから、中央西部五州にその製造が最も盛である。殊にミシガン州（その中でもデトロイドが最も盛）では合衆國製出の五三%（金額で）を出す。ミシガンを含む中央西部諸州全體では七八%に上る。合衆國では各階級に自動車普及してゐる。合衆國の人口は世界の六%であるのに自動車数は世界の七七%といふ數を示すのを見ればわかるのである。自動車普及の一因としてはよい道路が近年著しく擴つたといふことを注意しなければならぬ。

鐵道用機關車及客車貨車類製造は製鋼業の盛な地方に盛である。殊にペンシルバニア・イリノイス・インディアナ・オハイオ諸州が第一で、以上諸州で客車貨車の八割を出す。機關車はペンシルバニア・ニューヨーク・ニュージャージー諸州の如く、前者よりは東方の諸地方に今尙最盛なるは古い有名な會社が信用を持続して居ることにもよる。こゝに興味あることは、合衆國の自動車の年産額は鐵道用の機關車・貨車・客車製造の數倍に上ることである。

最後に合衆國の鐵製品の貿易について一言すると、一八九二年までは鐵鋼及其製品は輸出よりも

輸入の方が多かつた。しかしその後輸出が急に増加した。殊に世界戦役中は著しかつた。輸入は之に反し著しく減じた。

銅 銅は鐵よりも古く各民族に用ひられた。即ち今日の鐵器時代の前には青銅器時代がある。青

銅器は銅と亜鉛との合金である。今日でも青銅は多く用ひられる。純銅の産出は電氣分解の方法が発見されて以來著しく増加した。

銅の産出は合衆國が世界總産額の五割を出して遙かに群を抜いて第一位に居る。ミシガン州のクワイナウ半島では深坑から自然銅が得られるが、現今の大産地はアリゾナ・モンタナ・ウタ三州である。後者のは主に銅の硫化物として採掘される。この硫化銅鑛からは一・六%の銅を製出する割合であるから、銅の精鍊は銅山附近に於てするのが有利であるので多くの銅山は自らその精鍊所を所有する。最初に製出する粗銅（鍍）には三五乃至五〇%の銅を含むのであるが、それを更に精製すると九五%以上の銅を含むものが得られる。

その中には金銀を相當含有することがある。それを更に電氣分解によつて純銅と金銀とを分つ。この電氣分解工場は大規模のものたるを要し、合衆國の同工場は平均一〇銅山以上の銅を精鍊し得る。この工場は大部分バルチモアからニューヨークに至る大西洋岸に設けられて居る。この地帯は



第32圖 世界の銅産額

銅の主要市場に近いこと、南米其他の粗銅輸入に便利であること、又歐洲へ精銅輸出上にも便利であること、の爲に有利である。近年はモンタナ州及太平洋岸のビューゼットサウンドにも設けられて東洋諸國に輸出する。

銅製品(電線・銅板・真鍮其他)の産出は主に北大西洋岸諸州に於てなされて居る。

**鉛及亞鉛** 何れも合金用鑛物である。亞鉛は鐵の電氣メツキに使用し、又真鍮製造其他塗料製造に用ひる。鉛は主に塗料製造に用ふるが、其他合金用とし、又土中に於て腐蝕しがたい好い性質をもつてゐるので、鉛管として利用される。大抵この二鑛物は同一鑛山から出るし、時には銀も共に出る。合衆國のこの二鑛物の産出は世界第一で世界總産額の約三分の一以上を出す。その主産地は西部地方である。

### 第三章 イギリス帝國

#### 第一節 國土の種類・分布・發展

**國土の種類** 世界陸地面積の約五分の一と世界人口の約四分の一とを包擁する大英帝國 (British Empire) の國土の種類を大別して(1)本土、(2)印度帝國、(3)自治植民地、(4)直轄植民地・代議植民地保護領等、(5)委任統治地の五とする。

##### 1 本土

大ブリテン島及北アイルランドを含み面積二五萬方呎・人口四五七四萬人を有する地域である。

##### 2 印度帝國

一六〇〇年に英國東印度會社を設立して印度の經營に着手して以來、ポルトガル・フランスなどの勢力を驅逐し、第十九世紀中葉に至つて之を併合した。國家の形式から見れば所謂君合國 (Personal Union) であつて、イギリス國王が印度皇帝を兼ねてゐるのであるが、實質上はイギリスの屬國であり、重要な豊庫である。インド帝國の範圍はインド半島にバルチスタン及ビルマを加へた

面積四六八萬方呎・人口三五三三萬人を含む地域である。

### 3 自治植民地

アイルランド自由國・カナダ・ニューフオンドランド・南阿聯邦・オーストラリア聯邦及びニュージールランドである。これらは何れも國王の任命する總督を戴き自ら政府・議會・裁判所を設けて政治を行ふ地域であつて、總督はたゞ立法否認權を有するに過ぎない。これらの地域は南阿聯邦及アイルランド自由國を除けば何れも本國人が大多數を占め、先住民族は少數である爲、かくの如き政治組織が許さるゝに至つたのである。

	面積	人口
カナダ	九一九萬方呎	一〇三七萬(内、土人一二萬)
ニューフオンドランド	一一萬方呎	二七萬
オーストラリア	七七〇萬方呎	六五〇萬(外、土人六萬)
ニュージールランド	二七萬方呎	一五二萬(内、土人七萬)

南阿聯邦はもとオランダ人の植民地であつたが、ナポレオン戦争時代に之を占領し、ウィーン會議によつて其所有權を認められ、其後金・金剛石の發見と採掘に伴つて多額の資本が投下されイギリス人の移住盛に行はれ、ボーア人(オランダ移住民)や土人を次第に内地に驅逐したが其間に利害の衝突起り、遂に干戈に訴へるに至つた(南阿戦争一八九九—一九〇〇年)。戦後次第にこれらの人種的

感情は融和し、遂に一九〇一年希望峯・ナタル・オレンヂ自由國・トランスバール共和國の四州が聯邦を組織し現今に至つたものであつて、面積一二二萬方呎・人口七九〇萬人を有する。

次にアイルランド自由國は一八〇一年に英本國に併合せられたのであるが、元來ブリテン島はアングロサクソンが大部分を占めてゐるのに反し、アイルランド島はケルト族が大部分であるから、各種の文化殊に宗教を異にし、加ふるにブリテン島及北アイルランドには工業が急激に發展し、アイルランドの大部分は依然農業状態を續けて來たので、その間に著しい經濟的相違を來すことゝなつた。此の如くにしてアイルランド人は本國より分離することの必要を痛感し、屢々本國と抗争を續けて獨立を企て、久しくイギリス内政上の大問題であつたが、遂に一九二一年北部六州を除く大部分は英國の自治領となり、カナダと同等の資格を有することゝなつた。その面積は約七萬方呎、人口二九七萬人である。

### 4 直轄植民地・代議植民地・保護領等

これらは何れも文化の低い土人が其の住民の大部分を占め、自治の能力を持たない地方である。その中本國政府の任命する官吏が統治する地方を直轄植民地と名付ける。例へばジブラルタル・マルタ・アデン・セイロン・海峡植民地・香港等の如きである。又住民に若干の參政權を與へてゐる地方を代議植民地といひ、南ローデシヤ・ジャマイカ等がその例である。

保護領にはマレー聯邦や、ボルネオのブルネー・サラワク等の如く英國官吏の監督の下に、其の土地の會長が専ら政治を行ふ地域である。其の他特殊の例として北ボルネオ・北ロデシヤに於けるが如く、英國の特殊會社に其の地の行政權が與へられ、イギリス官吏がこれを監督してゐる地方もある。

### 5 委任統治地

これを三種に分つ。即ち第一種(A式)はもとのトルコ領の如く文化の程度や、進める地域で、その住民が自立し得る時期まで施政上受任國の助言及援助を受くるものであつて、イギリスの委任統治地としては、パレスタイン及びイラクがこれに屬するが、イラクは既に完全な獨立國として國際聯盟に加入することゝなつた。

第二種(B式)はもとドイツ領中央アフリカの如き地方で、受任國はその地域の施政の責に任ずべき程度にあるもので、その秩序維持及善良の風俗に反しない限り土民の利益を考慮し、且つ他の聯盟國に對し通商上の機會均等を與へることを要する地域である。英國の委任統治地となつたものは、トーゴの一部、カメルンの一部、ドイツ領東アフリカの大部分である。

第三種(C式)は人口稀薄・面積狭少で文明の中心に遠ざかること、又は受任國の領土と隣接すること等の事情によつて、受任國領土の構成部分として其の國法の下に施政を行ふ地域である。ドイ

ツ領南西アフリカは南阿聯邦に、ニューギニヤ北東部(カイザーウイヘルムスランド)・ビスマーク諸島・ソロモン諸島はオーストラリア聯邦に、サモア島はニュージールランドに、ナウル島は英帝國にその統治を委任せられたものである。

**國土の分布** 次にこの廣大にして世界各地に散布し、彼等が「自國々土に太陽没することなし」と傲語する英帝國々土の分布に就いて考察する。

先づ北大西洋を中にしては本土とカナダと相對してゐるし、太平洋を挟んではカナダと濠洲・ニュージールランド及び附近の諸島とは對角線的に相對してゐるが、印度洋に於いてはその周邊に殆んど此の國の領土を圍らし、恰も印度洋は英國の海洋の如き觀がある。即ちケープタウンよりアフリカを縦斷し、アラビヤ・印度・海峽植民地を経て濠洲に至る間に於いて、佛・葡・伊・蘭の領土が僅かに介在するのみである。かくしてケープタウン・アデン・コロンボ・シンガポール・パース等が、その中心或は門戸として重要性を帯びることゝなるのである。

**シンガポール** 一九二一年日英同盟廢棄せられて以來、英國は獨力を以て太平洋上の列強爭覇戰に臨まなければならなくなつた。従つてシンガポールは同國にとつて軍事上一層重要な意義を有することゝなつた。その位置はアフリカ・印度・オーストラリア・極東地方に於ける英國の主要なる經濟的中心地を連絡する航路の集中點をなしてゐる。軍事的に見てもオーストラリアを英本國が保



護する場合(例へば日本・アメリカ合衆國等に對し)、イギリス艦隊の根據地として最も適してゐる。故にシンガポールに海軍根據地建設の問題は、絶えずオーストラリア代表によつて英帝國會議に持ち出された。此の問題は英國保守黨に依つて支持され、既に同港には堅固なる要塞設備が施されつゝある。

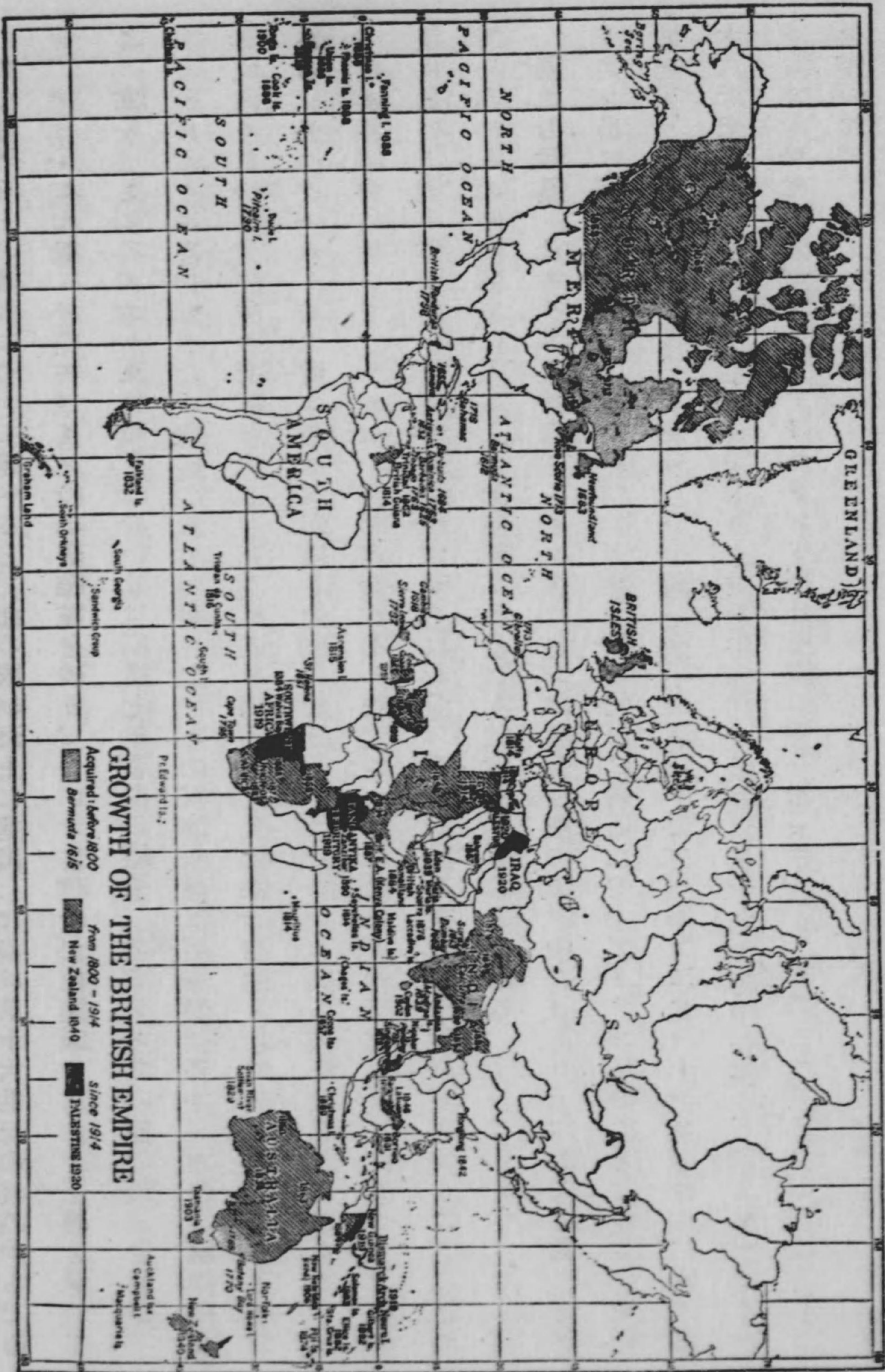
シンガポール軍港新設工事に着手したのは一九二三年であり、その後英本國に労働黨内閣成立と共に一時中止したことはあつたが、大體引き続き工事を進捗せしめつゝあるのである。而して同軍港計畫なるものは、(1)乾船渠、(2)浮船渠、(3)補給施設(重油槽及び濕船渠を含む)、(4)工廠、(5)兵器庫、(6)陸上防禦、(7)埋立工事、(8)無線電信所の移轉擴大、(9)倉庫・住居・鐵道・道路等の附屬施設などであるが、一九三二年度英國海陸空軍豫算説明書により考察すると、同年度初頭に於けるシンガポール軍港建設の狀況は、(1)浮船渠及無線電信所は完成し、(2)航空施設及び重油タンクは略完成し(3)乾船渠・工廠・陸上應舎等は三分の一完成、(4)陸上要塞は計畫の四分の一(一九三一年より工事中止中)であつて軍港は半ば完成してゐるといふべきである。當初の計畫では一九三七年完成することになつてゐる。尙、右の浮船渠は全長八五五呎、建造費及び回送費一四五〇萬圓、五萬噸の巨艦も容易に出入し得るものであり、又、一九二四年にはマレー半島とシンガポール島とを連結する陸橋も架設せられ、複線列車の他、自動車等が渡り得る様にせられてゐるのである。

同軍港はシンガポール島とマレー半島南端との間にある東西に細長いジョホール水道の東半を占め、船渠・航空隊・工廠等軍港施設の大部分はシンガポール島の北岸に在り、同島南岸のシンガポール市を去る約一四哩である。

シンガポール島が重要な位置にあるに加へて、その軍港水域は幅一哩、長さ一四哩、水深一尋以内であつて、潮流の影響も少く、克く風波を遮蔽し、大艦隊の泊地として最も適當なる良港である。且つジョホール水道の西は水深淺く大艦の接近を許さないから頗る安全なところである。

尙英國議會に於いてシンガポール軍港新設案の決定されたのは華府會議前五ヶ月であつて、同會議に於いて太平洋諸島の防備制限が決定せられた際、その西限を東經百十度以東とすることによつて巧みにその制限區域に入ること免れてゐるのも注意すべきことである。

**國土の發展** イギリス人即ちアングロサクソンは第五世紀の頃、中央ヨーロッパから次第に大ブリテン島に植民し、先住民族であつたケルト族を北西に驅逐して大ブリテン島の主となつた。第九世紀(八二七年)に建國したイングランド王國は第十三世紀(一二八二年)にウェールズを合せ、更に第十八世紀の初(一七〇七年)にスコットランドを併合し、最後に第十九世紀の初年(一八〇一年)アイルランドを合せて大ブリテンアイルランド聯合王國 (United Kingdom of Great Britain and Ireland) を作つた。



第33圖 イギリス國土の發達 stippledは1800年以前、 horizontalは1800—1914年、 verticalは1914年以後の獲得、 印字は、モザイクは領土、 本文参照

次に海外領土の擴張について述べると、此の國が海上に進出したのは第十六世紀の後期からであつて、一五八八年にかのスペインの無敵艦隊を破り、ついで當時の大植民國オランダと覇を争つて之に勝ち、更にアメリカ及び印度に於いては所謂七年戦役の結果、フランス其の他の領土を奪ひ、遂に第十八世紀の中葉には早くも大植民國を建設したのであつた。其の後アメリカ合衆國の獨立の如き領土の喪失もあつたが、ジェームス・クックの探險の結果、太平洋方面に於いてオーストラリア・ニュージラランド其の他の領土を獲得した。第十八世紀末から十九世紀初頭に互るナポレオン時代にはヨーロッパ大陸に於けるナポレオンの爪牙から免れたのみならず、かのトラファルガル海戦（一八〇五年）後は完全に制海權を把握して、フランス及び其の與國の海外領土を頻りに侵略した。オランダからケープタウンを得たのもこの時であつた。

第十九世紀前半の歐洲諸國はナポレオン戦役後の國內の整理に忙殺されたので、英國が獨り海外にその威を振ふことを得たのであるが、同世紀の後半以後にはドイツ・アメリカ・日本・イタリアの如き新進諸國は何れも世界政策をとるに至り、フランスも再び海外發展を行ふこととなり、かくてアフリカ及び太平洋諸島等に於ける分野が定まつた。最近世界戦役の結果は更にドイツ領及びトルコ領はイギリス其の他に委任統治せらるゝに至つた。

之を要するに英國が世界第一の植民國となつたのは、その本土の島國といふ地理的環境と位置と

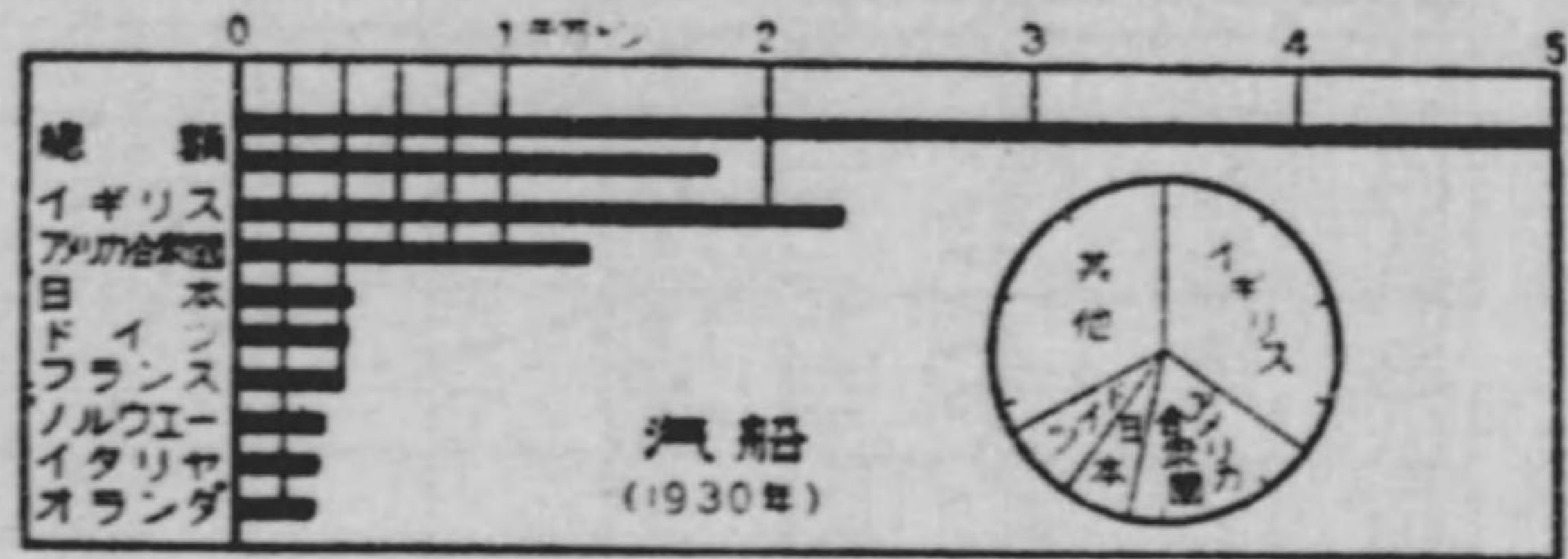
を巧みに利用した國民の意氣によるものであつて、屢次の歐洲大陸の渦亂から遠ざかりしのみならず、常に海に親しみ海國的氣象、いはゆる *rule the waves* の意氣を培養する機會を得たのであつた。

尙注意すべきは地理的發見時代以前以後に於けるイギリス本土の地理的位置の變化である。即ち中世以前に於けるイギリス本土はヨーロッパ文化世界の邊隅に位したが、新大陸發見以後、文化圏の擴張に伴ひ、遂にその中心位置を占めたことは、今日の如き世界的發展を遂げるに大いに役立つ次第である。

### 第二節 國土の統一策と對外政策

**國土の統一策** 前述の如く世界に散在せるこの大國土を結合する爲には強固なる紐帶を必要とする。即ちこの紐帶は領土各地間の航路網・海底電信網・無線電信網である。英國が本土の工業に要する原料を海外の植民地に求め、その製品を海外植民地に賣る爲に、この航路上に大商船隊の活躍するのも當然である。ワシントン軍縮條約（一九二二年）以前には世界第一の海軍國であつたのも、これらの航路を保護する國防上の必要からであつたのである。

然るに自治植民地が次第に發達して工業の隆盛を來すなど、國力の充實に伴ひ本國より獨立せん

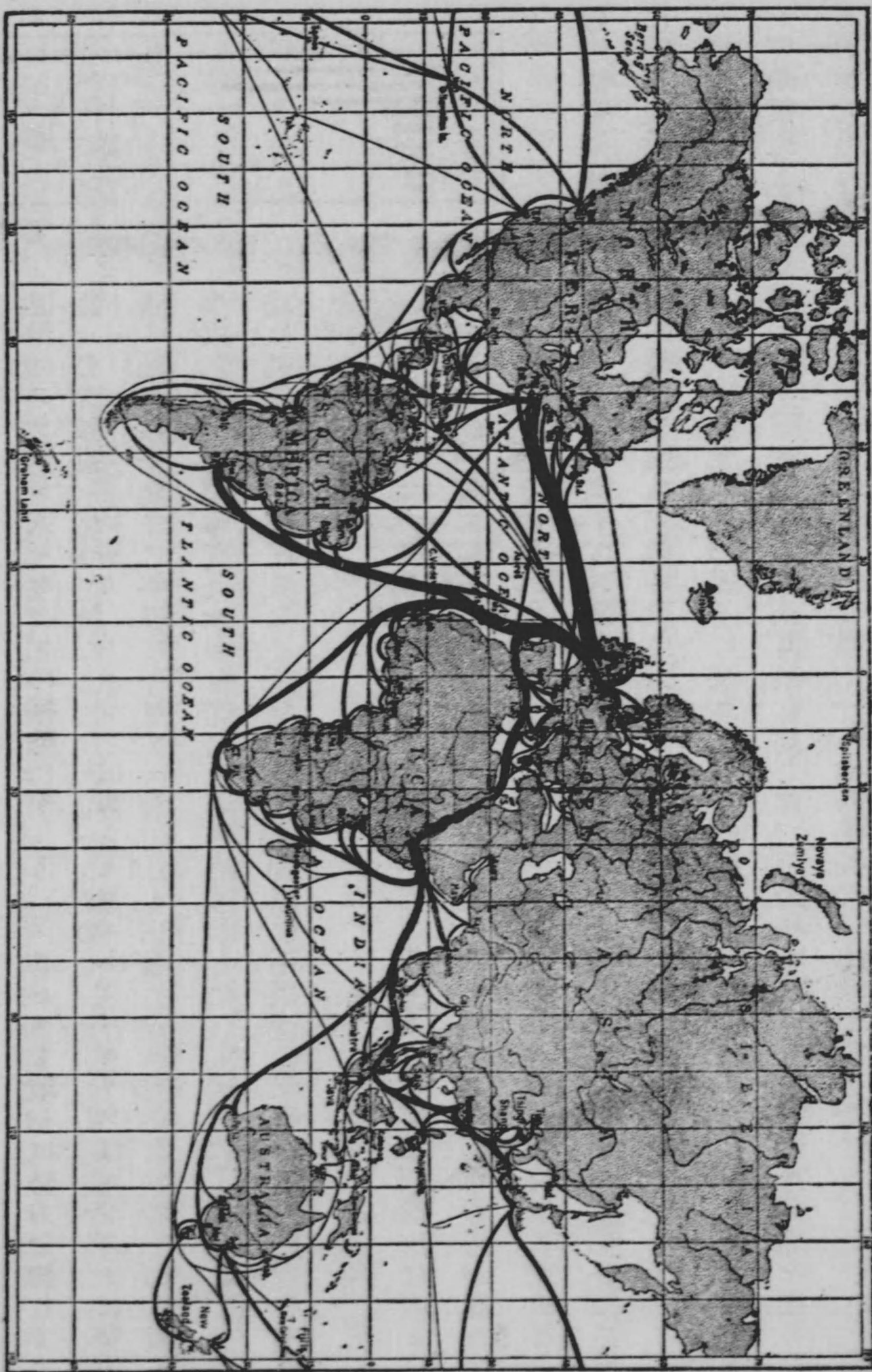


第34圖 世界の汽船噸數

とする傾向が濃厚になつて來た。かのベルサイユ條約（一九一九年）に於ては既にカナダ・オーストラリア・ニュージラランド・南阿聯邦はイギリス本國と肩を並べて調印國となつて居るなどもその一の證據といへる。又民族を異にせる埃及の如きは一九二二年既にイギリス本國より分離して不完全ながらも獨立國を形成した。更に印度民族の自覺はその分離運動と化して、或は非賣同盟を唱へ、或は飢餓抗争を續けるなど頻りに英本國官憲に不服従の氣勢を示し社會的不安を招來してゐる。

かゝる傾向は大英帝國にとつては致命的痛恨事であり、英本國政府は頻りにその融和統一策に腐心しつゝある。かの大英帝國會議・英印圓卓會議が屢々開催されるのはその現れである。一九三二年七月・八月にオタワに開かれた大英帝國經濟會議は大英帝國を打つて一丸とする經濟ブロックの形成を企圖したものであつて、各領土間に特惠關稅を設け經濟的結合を固めて諸外國に對抗せんとする方策が講せられたのであつた。

**埃及問題** 古代エジプトは紀元前五二五年に没落し、その後ペルシャ・ギリシャ・ローマ・サラセン等の領土となつたが、第十五世紀の末に土耳其に屬した。その後トルコもエジプト獨立を認めなければならなくなつてゐたが、財政の紊亂に乗じ一八七八年英佛の内政干渉を受けるに至つた。一



第35圖 世界の主要航路

八八一年、志士アラビ・バシヤの造つた内閣もイギリスの爲に倒され、イギリスの絶對的勢力が侵入した。尤もスエズ運河はフランス人レセップの掘鑿にかゝり、フランスも最初は勢力を伸してゐたが、日露戦役を契機として英佛協約成り、フランスは専らモロッコ、イギリスはエジプトに勢力を張ることゝした。しかも尙ほ名義上トルコの宗主権の下にあつたのであるから、公然イギリスの保護國と認むることが出来なかつたが、世界戦役にはトルコはイギリスと敵國となつた爲、忽ちイギリスはエジプトを保護國と聲名した(一九一四年)。ベルサイユ條約によつてイギリスのエジプト保護權は承認されたが、民族主義の風潮はエジプトにも起り、ザグルル・バシヤ等エジプト獨立黨の反對に逢ひ、一九二二年新獨立國と認めざるを得ざるに至つた。しかしスエズ運河地帯あるが爲、イギリスはエジプトと同盟條約を締結してその勢力を維持しやうと努力した。一九二九年に締結された條約は全文十六ヶ條より成り、有効期間は二十五ヶ年で、その主要事項は次の如くである。

- I 埃及に對する英國の軍事占領は本條約實施と共に廢止するも、スエズ運河保護に必要な英軍を東經三二度の特定地點に留め置くこと
- 2 英埃兩國互に大使を交換すること
- 3 英埃同盟を結び戰爭勃發の場合積極的援助をなすこと
- 4 埃及に於ける外國人の生命・財産の保護に對しては埃及政府に於て責任を負ふこと

5 領事裁判所を混合裁判所に引渡し、在留外人は埃及の裁判權に服すること  
かくて名義上は獨立國であるが、事實上イギリスの勢力圏内にあり、獨立派の外に親英派の議員  
もあつて、互に内閣の更迭を繰り返してゐる。しかしエジプト人は獨立要求の聲を高くする割合に  
彼等がイギリス人の援助を離れて經濟的に獨立して行く實力ありや否やは疑問視されてゐる。

### 印度の獨立運動

印度人が舊來の奴隸的狀態から解放さるべく覺醒運動を始めたのは今から約四  
十年前、アビシニヤ人がイタリア人に打ち勝つてからである。其後十年を経て日露戰役の結果東洋  
の一小島國が西洋の一大大陸國を戰敗せしめたことにより大いに自信を強めた。

印度の政治運動には印度をカナダ・濠洲の如く英國の自治領となし責任政府を樹立しやうといふ  
自治權獲得運動と、全く英人の主權から離脱して印度人の治むる印度を獲得せんとする獨立運動の  
二種がある。

英國は世界大戰中に印度の人力と財力とを搾取し、且つ印度社會に瀰漫しつゝある獨立運動を阻  
止せんとして印度の自治を約束しておきながら、印度人の忠勤を獲得して大戰も好都合に終息した  
後には、先の聲明を反古にしてしまつたことなどから、印度國民議會は英國に對する非協同不服從  
の運動を始めたのである(一九二二年)。後數年を経て印度は自治を要求する旨を提言したが、英國  
の不信に憤慨して完全なる獨立の要求を決議するに至つた。

扱てその獨立運動として如何なることが行はれつゝあるか。指導者はいふまでもなくガンヂー  
(Gandhi)である。從來印度人は家庭工業によつて日常必需品を自給自足し特に衣服の如きは概ね自  
家の紡織によつた。所が近代工業の壓迫により、外國輸入品を用ひ、綿布の輸入は年額二億圓にも  
達する。これを他の方面に向けるならば印度人の負擔を減じ得る。故に手繰車の復活を宣傳するの  
である。尙印度の農民は一年の半年は氣候の上から戸外の仕事が出来ないから家庭工業の復活は  
印度人の遊んで眠つて暮す時間を利用することゝもなる。次は租税不納運動である。殊に鹽の專賣  
に反對して製鹽法の宣傳をなし、尙又イギリス製品の排斥、不買同盟を誓ひつゝある。かくの如き  
運動の續けられる間にもそれが暴動化することの比較的少ないのは首領ガンヂーの思想に支配され  
てゐる爲である。故に茲にガンヂーの思想を略説しておくのも參考となることと思ふ。彼の活動は  
三つの根本思想の上に基礎づけられてゐる。(1)淨行、即ち謙讓克己の生活を營むこと、(2)不殺、即  
ち非暴力主義である。前の淨行を克己修養法、即ち自己に對する道德上の原理とするならば、この  
不殺は對人・對社會の道德的原理といへる。(3)眞理の把持、即ち一切の惡・不正・不義に對し決然  
として之を膺懲せんとする信念を持つもので、しかも身に寸鐵を帯びない崇高なる眞の勇者として  
惡法・惡習慣の撤廢に努力しつゝあるのである。此の如く一步一步印度大衆の自覺と共にイギリス  
政府との軌轢も愈々激化することであらう。

**オタワ會議** 世界不景氣の大波は大英帝國にも押寄せて、遂に一九三一年には金本位制を停止するの止むなきに至り、英國は今や世界の工場、世界の銀行としての名聲を失墜し、孤城落日の感があり、賠償問題では追付かなくなつて來た。此處に於て自由貿易の傳統を棄て、大英帝國々土相互間に特惠關稅を設定し、他國との間に關稅の障壁を高め、所謂一大經濟單位 (Economic Block) を形成し、大英帝國下無慮四億五千萬、世界の四分の一を占める人口の經濟的苦難を救はうとして開催されたのが一九三二年のオタワ會議である。

英本國からは首相ボールドウィンを始め關係閣僚が出席し、植民地側からはインド・カナダ・濠洲・ニュージーランド・ニューファンドランド・南阿聯邦・南ロデシヤ等の代表及び最近皮肉にも本國との間に關稅戰爭を始めたアイルランド代表までが加つた。

かくて一ヶ月に亙る協議により英帝國內相互間の特惠關稅の大方針が定まつて次第に其の實行に移りつゝある際、本年六月世界經濟會議の開催となつたのであるが、しかし此の會議によつて期待された世界各國間の通商自由・關稅障壁の低下は會議の不成功によつて容易に來らぬこととなつたので、大英帝國のブロック經濟は着々進行し、却て世界の通商を阻害することとなつて來た。然しそれは大局より見れば結局イギリスが自繩自縛の結果を將來するものと云はねばなるまい。

**對外政策** 現今イギリス外交の基調をなす指導精神を一言にして蓋へば平和主義と云ふことが出

來る。**平和主義**は現状維持・事無かれ主義を意味するものであつて、イギリスの如き大國土を抱擁する國家のとるべき外交政策としては當然の歸結である。

近世に於て西歐勢力のアジャへ東漸せるもの、最大なるものはイギリス・ロシヤの二國である。極東に於いてこの二大勢力の我國と接觸するや一は武力抗爭的解決策をとつて日露戰爭を惹起したるに、他は平和的親交策を採用して日英同盟を締結したことは、明らかにイギリス外交平和政策の一例であらう。又世界戰役後の歐洲大陸諸國間の國際關係が屢々混亂に陥らんとした場合に常にイギリスはその調停者の役割を演じて來たのもその平和主義に基くものである。

更にイギリスの外交方針には**親米主義**的色彩の濃厚なるものが看取されるのである。世界戰役中よりイギリスはアフリカより多大の經濟的支持を得て居ることは既にアメリカの貿易の項に於て一言した所である。従つて米國に對しては迎合的傾向を示すやうになつて來た。かのワシントン會議に於てイギリスは從來の二國海軍主義を捨て、合衆國と對等の海軍力を認めたことは英國の合衆國に對して一大讓歩を示したものと云へよう。

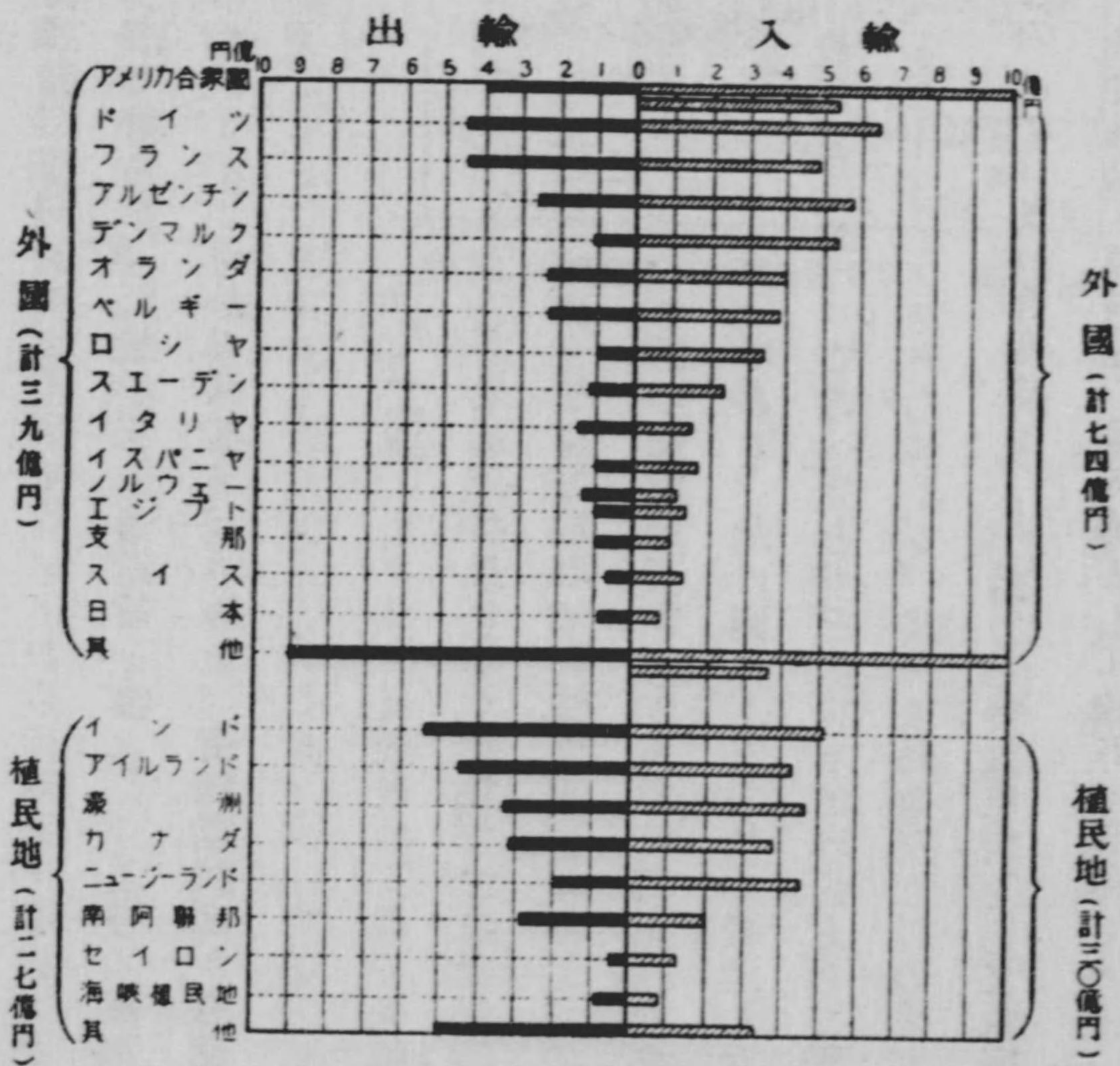
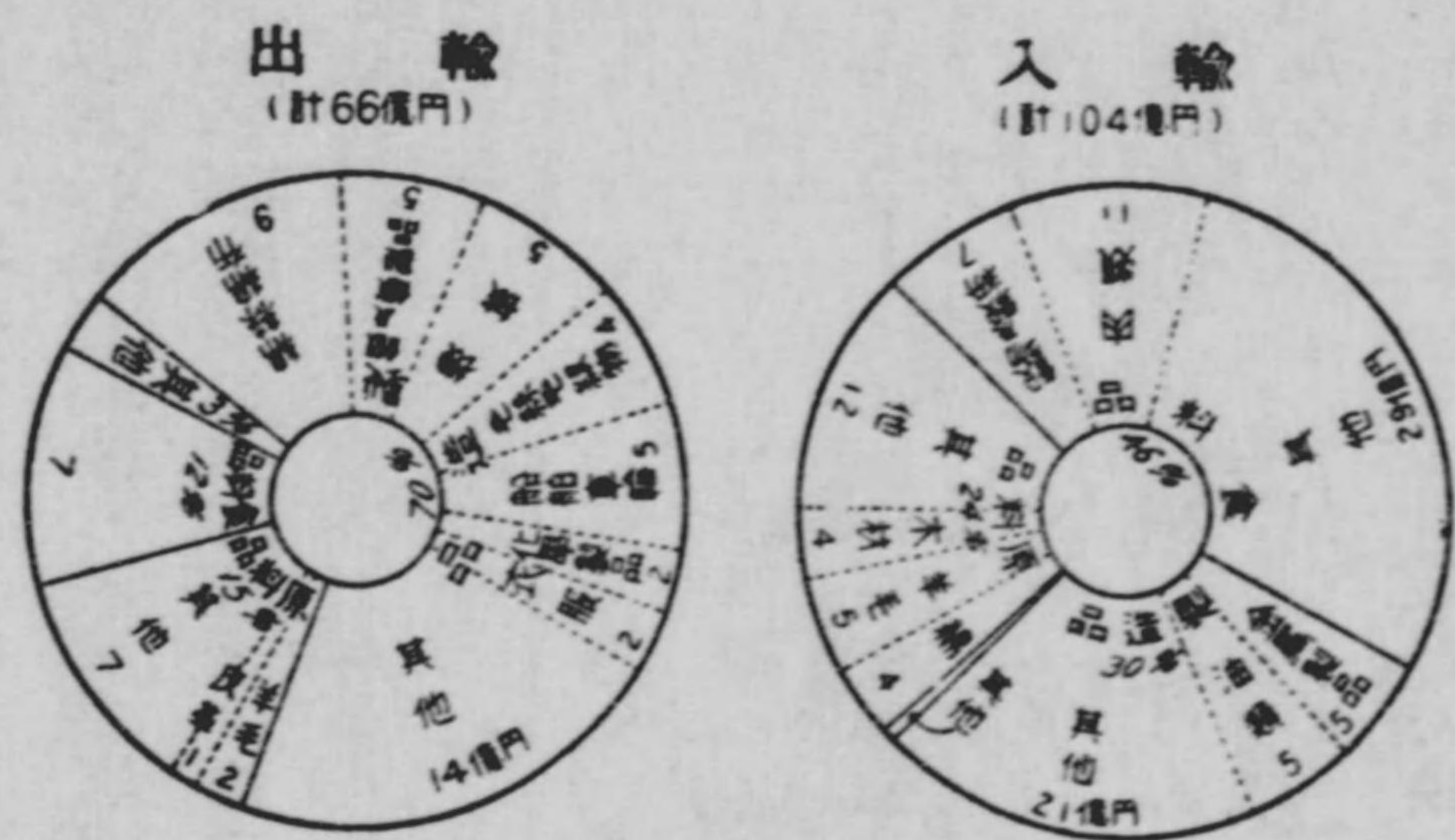
### 第三節 經濟

第一項 本土の経済的特性

**貿易** 大英帝國の本土及び植民地の貿易額の總計は世界第一位であるが、本土のみに就いていへば近年アメリカ合衆國にその王座を譲つた。イギリス本土は純然たる商工業國である。この事實は職業別人口表(第七圖)又は貿易表(第三六圖)を一瞥すれば明らかなることである。先づ職業別人口表を見ると、農林漁業の人口は全人口の僅かに八%に過ぎないが、商・工・交通・鑛山業の人口比率は六〇%に達する。

次に外國貿易表を見ると輸出品の約七〇%は製造品で、纖維工業品・鐵材及其製品たる器械・船舶の如き重工業品が主なるものである。然るに輸入品は食料品及原料品併せて輸入金額の約七〇%を占め、食料品としては穀物・穀粉・肉類、原料品としては綿・羊毛・木材がその主なるものである。これら輸入品の約七〇%は外國に之を仰ぎ、約三〇%は之を自國植民地より輸入するのである。而して輸出品たる工産物は諸外國に對しては約六〇%、自國植民地に對しては四〇%の輸出歩合を示してゐる。

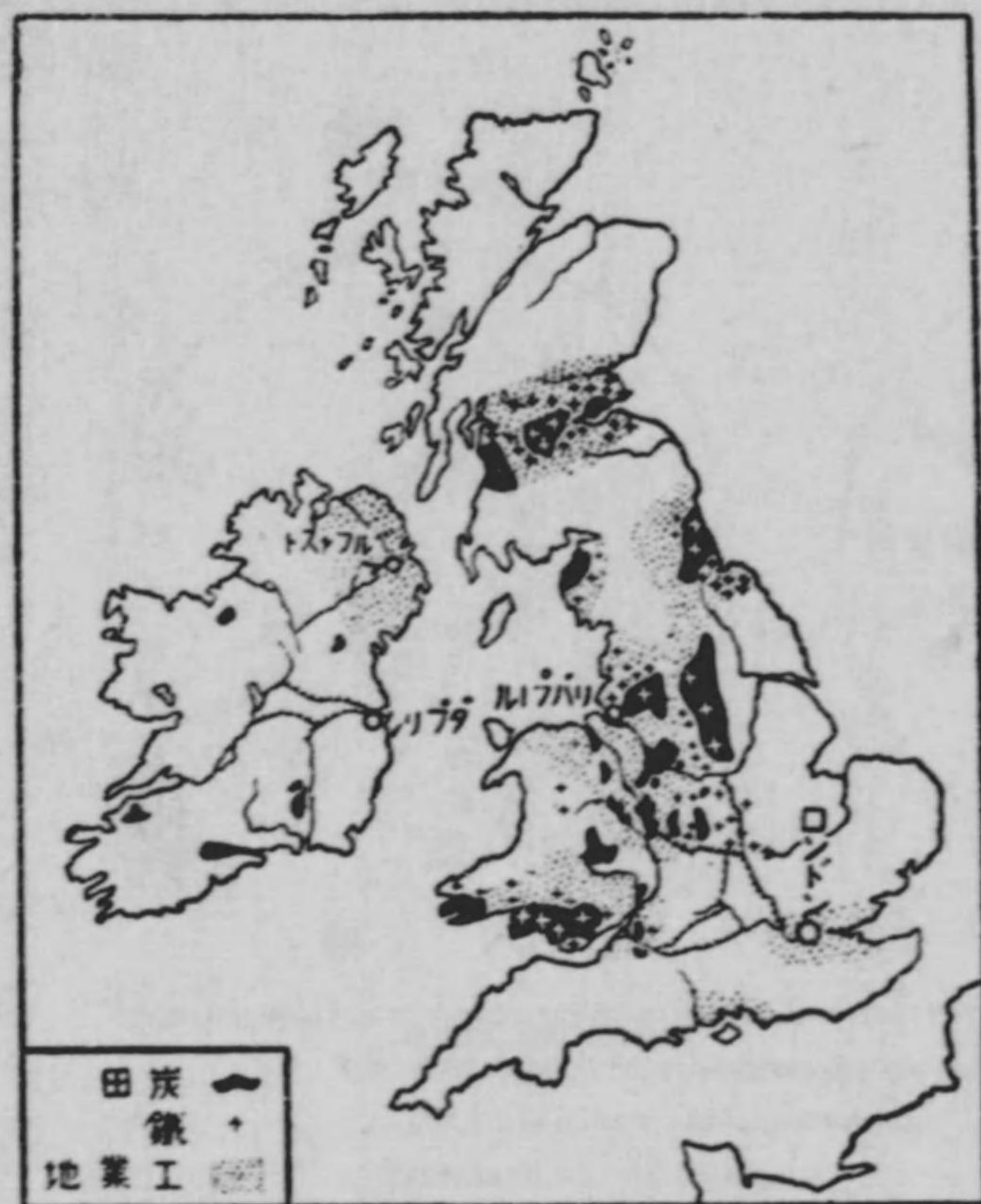
諸外國中最も貿易關係の密接なのはアメリカ合衆國で、之に次ぐはヨーロッパの近接諸國であるが、只南アメリカのアルゼンチンは食料品・原料品の輸入國として優れた位置にある。而して此等



第36圖 英國(本土)の外國貿易(1930年)

諸國に對しては何れも著しき輸入超過を示してゐる。

次に植民地との貿易関係をみるに、其の第一位を占むるものは印度であつて輸出入がほぼ均勢を示し、経済的に英國の最も重要な植民地たることを物語る。之につぐ諸地方は主なる自治植民地であつて、アイルランドからは畜産物、濠洲及ニュージールランドからは羊毛・凍肉・小麦等、カナダからは小麦・木材・バルブ等、南阿聯邦からは鑛産物・畜産物を輸入し、是等の諸地方には主に製造品を輸出する。直轄植民地であるセイロンからは茶・ゴム等を、海峽植民地からは錫・ゴム等を輸入する。



第37圖 イギリスの鐵鑛・石炭産地及工業地

**工業** イギリスは近世的工業の先進國である。産業革命の最も早く成立したのはこの國であつて一八四六年の穀物條令 (Corn Law) の廢止は此の國の産業が農業より工業に轉化した事を示すものである。此の國に工業の早く發達した原因に就いて考へると、その根本的理由として擧ぐべきものが二つある。其一は動力及原料の豊富であつたことである。動力及製鐵原料としては炭田に恵まれたことであつて、主なる炭田は次に示す五つの地

域である (第三七圖)。

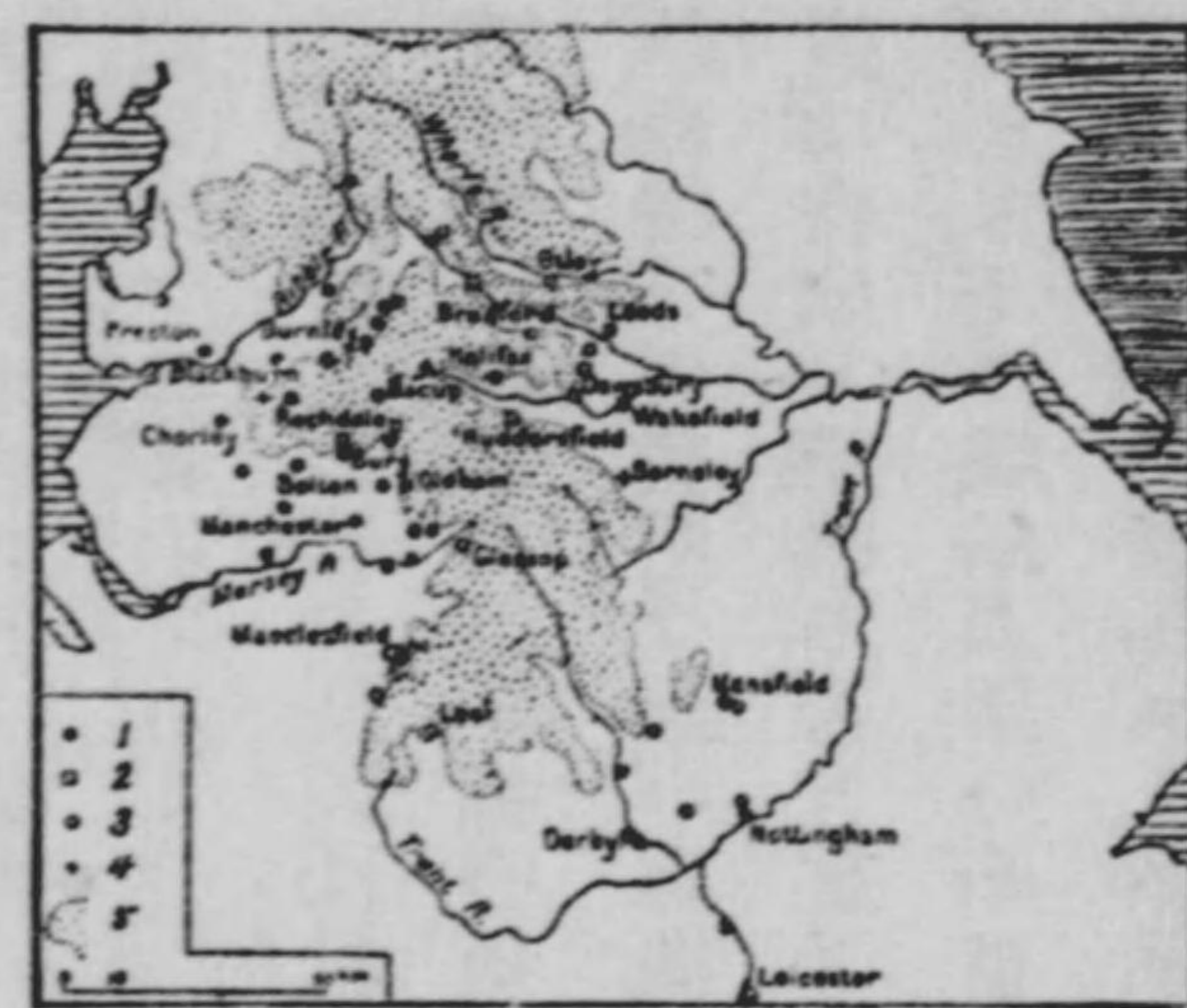
- 1 クライド炭田 (グラスゴー附近)
- 2 ノーザンバーランド・ダーラム炭田 (ニューカッスル附近)
- 3 ヨークシャー・ダービシャー炭田 (リーズ・シェフィールド附近)
- 4 ランカシャー炭田 (リバプール・マンチェスター附近)
- 5 南ウエールス炭田 (カーチフ附近)

工業原料としては本國産の鐵鑛、植民地産の綿・羊毛等を擧げることが出来る。北東イングランドのクリヴランド、北西イングランドのファーネス等の鐵鑛は古來この國の工業發達に重要な役割を演じたものである。

工業發達の第二原因は科學の進歩である。即ち第十八世紀末に於けるワットの蒸氣力の發見が各種機械の動力として利用せらるゝに至つたことである。アークライトの紡績機械、カートライトの紡織機等の發明は此の國纖維工業の發達に寄與した所大なるものである。かくてこの國の工業の特徴は機械・船舶の如き重工業と纖維工業にあるのである。

イギリス纖維工業の分布を熟覽するならば、ペンニン山脈の東西兩面に於て西部ランカシャー地方は綿工業、東部ヨークシャー地方は羊毛工業といふ著しい對立を示してゐることを發見するであ





第38圖 マンチェスター附近の織維工業  
 1 綿工業 2 羊毛工業 3 絹工業  
 4 麻工業 5 200米以上の地

有すること、鐵材の安價なること、

以上の如くイギリスは工業の先進國として世界戦前には世界の首位を占めて居つたが、戦後次第に米國にその地位を譲るに至つた。これは元來イギリス工業が保守的であつて、傳統を重んじ過ぎ、アメリカの如く時代の尖端を行くが如き新しき商品、例へば自動車・蓄音器・電氣機械・寫眞機・フィルム・ラヂオ等の産出少きこと及びイギリス製品が比較的高價である爲に各地の市場を新進の工業國アメリカ・ドイツ・日本等に奪食せられた爲である。イギリス製品の高價である原因は主として次の事情に因る。

技術の進歩等を擧げることが出来る。

らう。その原因の一は氣候的影響である。即ちペンニン山脈の西側は西風卓越して雨量多きに反し、東部は此の山脈に遮られて雨量少き爲牧羊に適してゐる。従つてこれを契機として東部地方に羊毛工業が発生し、西部には之を見なかつたのであつた。併し西部地方はアメリカ綿の輸入に便利な地位を占め、且つ濕潤な氣候を持つてゐる爲綿工業の發達を見たのである。

次に造船業の發達した原因を考へるならば、前に述べた如く此の國は世界に散在せる廣大なる領土と、これを結ぶ航路を所

1 イギリスは元來自由貿易國であつたが、近來次第に保護的色彩を帯びて來た爲輸入品に課税される結果、原料品・食料品が高價となつたこと

2 失業保險法・最低賃銀法等の社會立法が生産費を高めること

3 動力の變化、即ち石炭時代から電氣・瓦斯時代となつたことが、又製産費を高めること

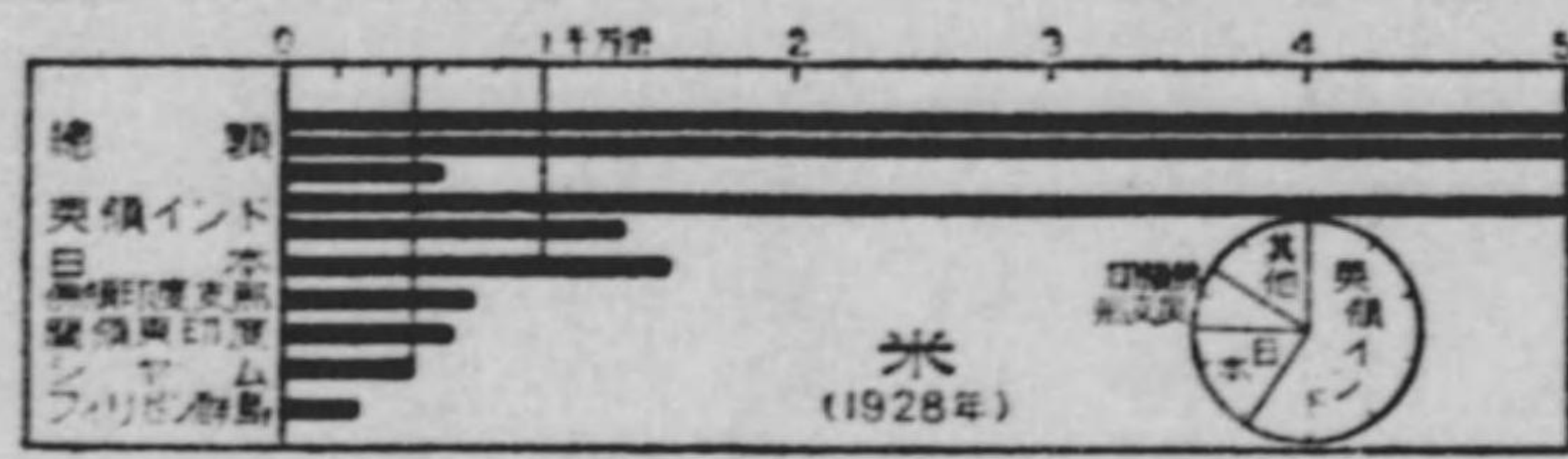
4 産業組織がアメリカに比へては大量生産的に合理化されてゐないこと

かくの如きイギリス工業の不振、従つて貿易の不振を挽回する爲には大英帝國の諸地方の經濟的連結を一層緊密ならしめることが必要とされ、かくて前述のオタワ經濟會議の開催となり、ブロック經濟の結成となつたのである。

## 第二項 主要植民地の經濟

**A 印度** 世界に於ける主要農業地の一であつて、其の農業資源はイギリス本國にとつて主要な寶庫である。印度農業の盛大である地理的要因として擧ぐべきことは、(1)耕地面積の廣大なること、(2)夏季季節風の影響、(3)冬季も比較的溫暖なる爲土地の大部分に於て二毛作の作はること、(4)農業人口の大なること及び集約的耕作法、(5)灌漑施設の發達せること等を擧げることが出来る。次にその主要農産物に就いて述べよう。

この圖及び表には米の大産地支那が數量不明のために省かれてゐる

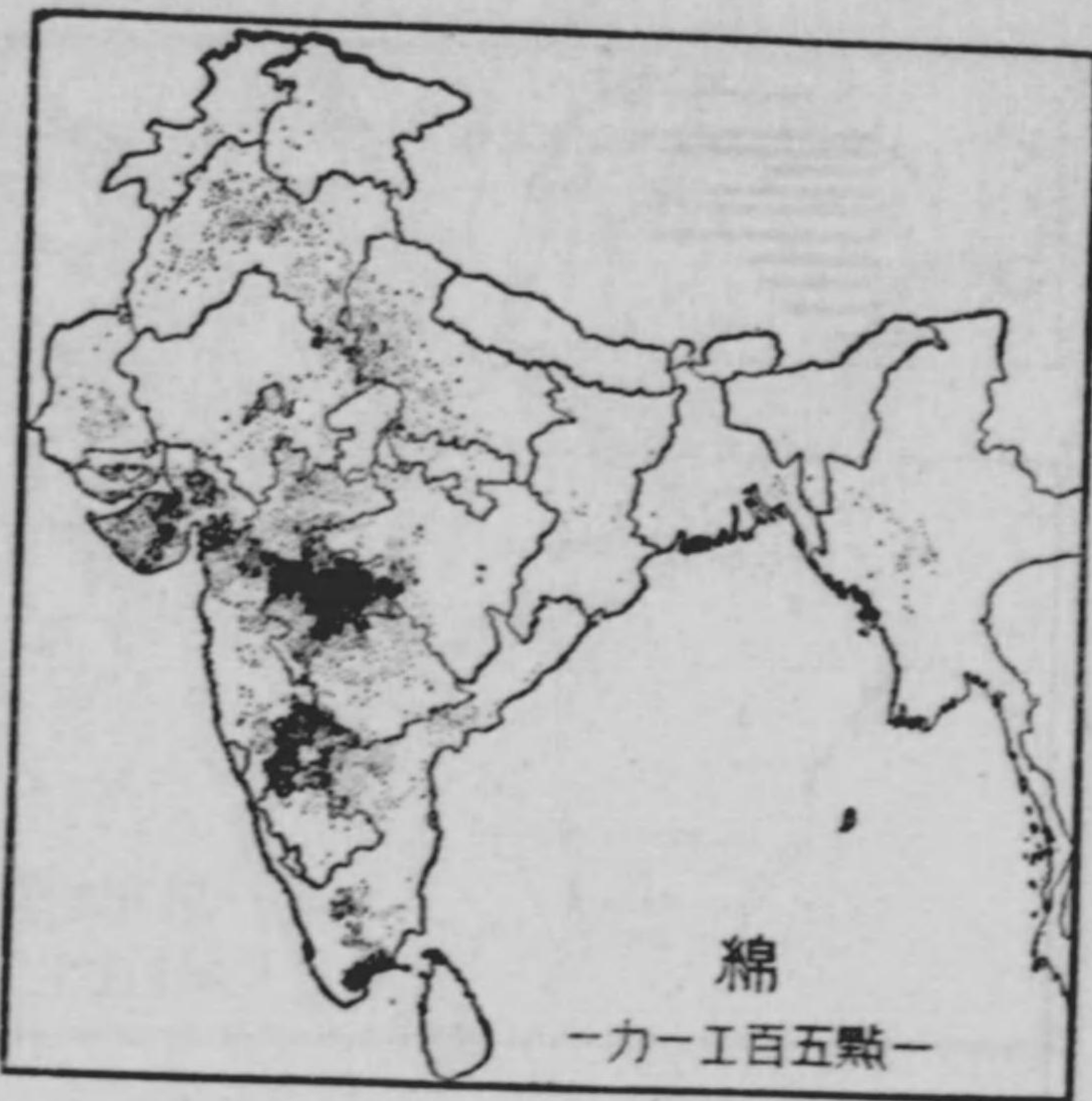


第39圖 世界の米産地及産額

米(第三九圖)七千萬乃至八千萬エーカーもある印度の耕地の約三分の一は其國の常食である米が作られてゐる。米の多くは濕潤地に適する種類であつて、ガンヂス・ブラマプトラ・イラワヂーの河谷やデルタ等に産する。印度自身大消費地であるが、ビルマ方面からは相當の輸出がある。

小麥(第八圖) 比較的乾燥したインダス河地方及びガンヂス平原の上流に多産する。西部印度の小麥は多く冬小麥で灌漑によつて作られる。耕地面積米に次ぎ約米作地の三分の一である。小麥はイギリス本國に相當の輸出がある。

綿(第一一圖・第一三圖・第四〇圖) 主としてデカン高原、殊にボンベイ附近の玄武岩に基づ



第40圖 インドの綿分布

く黒土地方に産し、日本に最も多く送られる。

甘蔗(第四一圖) キューバ・蘭領東印度に次いで世界第三である。主として肥沃なガンヂス平野に作られ、大部分の砂糖は國內で消費せられる。

黄麻 ズックや麻布に用ひる爲に黄麻の世界的要求が年々多量に上る。それ等の多くは印度に産しガンヂス・ブラマプトラのデルタの低濕地に多産する。印度特有の生産である。その多くは麻布とかズックとして輸出される。アメリカ合衆國は年々小麥の袋や綿の包装用として

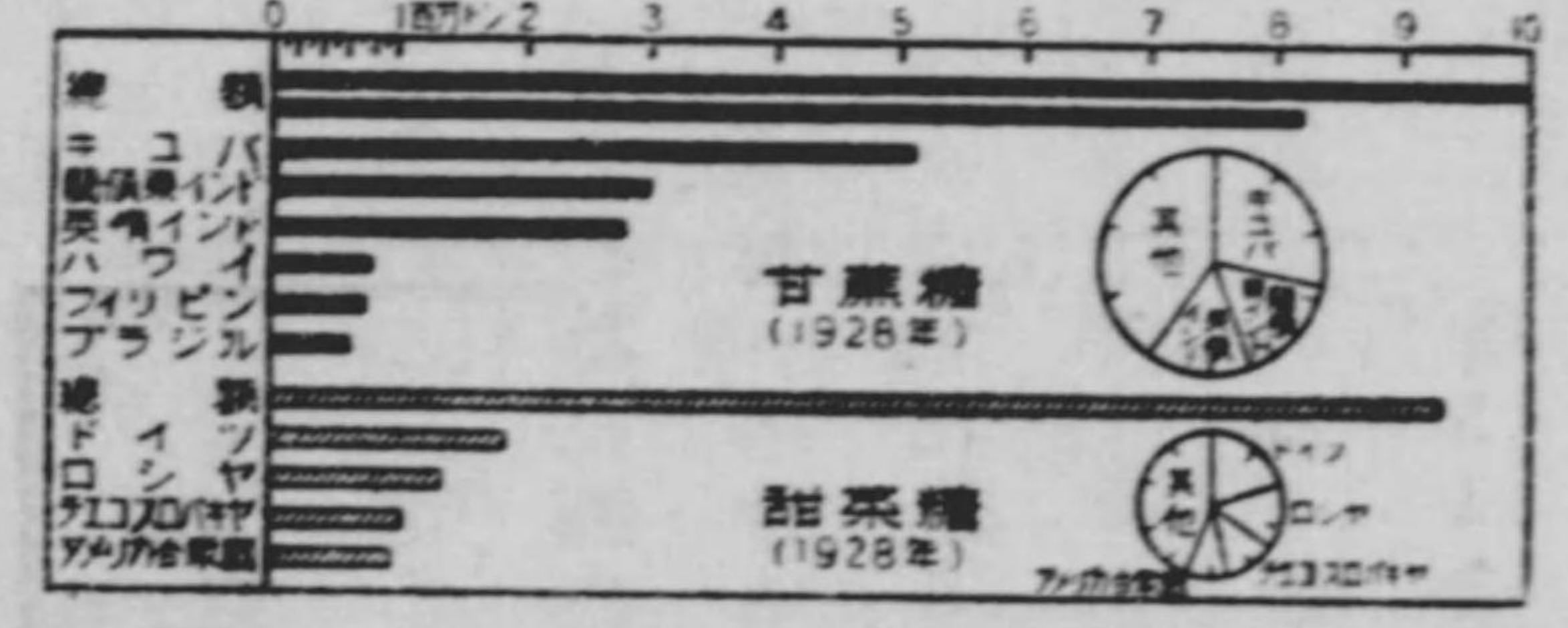
數億ヤードの黄麻を使ふ。

油種子 蓖麻・亞麻・荻藁・芥子・胡麻が數百萬エーカーを占めて居る。それ等の油は印度の主要な輸出品の一をなして居る。

茶(第四二圖) 主としてセイロン島(インド帝國以外の地)及び北東印度の濕氣多く排水の好いアッサム地方の丘陵に産する。安價な土人労働者を備つてイギリス人の管理の下に收穫される。印度は世界有数の茶の輸出國であるが、その大部分はイギリス本國及びイギリスの植民地に送られる。



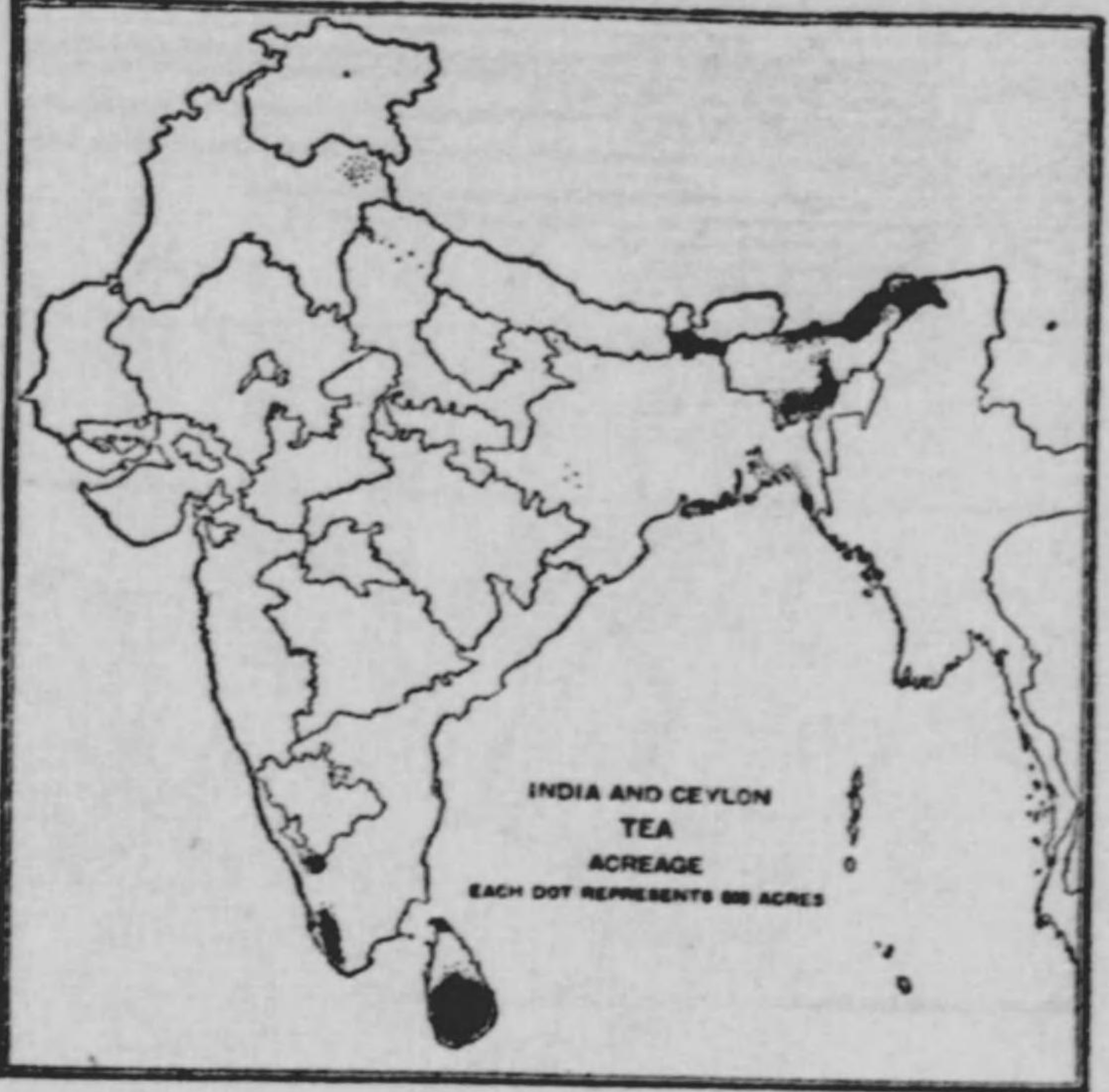
上圖の斜線地域は數量不明の産出地域である。



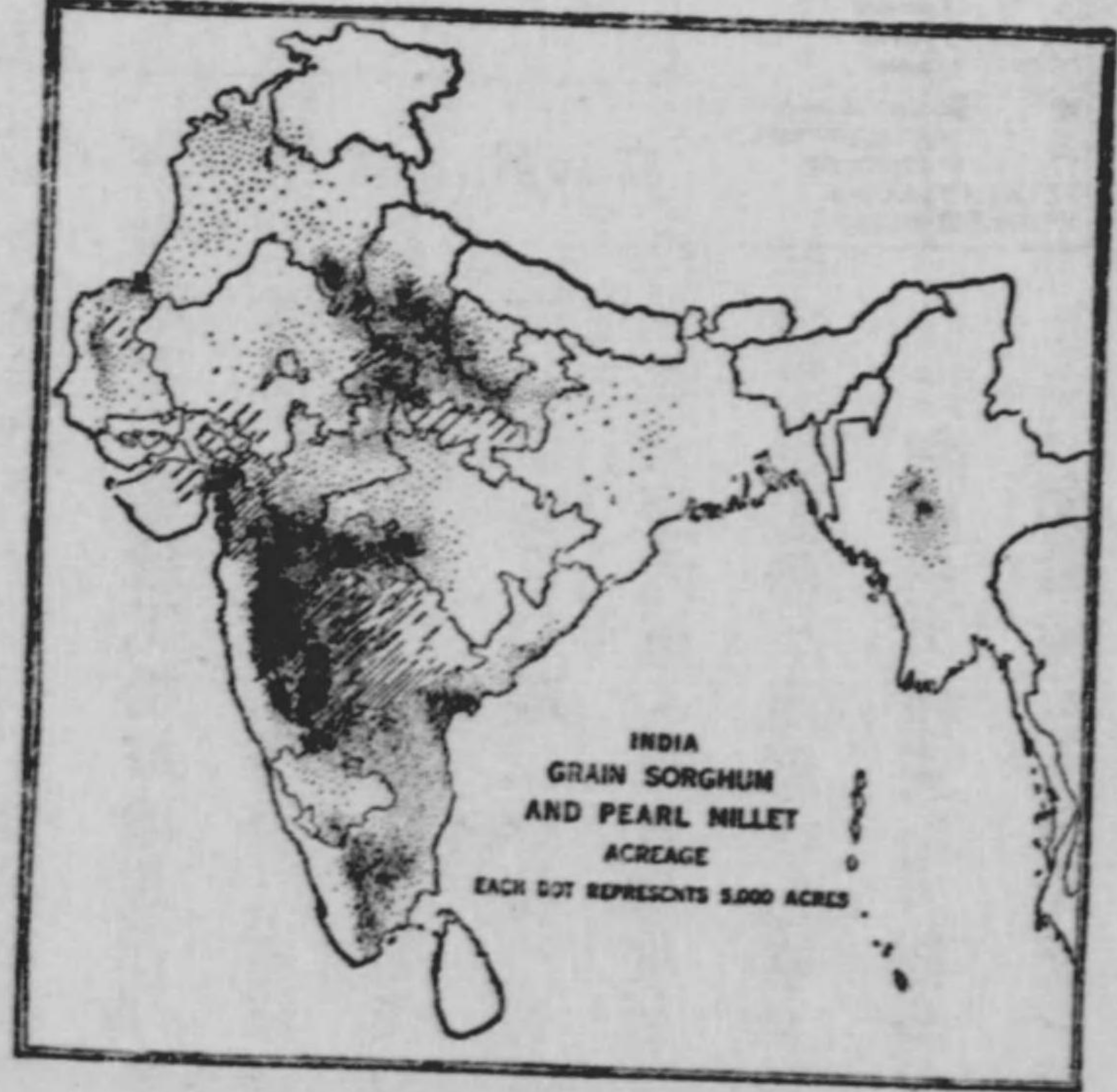
第41圖 世界の甘蔗・甜菜の分布と産額

粟・稷(第四三圖) デカンの乾燥した地域に於ては粟や稷が其地の土壤や氣候に特に適してゐるといふ事がわかつた。これ等の穀物は印度の食用としての主なる穀物の一を爲してゐる。そして輸出はされない。

印度灌漑事業の高度の發達 印度は灌漑區域の廣い點に於て世界有數である。數千年前から行はれてゐた灌漑地にイギリスの技師が尙一層それを増加せしめ、今や五千萬エーカーに達した。その爲には政府によつて作られた貯水池は勿論のこと池やタンクや小池の貯



第42圖 インドの茶分布

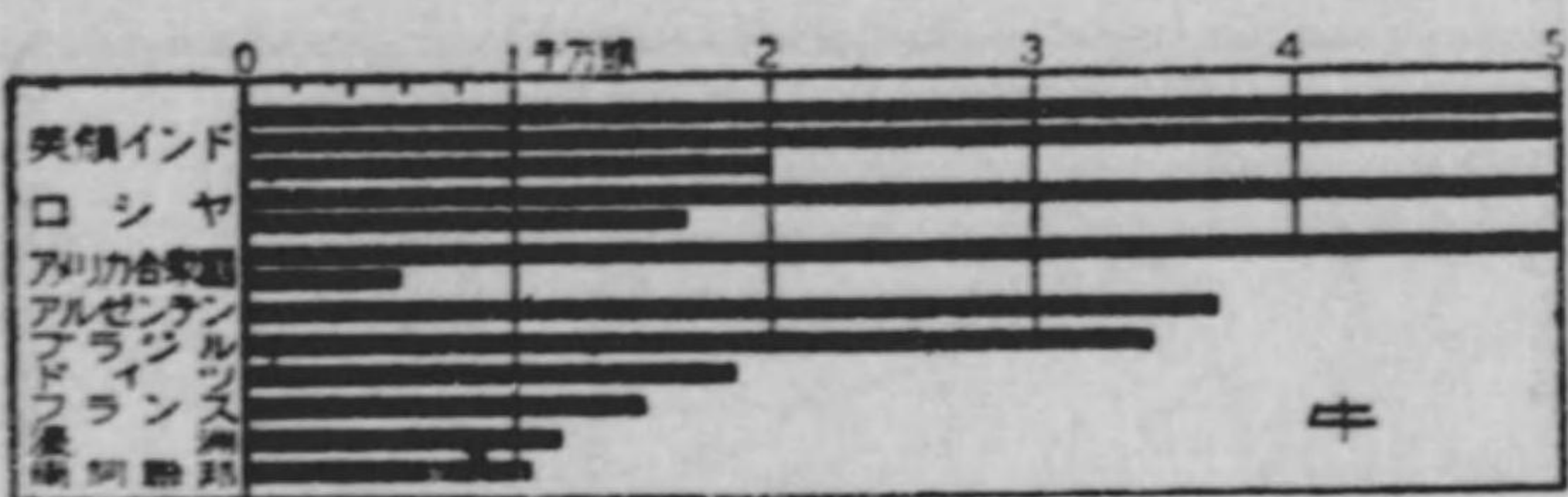


第43圖 インドの粟・稷分布

水は用ひられて居る。ガンダスやインダスの谷に於ける非常な灌漑事業の發展によつて、印度の穀物生産力は實質的に増加した。これはイギリス統治の賜物である。

家畜 農家に飼用される主な家畜は牛と山羊である。牛の頭數はアメリカ合衆國の二倍であり、アルゼンチンの約四倍で、世界の四分の一である。印度人は肉としてそれ等動物を餘り食へない。只乳を若干飲むだけで、主として勞役牛として用ひられる。ヒンズー教の敬虔な信者は餓死しても動物を殺すといふ事に反對する。

下圖の斜線地域は數量不明の飼育地域である



第44圖 世界の牛の分布と頭數

印度の水牛は米の産地に於て特に多く用ひられる。それは水田勞役に適するからである。山羊は世界の四分の一が印度に飼はれる。従つて山羊皮の主なる産地である。羊や豚はそれ程でもない。

工業 過去に於て印度は手工業の國であつた。もと／＼勞働力は豊富なものあり、最近工場が増加し、平均一千人も備つてゐる綿工場が三百以上にも達してゐるが、主に國産の綿を使つてゐる。平均三千五百の職工を持つた黄麻の工場は五五乃至六五もある。たゞ二つの大規模の製鐵工場が印度にある。イギリス政府は實際に此の植民地の製造工業を奨励しない。その理由はイギリス製品の最も大

きい購買者であるからである。其の上印度は熱帯又は亞熱帯で工業には適しない。しかし印度も著しく進歩を遂げて一年に一億弗のアメリカの機械を買ふ程になつた。

外國貿易 一九三〇—三一年(三月末)の一ヶ年の輸出額は一七億圓、其中、英本土へ二割、日米へ各一割を出し、輸入額は一四億圓中、英本土より三割、米・日より各一割を入れる。而して貿易上の特性は次の諸點である。

- 1 輸出入の總額は年約三〇億圓である。しかし一人當り一〇圓以内の少額である。
- 2 五つの農産物が輸出の大部分を占める。即ち黄麻及同産品・綿及同産品・茶・皮革・米である。
- 3 輸入の約七五％は製造品であることは此の國の工業的狀態の進歩しないことを示す。
- 4 輸出入共にイギリス本土が第一位である。これはイギリス本土が印度の貿易を制してゐる證據である。

5 イギリス本土はインドより買ふ約二倍の額をインドに賣る。それはイギリスが印度を保持する事を要求する他の理由である。

6 ヅック布や他の黄麻製品はアメリカ合衆國への印度の輸出の約半を占める。これはアメリカ合衆國(及全世界)のこれ等の重要な物産を印度に負ふてゐるといふ事を示す。

7 綿を最も多く日本に賣つて、安い日本の綿糸布等を買ふ。この事がイギリスのランカシャー工

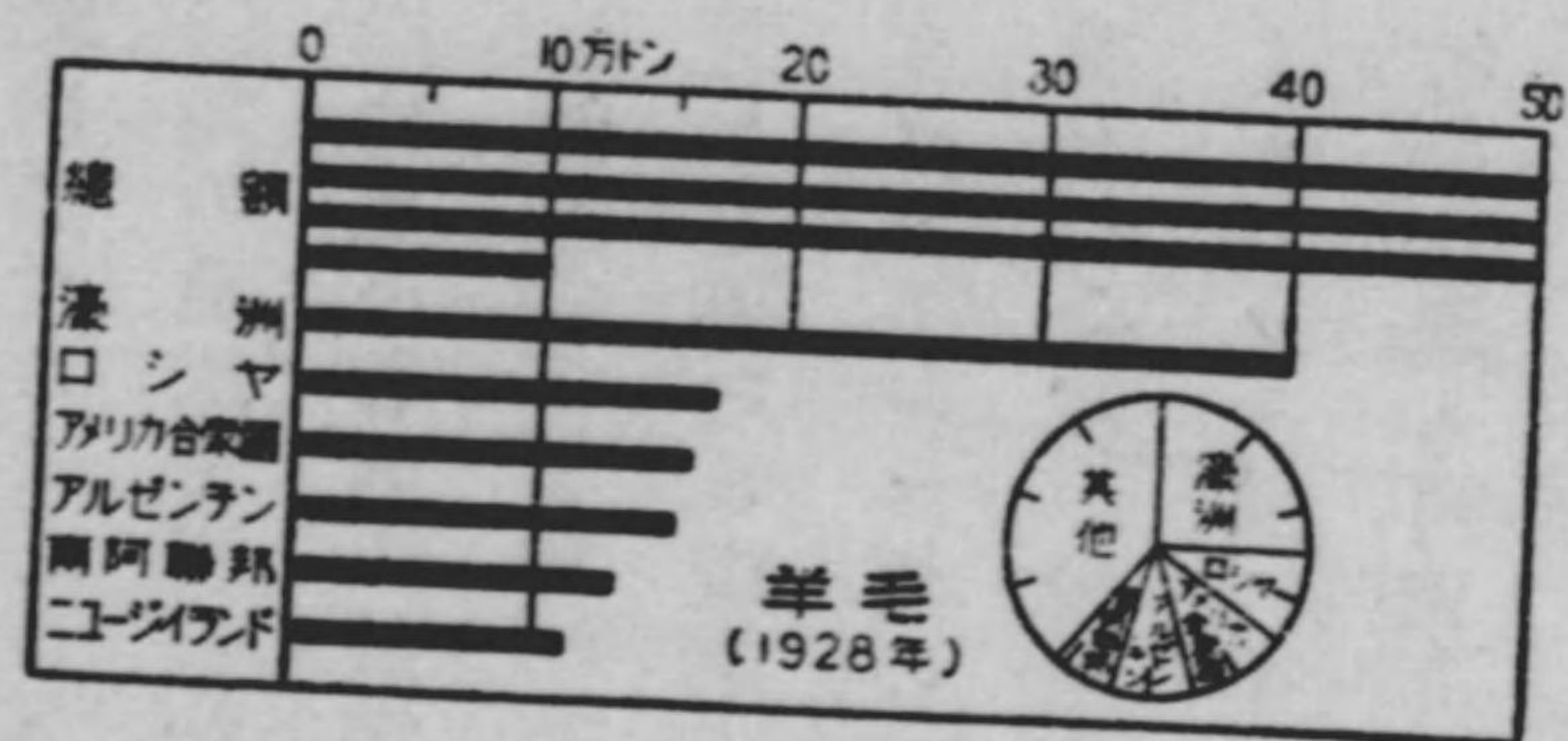
業者を脅かすこととなるので、本年十月よりの日印通商條約廢棄宣言となり目下日印兩國、ひいては日英兩國經濟上の大問題となつてゐるのである。

**B オーストラリア** オーストラリアは他の大陸から隔絶された大陸であつたので、漸く第十八世紀に於けるクック (Cook) の探検によつて一七七〇年その東岸がイギリス領となつた。其の後イギリスの流刑植民地として移民が試みられ、牛・羊等の有用動物も輸入されたのであつた。やがて此の地方に金鑛が発見されるや移民殺到し、東部・南部・南西部等の風土の適した地方は、すべて白人の居住地と化し、産業も興隆して大英帝國の重要な自治植民地の一となつた。

オーストラリアの産業の中、最も重要なものは牧畜業・農業・鑛業である。次にこれらに就いて略説を試みる事とする。

**羊** 濠洲の羊は主に羊毛を得る爲に飼育されるものであるが、其の飼育地はニューサウスウェールズ州とビクトリア州を主とする。大體一年の降雨量が二五〇乃至五〇〇耗の間の地域が最も適してゐる。これは一定の雨量がなければ牧草の成育を妨げ、雨量多きに過ぐれば疾病を起す恐れがあるからである。尙、氣温も攝氏二五度を超えざることが必要である。何となれば羊の毛は寒氣を防がんが爲に生長するものであるから。羊及羊毛生産は世界第一位にある (第四五圖)。

**牛(第四四圖)** 牛は羊に次いで此の大陸に於ける重要な畜産であつて、クキーンズランド及びニ



下圖の斜線地域は數量不明の飼育地である



第45圖 世界の羊分布と羊毛産額

ューサウスウェールズ兩州の山がちな雨量の多い羊の飼育に適しない地方に多く飼はれる。濠洲に於ける牛は乳及肉の兩方面を主なる目的とする。乳牛は東部及南部の海岸地方に多く、酪農業即ち幼兒哺育料のラクトーゲン等の製造が盛である。尙、凍肉の産額も侮り難い。

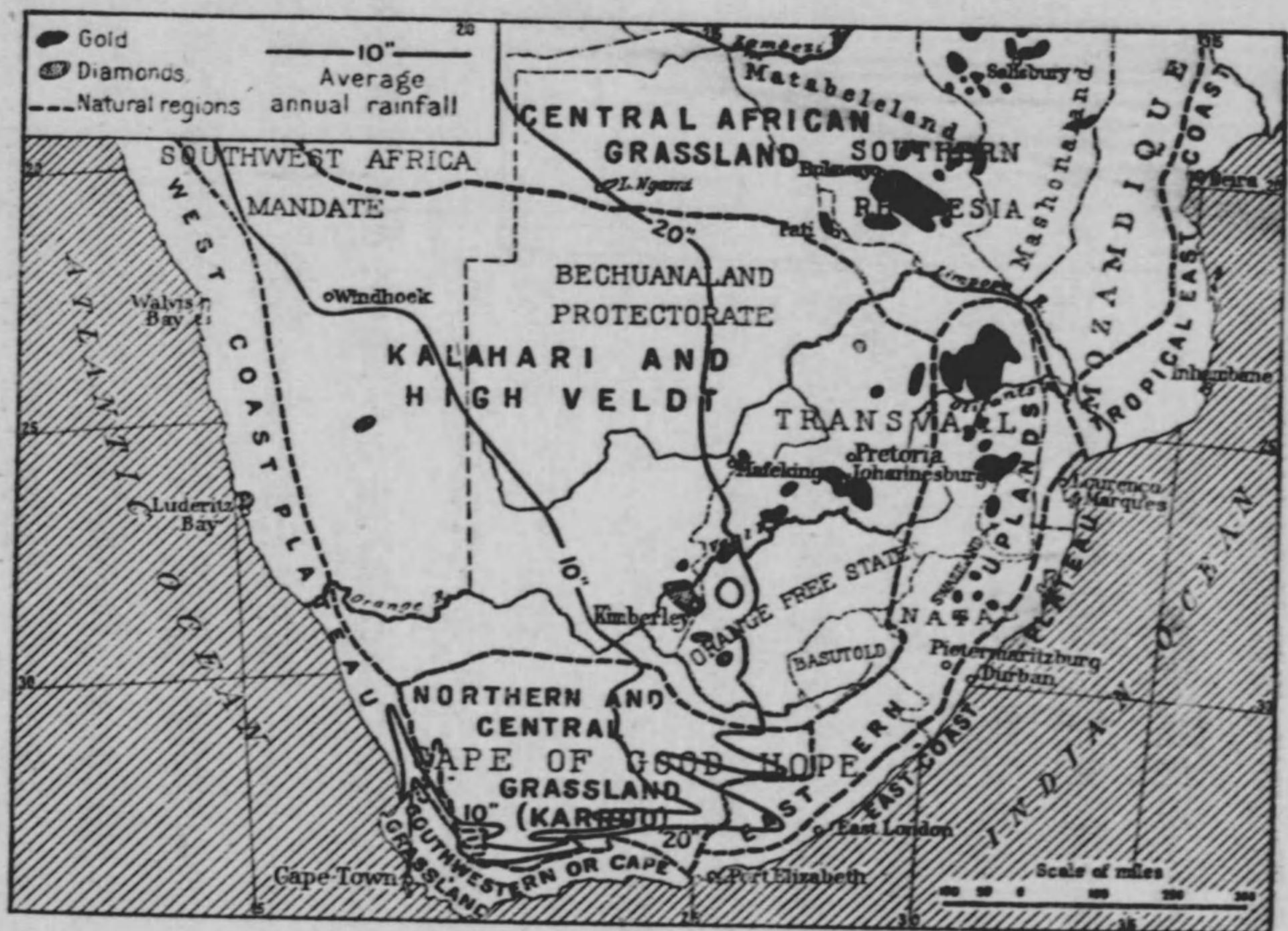
小麥(第八圖・第九圖) オーストラリア

ヤ農産物中、主位を占むるものは小麥であつて、その産額一三千万ブッシェルに及ぶ。その中、濠洲に於て消費する量は約四百萬ブッシェルであるから世界市場に出される額は八五百萬ブッシェルに達する筈であり、重要な

輸出品たることは言ふまでもない。小麦は南部地方(南緯二六度以南)の一年の降水量二五〇乃至五〇〇耗の地域で、しかも收穫期に近づいて雨の多い地方に多く産出する。其他クキンスランドの東海岸に多い甘蔗・綿等も看逃すべからざる物産であらう。

鑛産(第四七圖) 東方山地に金鑛が発見された事が此の國に移民の來集した動機となつたやうに鑛業も重要な産業である。現在繁榮してゐる金山はヴィクトリア州のバララット山で、ニューサウスウェールズ州のバサースト山に次ぐ。西部オーストラリヤは一八九二年より一八九五年に互り處々に金鑛が発見され、現在活動を續けてゐるのは東クールガルヂー・東マチソン・マウントマールガレット及マチソンであるが、漸次衰微に向ひつゝある状態である。其他銅・銀・鐵・亞鉛・鉛等の金屬も可成りの産出を示してゐる。最後にニューサウスウェールズのニューカッスルからシドニー附近にかけて擴がる炭田は多量の石炭を産し、タスマニヤ東部のフィンガル附近の炭田も有名である。

貿易 オーストラリヤ聯邦の對外貿易額は一九三〇年に約二六億圓(内、輸入一三億圓・輸出一二億五千萬圓)で、イギリス本國及英領との貿易が其の半額以上を占め、中にもイギリス本國との取引は第一位を占める(イギリス本國よりの輸入五億四千萬圓、輸出六億六千萬圓)。前述の如き産業を主とする關係上、主要輸出品は畜産(羊毛・肉・皮革・バター)・農産(小麦及小麦粉)・鑛産(金・石炭・銅・鉛・錫・亞鉛)で、主要



第46圖 南阿聯邦の鑛産分布

輸入品は大部分製造品である。

**C 南阿聯邦** 南阿聯邦の産業は鑛業を第一とし、牧畜及び農業之に次ぐ。今左にその主産物について述べる。

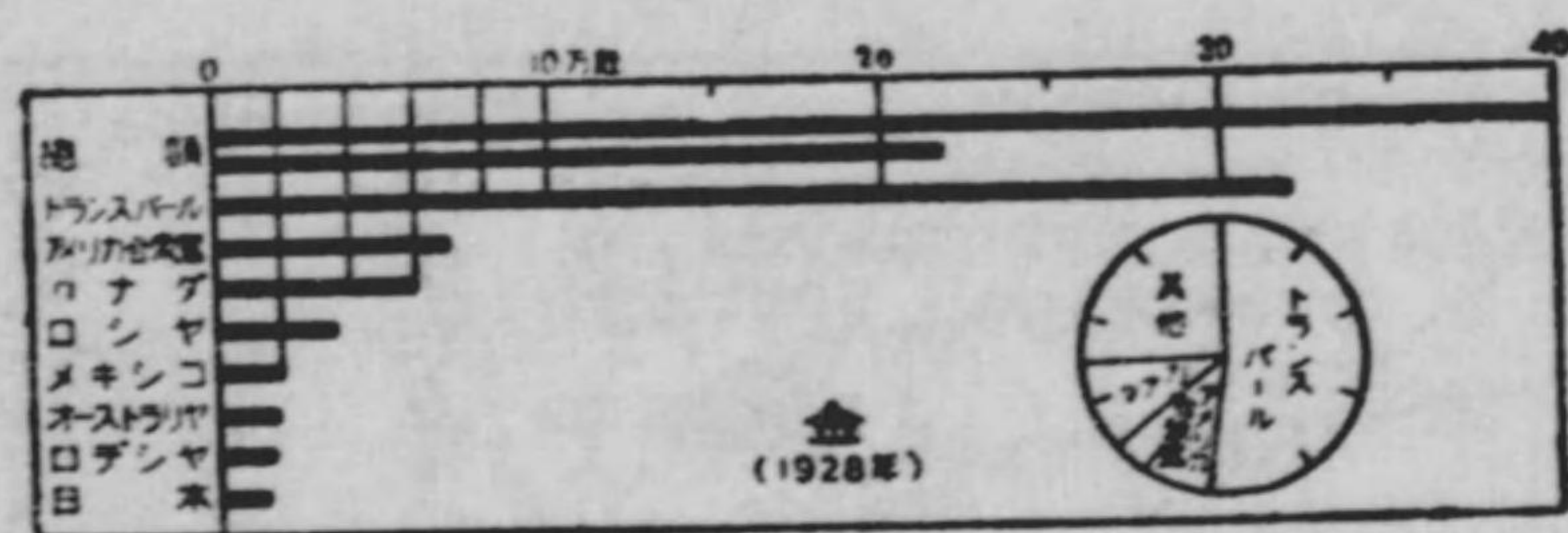
金剛石 一年に世界市場にあらはれる金剛石の九五%以上は南アフリカから産出する。プレトリアには有名なるブルミヤ鑛山があり、他の數ヶ所にも可成り重要なダイヤモンド鑛區があるけれども、キンバリー市郊外のものがその最たるものである。ダイヤモンドは古い火山の火口を充した火山岩質の岩石(キンバライト)で所謂青盤(Blue Ground)と呼ばれる地盤から得られる。其の青盤を掘上げて數ヶ月間空中に曝し、其の崩壊を待ち碎いて豚脂で塗つた板の上で水選すると土石は

流れ、金剛石は此の脂に附着するのである。かくして得られた金剛石はニューヨーク・ロンドン・パリに殊にアムステルダムに送られ、其處で磨いて賣出されるのである。主なるダイヤモンドの鑛山は獨占權を持つてゐる一つの會社の監督の下にある。そしてダイヤモンドの價を高價に維持する爲、市場へ徐々に供給する。鑛山の仕事には多く土人が従事する。彼等はダイヤモンドを盗まない様に雇傭期間丈絶えず圍ひの中に居らされるのである。粗金剛石の年産出額は約一億圓であるが、最後の寶石ダイヤモンドの賣價はこれの數十倍で一九三〇年には三〇億圓に及ばんとした。

金 トランスバールの花崗岩より成る山脈所謂ランド (Rand) 地方は金に富み、世界第一の産金地として知られてゐる(第四五圖)。此所では最新式の機械を用ひ二〇萬人以上(内白人は九分の二)の勞働者を使用してゐる。

羊(第四五圖) 羊の頭数は世界第四位にして四千五百萬頭に達する。それ等は主としてメリノーであつて羊肉を取るよりは羊毛を取る爲に飼はれる。羊毛は此の國第一の非金屬輸出品であつて半乾燥溫帶地方の牧羊地の一例である。

山羊 一千萬頭から一千二百萬頭に達する。山羊の牧養は半乾燥の原野に適する。何となればこの抵抗力大なる動物は牧草の最も少い土地にも生きる事が



第47圖 世界の金産額

出来るから。彼等は世界のあらゆる部分に於て、乾燥した岩がちの土地に飼はれてゐる。アンゴラ山羊の毛は南アフリカに六百萬封度も産出され、織物の原料として輸出される。軽い靴に用ひられる山羊や羊の皮は、又この國の重要な輸出品である。概して軽んじられた山羊はその生存の保證される點から、豫想以上に此の世に役立つてゐる。例へばアメリカ合衆國はアジャから一年に三千萬頭の山羊の皮を輸入するのである。

牛(第四四圖) 牛は人口よりも多い(約一千萬頭)。そして牛群は此の聯邦に於てあらゆる場所に遊牧されてゐる。アフリカの大部分には牛や馬を惱ますベストが多い。これらベストの害は非常に多く、これが熱帯アフリカ及び南アフリカに馬の多く飼養されない一大原因である。牛は馬より一層抵抗力が強い。しかしダニ(扁蝨)は絶えざる牛の脅威であるので驅除に力めてゐる。

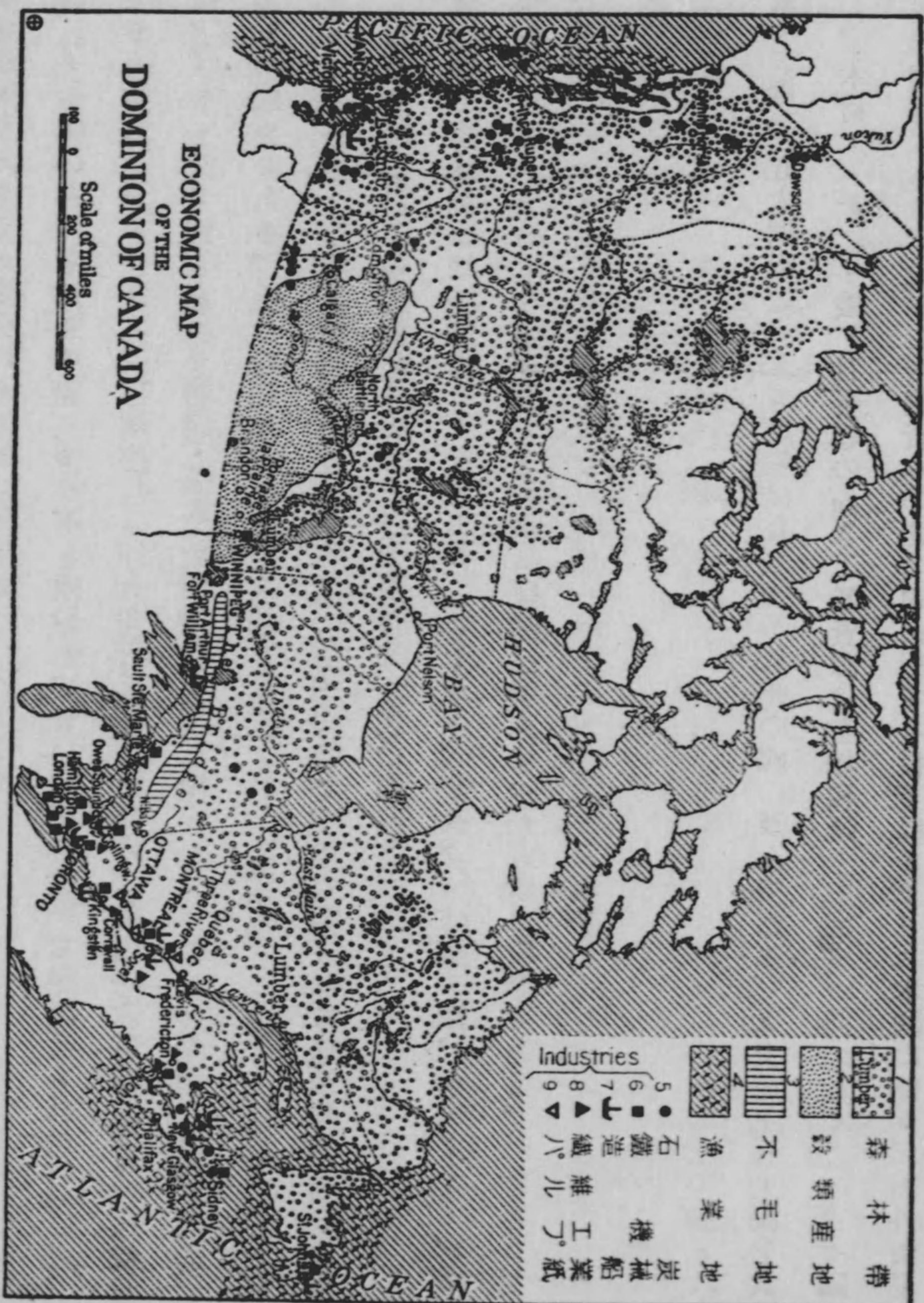
駝鳥 は夙に南アフリカに輸入され、一部は家に飼育された。この大きい鳥の尾と翼との美しい羽毛は、何時の時代にも歐羅巴やアメリカに於て高價を保つて來た。これが爲に駝鳥を圍ひ飼にし、ある期間をおいてはその羽毛を抜き取ることが行はれ、遂に永久的の駝鳥飼育業を起らしめたのである。大戰前には南アフリカの此の産業は一年に二千萬乃至四千萬圓に達する羽毛を供給し、此の國から輸出される金剛石の四分の一の額を占めた。この鳥は注意深く飼はれるのでなければ良質の羽毛は得られない。しかし駝鳥の羽は贅澤品であり、流行の風潮に従ふ特殊のものである。故に時

には需要が増して價が飛躍し、時には流行はづれとなつて下落し、南アフリカや北米のアリゾナやオーストラリアの此の産業が破滅に面することもある。例へば一九一〇年にはアメリカ合衆國は七百萬弗の駝鳥羽毛を輸入してゐるが、二年後には一二五萬弗、一九二七年には僅か二〇萬弗しか輸入してゐないのである。一九二九年の如きはアメリカ合衆國だけでなく、歐羅巴各國其他總てに對する全輸出額が二一萬弗に止つてゐる。

**貿易** 南阿聯邦一九三一年の輸出七億圓・輸入五億圓で、輸出の七割はイギリス本國、一割はイギリス領と取引し、又輸入の五割はイギリス本國、一割はイギリス領と取引する。外國との取引は最も多くアメリカ合衆國との間に行はれる。主な輸出品は金・金剛石・皮革・玉蜀黍で、主な輸入品は食料品・綿製品・金屬製品・電線等である。

**Dカナダ** カナダはアメリカ合衆國に接続する南部地方が此の國經濟上の核心であつてアメリカ合衆國と經濟上密接な關係を有し、地理的には合衆國の經濟地域の延長をなす。即ち春小麦地帯は合衆國中北部からカナダの南部に亘り、酪農地帯は合衆國北東部からカナダの南部にまで及んでゐるし(第一〇圖)、五大湖附近の工業地帯は合衆國から此の國に及んでゐる。又交通上五大湖を共通に使用し、木材・パルプ・鐵・石炭等の如き工業資源は有無相通じてゐる。此の如くこの二ヶ國は經濟上依存關係にある。従つて米國資本の此の國に對する投下はイギリス本國に優り、對外貿易額も

第48圖 カナダの産業分布





合衆國はイギリス本國の上位にある。

尙既に合衆國の經濟を述ぶる際にカナダを附説しておいたから就いて参照せられたい。

カナダの貿易を見るに一九三〇年度(一九三一年三月末迄)に於ける輸出一六億圓・輸入一八億圓で、輸出はアメリカ合衆國(七億三千萬圓)・英本國(四億四千萬圓)、輸入もアメリカ合衆國(一二億圓)・英本國(三億圓)の順序である。主な輸出品は小麥(三億圓)を第一とし、其の他バルブ・小麥粉・板・魚類・銅・ウイスキー・ニッケル・金・自動車・毛皮・チーズ(二千萬圓)等で、主な輸入品は鐵及鐵製品(六億圓)を第一とし石油類・石炭・綿及綿製品・羊毛及羊毛製品(九千萬圓)等之に次ぐ。

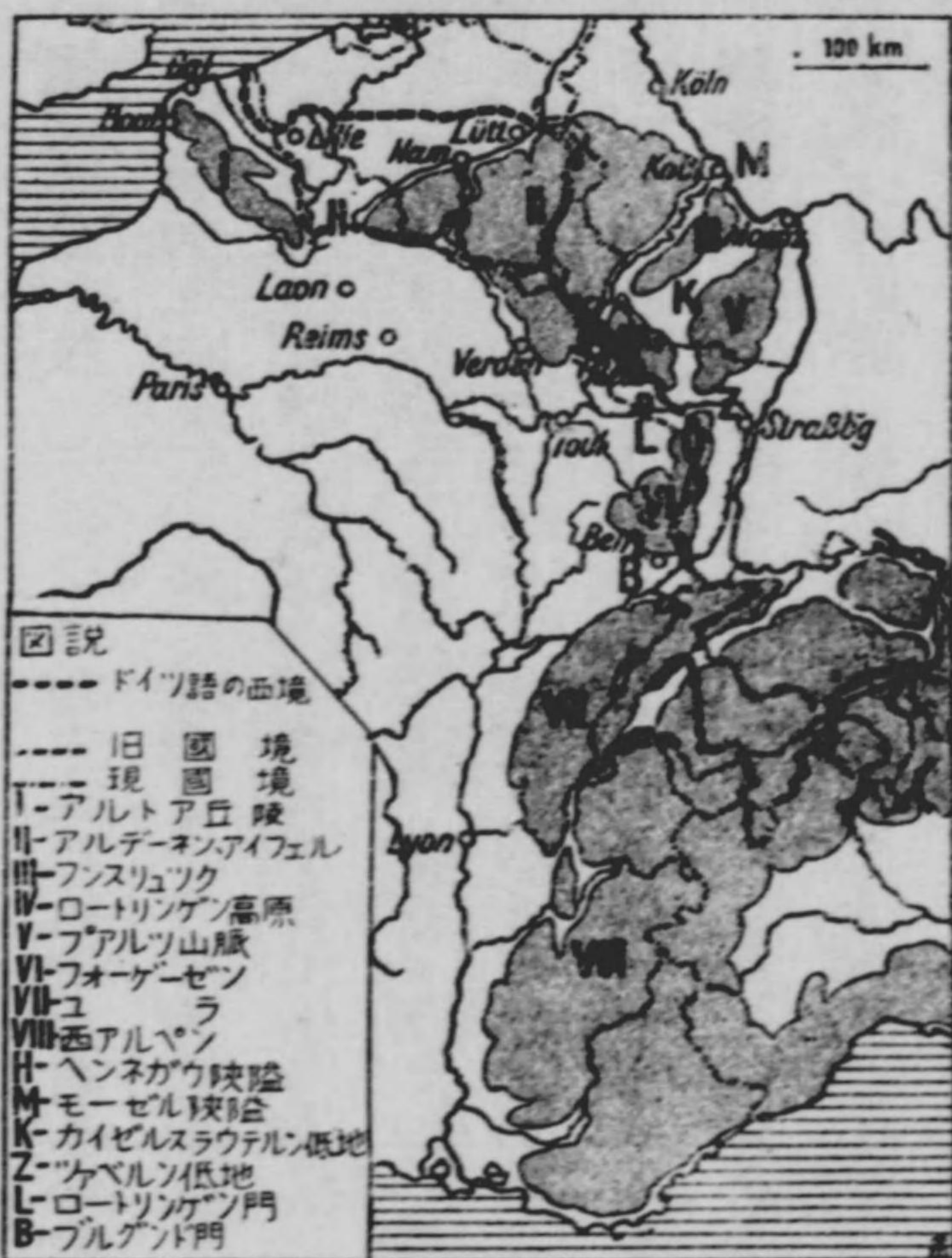
**E其他** 海峡植民地の錫・ゴム、セイロンの茶・ゴム、ロデシヤの金・銅、ニューFOUNDLANDの水産、アイルランドの畜産等もイギリス經濟上看過すべからざる資源である。

## 第四章 フランス

### 第一節 國家の統一性

フランス國家の統一性を便宜上國土・國民・政治の三方面から考察する。

**國土の統一性** フランスの本土は大體六角形の輪廓をなし三面海に面せる半島の性質を持つた纏つた一團塊をなしてゐる。中央よりや、南に偏し、所謂中央高原が蟠まつて居り、パリ盆地アキタニヤ盆地・ソースロース河谷平野がこれを圍んでゐる。南西陸境はピレネーの障壁を以て明瞭にイベリヤ半島と界し、南東部はアルプス及びジュラを以てイタリー・スイスと隔絶してゐる。たゞ北東、ドイツ・ルクセンブルグ・ベルギーとの境はフォーゲーゼン・アルデーネン等の地塊山地はあるが、ベルフォール(ブルグンド門)・ツアペルン・ロートリンゲン門・モーゼル河谷・ヘンネガウ陝隘等のギャップが存在して、軍事的には價値少き境界をなしてゐる(第四九五〇圖)。世界戦役に於てドイツ軍はこれらのギャップを利用してフランスに進入を企てた。然しドイツ・フランスの國境は戦備嚴重であつた爲、ドイツ軍は中立國ベルギーを通過するヘンネガウ陝隘即ちアルデーネ

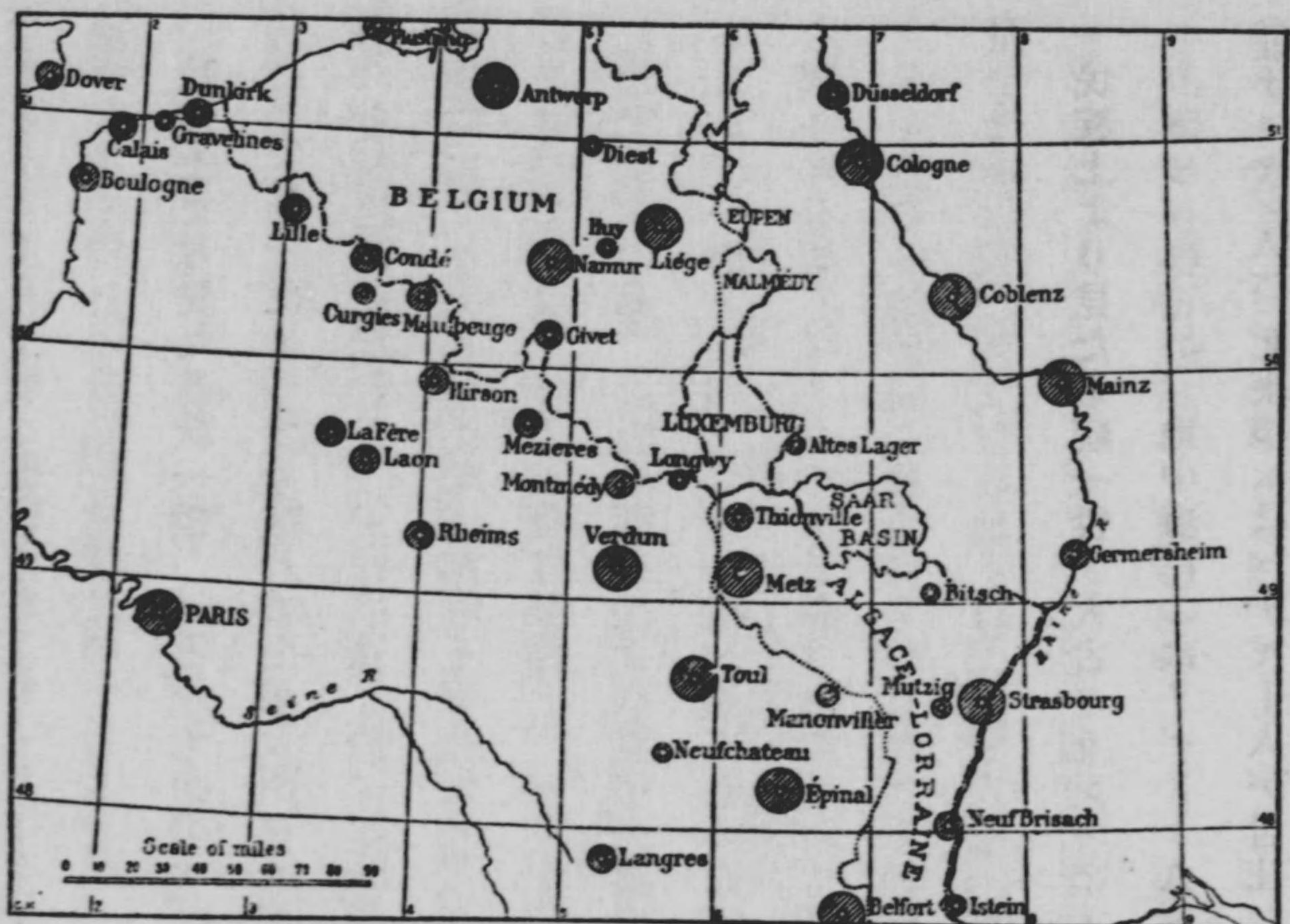


第49圖 フランスの北東國境

スカヤ灣方面にはロリアン (Lorient)・ロシフォール (Rochefort) の二軍港がある。

次に地中海方面の防備としては、ツローン軍港が置かれて此の沿岸並にアフリカ北岸のフランス領を掩護してゐるのである。

**民族上より見たる統一性** 太古フランスの大部分はアリヤン種であるガリヤ人(ケルト族)によつて占據せられたが、地中海岸にはリグリヤ人(非アリヤン人)、南西部ガロンヌ河岸まではイベリヤ人(非アリヤン人)、北東境にはベルギー人が居住した。その後、地中海岸にはギリシヤ・フェニキヤの



第50圖 フランス北東國境附近の要塞(世界戦役中)

植民地起り、續いてローマ人も植民し、殊にシーザーのガリヤ征服以來フランスの全地域はローマ化された。たゞブルターニュ半島にはケルト文化が残り、ビスカヤ灣頭附近にはバスク人が残存して尚イベリヤ文化を傳へてゐる。

次にかの民族大移動時代に東方からゲルマン族の侵入があつた。即ち西ゴート人はガロンヌ流域にブルグンド人はロヌ河谷に、アレマン人は上ライン及びロレーン地方に、フランク人は北ガリヤに入り、先住の民族と次第に融合した。更に第九世紀―第十世紀にはノルマン人の侵略があつて、フランク國の北岸にノルマンデール公國を建てたが、これも先住民族の文化に融合した。

かくの如く現在のフランス人は諸種の混血で

はあるが、文化上特に言語系統上からはラテン民族に屬し、地形の統一性の影響を受けてフランス國民として独自の發達を遂げたのである。

**政治上より見たる統一性** カール大帝のフランク王國がベルダン條約(八四三年)及びメルセン條約(八七〇年)によつて分離して出來た西フランク王國が今のフランスの起源である。中世には此の國にも封建制度起り、王權は餘り振はなかつたし、又その領土の一部はイギリス領となり久しく英佛間にフランスの土地支配權を争つた(所謂百年戰役一三三九—一四五三年)。然るに其の後近隣諸國に先立つてフランスの王權は發達し、ルイ十四世に至つてその頂點に達し、略して現在の國土を保有した。かくの如く近隣諸國に先立つて中央集權の實を擧げ得た原因は、人的要素を最とすべきではあるが、一面その國土の統一性が然らしめたといふことが出來よう。後に述べるドイツに於て久しく國土の分裂してゐたのと比較するならば、思ひ半に過ぎるであらう。ルイ十四世以後にはナポレオン一世の一時的領土擴張はあつたが、その没落後は従前の國土に復し、一八六〇年にはイタリアよりサボイ及びニースの地を得、又一八七一年普佛戰役の結果アルサス・ロレーンを喪失したが、世界戰役(一九一九年)によつて之を回復した。

フランス革命以後屢々國體を變じたが、現在の共和制は所謂第三共和國(註)で一八七〇年普佛戰役中に成立したものである。

(註) 第一共和國は一七九二年フランス大革命の際に成立したものを云ひ、第二共和國は一八四八年の二月革命に出現したものを指す。

フランスは共和制であるが、政治は頗る中央集權的であつて、國都パリに國家樞要の機關が集中し、その國家組織はアメリカ合衆國の如き聯邦組織ではなくて、全國を九十縣(Department)に分ち、これらの縣は自治を許されてゐるのみである。

## 第二節 對外政策及植民政策

**對外政策** フランスには近世の傳統的政策として所謂大陸政策(Continental policy)なるものがある。これはヨーロッパ大陸の覇者たんとする政策である。そもかくの如き政策が此の國に持續され來つた所以は何に歸せられるのであらうか。蓋し、前述の如くフランスの中央集權が近隣諸國に先立つて發達し、或はルイ十四世の事蹟に見らるゝが如き、或はナポレオン一世の活動の示す如く、屢々その國力に於ても、その文化に於てもヨーロッパ大陸諸國の支配的指導的地位を獲得した民族的經驗から來る自負心の發現と考ふるも大過なからう。

次に現代フランス大陸政策の現はれとも見るべき事實を述べよう。既に歐洲諸國間の關係を述べた際に一言した如く、世界戰役後ロシアと舊敵國ドイツ及び現對立國イタリアとの間に存在する、

北はフィンランドから南はギリシヤに至る十餘の小國家中、特にポーランド・チエッコスロバキヤ・ユーゴスラビヤ・ルーマニヤには或は教官を送り、或は資金を貸與してその發達を援助してゐるのは、一方ロシアに對しての防波堤たらしめ、他方ドイツ・イタリヤに對し之を東方より牽制・壓迫せんが爲である。

現在及將來のフランスにとつて最も恐ろしいのはドイツの報復である。従つて前述の如き世界戦後のフランスの對歐政策は**對獨政策**を中心として動いて、歐洲の現状維持に汲々たる状態である。世界戦役によつてドイツ軍の爲に最大の慘禍を蒙つたフランスは、ベルサイユ條約によつて列國と共にドイツに重大なる刑罰的負擔を課し、ドイツをして容易に復興し得ざる様にした。即ちアルサス・ロレーン二州・ザール炭田・海外植民地の獲得、ライン沿岸に軍備禁止の中立地帯設定、ドイツ軍備の縮小、過重なる賠償金の賦課等はフランスに關係ある主要事項である。ドイツは此の過重なる條約の改廢を願念として絶えず其の機會をねらつてゐるに對し、フランスは自己安全の爲に最も強硬に之に對抗せざるを得ないのである。ルール占領(第六章参照)の如きその一例である。

又、フランスはベルサイユ條約と同時にドイツが將來挑戦する場合には英米の援助を受くべき條約を結んだが、之は米議會に一蹴されて立消えとなつた。しかしフランスは國際聯盟規約のみを以て平和保障に不充分であるとなし、遂に一九二五年には**ロカルノ條約**——ドイツを中心とする其隣

接諸國の不侵略を約した安全保障條約——を歐洲主要諸國間に締結せしめることに成功し、更に一九二八年には**不戰條約**——「締約國は國際紛争解決の爲戦争に訴ふることを非とし且其の相互關係に於て國家の政策の手段としての戦争を抛棄することを其の各自の人民の名に於て嚴肅に宣言す」(第一條)。「締約國は相互間に起ることあるべき一切の紛争又は紛議は其性質又は起因の如何を問はず平和的手段に依るの外之が處理又は解決を求めざることを約す」(第二條)——を歐洲主要諸國のみならず、日米及イギリス屬領をも含む十五ヶ國との間に締結することに成功したのも、主としてフランスがドイツに對する安全保障を念とし、歐洲の現状維持に努力してゐることを示すものである。

**植民政策** フランスはイスパニヤ・ポルトガル・オランダについて第十七世紀初期より印度及び北アメリカに植民的活動を開始した。北アメリカに於てはカナダのセントローレンス河口附近より五大湖を経てメキシコ灣頭に至る植民地を獲得したが、所謂植民地七年戦役(一七五六―一七六三年)に敗れて、カナダ及びミシシッピー河東の地を失ひ、その後(一八〇九年)河西のルイヂヤナを新興國アメリカ合衆國に賣却した。又印度に於てもイギリスと争つて敗れ、カルカッタ・マドラスの繁榮に對し、シャンドルナゴール・ボンデシエリー等が淋しく殘骸を留めてゐるに過ぎない。

フランス革命以後即ち第十九世紀に至り再び植民的活動を始め、アフリカ・アジア・大洋洲に多くの植民地を獲得した。今これを表示すれば次の如くである。

洲名	植民地	獲得年代	面積(方料)	人口(萬)
アフリカ	アルゼリヤ	一八三〇—一九〇二	二、一九五、一六〇	六五五
	チュニス	一八八一	一二五、〇九七	二一六
	セネガル	一六三七—一八八九	一九一、九五〇	一五八
	スダン	一八九三	九三三、二五七	二八六
	上ヴォルタ	一八九三	三六九、九〇四	三〇〇
	ギネヤ	一八四三	二三一、六三九	二二二
	象牙海岸	一八四三	三一四、九一八	一八九
	ダホメ	一八九三	一〇六、九七二	一〇八
	マウリタニヤ	一八九三	八九九、七六六	三二
	ニジェリヤ	一九一二	一、一九九、六八八	一四九
	赤道アフリカ	一八八四	二、三六二、二〇七	三一三
	カメルン(委)	一九一九	四三一、二〇七	一八八
	トーゴ(委)	一九一九	八七、二八三	七三
	レユニオン	一六四九	二、五一二	一九
	マダガスカル	一六四三—一八九六	六二四、四三三	三五〇
	マヨツテ	一八四三	二、〇四六	一二
	ソマリ	一八六四	一四、九九六	九

アジヤ	インド	五〇八	二九	
	アンナン	一八八四	一〇二、九七三	四八二
	カンボヂヤ	一八六二	一七四、九五五	二六〇
	交趾支那	一八六一	六八、五七三	四三九
	トンキン	一八八四	一〇四、九七三	八一八
	ラオス	一八九二	二六六、七七〇	一〇〇
	シリヤ(委)	一九二二	一五五、四〇〇	二八三
アメリカ	サンピエール及ミクエロン	一六三五	二四一	〇・四
	グワデループ	一六三四	一、三七八	二四
	マルチニツク	一六三五	九九七	二三
	ギヤナ	一六二六	八九、九七七	五
	ニューカレドニヤ	一八五四—一八八七	二二、一三九	五
	タヒチ其他	一八四一—一八八一	三、九三七	四

右表に示す如く、フランス植民地は主としてアフリカの北西部に集つてゐる。その總面積は一〇三七萬方料で本土の五五萬料に比べると實に約一九倍であつて、イギリスに次ぐ大面積を有する植民國家である。しかしフランス植民地の人口は僅かに五百餘萬で、本土人口四四百萬と大差がない。之に依つて見るも、此の國の植民地には良好なる土地の少きことが明らかであらう。即ちこれ

等の植民地は氣候上、本國人の移住に不適當である上に、フランスの民族性はイギリス人の如く發展的でないから、未開發のまゝに残されてゐる部分が多い。

フランス植民地中最も重要なものは、アルゼリヤと印度支那とである。アルゼリヤは本土の對岸に存在し、その主要生産地帯はアトラス山脈の北斜面にある狹長なる海岸平野である。小麥其他の農産・畜産・鑛産は本國に對する資源となつてゐる。又印度支那は元來米を主産物とする農業國であつて、其他にゴム・胡椒等の熱帶農産物、若干の石炭等の産出もあるが、其額多からず、フランス本國の資源を助けること僅少である。

### 第三節 經濟

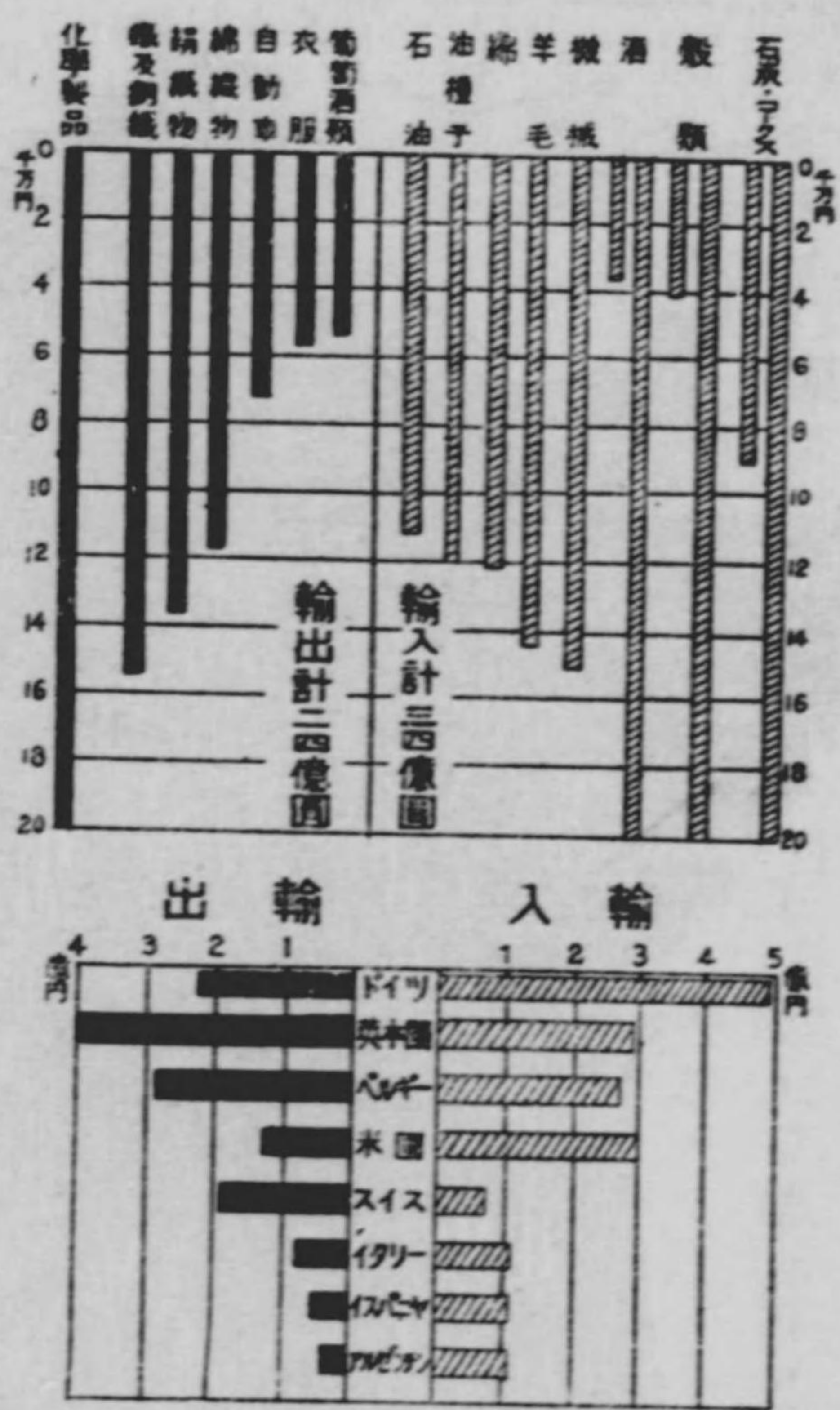
#### 第一項 概観

フランスは元來農業國であるが、近年殊に世界戰役後工業が一大發展をなした。これを最近の貿易表について見ると、輸出品の約六〇%が工業品であり、輸入品の約四五%が工業原料品、約三三%が食料品となつてゐる。

次に職業別人口表(第七圖)について見れば、農業人口は工業人口より少しく超過してゐるが、大

體均衡を保つてゐる状態である。以下此の國の重要産業たる農・工業について述べやう。

農業 地形の關係上耕地は全土の約四五%の廣きに互つてゐる。即ち第五二圖に見る如く、耕地



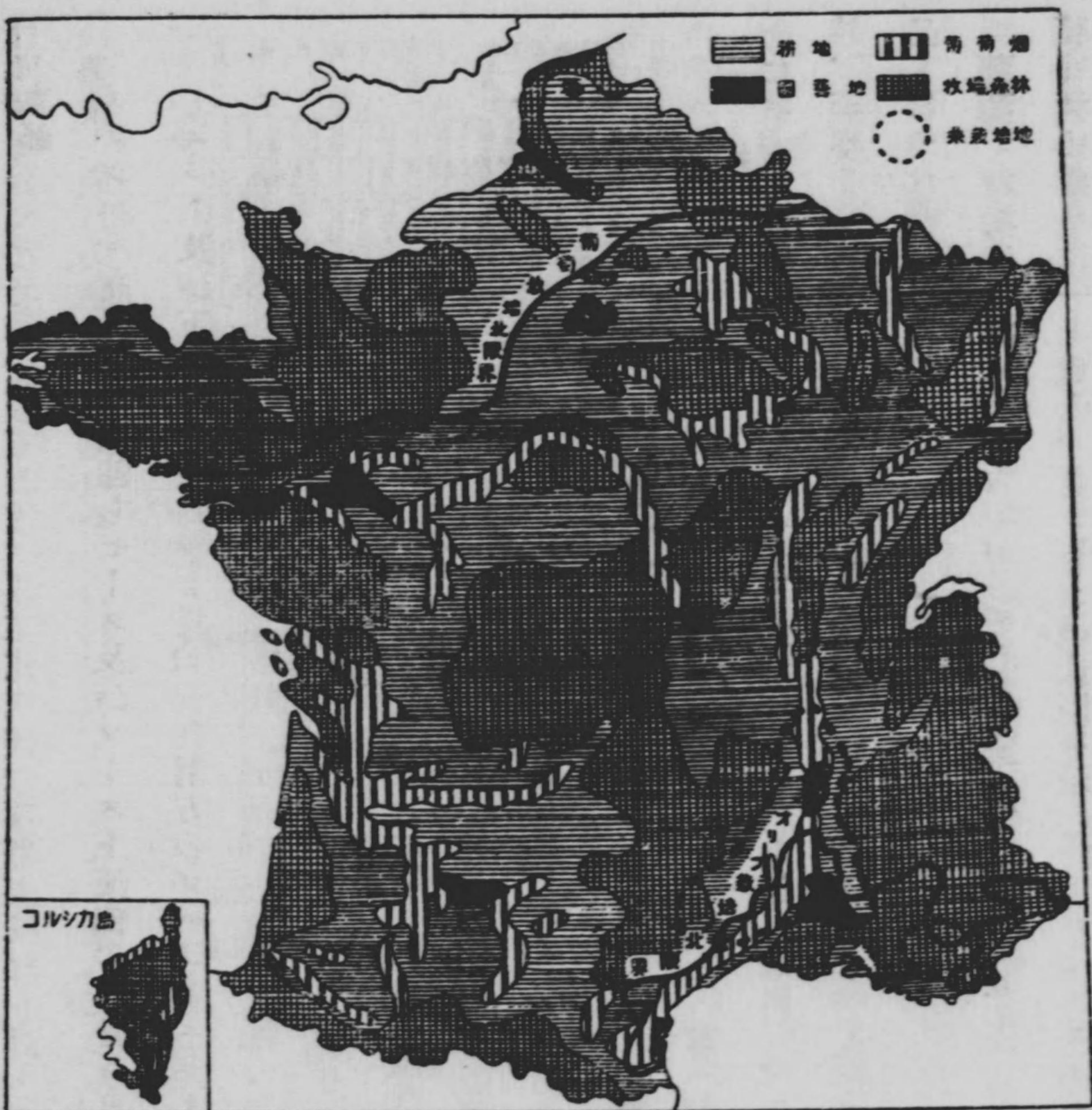
第51圖 フランスの外國貿易(1931年)

はパリ盆地・アキテー盆地・ロース河谷・ライン地溝帯に廣がつてゐる。又氣候(第八四圖)・土壤も農業に適する。此の國の農民は多くは小地主たる自作農業者であつて、保守的な集約農法を採つてゐる。

主要農産物は小麥と葡萄である。小麥(第八圖)はヨーロッパに於てはロシ

ヤに次ぐ大産地で、國內ではパリ盆地がその約半額を産出し、アキタニヤ盆地之に次ぐ。小麥の外、燕麥・ライ麥・玉蜀黍等の穀類の生産は相當額に止るも、近年工業の發達と共に穀類は主要輸入品となつた。

葡萄 栽培の起源は相當古いが、その最盛年度は一八七五年で栽培面積六〇四萬エーカーに達し、葡萄酒の醸造は一七億六千萬ガロンの産出を示した。しかし此の頃害蟲フィロセラ(Phylloxera)



第52圖 フランスの土地利用

が猖獗した爲、其後年々産出額を減じて最盛時の六分の一にまで衰退し、多数の農民は移住を餘儀なくされるまでに至つたけれども、其後アメリカ種を輸入して改良を計り、近年最盛期の約四分の三の産額にまで回復した。この國の葡萄酒は輸出よりも輸入の方が多いのは國民的飲料になつてゐるからである。

葡萄の栽培を地域的に見ると大體次の三地方に大別される。

I 東部

(a) ラングル高原の周圍即ちセーヌ及びソーン上流部の日當り良き斜面。(b) その北方のシャンパーニュ及び下ブルゴーニュ。(c) その南方のブルゴーニュとマコネーズ。(d) ライン地溝帯(アルサス)。

2 西部

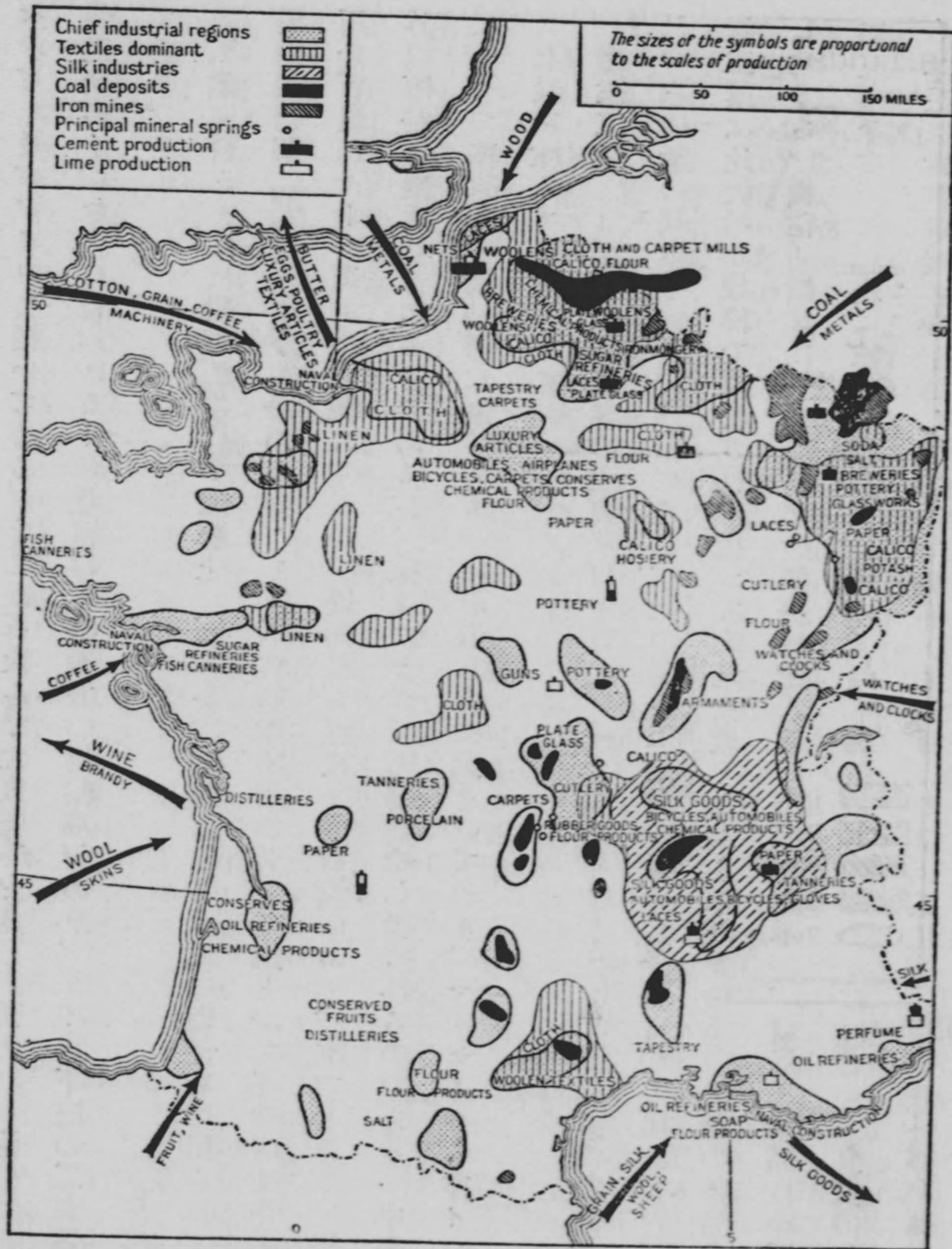
(a) ロアール下流のアンジュー、ツレーン。(b) シャラント。(c) ガロンヌ下流(ボルドー附近)。(d) アルマナック大扇狀地。

3 南部

(a) セバヌ山脈の東部(ローヌ河谷)。(b) 同山脈の南部(ラングドック)。(c) ルシロン。

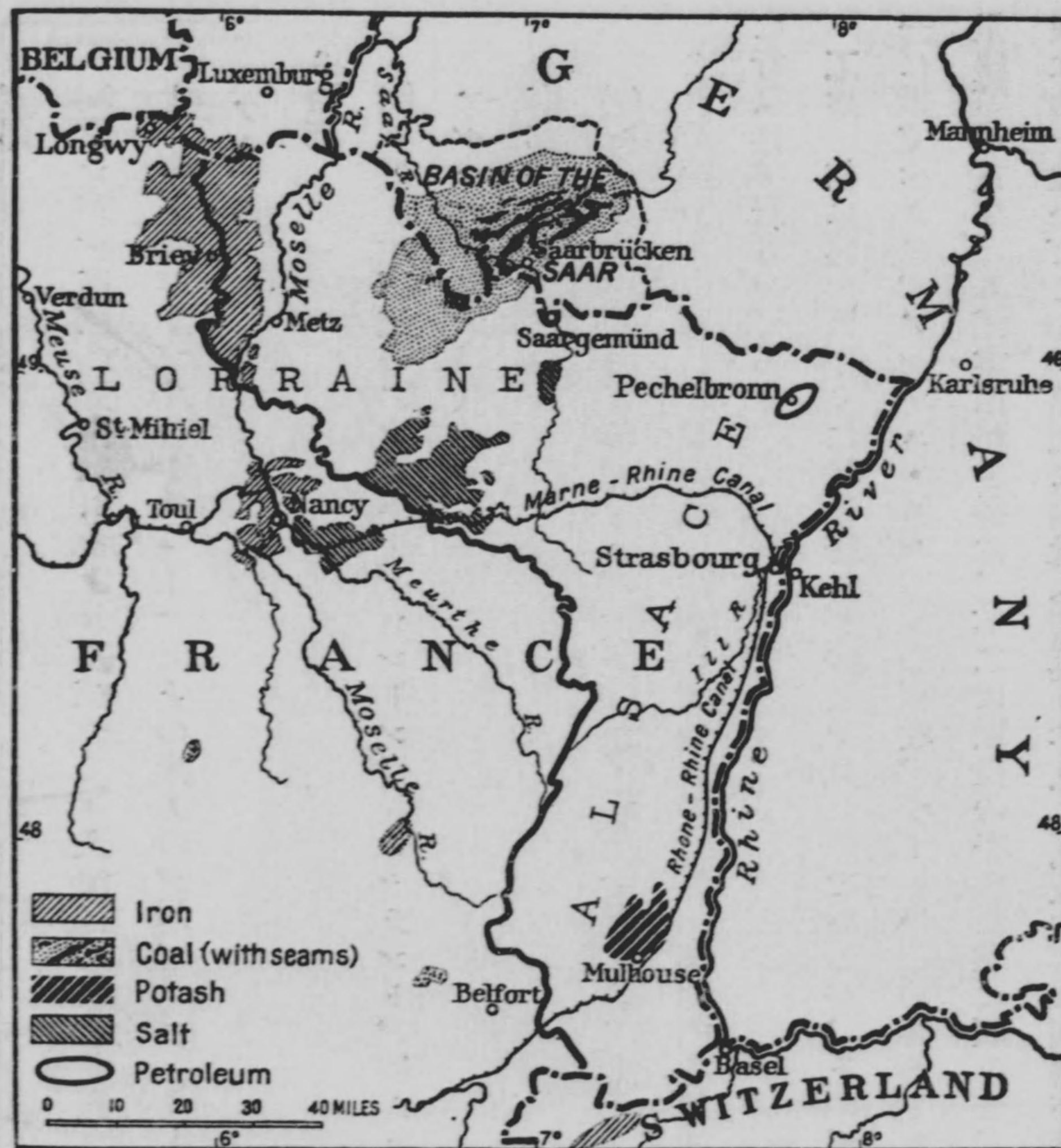
これ等の地方は同時に葡萄酒の生産地域である。即ち葡萄酒の製造は主として葡萄の生産地附近に行はれて居るのである。

**工業** 前に述べたやうに戦後著しき發展を見たのであるが、その原因は大體次の如くである。第一に擧ぐべきは、アルサス・ロレーンの回收、ザール炭田の獲得である。これによつて鐵・石炭・加里鹽等の重要な工業原料を得た。第二に戦役の苦き經驗に顧みて、化學工業並びに機械工業の發展に力を注いだこと、第三に白炭(White Coal 即ち水力)の利用が促進されたこと等を擧げること



第54圖 フランスの工業分布

符號上より主要工業地帯、織造工業、絹工業、炭田、鐵礦、鑛泉、セメント、石灰



第53圖 アルサス・ロレーンの鑛産 符號上より鐵、石灰、加里鹽、鹽、石油

一四四  
 が出る。  
 フランスの最も發達  
 せる工業地帯はベルギ  
 ーやドイツ國境に沿ふ  
 廣汎な地帯と南東部の  
 リヨン・マルセーユ・ニ  
 ース附近等の小さい地  
 域である。ボルドー及  
 ビナント附近の他の二  
 つの小さい地域は寧ろ  
 大戰後發達したのであ  
 るが、尙以上のものに  
 較ぶべくもない。  
 北部の主要工業地帯  
 は同じ様な帯をなして



ベルギー及びドイツに續いてゐる。そこは石炭・鐵・加里鹽等を産し、西方には海岸に沿ひ運河網・鐵道網多く、北方にはベルギーの豊富なる勞働力の供給地があり、ライン下流の工業地帯にも連つてゐる。

工業原料としては鐵礦・加里鹽・鐵礬土 (Bauxite)・陶土以外は主に農産物に限られてゐる。即ち製糖用甜菜・醸造用小麥・製粉用小麥・ライ麥、其他織物用の若干の麻とか羊毛などである。コークス用の石炭はルール炭田から輸入するが、國內にも可成りの石炭があり、水力もある。以上の礦物の外は原料に缺乏してゐるのであるが、輸入によつて充分補給し得られるのである。中央高地の縁邊にあつて南東部工業地帯に屬するものは石炭水力に恵まれてゐる。マルセイユも亦イングランドから石炭を輸入する。

**纖維工業** はフランス工業の主要項目をなし、一九〇六年でさへも二五〇萬の勞働者が之に従事し、その數は鑛業勞働者の三倍に達し、此の國全工業力の五分の一に當つて居つた。フランスの纖維工業は比較的小規模で經營され、従つて大量生産といふよりは多種類の特殊の物品を産するに適してゐる。織物用纖維は一九二八年に原料總輸入額の四〇%を示し、纖維工業品は全工業品輸出の四三%を占めた。絹は總ての輸出品目の中、最も高價のものであるけれども、良質のフランス綿布や羊毛は世界的の名聲を博してゐる。綿布・毛織物は北部工業地帯に主に集中されるが、絹は南部

に産し、歐洲の主要絹工業市であるリヨン附近には總額の七〇%を産出する。ローヌ河下流地方を含む地中海フランスは古來生絲の産地であるが、今はその地の家庭蠶業からは國內需要の四%しか産しないので、殘額はイタリア・極東から輸入する。同様に總ての綿、約七分の六の羊毛、三分の二以上の亞麻・大麻を外國から輸入しなければならぬ。人造絹絲工業の發生地であるフランスは今やアメリカ合衆國・イタリア・ドイツ・イギリスに凌駕されてゐる(第六圖)。この工業は勞働力の適當に得らるゝ所では、何處でも行はれるので他の纖維工業よりは一層散在してゐる。

大戰の結果フランスの織物生産施設の約三〇%が破壊されたので、その復興に力めつゝある。アルサス・ロレーンを獲得した爲に綿布や、毛織物工場の四分の一を増加し、此の國を以前よりも世界貿易に對して一層競争的地位に置いた。かくてフランスは今や絹布工業に於てはヨーロッパ第一位、綿布及び毛織物工業はヨーロッパ第三位を占むるに至つた。

**鑛業** ロレーンの大鐵鑛産地の所有者として、フランスはヨーロッパ鐵鑛埋藏額の約三五%を所有する。しかし石炭の供給が地方的に限られてゐるので、鐵や鋼の製出はその國の鑛石資源の割合に發達しなかつた。フランス金屬工業の發達の遅々たることはヨーロッパの主要國であるドイツ・イギリスと比較すれば最も明らかである。しかしながら大體に於てフランスはヨーロッパ第三位であり、又國內的に見ても鐵鋼業は纖維工業に次いでフランス工業の第二である。石炭は一般にフラ

ンス工業の支配的要素であるので、その缺乏が燃料消費の特に高い鑛業とか精鍊とか機械の利用に影響することは明らかである。その上鐵材や鋼材の産出、殊に機械の産出は工業化の遅かつたことによつて妨げられてゐる。一九一三年に於て、ロレーン鐵鑛を以つて製鐵するのに用ひたコークスの中フランスの石炭は僅かに一二%である。

戦後の鐵鋼工業は一方石炭及び鑛石を獲得したこと、他方ドイツやイギリスが不景氣であつた際に、工業施設を獲得したこと等によつて一時フランスはドイツを凌駕しイギリスと大競争者の位置に立つ事が出来た。事實一九二四年及一九二五年に於けるフランスの鐵鋼の人口一人當りの消費はドイツ・イギリスよりも多かつた。しかし其の後又ドイツに凌駕さるゝに至つた(第三〇圖)。

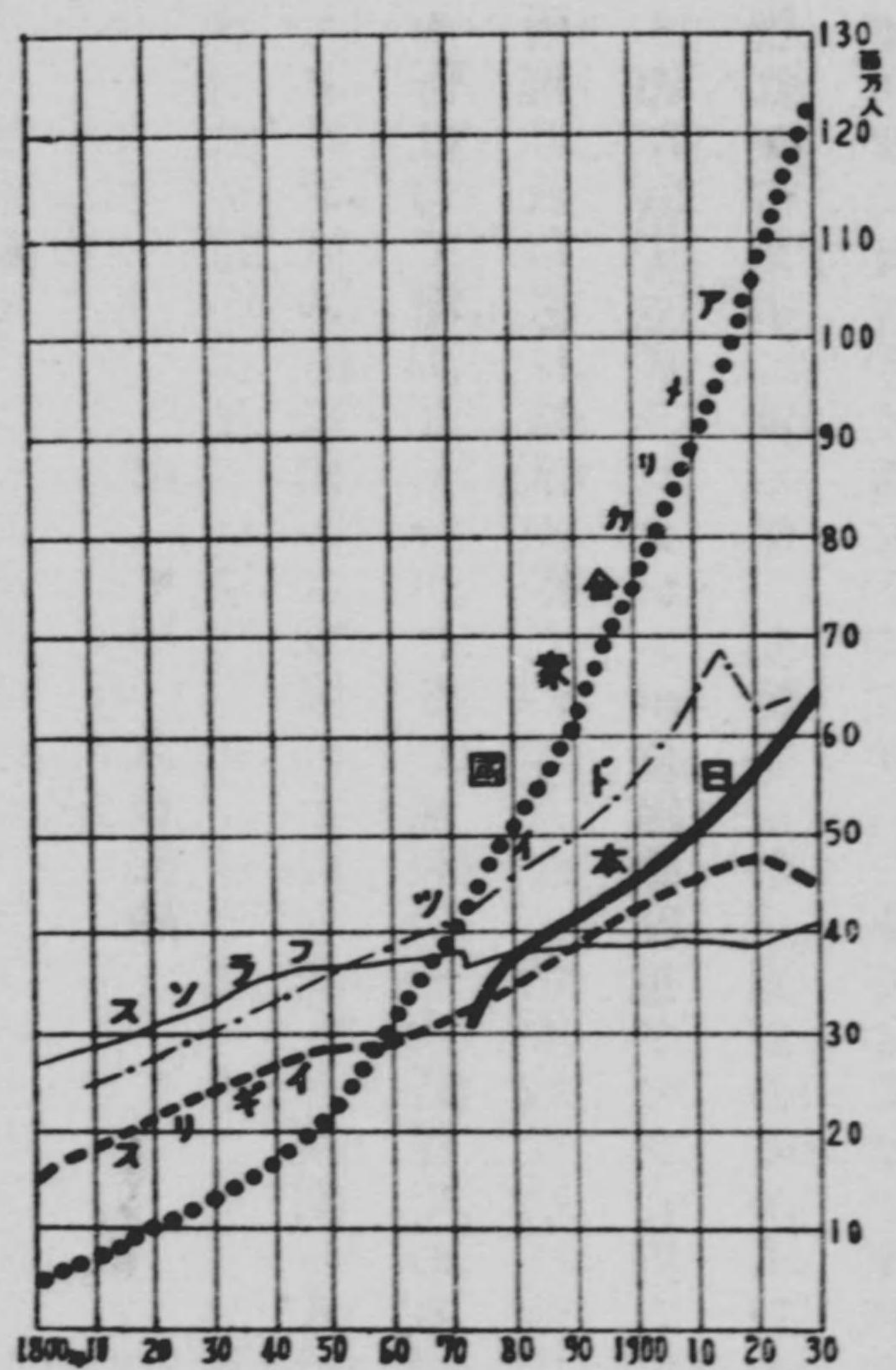
此の産業の大部分は鐵鑛や石炭の産多き北部工業地帯の東部に位置する。茲では一九二六年のフランス鐵鋼産額の四分の三を出し、他の八分の一はヴァレンシャン盆地残りの八分の一は他に散在してゐる。ヴァレンシャン地方はロレーン及び海外から若干の鐵鑛を輸入する。他に散在せる鐵・鋼地域は餘り多くを産出せず、又その位置も便利な所ではないけれども國家の資源の補助として重要である。何となれば前記北部及東部の二地方は國境に近く、破壊され易いからである。レールとか建築用材など普通の産物は主に東部に限られてゐるに反し、他の散在せる地域には器具とか自動車などの特殊なものを産する。フランスはこの金屬工業に於ても他の産業と同じく一般の材料より

も極度に特殊化されたものを産出する。かくて安價な貨車などを輸入し、高價な自動車を製造して輸出するのである。

**化學工業** フランスは一時は世界の主なる化學製品の産出國であり、第十九世紀の中期までは世界の主要産出額中イギリスと共に各半を占めたのであつた。然るにドイツは遅く起つたけれども、やがて第一位を占め、多額の石炭・褐炭・加里鹽を埋藏せるため、フランスを遙かに蹴落してしまつた。世界戦役は化學工業と近代戦争との密接なる關係を教へたので、フランスに於ても戦後化學工業は急激に發展し、主要輸出品となつた(第五一圖)。

## 第二項 人口問題

フランスの人口問題は我國のそれと異り、我國の人口過剰に悩むに反し、フランスはその人口を如何にして増加せしむべきやが國家の一大問題である。一八七〇年の普佛戦役當時に於ては、獨佛兩國の人口數は略ぼ相等しかつたが、世界戦役前に於ては獨逸人口はフランス人口の一倍半になつてゐた(第五五圖)。フランスが普佛戦役後ドイツに對して復讐を志しながら、久しくその目的を達し得なかつた事に就ては、勿論多くの原因があるが人口の増加率が低く、爲に壯丁を得ることに於てドイツに比すべくもなかつたからである。これが歴代フランスの心ある政治家をして絶えず「生め



第55圖 主要諸國(本土)の人口増加

よ殖せよ」と叫ばしめた所以である。世界戦役後、工業の不況に加へて多数の除隊兵を一時に都市に吸収した爲、失業者の續出に苦しんだが、それは一時的現象に過ぎなかつた。一九二五年頃には此の國の工業も漸次復興し、爲に労働者の不足を告げたので、農村の人口に減少を來すこと無く、工業を發達せしめる方法が重要問題となつ

た。その爲に從來の小規模の工業形態から、大工業形態を採ることが試みられたのであつたが、尙ほ國外より労働者を招致しなければならなかつた。かくてフランスは大戦によつて約一四〇萬人を失つたにも拘らず、一九二六年には約二五〇萬人の外國移入民を有つに至つた。今これを國籍別に示せば次の如くである。

イタリヤ人 八〇八、〇〇〇  
 スペイン人 四六七、〇〇〇

ベルギー人 四六〇、〇〇〇  
 ポーランド人 三一〇、〇〇〇  
 スイス人 一四二、〇〇〇  
 ロシヤ人 九一、六〇〇  
 イギリス人 八四、〇〇〇  
 ドイツ人 六四、六〇〇  
 北米人 四九、五〇〇  
 チェコスロバキヤ人 三九、六〇〇

一九二五年の一年間に一七萬四千のイタリヤ人がフランスに移入して、農民の人口減少の多かつた南東隅に定住した。又ベルギー人及びポーランド人は東及び北の工業地、パリ地方及びガロンヌ河谷の工業地に移住した。此の國の炭坑夫三〇萬人中その三分の一は外國人であつたが、アメリカ合衆國と同じく此の國も工業地帯に於ける人種の劣等化を恐れて移入民の素質向上を計り、遂に移住を殆んど禁止するに至つた。

佛國は大戦以後出生率が少しく増加し、一九一三年出生率は一千人に對して一八・八、一九二四年には一九・二であつた(同年に於けるドイツの出生率は二七・五及び二〇・四であつた)。佛國の人口は出生増加の運動と工業及工業の擴張の牽引力によつて僅少づゝ増加の傾向にある。一九一三年の法律

により大家族に補助を與ふること、し、その後其補助額を増加した。一九二一年より一九二六年にかけて人口が三九二一萬より四〇七四萬に増加した。然しながら此の増加人口一五〇萬中、九五萬七千は外國人であつて、僅か七五萬七千が佛國人であつた。佛國の人口増加に於ける危機は一九三五年から一九四〇年に至る間であつて、此期間に於て世界大戰中出産率の大減少を來した其結果が現はれ、結婚年齢に達する青年が現在數の半に減するだらう。ムッソリーニが一九三五年の軍事行動に屢々言及するのでこれが佛國に對する威嚇であると解釋されて居るが、其理由は伊太利は激増する人口を有し、佛國は一九三五年に於て人口の減少が其頂點に達するからである。但し、佛國は死亡率が割合高いから之を低下する事によつて此不利を或程度迄は相殺する事が出來よう。

## 第五章 イタリヤ

### 第一節 國家の統一性

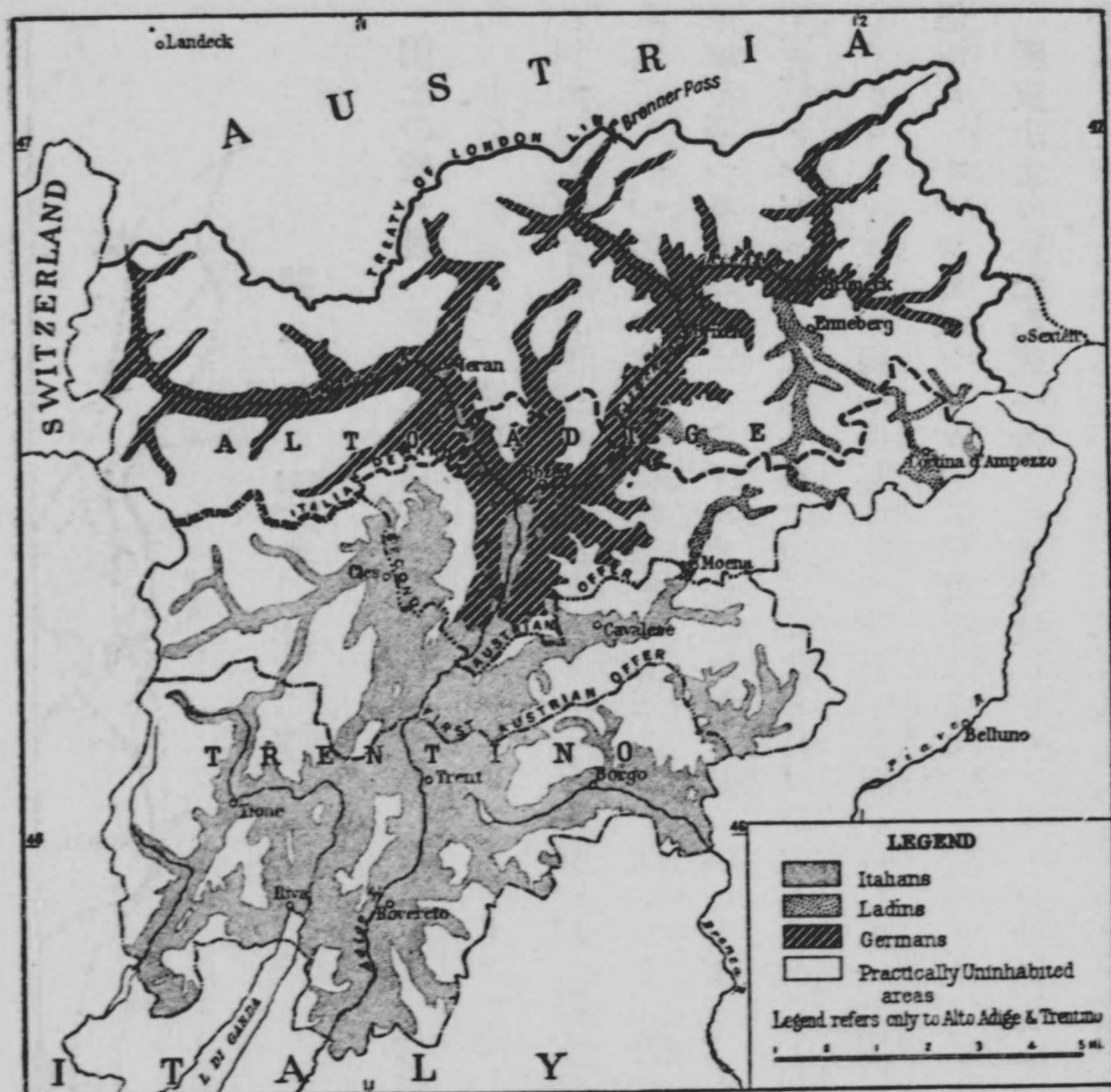
#### 國土の統一性

イタリヤは約一千餘千方海里に突出する一大半島を以て其の國土の主體とする。

此の半島(二四萬方海里)は背梁山脈アペニンによつてアドリヤ海とリグリヤ海・チレニヤ海の兩斜面に別たれるが、北方陸境は大部分アルプスの分水界を以て限られ、北東部はチナルアルプスに界せられて、一つの纏つた地理的單元をなしてゐる。又シシリ島(二六千方海里)は僅か三千のメッシナ海峡を隔つるのみで、イタリヤ半島の連続と見る事が出来る。更に半島の西方に位するコルシカ(九千方海里)サルヂニヤ(二四千方海里)の二島は半島及びシシリヤ島と共にチレニヤ海を圍繞してゐる。かくてイタリヤは地中海中央部に於て半島と島嶼からなる一大單元をなす國家である。但し歴史的關係からコルシカ島はフランスに所屬してゐる。

#### 民族上より見たる統一性

世界戦役によつてトレンチノ(アチゲ河谷、第五六圖)及びイストリヤ半島(第五七圖)を獲得した爲、所謂未回収のイタリヤ (Italia Irredenta) としては、スイスのサンゴタ

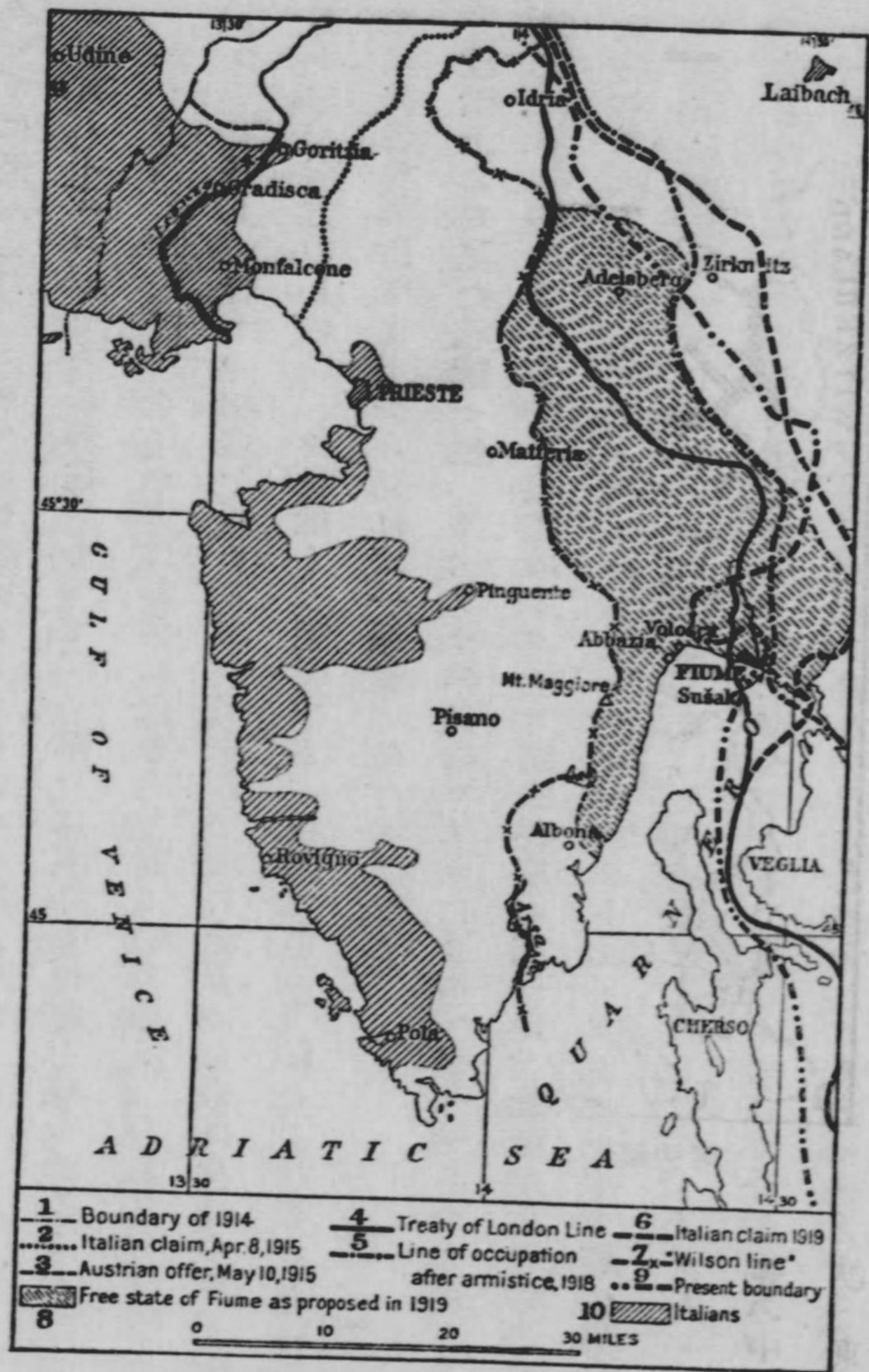


第56圖 アデゲ河谷の住民(トレンチノ・アルトアデゲ二州)

符號上より、イタリア人、ラチン人、ドイツ人、無住地

ルド南方のチチノの谷を残すのみとなつてイタリア人の民族國家は略々完成したのである。

イタリア半島には古代に於てインドゲルマンと異民族とが對立して居つた。後者はリグール人・レイト人・エトルリヤ人である。前者は所謂イタリア人で、これに屬するものにはラテン人・ウンブリア人・フォルスク人・サビニ人・サムニ人等の中央イタリアの諸族及び、東方のヴェンス人、南



第57圖 イストリヤ半島

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1. 1914年の國境        | 2. イタリアの要求(1915)   |
| 3. オーストリアの提供(1915) | 4. ロンドン條約の境界(1915) |
| 5. 休戦後の占領線(1918)   | 6. イタリアの要求(1919)   |
| 7. ウィルソン境界(1919)   | 8. フィウメ自由國(1919)   |
| 9. 現國界             | 10. イタリア人          |

方のメサピ人等が之に屬する。半島南端の海岸地方には早くよりギリシヤの植民地があつて、大ギリシヤ地方(Magna Grecia)と呼んでゐたし、北イタリア低地には北西からガリヤ人即ちケルト人が侵入して居つた。

ローマ帝國はこれ等の諸民族を統一して之を混合させたが、奴隸輸入によつて更にその混淆の度を加へた。次に民族大移轉時代にはゲルマン民族に屬する東ゴート及西ゴート侵入し、殊にランゴバルド人はイタリアに定着した。それより遅れて他方サラセン人(アラビヤ人)がシシリア及び南イタリアに侵入した。ノルマンも亦シシリアとナポリに入つた。更に近年に至るまで時々ドイツ・フランス・イスパニヤ人の移住があつて、一部では現今も優勢を保つてゐる。

かくの如くにしてイタリア人は非常に混血して居るのである。現在のイタリア人を見ると南北によつて體質上、若干の相違を認める事が出来る。即ち北方のものは身長中等、毛髮薄黒く、廣頭であるが、南方のものは、身長低く、毛髮黒く、狭頭である。併しこれ等の差は極めて僅かであつて、言語其他文化上から見れば一系統に屬すると云つてよい。

**政治上より見たる統一性** イタリア半島はローマによつて統一せられたが、その瓦壞後は久しく割據の姿を呈して居つて、現在のイタリア國家再度の統一は、比較的近世の事に屬する。即ち一八六〇年サルヂニヤ王ビクトル・エマニユエルがカブール・ガリバルディー等の力によつて略々その統一の業を成し、一八七一年ローマに都するに及んで之を完成したのであつた。

前述の如くイタリアの國土は統一性に富んでゐるに拘らず久しく分裂してゐたのは何に原因するか。蓋しこれは自然的因子を利用する能力を有する強大なる人力の缺乏から來たと見るのが至當で

あらう。何となれば古代ローマの統一の場合に於ても、或は近世の再統一の場合に於ても、或は又最近に於けるファシストの政治的社會的大改革に際しても、威大なる人間の統一力によつて此の國の自然的環境が如何に役立つたかを知ることが出来やう。

**ファシズム (Fascism)** イタリアに於けるファシズムの改革は世界戰役後に於ける歐洲各國中露國にも比すべき政治的社會的大變動であつた。即ちイタリアに於いては社會の最下層まで侵潤して、上は文武官・資本家・工場主から、下は農民・労働者・移民に至るまで、ムッソリーニの所謂ファシヨ革命のシヨックを感じたのである。

一九一九年の末葉より一九二〇年中伊太利全土に同盟罷業が續發した。都市の労働者及無産階級が石炭輸入の機關を麻痺せしめ、國內に於ける燃料の生産額を減せしめた。或場合には革命的の職工が工場を押収しても軍隊の發動なく、爲に工業界は益々紊亂する事となつた。彼等の目的は共產主義にありて、非社會主義者は財産権を剝奪され、地主は其土地を農民の爲に強制的に分割され、社會の秩序全く亂れて内亂が焦眉の間に迫つた。伊太利の三分の一は赤化した。こゝに於て其反動としてムッソリーニを首領としてファシスト團が組織され、一九一九年三月ミラノに結黨式を擧げ、遂に一九二二年十月ローマに進軍しイタリアの政權を握るに及び此運動は法律上正當なりと認めらるゝに至つた。ムッソリーニは首相たる外、外務・陸軍・海軍及航空の四大臣を兼ね、一九二五

年の法律によつて、彼に叛く者は監禁及罰金の刑に處せられる事になつた。首相は國王によつて任命され、又國王に對して政治上の責任を負ふべきであるが、實際に於ては何等の責任をも有しない。政府は言論及出版の自由を禁じ、又從來の選舉された行政官に代へるに中央政府任命の官吏を以て人口五千以下の地方自治體の知事に任命して地方政治の統轄に手を着けた。斯くて地方自治體九千の内七千は中央政府の支配を受くるに至つた。かゝる中央政府より任命された知事は、ファシスト運動を奨励し、騷擾及示威運動を抑壓し、住宅・生活費の如き社會問題に留意し、又共働と統帥を與ふべき命令を受けて居る。政府は第一に國王・諸大臣及立法部に對する首相の權力を伸長し、次に假令市民權を蹂躪する事あるとも中央政府の權力を強めて地方政治機關を抑壓するにあつた。一九二七年ムッソリーニは知事の權限を擴張するに當つて「選舉は既に過去のものなり」と言つた。

然るに他面に於ては國家の督監下に勞資の協調を謀り、又強制仲裁を強行して、勞働爭議を鎮定し、國民を其業に就かした。ファシスト組合の國家的聯合は政府及社會にファシストの勢力を伸展せしめんとするのではなく、社會の凡ての階級を發達せしめて、均衡を得たる社會的及經濟的發達を實現せんとするものである。勞農ロシヤに於けるが如く、凡ての階級を最下位に迄引き下げるものではなく、現存の諸階級を維持し、又政府に各階級が代表され、政府をして社會の良く均衡のとれたる代表たらしめんとするものである。斯くて全人口をファシストの勞働組合計畫中に入れ、

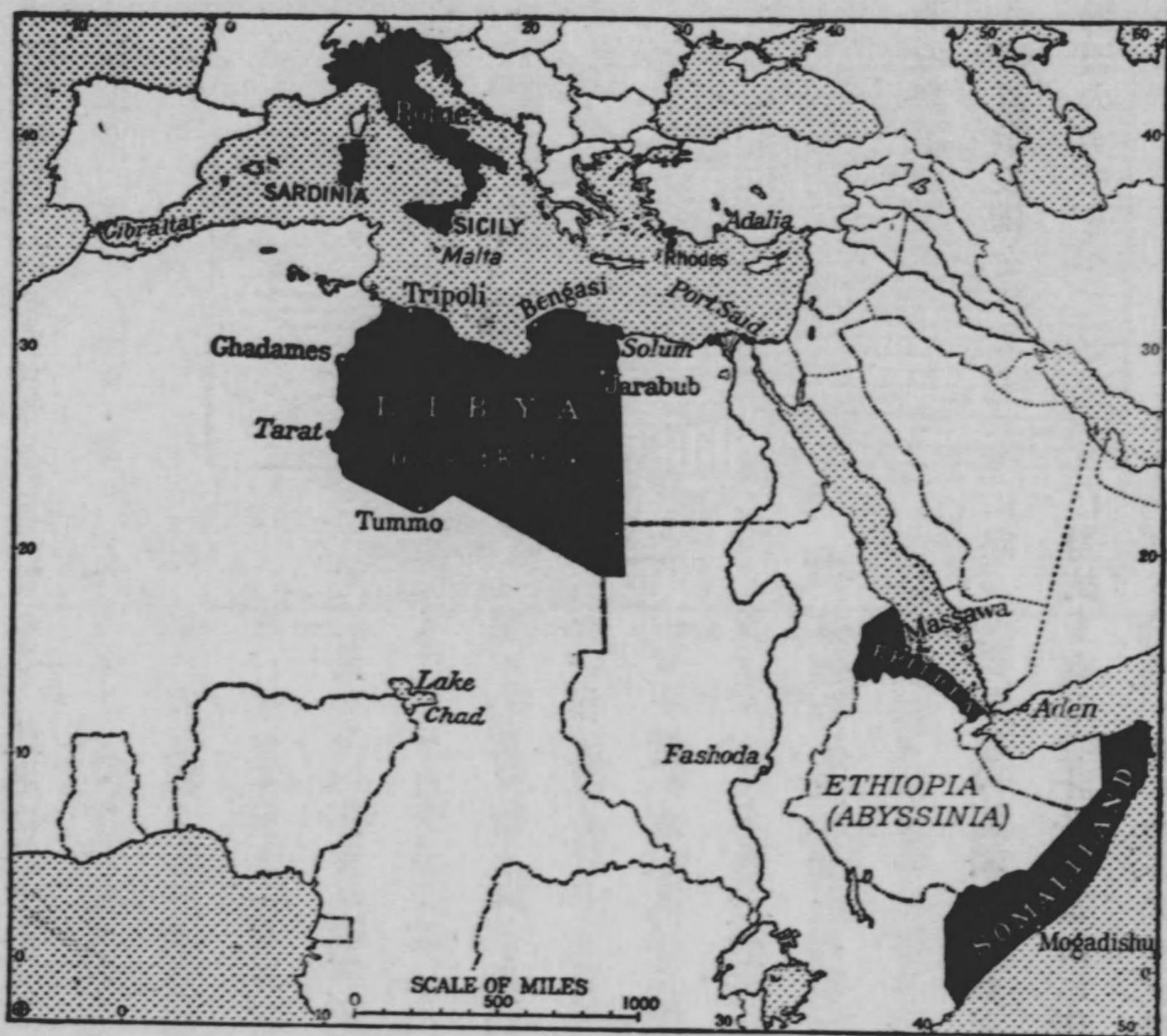
有らゆる階級が生産力を増進する爲に必要なりとして歡迎されて居る。階級闘争を引き起す社會闘争ではなくて、階級の如何を問はず、能力増進の福利的闘争が激勵されて居る。各職業別に各自組合を有し凡て政府の監督の下に置かれて居る。勞働爭議は勞働官に解決を仰ぎ、其決定は双方に取つて拘束的のものであつて、若し此の決定に従はざる時は必要に應じて之を強制する事もある。同盟罷業も工場閉鎖も禁せられ、一方工場主には同盟罷業の禁止を保證し、他方勞働者には雇主が解雇を以て壓迫する事なきを保證した。之がファシストの理想であつて、其實現の爲に政府は屢々暴力に訴へた事があり、愛國心の發動を招くよりも寧ろ之を強要し、政府自らが愛國心の裁判官である。

之を要するにファシストは内政上に於ては前述の如き獨裁政治を行つて政府の權限を擴張し、議會の抑壓を試み、階級闘争を根絶することに努力した外、財政の根本的整理、産業の奨励、貨幣の安定、教育制度の改革、國民性の向上等に邁進し、其の功績の顯著なるものがある。著者が一九二九年イタリア旅行を試みた際には、豫期以上に改良された此の國の姿に接し、愉快にその見聞を遂げることが出来た次第であつた。

## 第二節 對外政策

ファシストは對外政策に於ても、強交外交に邁進してゐる。世界戦役前にイタリアは三國同盟の一員であつたが、一九一五年のロンドン條約によつて英佛に利を以て誘はれ、遂に協商國側として立ち、相當大きい犠牲を拂つたのである。然るに戦後僅かにアドリヤ海及びエーゲ海に領土を廣めたのみで、一の委任統治地も與へられなかつた。これはイタリアの甚しく不満を感ずる點であつて、イタリアがヨーロッパの現状破壊派を以て目せられ、現状維持派たる英・佛、殊にフランスに對し事毎に反抗的態度を持してゐる所以である。

ロンドン條約に基き、イギリスからケニアの東部を割讓され、フランスからはリビヤ南西部の地を與へられ、又フランス領チュニスに於けるイタリア人の權利を若干擴張する事が出來た。しかしイタリアは之を以て満足せずフランスに對して更にリビヤ國境のより大なる擴張を要求し、チュニスに於ても在留フランス人七萬に對しイタリア人は九萬の多數を占める爲、その同權を要求したが、未だフランスの容るゝ所とならなかつた。更に紅海の口を扼するフランス領ソマリランドのジブチ港の割讓を要求して拒絶さるゝや、その對抗策として自國領エリトレヤとソマリランドとを連絡する鐵道敷設權をアビシニヤに向つて要求し、英國の同意を得たが、アビシニヤの反對に會ひ、國際聯盟の力によつてフランスに對抗するこの計畫は畫餅に歸した。イタリアは之に屈せず、一九二八年アビシニヤとの間に條約を結び、エリトレヤのアサブ港と、アビシニヤのデシーとを連結する自



第58圖 イタリアの領土

動車道路（これはジブチ・アチスアベバ鐵道の併行競争線）の建設權を得たる代償として、アサブ港に於てアビシニヤの自由地域設定權を認め、かくしてアサブ港をしてジブチ港の繁榮を奪はんと試みてゐる。

次にバルカン半島に於けるイタリアの外交政策を一瞥しよう。抑、イタリアの東方への發展はアドリヤ海の制海權獲得とバルカン半島及び小アジアへの政治的經濟的進出によつて成就されるのである。従つてこの方面に於ける第一の對象は戦前のオーストリア・ハンガ



リー國に代つたユーゴスラビヤである。此處に於てかイタリアは所謂ユーゴスラビヤ包圍政策を採るに至り、アルバニヤ・ギリシヤ・トルコ・ブルガリヤ・ハンガリーの五ヶ國と相提携して、フランスの支持する所謂小協商國即ち、ユーゴスラビヤ・チェッコスロバキヤ・ルーマニヤと相對抗しつゝあるのである。

尙アルバニヤに對しては、一九二六年第一次チラナ條約に於て、イタリアはアルバニヤの政治上・領土上の現状維持を認めたが、翌年の第二次チラナ條約に於て二國は防禦同盟を締結しアルバニヤを保護國化してしまつた。而してアドリヤ海口の東側を制する

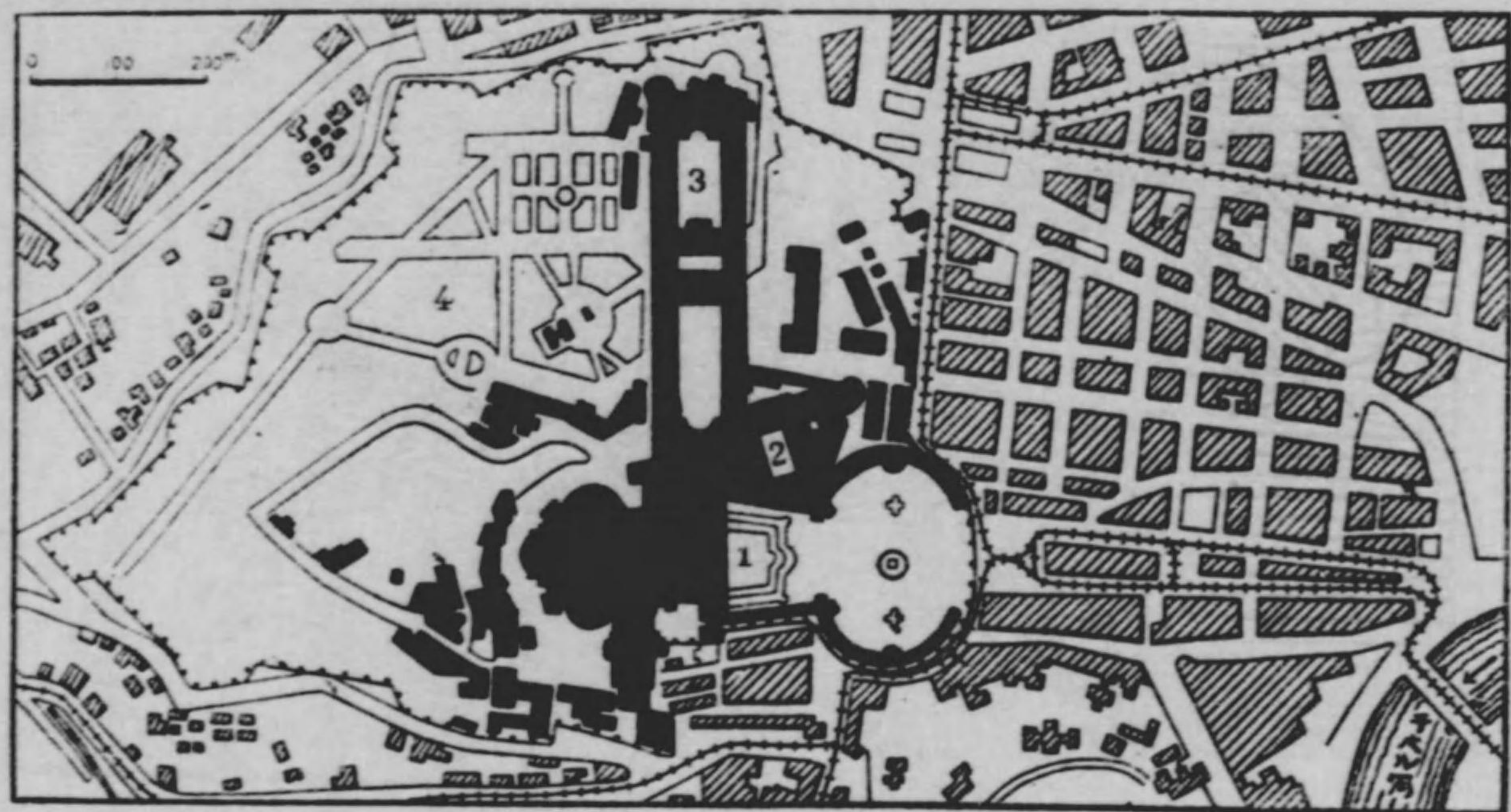
バロナ灣の軍事的使用權を得、灣口のサセノ島を割讓せしめた。又アルバニヤ國立銀行に出資し、拓殖會社を經營して道路・鐵道

其他の土木事業について優先權を得たのである。

更にイタリア・フランス間の問題としては地中海に於ける海軍力の均勢問題がある。ワシントン條約に於て主力艦の比率は佛伊同等となつたが、ロンドン會議に於ては補助艦の比率について兩國間の協定は不成立に終つて問題を將來に残して居るのである。



第59圖 地中海に於ける伊・佛・英



1 サンペテロ寺 2 バチカン宮 3 バチカン博物館 4 庭園 境界

第60圖 バチカン都市國家

**バチカン都市國家** ムッソリニーの外交政策の一として國家と教會との和解なるものを擧げる事が出来る。一八七一年イタリア統一が完成して都をフロレンスからローマに移した際、イタリアと法王との間に條約を締結し、法王權の獨立を認め年金三二二萬五千リラを支拂ふこととした。しかるにその後約六十年間この條約は實行されなかつた形であつたのを、ムッソリニーは一九二九年三月十一日ラテラン條約を結び、(1)バチカン市の獨立確認(2)現金七億五千萬リラ、五分利付イタリア公債十億リラを支拂つて、多年の懸案を解決したのである。このバチカン都市國家はバチカン宮殿とカトリック教の總本山サンペトロ寺を含む面積四四ヘクタール、人口六三九人(一九三〇年)の小獨立國に過ぎないが、カトリック教の精神的支配力の威大なることは此處に列國が使臣を駐在せしめてゐる事によつても察知する事が出来る。

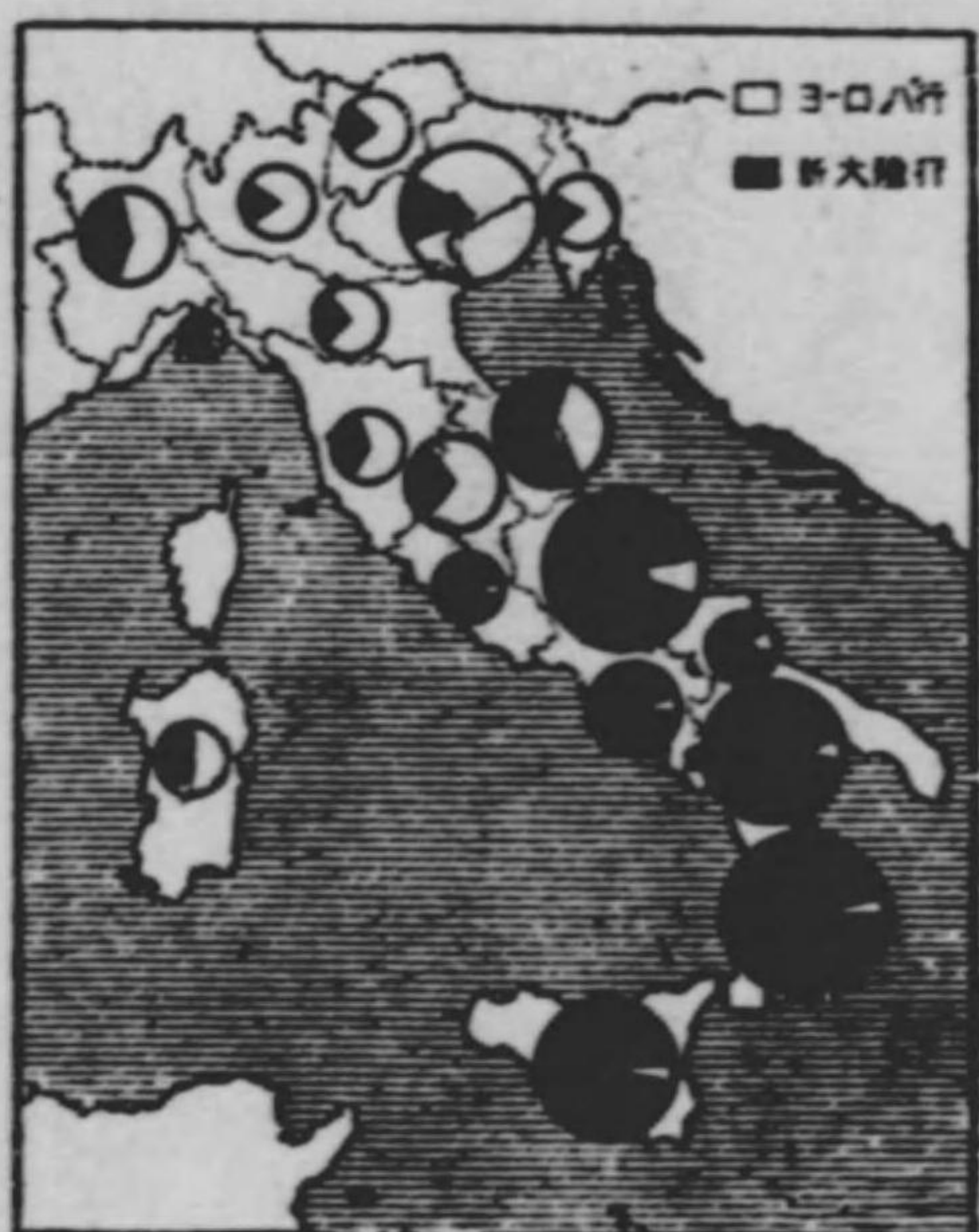


第61圖 世界の人口分布

### 第三節 經濟上の諸問題

#### 第一項 人口問題

イタリアは人口過剰の國である。一方籽の人口密度一三人(一九三一年)で、これを日本々士一六九人(一九三〇年)に比すれば稍々少いが、併し世界列強中に於てはイギリス日本に次ぐ稠密さである。従つて又此の國は第二十世紀に於ては歐洲第一の出移民國であつて、在外イタリア人總數約九〇〇萬人に及んでゐる。世界戦役前の一九一三年には八七萬人の出移民を見たが、戦役中は一時減少を見、戦後再び漸増し一九二四年には三六萬人を數へるに至つた。然るに一九二七年以來ファシスト政府は出移民制限の政策をとつたので、其後漸減の傾向を示し、一九二九年には一五



第62圖 イタリアの出移民

萬人に達しなかつた。その中約六割はヨーロッパ大陸殊にフランスに北イタリアから移住し、殘餘の四割は兩米及び濠洲に向つたのである。ファシスト政府が何故にかくの如き移民制限の政策を取つたかといへば、之は移民を不必要とするのではなくて移民の質を良くし、その聲價を高めんと欲したからである。即ち従來は漠然たる出移民の政策をとつて居つたし、移民も一攫千金を夢み、或は悪周旋業者に欺かれて祖先傳來の家・屋敷を賣飛ばして旅費を調達して海外に出たのであるが、移民先に於て事志と違ひ、不良の徒と化し、ひいてはイタリア人の名譽を傷け、本國にまで迷惑を及ぼすに至つたことを遺憾とした爲である。かくて出移民は精神労働者は差支へないが、筋肉労働者にあつては契約労働者として出國を許可する方針をとることゝなつたのである。

出移民の減少はこの國の國民經濟に相當影響があるものと見られてゐる。即ち年々約三億圓の送金があつたが、一九二九年には僅かに一億圓位に減少したといはれる。イタリアの外國貿易の年々の輸入超過はこの送金と観光客よりの収入によつてバランスをとつて居たものであるから、この送金の減少は國民經濟上重要な問題といはねばならぬ。

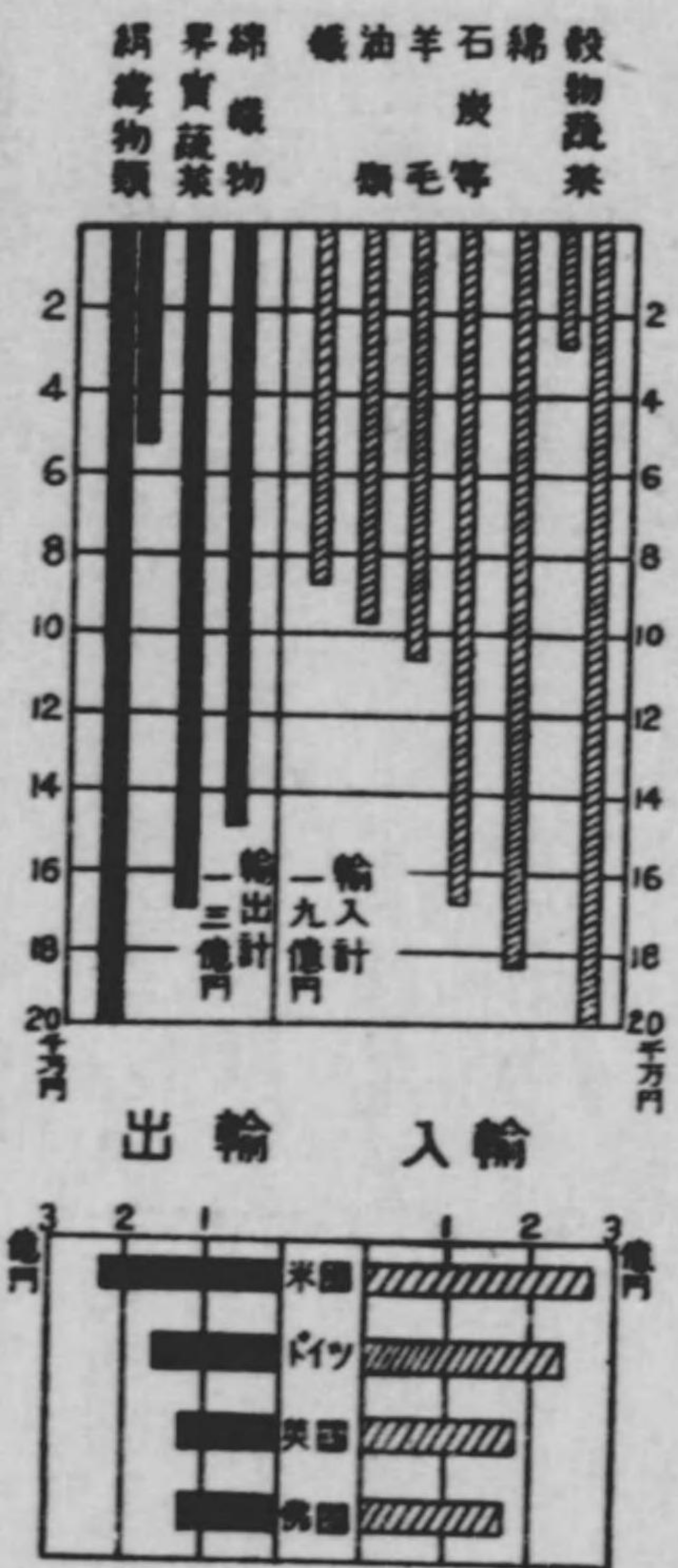
ファシスト政府はかくの如く出移民を制限すると共に、又人口増殖政策をとつてゐる。これが爲に左の諸項を実施した。

- 1 獨身税 二十五歳以上六十五歳までの獨身男子に課税してゐる。
- 2 結婚奨励 男子十六歳、女子十四歳以上に法律上の結婚資格を認めてゐる。
- 3 母及小兒の保護 産前産後の母體保護、棄兒・不良兒・低能兒等を國家に於て保護してゐる。
- 4 相續税の改正 子女を有せざるか、又は一子女のみを有する故人の家族に重き相續税を課してゐる。
- 5 多産奨励 七人以上の子女を有するものには賞與金を與へ、又子女の學校授業料及び地方税の一部を免除してゐる。
- 6 醫師及助産婦取締 墮胎其の他不正行爲をなし、又はこれを幫助せる醫師・助産婦を嚴罰することゝしてゐる。

以上の如くにしてイタリア人口は一九二二年以後六年間に約二百萬の増加を見た。かくて人口密度は益々増大するのであるが、これ等の過剰人口對策として、之を國內の生産事業に参加せしむる政策を実施することによつて國家の經濟力を高めると共に、この過剰人口問題を解決しつゝあるのである。

### 第二項 産業上の問題

イタリアの職業別人口を見ると(第七圖)農林業の人口約四八%に對し、工業人口二一%、交通業商業人口九%を示してゐる様にイタリアは農業を主とする國であつたが、又近年工業が相當盛になつて來てゐる。従つて貿易品について見れば、その主要輸出品は纖維工業品(絹織物・綿織物)の如き



工産物が主で、農産物は之に次ぎ、オレンジ・レモン等の果實類が多い。又主要輸入品は小麦等の食料品を始め、綿・羊毛・鐵等の如き原料品、石炭・石油等の燃料である。従つて此の國の産業上の大問題は(1)食糧問題・(2)原料問題・(3)動力問題である。

**食糧問題** イタリアの耕地面積は全土の約四二%を占め、農業人口も前述の如く國民の約半數を占むるに拘らず、主要食糧品たる小麦(パン・マカロニー・スパゲチー等の原料)の輸入が多額である爲にファシスト政府は一九二五年小麦の増收政策を開始したのである。イタリアの一ヶ年に要する小麦の總額は九千萬キントルであつたが、大戰後から一九二四年までは約その半額は之を輸入に俟たね

ばならない状態であつた。こゝに於て政府は農民の奮起を促すと共に、所々に模範的な小麦農園を設けて農民にその範を垂れ、良種子の分配・農具購入の補助金交附或は耕作機の分配を行ひ、又、所々に小麦栽培の科學的研究所を設け、或は小麦の懸賞競争を試みるなど、種々の方法によつて小麦の増收をはかりつゝある。かくして一九二五年乃至二八年の四ヶ年間の小麦年平均生産額は六千萬キントルに達し、翌一九二九年には七千萬キントルとなつた。即ち從來一ヘクタールに一〇キントルを生産したものが、一四・五キントルに増加した事となる。

政府は他方に於て又耕地の完全開墾を目的とし、一九二八年度より向ふ三〇年間の繼續事業として荒蕪地の開墾、沼澤(マラリヤの發生地)の干拓等によつて耕地を増加することを實行しつゝある。かくの如く農業の振興によつて小麦が自給の域に達し、從來の食糧問題を解決する日も遠くないと考へられて來たのである。

**原料問題** 前述の如く工業原料としての大輸入品は綿・羊毛・鐵等であるが、綿は勿論國産無く、羊毛及び鐵もその産出が少いので殆んど輸入に俟つの外はないのである。又これ等の資源を供給する良好なる植民地を有しないことも此の國の悩みである。又第一の輸出品たる絹織物には天然絹布と人絹織布とあるが、歐洲第一位を占むる此の國の養蠶業は近年次第に衰微に傾いてゐるので、我が國及び支那より生絲の輸入を仰いでゐる状態である。併し人絹は近年目覺ましき發展を遂げ、ア

メリカ合衆國に次ぎ世界第二位となつたが(第六圖)原料たるパルプは之を北歐諸國より輸入してゐるのである。



第64圖 イタリアの電力分布  
符號上より、水力發電所、同未成、火力發電所、送電線、同未成

**動力問題** 此の國の有用礦物としてはカララ附近を中心とする大理石が有名であるが、近代工業の動力として缺くべからざる石炭・石油の産出皆無なることは此の國工業發達上の大障害である。併し此の不足を補ふ爲に白炭の利用即ち水力電氣事業が近年著しく盛になつた。これは主としてア

ルプス及びアペニンの水力を利用するもので、北イタリアの發電量は全土の約八割に當つてゐる。

かくてこの兩山脈の山麓殊にアルプスの山麓地帯は此の國第一の工業地帯となつてゐるのである。

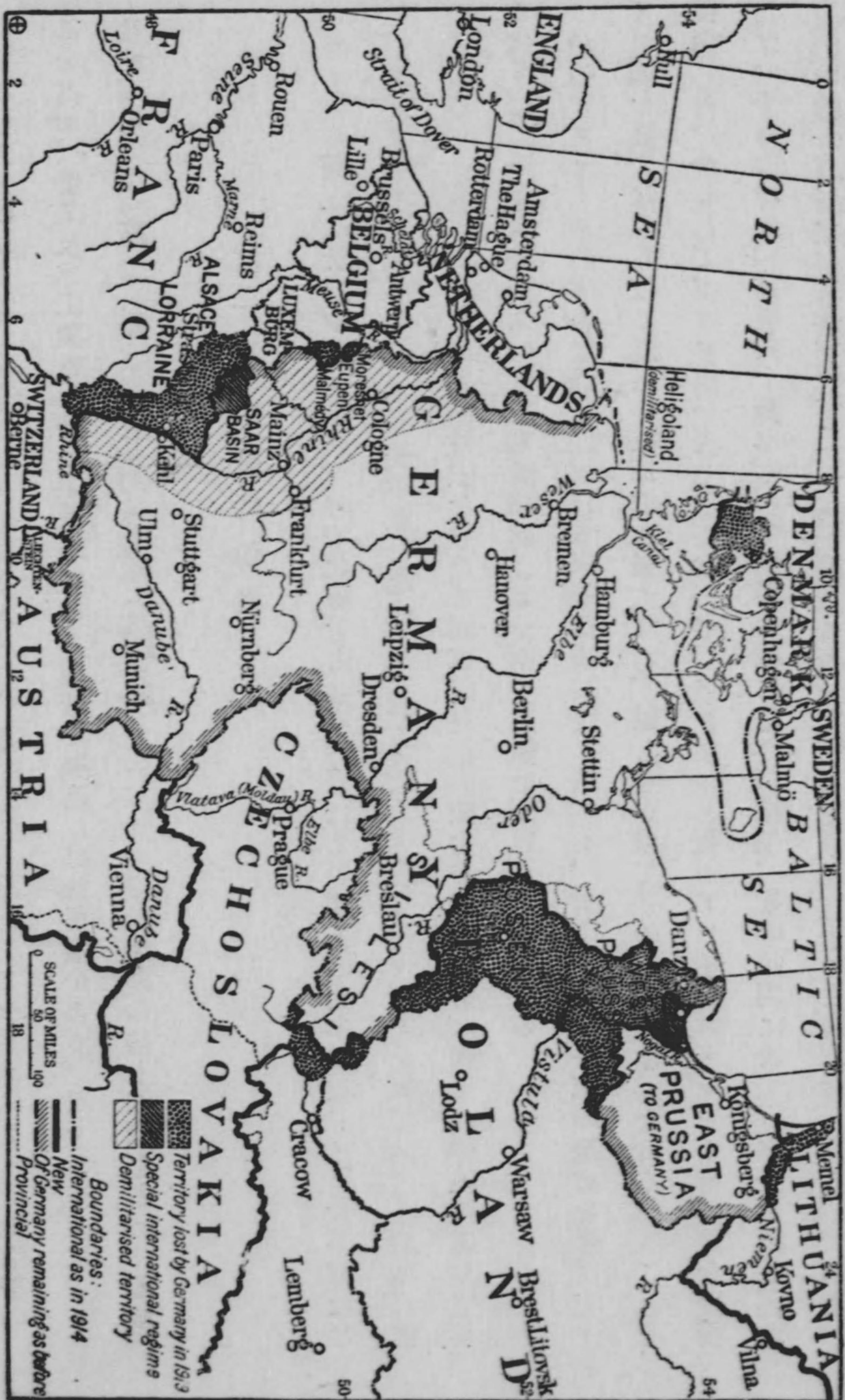
## 第六章 ドイツ

### 第一節 國土の位置と國家

#### 第一項 中央的位置

ドイツの國土は所謂中央ヨーロッパの北部を占める。更にその國土の北半は北ドイツ大平原をなし、東方はポーランド・ロシアの大平原に連続し、西方はオランダ・ベルギーを経てパリ盆地に連つてゐる。一般に、中央的位置を占むる國家は自己の國力が強大ならば國土の膨脹は容易である代りに、一度國勢衰ふれば忽ち隣接國より分割の危難を受けるものである。

かのビスマルクの有名な議會に於ける軍備擴張演説に於ても、ポーランド分割の歴史を擧げてドイツ國を盛大ならしむる道は一に軍備を強大にし、鐵と血を以てその國力の増進を計るべきことを強調した。かくしてドイツは一八七〇—七一年、フランスと戦つてアルサス・ロレーンの地を獲得したのであつたが、其後四十餘年にして世界大戰に敗れた結果、その四周に於て、本土面積(五四萬方呎)の約一三%(七萬方呎)及びその人口(六七七九萬)の約一〇%(七一五萬)を奪取せられたのである。



第65圖

世界戦後によるドイツ本土の縮小

黒色部は喪失地、斜線部は國際聯盟管理地、横線部は軍備禁止地

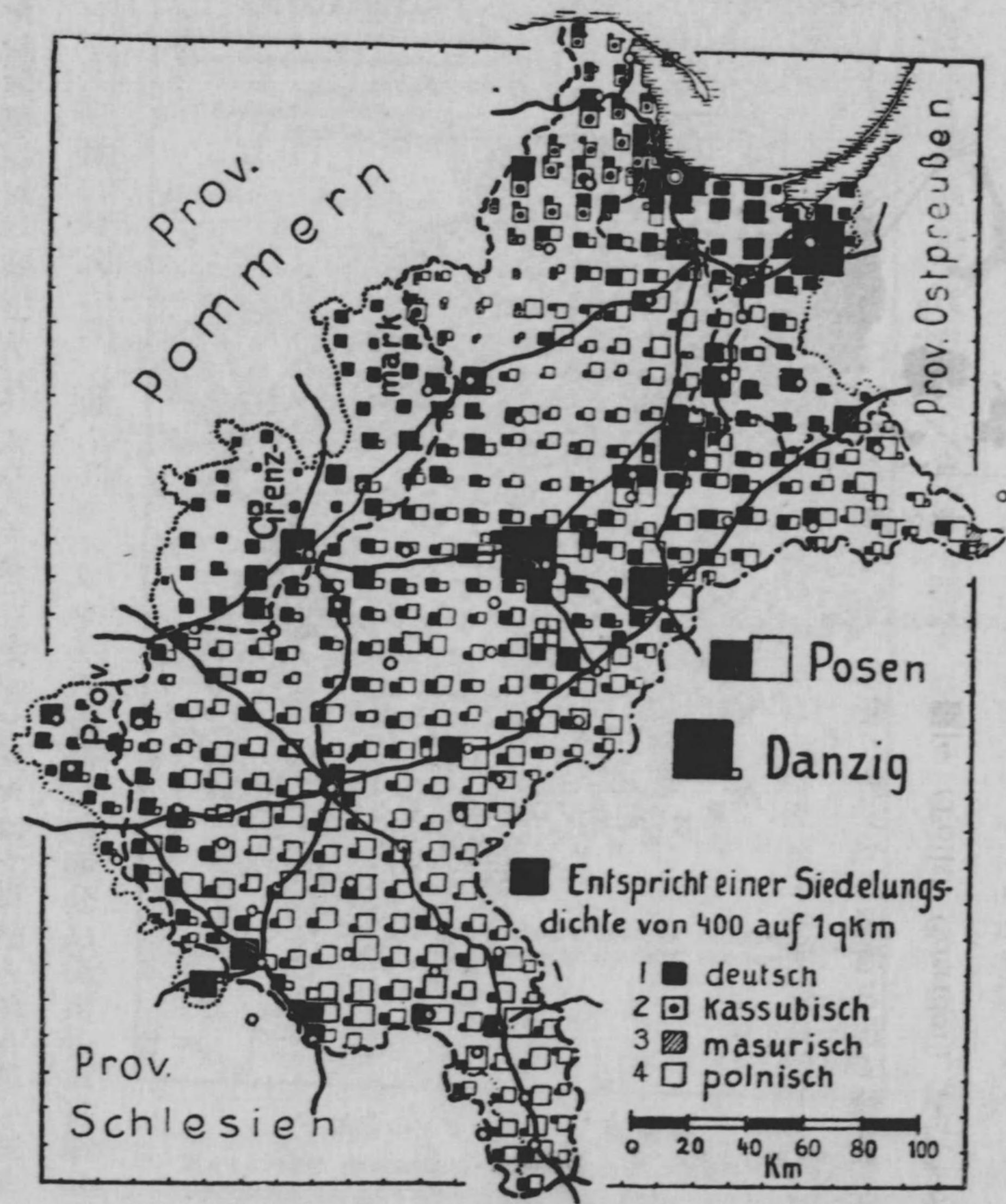
ベルサイユ條約によつてドイツの失つた本國領土は次の諸地方である。

1 **アルサス・ロレーン**(面積一四五二千方籽、人口一八七萬(一九一〇年)) アルサスはライン地溝帯の南部を占め、農業及び工業殊に纖維工業の盛なる地域で礦産には加里鹽がある。又ロレーンはパリ盆地東端の丘陵地であつて、鐵鑛の産出多く、大戰前のドイツ鐵鑛産額の約七割餘を占めた地域である(第五三圖)。

2 **ザール盆地**(面積一九二六千方籽、人口六六萬) ロレーンの北に續くこの地域は國際聯盟の管理に歸してゐるが、盆地内の炭田(第五三圖)は北フランスの炭田が大戰の結果荒廢に歸した代償としてフランスの所有とされた。但しこの炭田を除く全地域は十五年後に人民投票によつてその所屬を確定する事となつてゐる。以上二地域の鐵・石炭の産出により、フランスの鐵工業は著しく活氣づけられた。

3 **ルクセンブルグ**(面積二五八六千方籽、人口三〇萬(一九三〇年)) 戦前には永久中立國で且、ドイツと關稅同盟を結んでゐたので經濟上はドイツの所屬の如くであつたが、戦後、永久中立國たることを廢棄し、ドイツとの關係も絶たれた。而して此の大公國はフランスと關稅同盟を結ぶことを希望したけれどもフランスは之を拒絶した爲に、ベルギーと關稅同盟を結んでゐるのである。

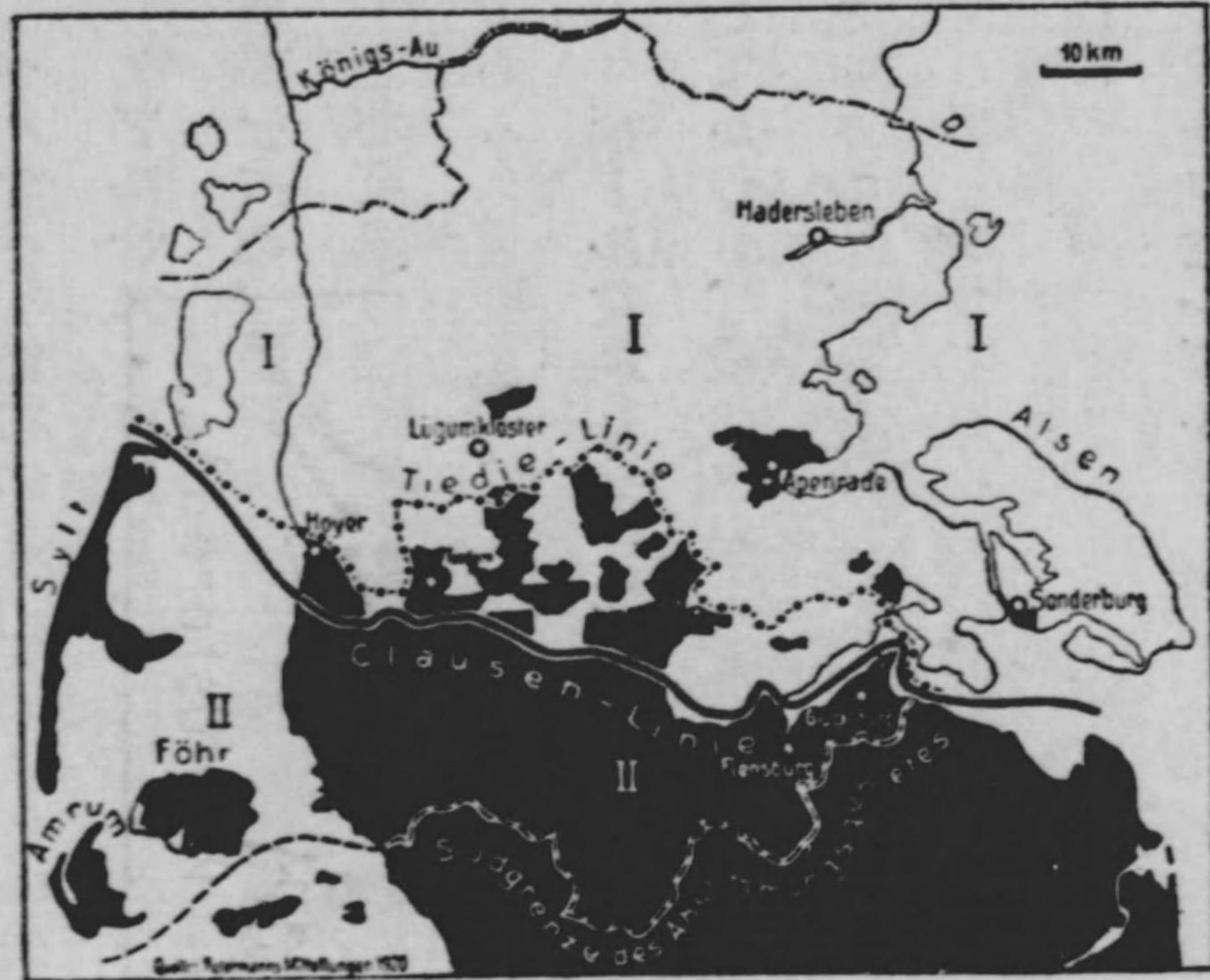
4 **モレネ・オイベン・マルメチー**(面積一〇三六千方籽、人口六〇萬) モレネは面積僅に四方籽、人口三



第67圖 ポーゼン・西プロシヤの人種

- 1. ドイツ人
- 2. カスプ人(スラブ族でポーランド語を用ふ)
- 3. マズール人(同上)
- 4. ポーランド人(同上)

千五百の一小地域で久しくオランダ・ベルギー・ドイツ三國間の係争地であつたが、一八一六年以來中立を保つて居た所である。然し此の小さい三角形の地域はサンブル・マース河谷とケルン間の要路に當つてゐる。又オイベン・マルメデーは丘陵地で森林資源を有する地域である。以上三地方はベルギーの所領に歸した。



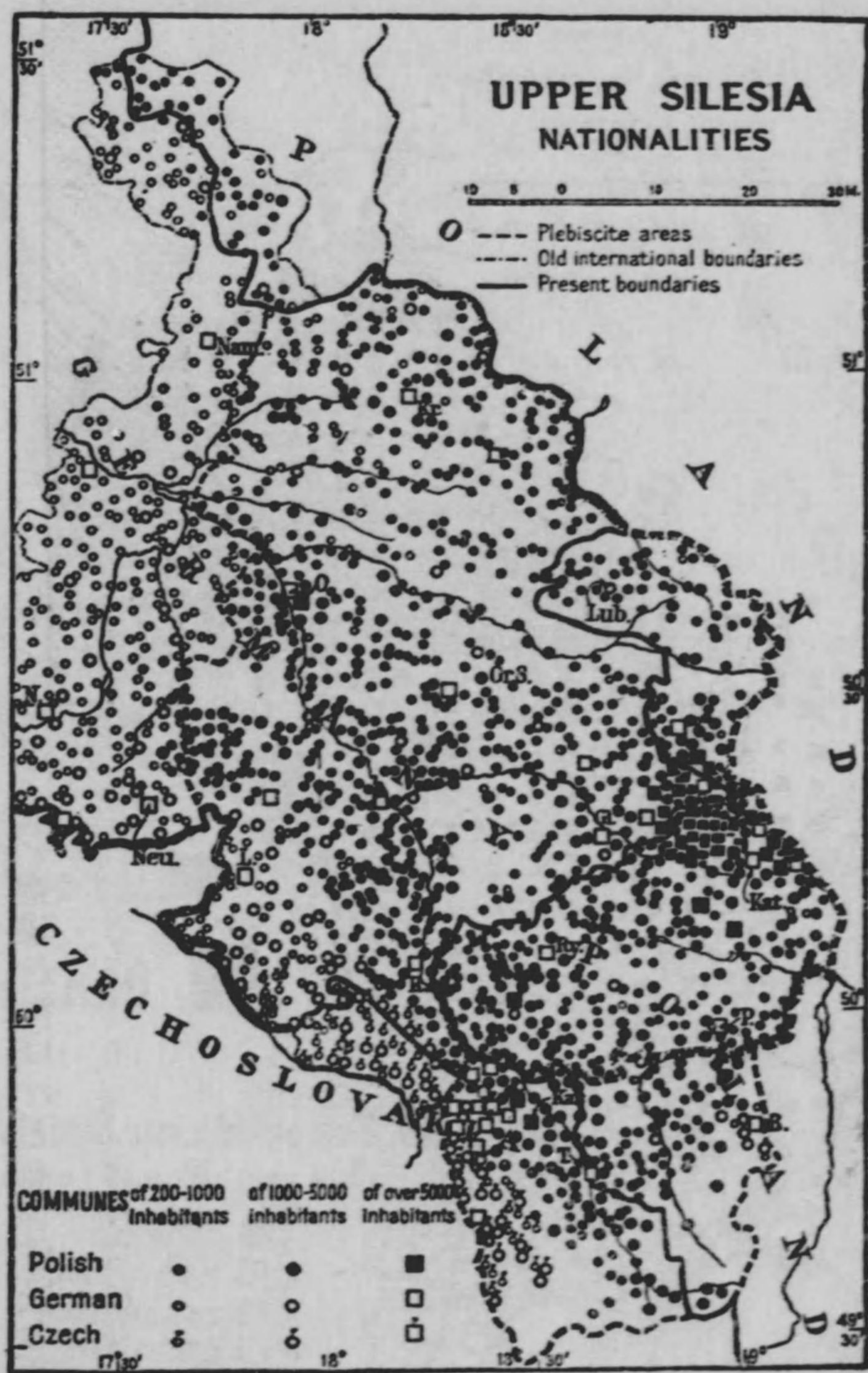
第66圖 シュレスウィヒ・ホルスタインの分割

白色はデンマーク人 50% 以上  
 黒色はドイツ人 50% 以上  
 人民投票の結果Ⅱの地域はドイツに残りⅠの地域はデンマーク領となつた。

5 シュレスウィヒ・ホルスタイン(面積三九九三方軒、人口一七萬)は人民投票の結果その北半がデンマーク領となつた。それは同國人が多数を占めるためである。こゝはデンマークに續いた農業地域である。

6 ポーゼン・西プロシヤ等(面積四二九二九方軒、人口二九六萬)此の地方は主として農業地域でポーランドの所有に歸した。この爲ドイツ領東プロシヤは飛地として残り、所謂**ポーランド廊下(Polish Corridor)**を以て連結しなければならなくなつた。

7 上シレジャ(面積三二二二方呎、人口八九萬) 上シレジャは大戦後人民投票の結果、南東の一隅はポーランドの所屬に決定した。而してポーランドの獲得した部分は炭田の主要部分を占め鐵の産出



第68圖 上シレジャの分割

破線は人民投票區域、破點線は舊國境、實線は現國境、黒點はポー人、白點はドイツ人、白點の上に羽印あるはチェツク人、人民投票地域内はポー人多数なるにドイツ所屬投票が多数であつた爲、大部分はドイツ領として獲つた。しかしポーランドに與へた部分の方が炭田地域で工業上より重要な地域である。

もあり重要な工業地域である。又南の一小部分(面積三一六方呎、人口五萬)はチエツコスロバキヤに與へられた。

8 ダンチヒ(面積一九一四方呎、人口三三萬)

國際聯盟の下に自由市となつた此の國はウイスツラ河



第69圖 ダンチヒ自由市

を希望したけれども、住民の約八割はドイツ人である爲にこの希望は容れられなかつた。しかし人民投票に訴へてもポーランドの所屬になる見込がないので自由市として獨立せしめてポーランドに種々の特權を與へたので事實上はポーランドの港のやうになつた。その特權の主なもの、(1)市域をポーランドの關稅區域とし、(2)水路・ドック其他港の設備の使用權の獲得、(3)鐵道・通信機關の管理經營、(4)在住ポーランド人の差別待遇禁止、(5)市の對外關係事務のポーランドへの委任等である。

る爲、初めは國際聯盟の管理下にあつたが、その後之をリトワニヤの所有とした。メーメル港はリ



トワニヤ國の海への門戸である。

### 第二項 瀕海的位置

ドイツは北の一方が海に瀕するのみであつて、所謂瀕海國である。一般に瀕海國は海外發展上イギリスの如き島嶼國よりは不利であるが、スイスの如き内陸國よりは有利である。尤も瀕海國の中でもイタリヤ・フランスの如く、或は三面或は二面が海に面する國に比ぶればドイツはたゞ一面海に臨むのみであつて、海洋利用上からいへば遙かに不利であるのはいふまでもない。

ドイツが海外に發展し初めたのは一八七〇年の統一以後のことであつて、西歐諸國に比ぶれば遙かにおくれてゐる。これはドイツ統一の遅かつたことが主因であるが、又一面から見ればこの瀕海的位置の不利な環境に基くものであるといはねばならぬ。併し統一後世界戦役まで四十餘年間の努力によつて、海外に於ける領土は本國の約五倍(二九五萬方呎)に達し、(但、人口は本國の二二%で土人數約一千五百萬)國內産業の發達と相俟つて貿易額も商船隊もこれを保護する海軍力も英國に追隨して世界第二位を占むるに至つた。所が世界戦役に大敗した結果、これらの努力が水泡に歸したことは周知の事實である。今戦後に於けるドイツの海外領土の處分に就いて一瞥すれば、左の如くである。

洲名	植民地	面積(方哩)	人口	獲得年代	戦後の所屬
アフリカ	トーゴ	八七、二〇〇	一〇三萬	一八八四	英・佛(委)
	カメルン	七九〇、〇〇〇	五〇〇	一八八四—一九一一	英・佛(委)
	南西アフリカ	八三五、一〇〇	三〇	一八八四—一八九〇	南阿聯邦(委)
	東アフリカ	九九五、〇〇〇	七六六	一八八五—一八九〇	英・白(委)
オセアニア	カイゼルウイヘル ムスランド ビスマーク群島	二四〇、〇〇〇	五三	一八八五—一八八六	濠洲(委)
	マリヤナ群島	二、一四九	七	一八八五—一八九九	日 本(委)
	カロリン群島				
	マーシャル群島	二、五七二	四	一八九九	ニュージ ランド(委)
	サモア群島	五	〇・一	一八八五	英帝國(委)
アジア	ナウル島	五五二	一九	一八九八	支那
	膠州灣				

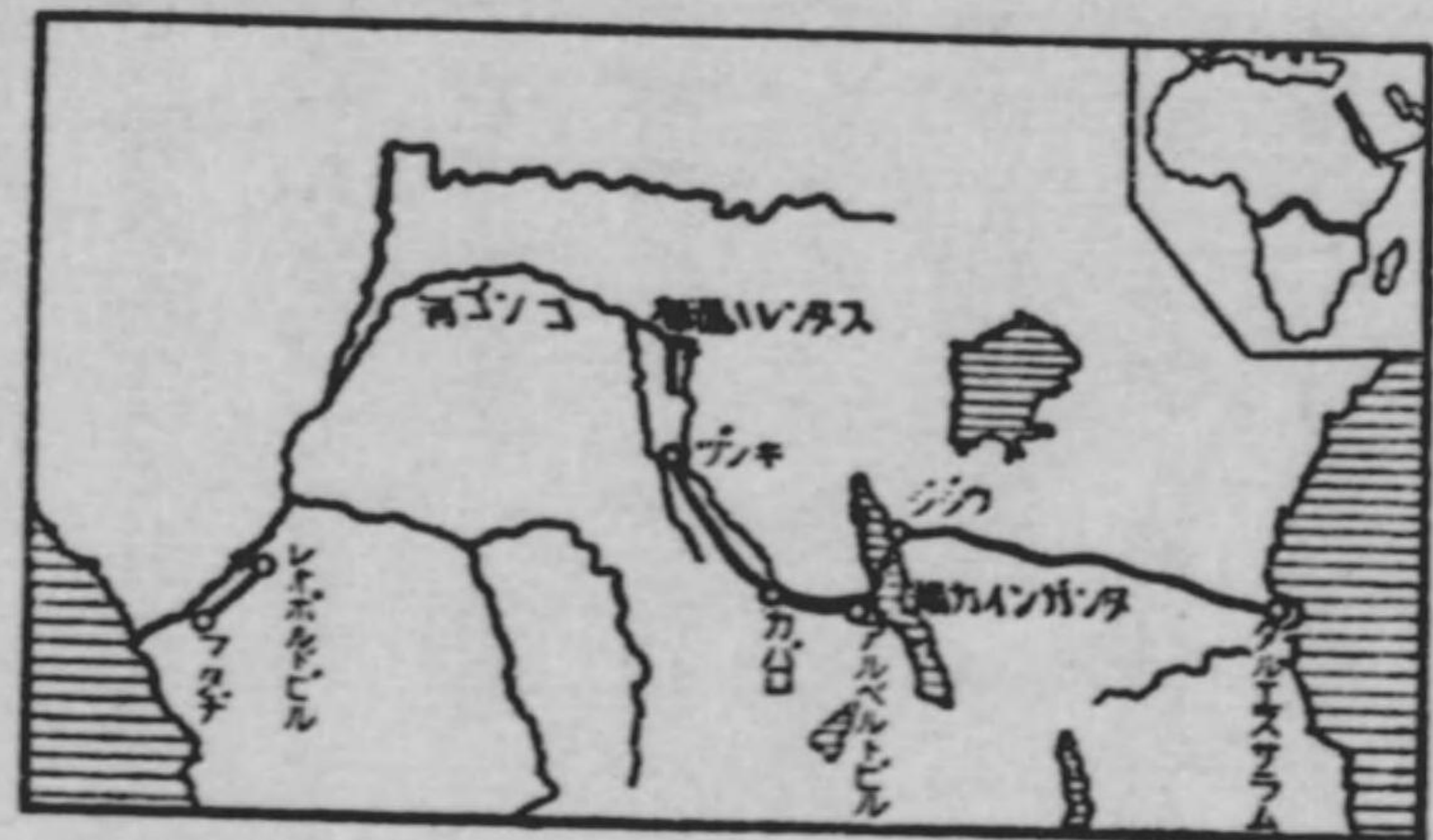
**トーゴとカメルン** 此の二地方はドイツの獲得した最初の植民地である。但しカメルンの東部及び南の一部は一九一一年モロッコ問題の解決した際、ドイツがフランスのモロッコ保護權を認め、た代償として佛領コンゴの一部を得たものである。世界戦役の初、英佛の協同作戦により、此の兩地方は忽ち占領せられた結果戦後兩國に統治を委任された(B式委任統治)。トーゴはギネヤ灣の

北岸を占め、南北に細長い帯状地で、南岸は砂濱である。北部は一部に高原をなして、灌木草原のサバンナである。又カメルンはギネヤ湾頭に位し海岸は概ね砂濱であるが、その北端にカメルン火山がある。此の火山は湾内の火山島を連ねる坳裂線に沿うて噴出したものである。内部は一部に高温多雨の高原で原生林に被はれ、象牙・椰子及び椰子油等を産するのみである。

**南西アフリカ** 世界戦役中南ア聯邦軍の占領する所となつたので戦後その委任統治となつてゐる(C式委任統治)。海岸は矢張り一部に砂濱で、たゞ英領ワルフィシ灣が碇泊に便なるためイギリスの占領する所となつてゐた。然るにドイツはその北方スワコブムンドを根據地として内部の開発を進めたが、内部はカラハリ沙漠に連る沙漠状の高原で域内に一の恆流河川を持たない。しかし銅・金剛石・大理石等の埋藏ある爲、地下水を利用して、植民を企て、鐵道をも敷設し、今はケープタウンからスワコブムンド間は連絡されてゐる。

**東アフリカ** 世界戦役の初、イギリスは北部から、ベルギーは西部から此の地を攻略したが、ベルギーがタンガンイカ湖の北方に僅かの委任統治地を得た外はすべてイギリスの統治に歸したのである(B式委任統治)。此の地方はアフリカ東部地溝帯の一部で、北境にはキリマンジャロ(六〇一〇米)の如き火山が噴出し、タンガンイカ・ビクトリア等の湖水を有するサバンナ状の高原である。ドイツは海岸にダルエスサラム港を開き、此處より高原を横切つてタンガンイカ湖畔のウジジまで

鐵道を敷設し、沿道の開發を計つたのである。此の鐵道はタンガンイカ湖の連絡船と、コンゴ河の水運及び鐵道(汽船の通ぜざる急流部に沿ふ鐵道)を連絡するアフリカ大陸横斷路の一部をなすものである。



第70圖 アフリカ横斷路

汽車とタンガンイカ湖とコンゴ河の汽船とで横斷することが出来る。コンゴ河は所々瀧があつてその部分は汽車による。最近その南方には並行に汽車ばかりの横斷路が出来て、東岸のベイラ港と西岸のベンゲラ港との連絡が出来た。

**オセアニア** 赤道以南の獨逸領はイギリス及びその植民地の委任統治となり、赤道以北は、日本の委任統治(共にC式委任統治)となつたのは、世界戦役の初に於て、日英兩國の海軍によりそれぞれ占領せられた結果である。赤道以南の舊ドイツ領としてはカイゼルウイヘルムスランド(ニューギニヤ島の北東部)・ビスマーク群島・ソロモン群島・ナウル島・サモア諸島を含む。以上の中、カイゼルウイヘルムスランド以外は概ね火山島で、珊瑚礁を圍らしてゐる。ナウル島は燐礦を産し、其の他はコブラを主産物とする。

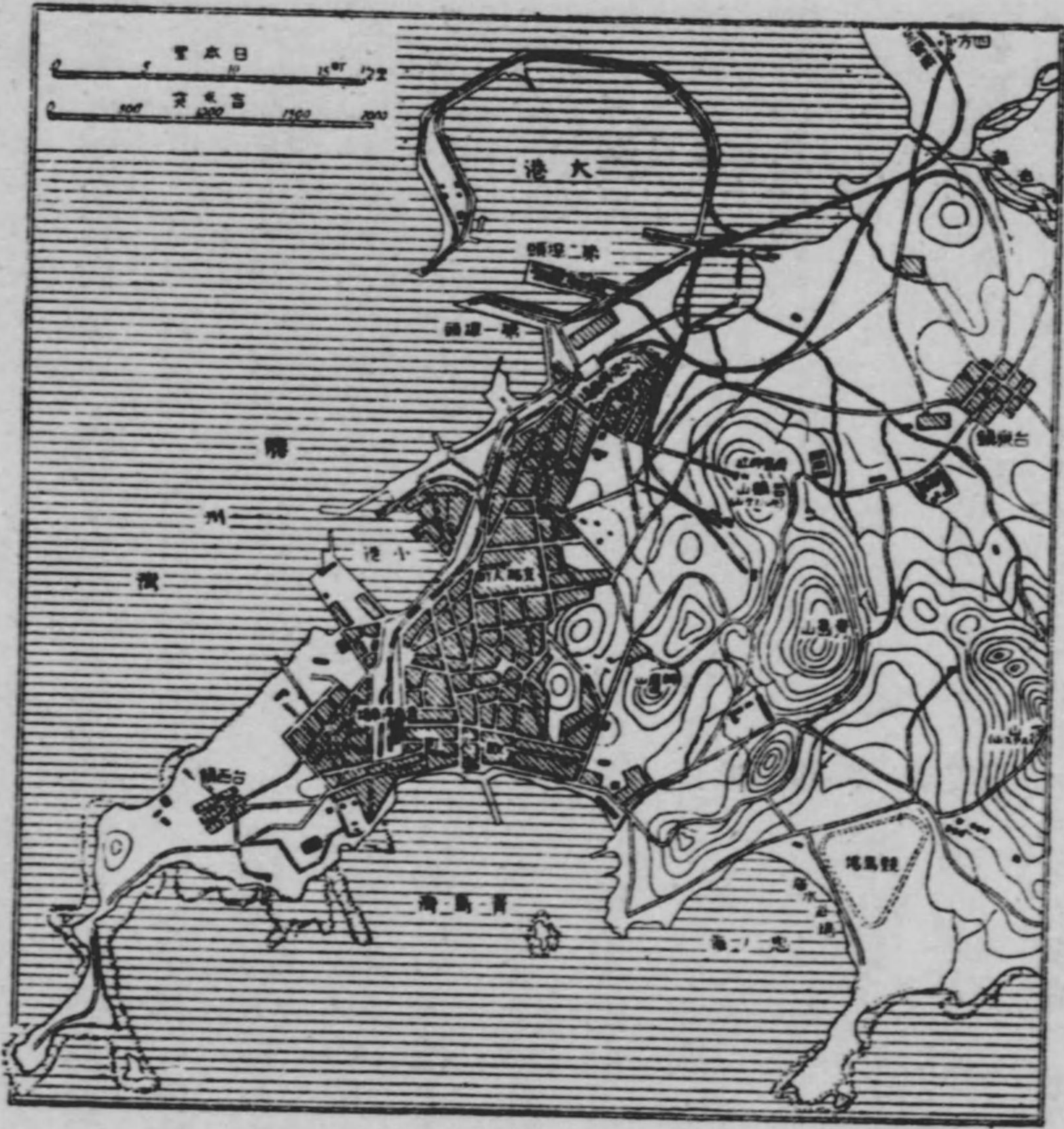
次に赤道以北の舊ドイツ領に就いて述べよう。此の群島は南洋群島と呼ばれマリヤナ・カロリン・マーシャルの三群島を含む。マリヤナ群島は富士帯の南の連続で、安山岩の孤状火山列島をなし三個の活火山を持つ。その南端のグアム島は米領であつて、

貯炭所・海軍要港・太平洋横斷海底電線の中繼所として合衆國の太平洋發展線狀に横はる重要な地點である。カロリン群島の主島はバラウ島が安山岩である外は玄武岩より成り、水蝕の進んだ火山島である。但し、ヤップ島のみは角閃石・光線石剝岩の如き古期水成岩より成り、古代大陸の斷片で、所謂陸島である。マーシャル群島はラタック(日出群島の義)・ラリック(日没群島の義)の二珊瑚列島からなつてゐて、ヤルト其他多くの環礁を有つてゐる。氣候は熱帶海洋性で雨量甚だ多く、年二千乃至五千耗に達し、年平均溫度約二五度乃至二七度で、年較差僅かに一度内外に過ぎない。其の面積は僅かに沖繩一縣(二三八六方耗)に及ばないから、其の物産も著しいものはない。ただ燐礦(アンガウル)及びコブラ等を産するのみである。近時甘蔗の栽培、従つて製糖工場が内地人の手によつて起された。

かくの如く南洋群島の經濟的價値は貧弱であるが、軍事上より見れば東西約四六〇〇耗、南北約二四〇〇耗の海面を占め、日本本土の南に擴がつてゐることは、我國の太平洋發展上重要な意義を有するものといはねばならぬ。

**膠州灣** 獨逸の地質學者リヒトホーフエンの調査に基き、一八九七年ドイツ宣教師二名が山東省に於いて支那人の爲に殺されたのを口實として租借した所である。ドイツは一八九八年租借以來次第に經營を進めて、こゝに軍事的經濟的根據地を造つたのであつたが、世界戰役の初(一九一四年)日

本に占領された。日本は一九二二年ワシントン條約の結果これを支那に返還し今日に及んでゐるのである。



第71圖 青島市街

ドイツは膠州灣一帶五五二平方耗の地を租借するや、その中心として灣口に青島市街を新しく造つた。市街は全然ドイツ式につくられたものである。從來存在してゐた支那の民家は凡てこれを焼き拂ひ、移轉料を與へて之を臺西鎮と臺東鎮に移轉させた。青島市街の位置は膠州灣口の東を扼する半島の尖端にあつて、北東方から低い岩山が迫つて來てゐる。それで市街のある所もいくらか傾斜地になつてゐる。青島灣のすぐ北方の所

が歐人市街でその北につゞく港の方面を支那人市街とした。そして道路・上水道・下水道の設備から民家を始め官衙・學校・教會・病院・兵營等の建設、公園・競馬場・海水浴場等に至るまで立派な歐風の文化都市が出来上つた。尙附近の岩山にもアカンヤ其の他此の地の地質に適する樹木を植へ、數年にして禿山を緑の衣で包んでしまつた。港は灣内の方にある。青島灣の方は外灣で海底も礫が多いのでこれは殆んど利用されない。そこに初めてドイツの造つた三五〇米の棧橋は檢疫や軍艦のランヂが繋がる位である。商船の繋がるのは灣内の大港と小港とである。大港は圓形の大防波堤(長さ四六〇〇米・高さ五米)で圍み、二つの大きな突堤をその中に作つた。此の二つの中南方のもの即ち第一埠頭(長さ七三〇米・幅一〇〇米)を商船用、北のもの即ち第二埠頭(長さ四二〇米)を海軍用とした。港内には干潮でも一〇米の深さを持つてゐるから、大抵の巨船も碇泊が自由である。小港の方は支那船の爲に設けたものである。

以上の如く港としての設備を整へた外、港と内地との連絡をつけるために山東鐵道の敷設權を得て、鐵道を山東省の首府濟南まで(四九四・五軒)敷設して、津浦線と連絡せしめ、青島を山東省一帯の出口とした。又鐵道沿線の兩側各、三〇支那里(約一六軒)の地帯の鑛山採掘權を得て石炭を採掘した。鐵も産出するがドイツ時代には未だ採掘しなかつた。従つて支線も五二軒程造つた。

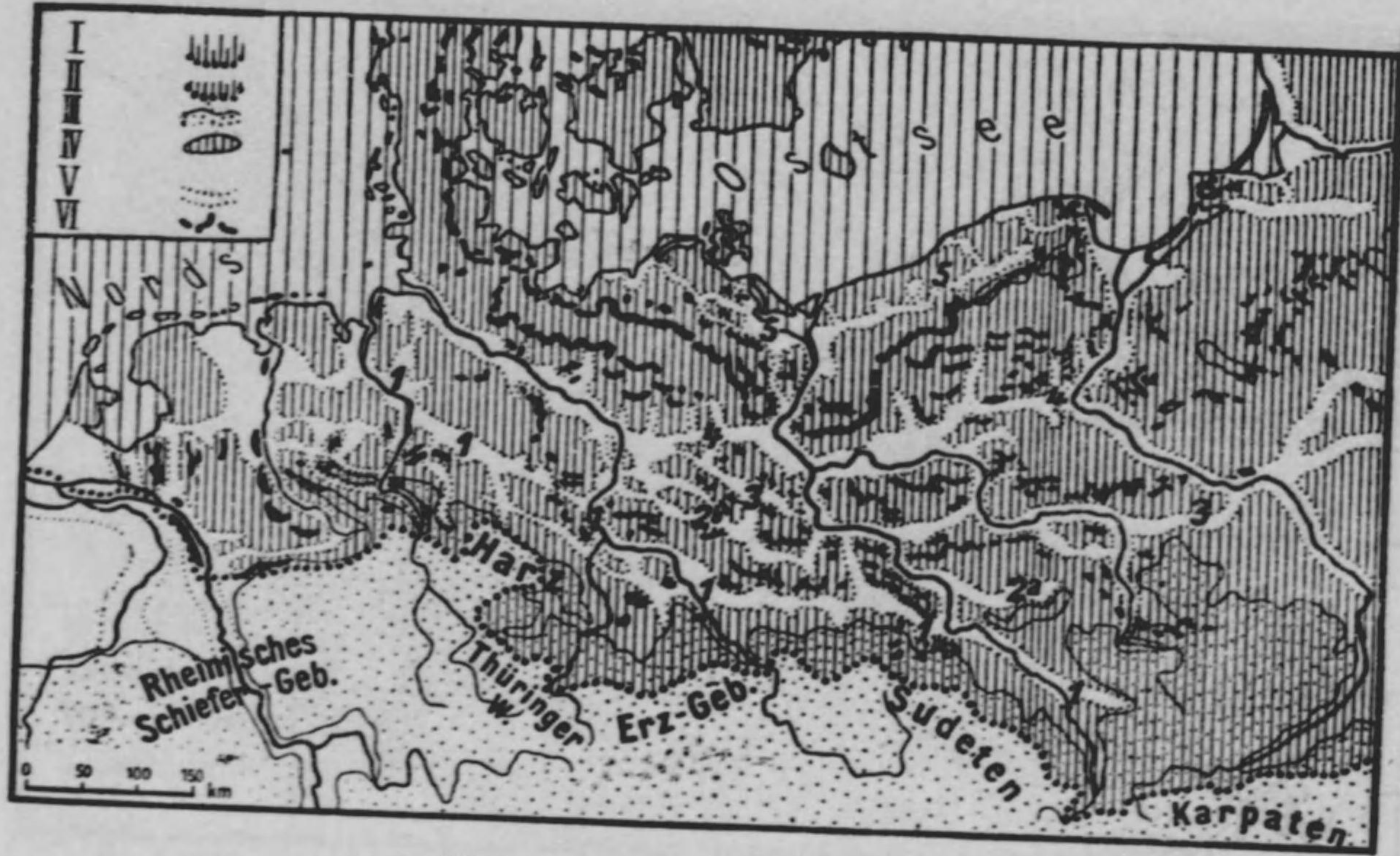
日本が膠州灣を占領したのは大正三年十一月七日であつた。それから大正八年のベルサイユ條約

に依つてドイツの一切の利權は日本の手に移り、市街地は北方に延びたのであるが、大正十一年ワシントン會議の結果之を全部支那に還附した。鐵道は支那に賣り渡し、鑛山は日支合辦の魯大会社が經營することゝなつた。もとの膠州灣租借地は之を膠澳商埠と名づけて、外人に解放したので各國民は自由にこゝに商工業に従事することが出来るのである。

青島の人口は一九一〇年(ドイツ時代)には六萬で、その中支那人が五萬八千人、ドイツ人一八〇〇人、日本人三〇〇人であつたが、一九二〇年(日本時代)には九萬五千人となり、その中支那人が七萬五千人であるが、ドイツ人は五〇〇人に減じ、その代り日本人が二萬人に増した。現在(支那時代)の人口は不明であるが、日本人は約一萬五千に減じ支那人が増した様である。

右の數字によつても知らるゝ如く、支那人が主に活動してゐるのであるが、外國人では日本人が最も勢力がある、これらの日本人は主として商業をやつてゐるが中には工業を營むものもある。主な工業は紡績業でその他生絲・落花生油・小麥粉・燐寸・ビール・石鹼等の工場がある。航路も日本内地・大連・上海と此處とを結ぶ日本人經營のものもあるし、貿易額も日本との取引が半以上を占めてゐるのである。

## 第二節 地形と國家

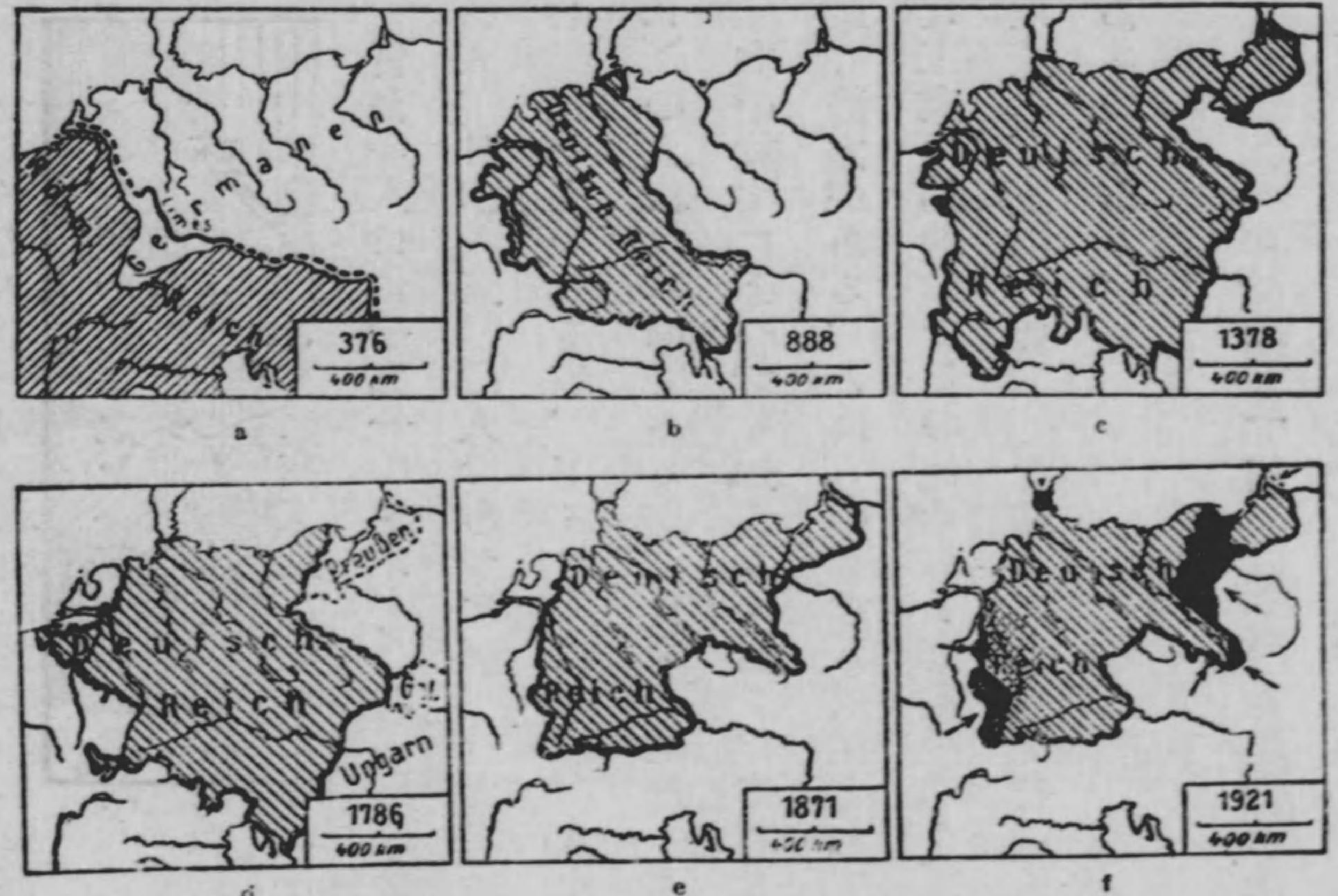


第73圖 北ドイツ平野

- I 次に披はれた地域
- II 内陸水の界限
- III ドイツ中部山地
- IV 中部山地以外の二百米線
- V 原河谷
- VI 端崖石

和國聯邦となり、一九二九年以後は一七共和國の聯邦組織となつたのである。

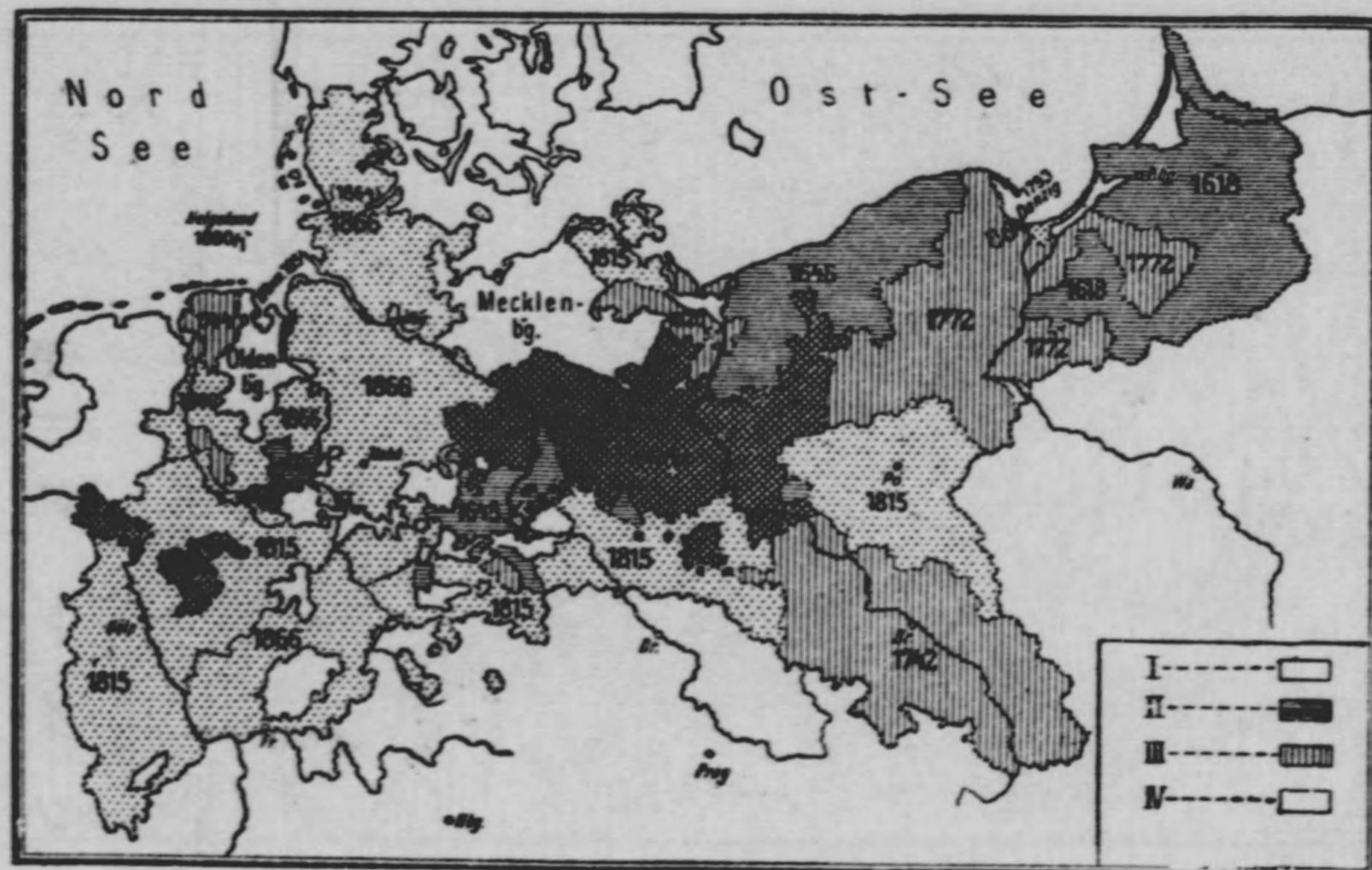
以上の如くドイツが中央集權的統一國家を作り得なかつた原因は多々あるであらうけれども、その根本的原因として、複雑なる地形の制約性を考へなければならぬと思ふ。ドイツの地形は大別すれば北ドイツ平野と南ドイツ高地の二となる。北ドイツ平野は北より順次に、バルチック沿岸低地・バルチック地背・原河谷・南方地背・山麓地帯の五帯に分つことが出来るが、此これらの地帯間の地形的變化は比較的微小であつて、大なる交通上の障害をなさない。従つて強大なる一國家を形成するに容易な地方であつた。ドイツ統一の完成に先立つてプロシヤを盟主とする北ドイツ聯邦の成立したのもかかる地



第72圖 ドイツ國土の變遷

- a. 民族大移轉時代
- b. カロリング王朝時代
- c. カール四世時代
- d. フリードリヒ大王崩御の年
- e. 統一時代
- f. 世界戦役後(黒色部は割讓地 點部は占領地)

ドイツ統一問題はドイツの久しい宿題であつた。建國以來諸侯各地に割據し、久しく中央集權の實が上らなかつたが第十九世紀に至つて、國民統一運動の風潮に伴ひ大ドイツ主義者即ちオーストリアを盟主としてドイツ統一を企てるものと、小ドイツ主義者即ちプロシヤを盟主としてオーストリアを排斥してドイツ統一を策するものとの二派を生じ、遂に一八六六年の普墺戦役となり、遂に小ドイツ主義者の勝利に歸した。更に普佛戦役を契機として、一八七一年此の統一が完成されたのである。然し此の統一も二五の聯邦組織であつたのである。しかるに世界戦役により此の聯邦は戦後一八の共



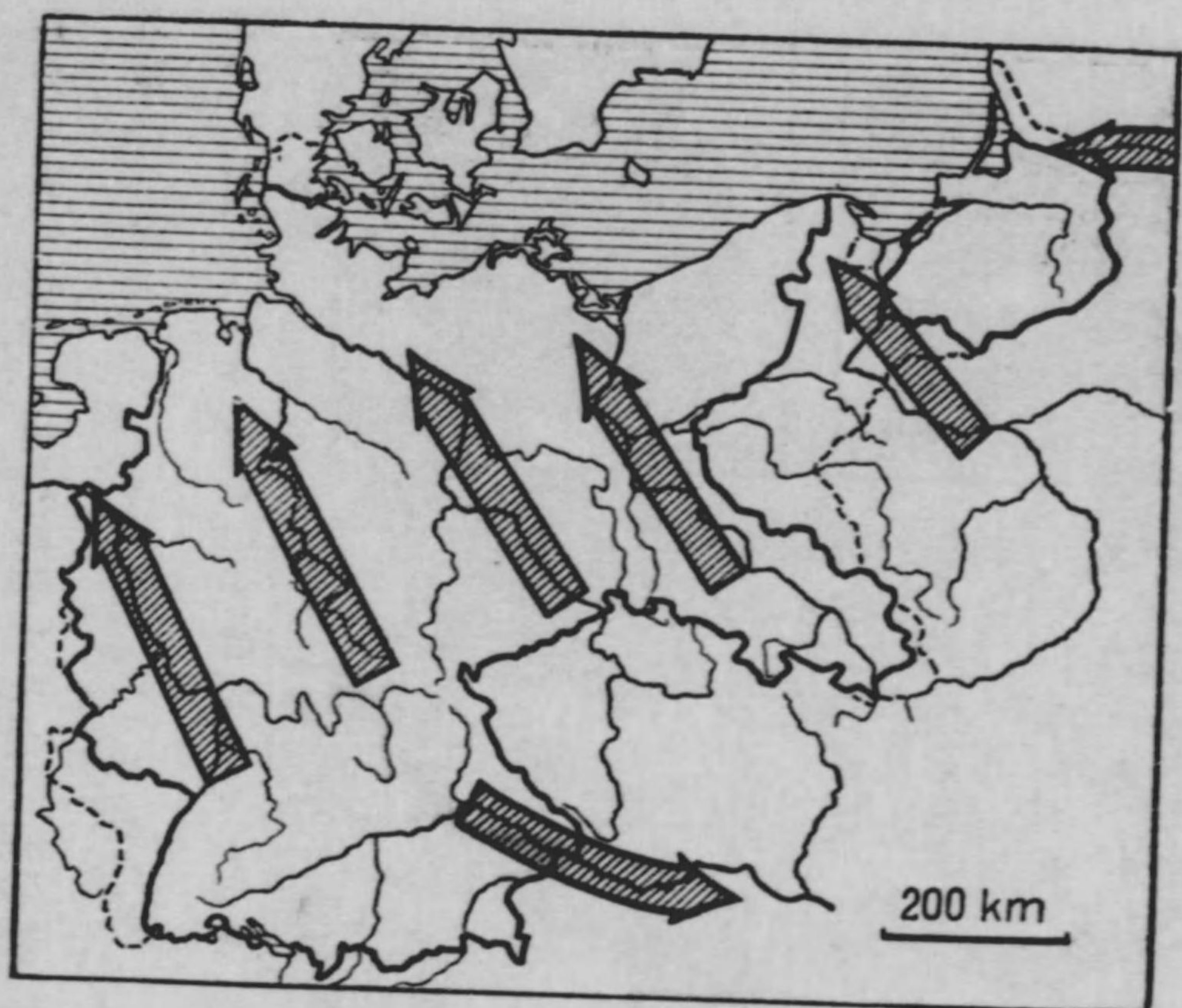
第74圖 プロシヤ國土の發展（世界戦役まで）

I 1618年以前のブランデンブルグ  
 II フリードリヒ大王崩御までの發展  
 III 大選帝侯崩御までの發展  
 IV 第十九世紀の發展

形の影響と見ることが出来る。  
 南ドイツ高地が北ドイツ低地と境する所は、ライン板岩山地・ヘッセン山地・ウエーゼル山地・ハルツ・チューリンゲン森・エルツ山脈・ズーデット山脈である。南ドイツ高地は更にボヘミヤ森を以つて東方ボヘミヤ盆地と西方南ドイツとに分つことが出来る。所謂南西ドイツ(又は狭義の南ドイツ)にはライン地溝帯・ヴォージュ・黒森の地壘・シュワビヤ・フランキヤ地階・パリヤ高原等地形錯雑を極め、且河系も北西流するもの、外に東流するものもある(第七五圖)。従つて此處に多くの小國が古來分立してゐる所以であつて、世界戦役後若干の小國は併合したが、今尚ほ多數の獨立國をドイツ聯邦内に見る所以である。

### 第三節 ドイツ民族

ドイツの有史以前の住民については未だ明らかでないが、第二世紀頃の住民を見ると、南西ドイツにはケルト族が住んで居つて、その他の地方にはゲルマン族が東はワイクセル河畔まで広がつてゐる。當時ローマの領域はライン河とドナウ兩河畔まで広がつて居り、その河間の地にはリメス・ローマヌスといふ大城壁が設けられてあつた。ゲルマン族はガリヤ(フランス)のケルト族の如くローマ化せずして、固有の言語及び文化を保つてゐた(第七二圖)。ついで民族大移轉は住民の位置を大いに變化せしめた。即ちゲルマン民族は西の方ラ



第75圖 ドイツ河系の非集中性

インランド・スイス・ドナウの南方からアルプスの一部までを占領したが、元の居住地の東部(ワイクセル河からエルベ・ザールの間)をスラヴ族に奪は

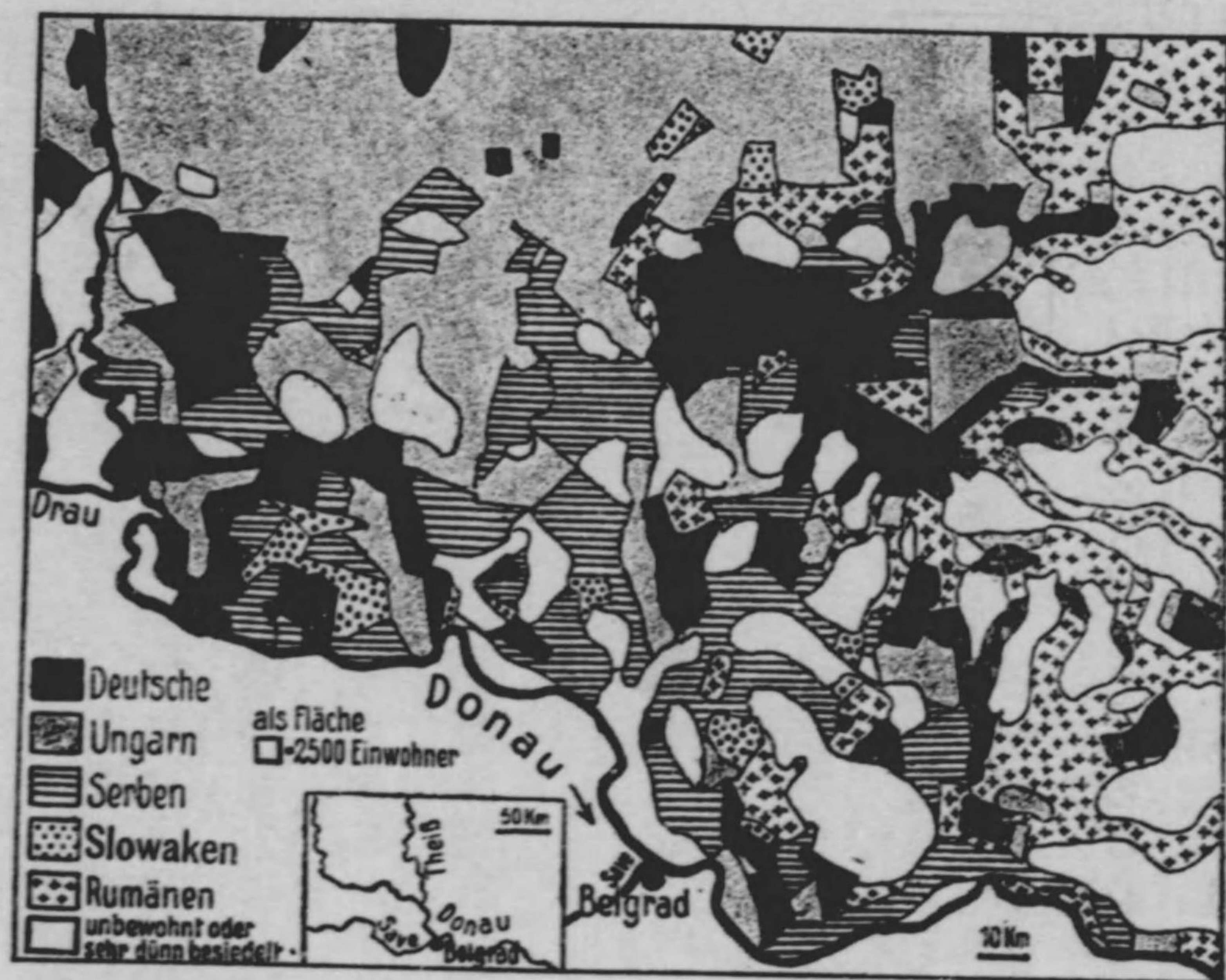
れた。其の後第十世紀以來ゲルマン族の植民は東方になされて、中世紀の終り頃まで續いた。即ち北東はブランデンブルグ・メクレンブルグ・ポムメルン・西プロシヤの一部・東プロシヤの大部分まで、又南東はザクセンの大部分・シレシヤの大部分・ボヘミヤ盆地の周邊・ハンガリー平野の周邊に

まで侵入し、東方では大體古代の住地を取り戻した。但しラウジツの邊にはスラヴ族の一派のペンデンの小民族島が残つてゐる。



第76圖 世界戦役前後のドイツ國土 (黒色部) とドイツ人 (斜線部)

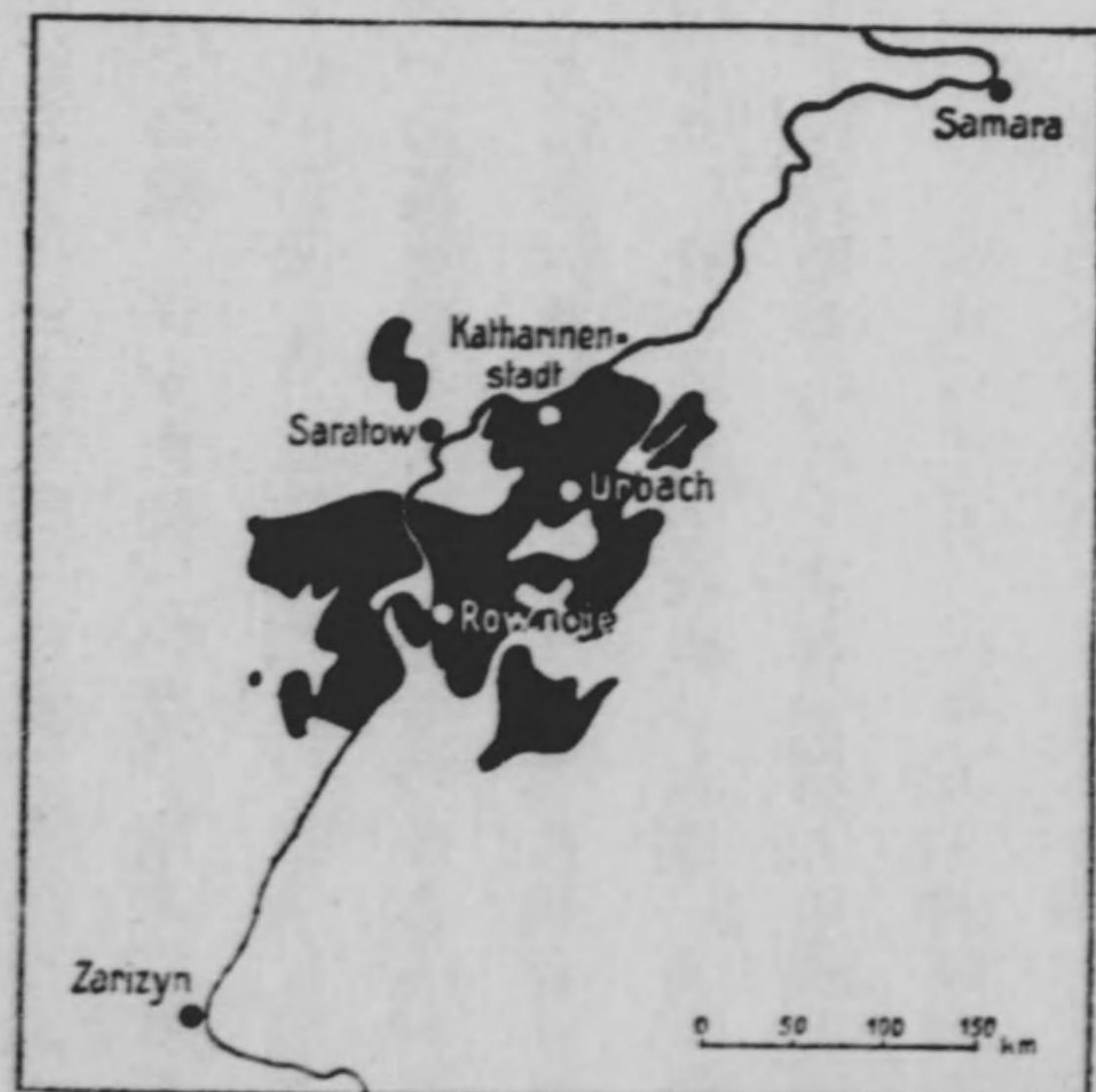
かくの如くにしてドイツ人現在の分布はドイツ國土の外にまで溢れ出てゐるのである。即ちドイツ人は國內に六千餘萬、北ドイツ・南ドイツの人的小差異はあるが、殆んど純粹のドイツ民族として強き存在を示してゐる外、國外に於ては主として東方ポーランド國內に民族島を作り、チエッコスロバキヤのボヘミヤ盆地の周邊に少數民族として居住し、更にオーストリアの國家を作り、スイスに於いても其の人口の七割を占め、アルサス・ロレーンに於いても住民の約八割、ダンチヒ國に於ても人口の八割を占めてゐるのである。オーストリアは久しくドイツとの合併を希望してゐるけれど、民族主義を其の指導原理とするベルサイユ條約は不合理にも之を阻止してゐるのである。但し現下のナチス化に對しては獨塊は反目的態度をとつてゐ



第77圖 南ハンガリーに於けるドイツ人

ユーゴスラビヤ、ハンガリー、ルーマニヤ交界地方に於ける諸族の交錯状況を示す。圖中の指示圖により其の位置を見よ。符號上よりドイツ人、ハンガリー人、セルビヤ人、スロバキヤ人、ルーマニヤ人、白部は無住又は準無住。

ハンガリー(五三萬)・ルーマニヤ(七三萬)等に合計約二千萬といはれてゐる。



第78圖 ボルガ(ロシア)沿岸のドイツ人

るが之は一時的現象と見るべきであらう。ヨーロッパに於けるドイツ國外のドイツ人は以上の外、デンマーク(四萬)・ベルギー(一一萬)・ルクセンブルグ(二四萬)・バルチック諸國(二五萬)・ロシア(一四〇萬?)・イタリヤ(二五萬)・ユーゴスラビヤ(六〇萬)。



第79圖 アメリカ合衆国内のドイツ人

更にヨーロッパ以外の地に於けるドイツ人は約一千萬、その中約九〇萬はアメリカ合衆國に住し、その他カナダに約三〇萬、南米ブラジル南部に約四五萬、アルゼンチンに一〇萬、チリに二萬、アフリカに四萬、太平洋洲に約一五萬、アジアに約一〇萬を數へられてゐるのである。

ドイツ人は一般に堅實勤勉であるが、自負心強すぎる爲に相容れられぬ場合も少なくない。世界戦争の爲に此の自負心は大いに傷つけられたやうであるが、此の大打撃に屈せず奮勵努力して再び強固なるドイツ國民の國家建設に邁進しつゝある。

### 第四節 經濟

#### 第一項 概観

ドイツ統一以後世界戦役に至る四十三年間（一八七一—一九一四年）に於けるドイツの經濟其の他百般の進歩は實に顯著なものであつた。その原因は種々であるがホイットベック及びフィンチに依れば、その原因を地理的のものと非地理的のものとに分けてゐる。非地理的のものはアンピション



第80圖 ドイツの鑛産分布

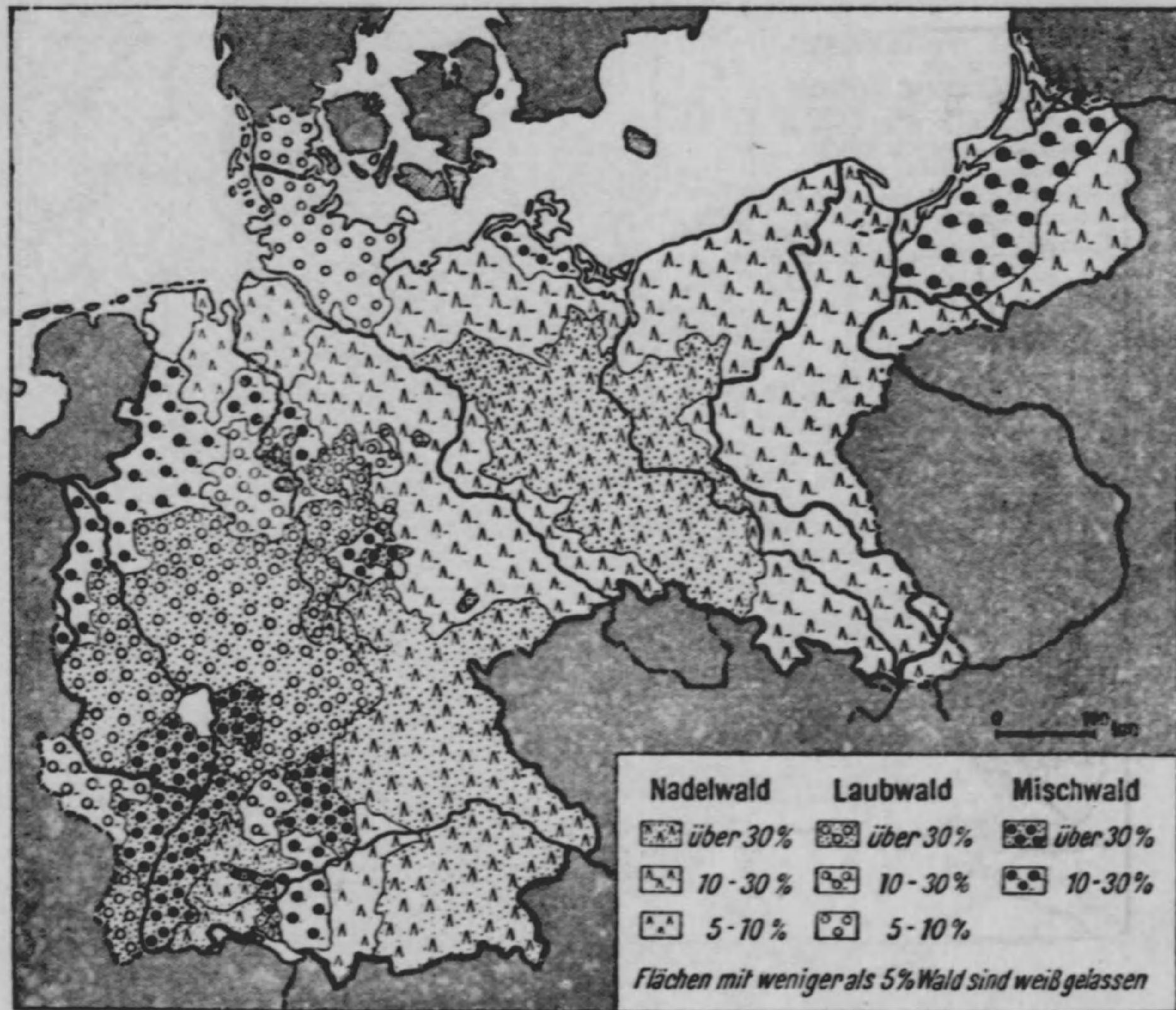
斜線、石炭 横線、褐炭 E. 礦油 三角、鐵 B. 鉛 Si. 銀 K. 銅 Z. 亜鉛 S. 岩鹽 Ks. カリ鹽

をもつたカイゼルを戴く中央政府の政策、優秀なる指導者、國民性、國民の教育、科學的研究及びその應用、商工業への努力等多々である。地理的要因としては次の六つをあげてゐる。

1 位置 國土が歐洲の中央に位して四周に市場を持つてゐること。

2 鑛産の豊富 北ドイツ低地は古期岩石が地底深く存在するから鑛産が少い。たゞ岩鹽が各地に産し、又平野の南縁殊にケルン低地及びザクセン低地には褐炭を産するのみである。中部山地は相當に鑛産がある。結晶岩地よりは銀・鉛を産し、中生層よりは銅・鉛・亜鉛・鐵鑛を出す。最も重要なるは石





第82圖 ドイツの森林帯

符號の左端は針葉樹林 中央は闊葉樹林 右端は混合樹林 白色部は 5%以下の地域

める一大原因となつたものである。  
 3 科學的農業經營によつて土地の生産力を大ならしめた事 ドイツ國土の半以上は氷河作用を受けた砂質の平野で極めて瘠地であり、又湖沼や森林がその間に點在してゐたのである。しかるにドイツ人の勤勉と科學的經營方法（適當なる施肥・輪作等）によつて肥沃なる耕地となした。湖沼も次第に排水されて良好なる耕地と化した。重要農産物は馬鈴薯・甜菜・ライ麥燕麥等でフランスに比べると冷涼な氣候に適する作物が多い。



第81圖 ドイツの農産分布

- 1 ライ麦及燕麥 2 葡萄 3 ホップ 4 アルコール 5 小麦及大麦 6 煙草  
 7 甜菜 8 野菜及園藝

炭紀上部より出る石炭で下ライン地方・ザクセン・シレジエン等より産出し、その産額は世界第二である。岩鹽も各地殊にハルツ附近及び南西ドイツのケスタ地域より産出する。そこからは又加里鹽が産出し、その最大産地はスタスフルトで、現在の消費量では全世界に二千年間供給され得る大礦山である。南ドイツ高原からはたゞ褐炭を産し、アルプスでは東部から鉛・鐵・岩鹽を産出するのみである。要するに石炭（第二二圖）・鐵・加里鹽の如き礦物資源に富んでゐることが此の國の工業を盛ならし



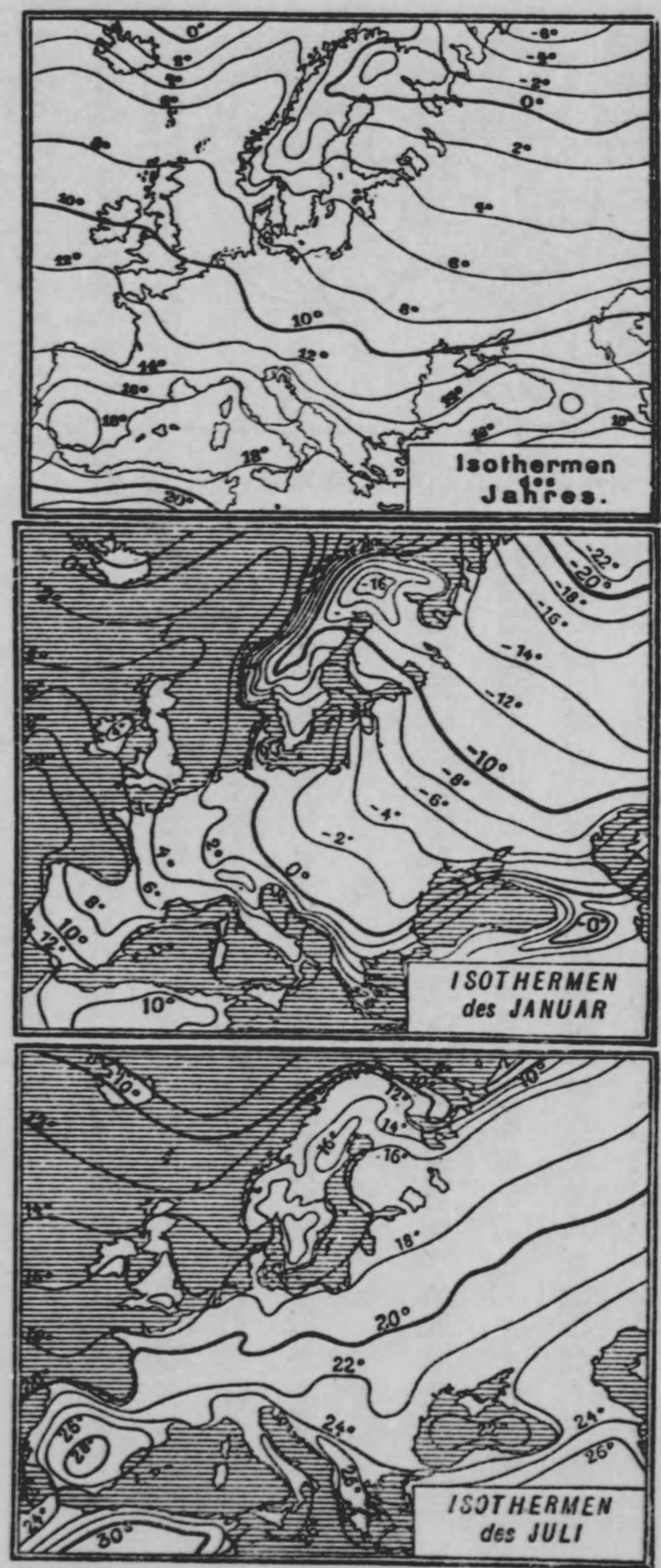
第83圖 ドイツの水路網  
 黒線は可航河 白黒線は運河 斜線地域はドイツ国土

4 科學的統制による森林資源の多いこと 國土の四分の一を占むる山地を科學的經營(土質に應じた植林、飛行機による害蟲驅除等)により世界的な模範的森林の所有者となつてゐる。

5 水路 利用度の最大な河川はラインでエルベがこれに次いでゐる。ドナウの外は北西流し南北ドイツのよい交通路をなすが非集中性であるから (第七五圖) 運河をもつてこれを連絡するのみならず、白・蘭・佛

の河川とも連絡してゐる。尙河川の改修もよく行はれてゐる。但し國內に河源及河口を持たぬライン、河源を持たぬエルベ・オーデル、河口を持たぬドナウの如きは利用上の不便を免れない。ラインの河口を國內に持たぬ爲ドルトムント・エムス運河を設けてルール工業地と北海とを結んでその缺

第84圖 ヨーロッパの等温線



を補つてゐる。しかしこの運河よりもライン本流の方が多く使用されてゐる。要するにかゝる内陸水路網の發達は陸上交通及海運の發達と相俟つてドイツ商工業の進歩を隆盛ならしめたのである。



第85圖 ドイツの工業地帯

6 氣候 温帯氣候で海洋性氣候と大陸性氣候との漸移状態である。平均等温線は一月には西より東に變化し二度乃至零下四度を示し、七月には南北に變化し二度乃至一七度を示す。冬寒は稍著しいが夏は涼しく、従つて年中能率を高め得るやうな氣候である(第八四圖・第九一圖・第九二圖参照)。

一九二五年に於けるドイツ職業別人口(第七圖)は工業と商業交通業を合すれば五〇%で農林業は二七%を示し、この國は明らかに商工業國である。工業地帯の分布は第八五圖の如くで炭田地域とほぼ一致し、ルール流域・ザクセン・シユレジエンがその重なる地方である。

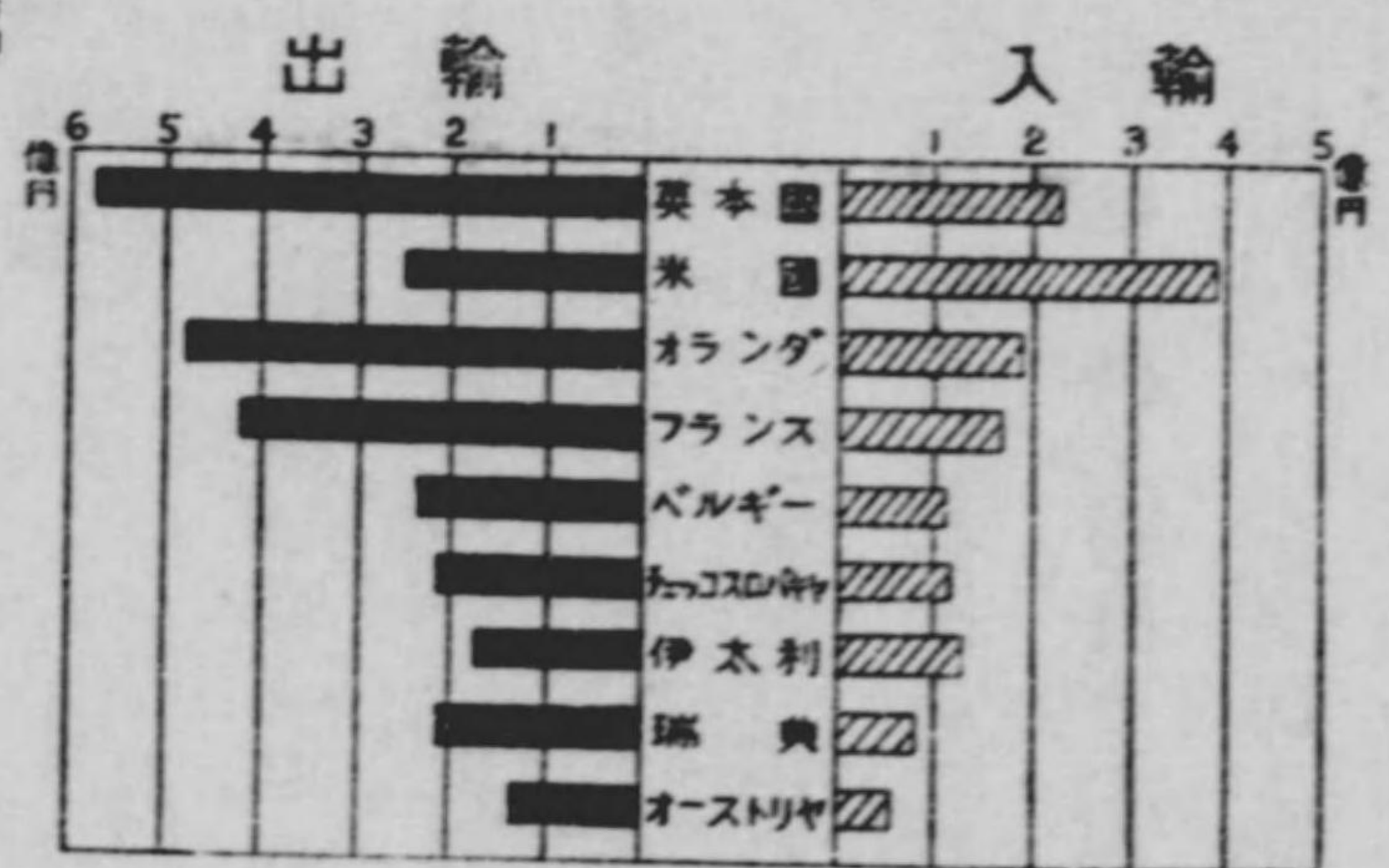
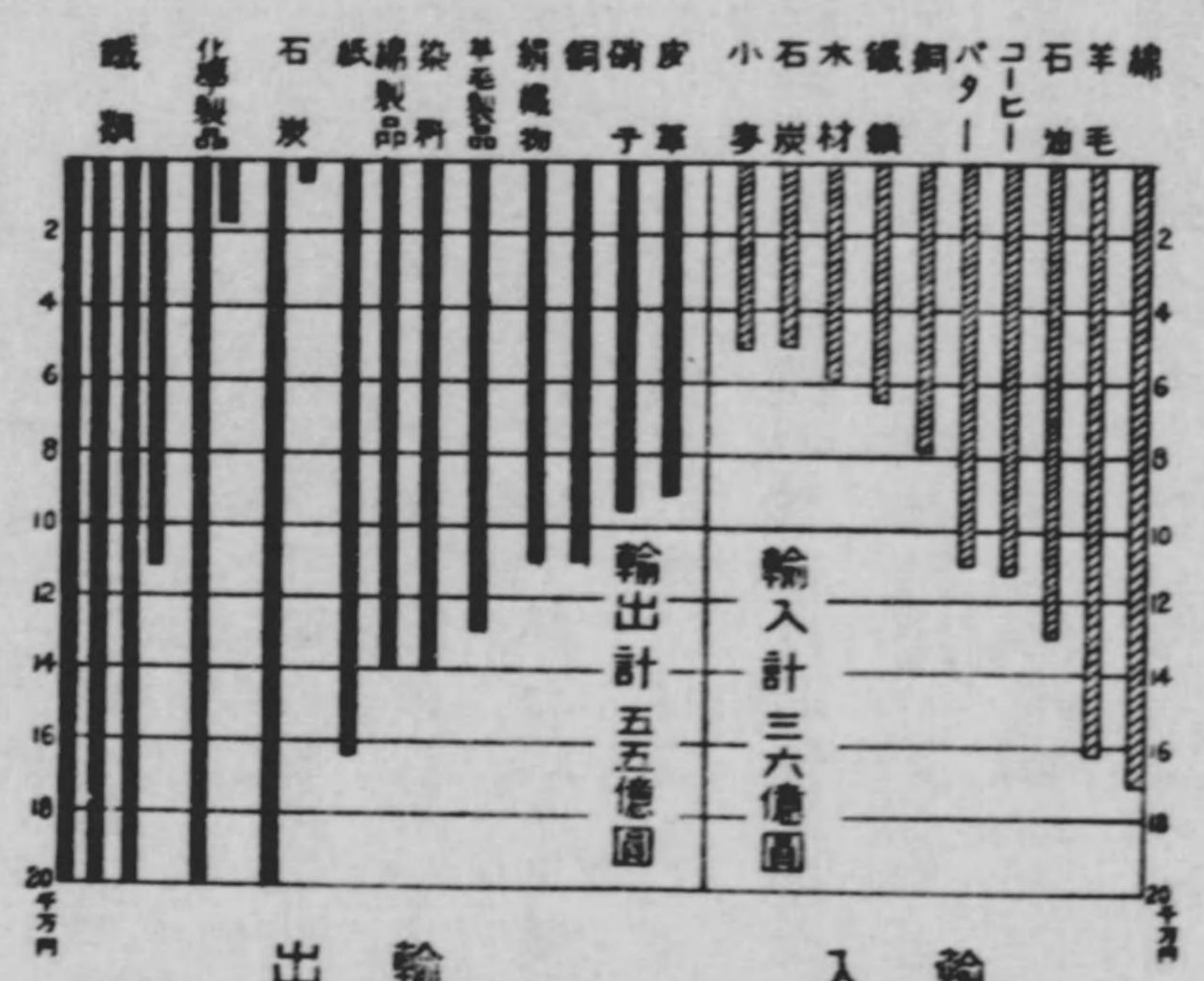
次にドイツ工業の特色は化學工業が世界第一で染料・藥品・ガラス・肥料・石鹼・レイヨン等を産する。次に金屬工業である。製鐵はローレンの鐵礦を奪はれた爲、今は國內の原礦の産出は少いが、ローレン及びブスエーデンよりの買鑛によつて第二位になつてゐる(第三〇圖)。

各種の機械製造即ち大小の學術用機械器具・電氣用機械等の生産が著しい。その他纖維工業は原料の綿を主にアメリカ合衆國に仰ぎ、羊毛はアルゼンチン及び濠洲に求め、亞麻はロシア等より輸入し、人絹の原料は國內及び北歐に求めるが、何れも相當の製品を出してゐる。又國內産の甜菜からの製糖(第四一圖)、各地のビール醸造、ライプチヒの出版業、中央ドイツの山地に於ける玩具の製造等も著はれてゐる。

### 第二項 賠償問題

世界戦役直後のドイツの經濟状態は一時悲惨なものであつたが戦後十餘年の今日に於いては既に大部分恢復した。即ち貿易に於いて戦前英國について世界第二であつたものが戦後一時大いに衰へたが今や米英について第三位まで恢復したことに依つても明らかである(第八六圖)。

しかし此の恢復は多くは主としてアメリカ合衆國の資本の救援に依るものである。而してドイツ經濟の眞の復興の爲には賠償問題がその癆であるといはねばならぬ。ベルサイユ條約によればドイツは戦争に基き聯合國民の蒙りたる一切の損失賠償をしなければならぬので、その總額は千三百二〇億金マルクで三二年間毎年二〇億金マルクを支拂ひ、その外輸出貿易額の二五%に相當する金額を支拂ふことゝなつた。ドイツは初めこれらの賠償を船舶・家畜・石炭・染料・海底電線等の實物を



第86圖 ドイツの外國貿易(1931年)

のである。その結果ドイツ經濟は一層惡化して所謂インフレーションの慘事を引き起した。

茲に於いて列國はドイツの支拂能力を考慮し、遂にドーズ案、次いでヤング案を決定し、ルールよりフランスは撤退したのである。ヤング案によれば第一期には第一年に一六億七千五百萬マルクから始まり三六年七ヶ月間繼續し、年額二〇億五千六〇萬マルクを支拂ふこととし、第二期は第一期について更に二二年間年一五億六千六百萬マルクを支拂ふことと定め、かくて五八年七ヶ月間

以つて償金に代へたが、遂に一九二二年には支拂不能に陥つた。よつてフランスは翌年一月遂にルール工業地域を占領してドイツを屈服せしむると共に、他方炭礦・鐵道の管理によつて直接賠償を得やうと企てたのであつた。之に對しドイツは所謂消極的抵抗を行ひ、官吏の引揚げ、労働者の罷業、工場閉鎖等によつて之に反抗した。

に約三五八億マルクを支拂ふこととし、一九三〇年以後之を實行した。しかるに又支拂不能に陥つた爲に、一九三一年七月フーパーモラトリヤム (Hoover Moratorium) によつて一年間支拂延期となり、その満期の翌一九三二年七月ローザンヌ條約によつてアメリカがヨーロッパに有する戦債を免除する場合にはドイツの賠償金は總額三〇億マルクで打ち切ることとした。しかしアメリカは勿論之を承認する様子も見えないし、且つ一九三三年のアメリカ經濟の不況は世界經濟會議の開催を見ることとなつたが一ヶ月半にして不成功の中に無期休會となつた。之を要するにドイツ國民はベルサイユ條約の廢棄又は大改訂——領土の回復・賠償の輕減・軍備の均等等——を目標として居るのであるから、其の改廢を見ざる限りは歐洲政治經濟の安定は望まれないであらう。しかしドイツの復興強大を欲しないフランスは最も強く之に反對するであらうし、歐洲政局の前途は經濟問題を根幹として前途暗澹たるものがあるのである。